一般国道３５９号道路改築改良工事
に先立つ埋蔵文化財発掘調査報告

富山県婦中町

鍛冶町遺跡発掘調査報告

２００３年３月

婦中町教育委員会

巻首図版１　C地区出土遺物

巻首図版２　各地区出土中近世遺物

巻首図版 3　1. 各地区出土ヘラ描きスタンプ文土器　2. 各地区出土砥石・古銭　3. E区出土石剣

序

婦中町は富山県のほぼ中央に位置し、西部は呉羽丘陵が連なり、そこから東に立山連峰を仰ぎ見ることが出来ます。東部は神通川・井田川に育まれた水田地帯が広がる緑豊かな地であります。古来から人々にとって大変暮らしやすい場所であったようで、呉羽丘陵を中心に、県内でも屈指の埋蔵文化財の宝庫であることが知られています。

本書で報告する鍛冶町遺跡は、平成11年度に発見された遺跡です。この度、一般国道359号道路改築改良工事に先立ち調査致しました。2ヵ年にわたる調査では、弥生時代後期後半から古墳時代前期の遺構・遺物をはじめ、奈良・平安時代や、中世の遺構・遺物が見つかり、この地域は、長い間人々が暮らしていくのに利用されつづけてきた、ということがわかりました。また、鍛冶町遺跡は、「千坊山遺跡群」を構成する遺跡のひとつです。「千坊山遺跡群」とは千坊山遺跡を中心とする、弥生時代から古墳時代にかけての集落と墓域がセットになっている遺跡群のことで、近年試掘調査が行われ、大きな成果がありました。その文化の独自性、保存状態の良さなど、全国的にみても大変貴重なものです。本遺跡の調査では、そのような当時の生活の一端を窺い知ることのできる資料を得ることができました。

本書はこうした調査の成果をまとめたものであり、今後の調査研究を進める上で参考にして頂きますとともに、埋蔵文化財のご理解に役立てて頂ければ幸いと思います。

終わりに、地元の方々をはじめ、調査に多大なご協力をいただきました関係各位に、深く感謝申し上げます。

平成15年3月

婦中町教育委員会

教育長　　宮　島　信　一

例　　言

1　本書は、富山県婦負郡婦中町長沢地内に所在する鍛冶町（かんじゃまち）遺跡の埋蔵文化財調査報告である。

2　発掘調査は、一般国道359号道路（婦中西バイパス）改築改良工事に先立ち、富山県富山土木事務所の依頼を受け婦中町教育委員会が実施した。

3　調査期間・面積は以下のとおりである。

試掘調査	平成11年９月９日～平成11年９月10日	発掘調査面積	23㎡
試掘調査	平成11年11月16日～平成11年11月20日	発掘調査面積	135㎡
本調査	平成12年５月17日～平成12年12月25日	発掘調査面積	2,650㎡
本調査	平成13年５月21日～平成13年11月30日	発掘調査面積	1,920㎡

4　現地調査、遺物整理、報告書作成業務の体制は以下のとおりである。

調査事務局：婦中町教育委員会生涯学習課　平成11年度　課長　見波重尋、文化振興係長　山田茂信
平成12・13年度　課長　見波重尋、文化係長　矢郷幸子
平成14年度　課長　野田　洋、文化係長　矢郷幸子

現地調査・整理業務担当者：主任　大野英子、文化財保護主事　堀内大介、主事　細辻嘉門

現地調査・整理業務参加者：守田　睦、河竹明子、大友喜代子、小島あずさ、野原大輔（以上嘱託職員）
生田寿美子、村上千春、土田澄子、東海千春（以上整理作業員）
新宅由紀、富山大学考古学研究室学生（補助員）

5　本文の執筆分担はそれぞれの文末に記した。文責は各々にある。

6　遺物写真撮影は、撮影場所・器材等を福岡町教育委員会に借り、同教委の栗山雅夫氏のご指導を得た。また現地調査、資料整理にあたっては、次の方々から有益なご教示とご助言を得た。記して深い謝意を表したい。

久々忠義、藤田富士夫、高梨清志、新宅　茜、金三津秀則、金三津道子、町田賢一（敬称略）

7　調査にあたって、長沢地区総代をはじめ、地元の方々に多大なご協力を得た。記して厚く感謝申し上げたい。

8　出土遺物及び記録資料は婦中町教育委員会で保管している。

凡　　例

1　図で使用する方位は真北、水平基準は海抜高である。

2　遺構の略号は次のとおりである。

SI：竪穴住居跡、SB：掘立柱建物跡、SA：柵、SD：溝、SK：土坑、SP：柱穴、SX：その他の遺構

3　土色、土器胎土色は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修「新版　標準土色帖　1996年版」による。

4　平面図及び写真図版の遺物番号は、出土遺物実測図の番号と一致する。

5　遺物観察表は以下のとおりである。

「実測番号」欄は出土遺物実測図の番号と一致する。

「口径遺存」「底径遺存」欄は、残存率を、12分割した同心円で読み取った数値で表示してある。

「胎土」欄は、「密・やや密・やや粗・粗」の４段階で示してある。

「焼成」欄は、「良好・やや良好・やや不良・不良」の４段階で示してある。

6　図版中のスクリーントーンが示すものは、特に断りがない限り次のとおりである。

赤彩　　黒色処理　　須恵器・珠洲の断面　　礫層

7　遺物写真図版の縮尺は統一していない。

本　文　目　次

巻首図版
序文
例言・凡例
目次
第１章　遺跡の立地と歴史的環境……1
第２章　調査に至る経緯と経過……3
　1　調査に至る経緯……3
　2　調査の経過……3
　3　遺物整理……3
第３章　調査の概要……8
　1　調査区と座標軸の設定……8
　2　基本層序……8
　3　各地区の概要……8
　　Ａ区……10
　　Ｂ区……18
　　Ｃ区……28
　　Ｄ区……29
　　Ｅ区……38
第４章　まとめ……42
　1　遺構について……42
　2　遺物について……48
　3　婦負における古墳出現期の土器の変遷……56
参考文献……68
附章　鍛冶町遺跡の自然化学分析……107
写真図版
報告書抄録

挿　図　目　次

第１図　周辺の遺跡分布図
第２図　試掘調査概要図
第３図　第１次試掘調査出土遺物
第４図　第１次試掘調査出土遺物
第５図　第２次試掘調査出土遺物
第６図　基本層序模式図
第７図　グリッド配置図及び区割図
第８図　A区遺構配置図
第９図　A区SK12・SK48遺物出土状況図・断面図，SK120遺物出土状況図，SK108平・断面図
第10図　A区SI15・SK07・SK60・SK61・SK120・SD56平・断面図
第11図　A区SI15・SK60遺物出土状況図
第12図　A区SB125平・断面図
第13図　B区遺構配置図
第14図　B区SI908・SK907・SK909・SK921・SD906平・断面図，SD725遺物出土状況図・断面図
第15図　B区SI908・SK907・SK909・SD906遺物出土状況図
第16図　B区SI745平・断面図

第17図　B区SI745遺物出土状況図
第18図　B区SK728・740・741・SD735・736・737・738・739・743・744・746平・断面図
第19図　B区SD742・SB749・750・751・SA752平・断面図
第20図　C区遺構配置図
第21図　C区SI615・SK587・621・SD302・SB530・531平・断面図
第22図　C区SI615・SK816遺物出土状況図
第23図　D区下層遺構配置図
第24図　D区上層遺構配置図，SX241断面図
第25図　D区SD273・274・275・276・277・303断面図SI271・272・SA304平・断面図
第26図　D区SA305・306・SB307・308・SK230・SX201平・断面図，土器集中地点遺物出土状況図
第27図　E区遺構配置図
第28図　E区SI431・SK432・SB435平・断面図
第29図　E区SI431・SK432遺物出土状況図
第30図　弥生～古墳時代遺構配置図
第31図　古代・中近世遺構配置図
第32図　弥生土器の器種分類図
第33図　弥生土器の器種分類図
第34図　弥生土器の器種分類図
第35図　古代の器種分類図
第36図　中近世・その他製品の器種分類図
第37図　遺跡別器種構成比率
第38図　甕口縁部形態類別構成比率
第39図　婦負における古墳出現期の土器変遷案（1）
第40図　婦負における古墳出現期の土器変遷案（2）
第41図　婦負における古墳出現期の土器変遷案（3）
第42図　婦負における古墳出現期の土器変遷案（4）
第43図　婦負における古墳出現期の土器変遷案（5）
第44図　婦負における古墳出現期の土器変遷案（6）
第45図　A区出土遺物
第46図　A区出土遺物
第47図　A区出土遺物
第48図　A区出土遺物
第49図　A区出土遺物
第50図　A区出土遺物
第51図　A区出土遺物
第52図　B区出土遺物
第53図　B区出土遺物
第54図　B区出土遺物
第55図　C区出土遺物
第56図　C区出土遺物
第57図　C区出土遺物
第58図　C区出土遺物
第59図　D区出土遺物
第60図　D区出土遺物
第61図　D区出土遺物
第62図　D区出土遺物
第63図　D区出土遺物
第64図　E区出土遺物
第65図　E区出土遺物
第66図　E区出土遺物

表　目　次

表１　周辺の遺跡一覧
表２　変遷案と関連編年の対応の目安
表３　変遷図基準資料
表４　遺物観察表（１）
表５　遺物観察表（２）
表６　遺物観察表（３）
表７　遺物観察表（４）
表８　遺物観察表（５）
表９　遺物観察表（６）
表10　遺物観察表（７）
表11　遺物観察表（８）
表12　遺物観察表（９）
表13　遺物観察表（10）
表14　遺物観察表（11）
表15　遺物観察表（12）
表16　遺物観察表（13）
表17　遺物観察表（14）
表18　遺物観察表（15）

第１章　遺跡の立地と歴史的環境

婦中町は富山県のほぼ中央、神通川の左岸に位置する。北は県庁所在地の富山市と接している。地勢はおおまかには西の丘陵部と東の平野部に二分される。丘陵部は、呉羽丘陵の南に連なり、丘陵裾部は一部が河岸段丘となる。平野部は神通川とその支流の井田川によって形成された扇状地である。

本書で報告する鍛冶町（かんじゃまち）遺跡（１）は、富山県婦負郡婦中町長沢地内に所在する、弥生時代後期後半から近世に至る複合遺跡である。井田川支流の山田川左岸の河岸段丘上に位置し、標高約30mを計る。遺跡の現況は、宅地、水田、畑地である。

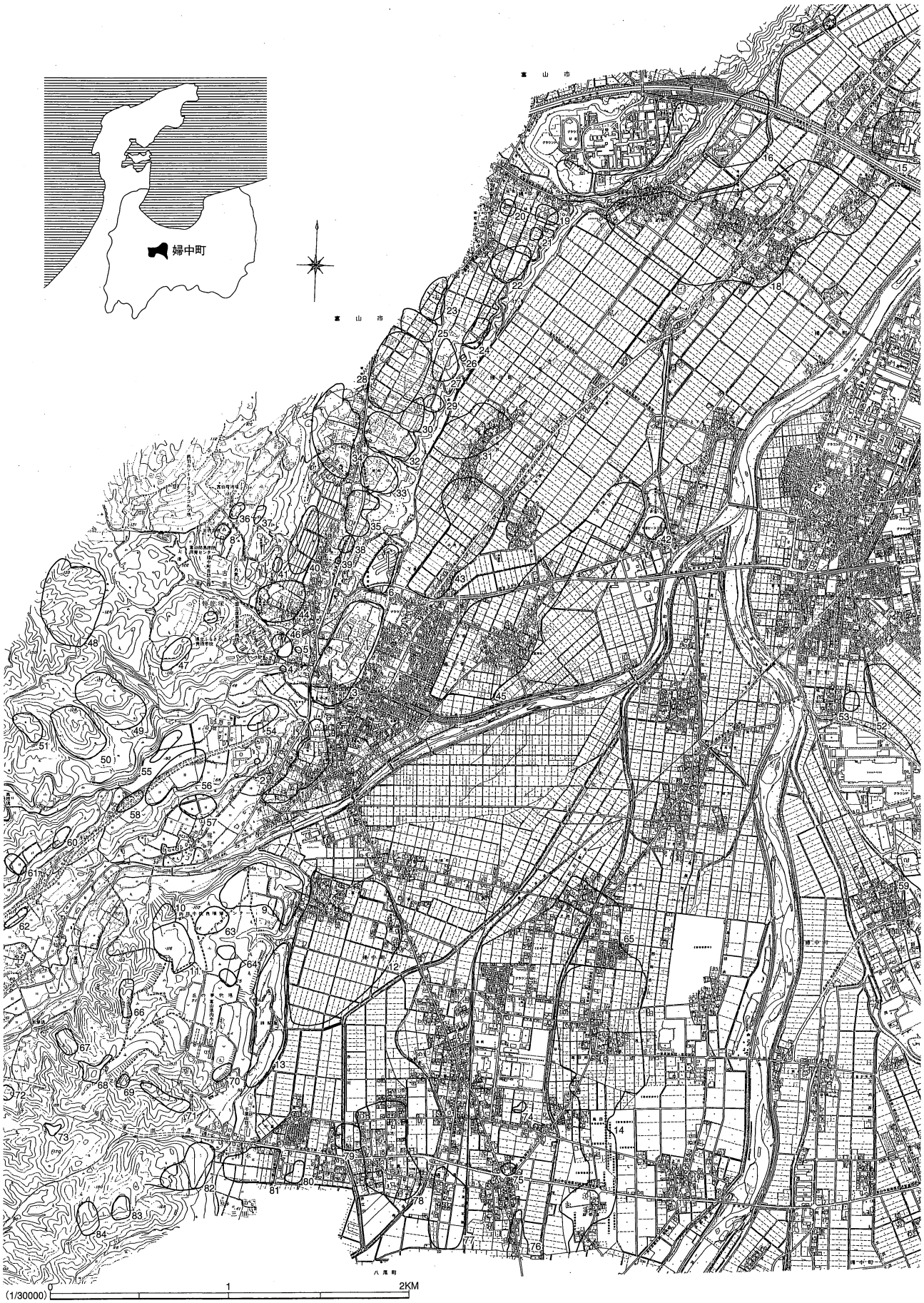
呉羽丘陵から続く丘陵部は、旧石器時代から中近世に至るまで数多くの遺跡が分布する。特に南端部の山田川沿いの平野から丘陵にかけては弥生時代後期後半から古墳時代前期の遺跡が密集しており、近年試掘調査が実施され大きな成果があった。これらの遺跡群は、最初に試掘調査が行われた千坊山遺跡（３）にちなみ、「千坊山遺跡群」と呼ばれる。本遺跡も「千坊山遺跡群」を構成する遺跡の一つである。「千坊山遺跡群」には、集落遺跡と、山陰地方との関連が窺える四隅突出型墳丘墓等の墳墓で構成され、集落と墓域がセット関係でとらえることができる。中でも本遺跡西側の丘陵上に位置する四隅突出型墳丘墓の鏡坂墳墓群１・２号墓（２）は、立地上、本遺跡の墓域である可能性が高い。また、県東部最大規模の前方後方墳、王塚古墳（８、国指定史跡）、勅使塚古墳（７、県指定史跡）も含まれ、このことから古墳時代初めには周辺地域勢力の統合が進み、大きな勢力を保有していたと考えられる。

奈良時代には、大宝元年（701年）天武天皇第７皇子一品親王（仏性聖人）の創立とされる北叡山各願寺が本遺跡の北方約700mの丘陵上にある。各願寺の南方及び東方には各願寺前遺跡（44）が広がっており、過去３次にわたる発掘調査では各願寺に伴うと考えられる遺構・遺物が見つかっている。

中世には、この一帯は富山平野から砺波・飛騨地方に抜ける交通の要衝として戦略上重要視された。射水・婦負二郡の守護代であった神保氏の拠点である富崎城（９）をはじめ、山田川両岸の山中に数多くの山城が築かれた。(細辻)

No.	遺跡名称	種　別	時　代	No.	遺跡名称	種　別	時　代	No.	遺跡名称	種　別	時　代
1	鍛冶町遺跡	集落	弥生･古墳･古代･中世･近世	29	小長沢古墳群	古墳	古墳	57	蓮花寺遺跡	寺院	中世
2	鏡坂墳墓群	四隅突出型墳丘墓	弥生	30	宮ノ高A遺跡	散布地	縄文	58	外輪野Ⅰ遺跡	集落	縄文・中世・近世
3	千坊山遺跡	集落・屋敷跡・塚状遺構	旧石器・縄文・弥生・古代・中世	31	小長沢Ⅱ遺跡	散布地	縄文･古代･中世･近世	59	道場Ⅰ遺跡	集落	中世・近世
4	六治古塚	四隅突出型墳丘墓	弥生・古代・中世	32	二本榎遺跡	散布地、中世墓？	縄文、中世？	60	外北A遺跡	散布地	不明
5	向野塚	前方後方形墳丘墓	弥生・古代・中世	33	二本榎Ⅱ遺跡	散布地	縄文・古代・近世	61	外北B遺跡	散布地	不明
6	添ノ山古墳	方形墳丘墓	弥生？	34	二本榎Ⅲ遺跡	古代窯・中近世墓壇？	古代・中世・近世	62	外北D遺跡	散布地	縄文
7	勅使塚古墳	前方後方墳	古墳	35	新町Ⅰ遺跡	散布地	古代	63	富崎城西遺跡	散布地	縄文
8	王塚古墳	前方後方墳	古墳	36	王塚古墳北遺跡	散布地	縄文	64	富崎南野遺跡	集落	縄文・古代・中世
9	富崎城遺跡（富崎墳墓群）	集落・山城・四隅突出型墳丘墓	縄文・弥生・中世	37	羽根北遺跡	散布地	不明	65	上吉川Ⅰ遺跡	集落	弥生･古代･中世･近世
10	離山砦遺跡	集落・山城	弥生・中世	38	新町Ⅲ遺跡	散布地	古代	66	下瀬向山遺跡	散布地	不明
11	富崎赤坂遺跡	集落	弥生	39	新町大塚古墳	中世墓？	中世？	67	下瀬砦	山城	中世
12	富崎遺跡	集落・散布地	弥生･古代･中世･近世	40	新町Ⅱ遺跡	集落	縄文･古代･中世･近世	68	赤坂砦	山城	中世
13	富崎千里古墳群	前方後方墳･方墳･円墳	古墳	41	新町横穴墓	横穴	古墳？	69	森田山砦	山城	中世
14	南部Ⅰ遺跡	集落	弥生･古墳･古代･中世･近世	42	鶴ヶ城跡	城館	中世	70	千里片坂遺跡	散布地	不明
15	安田城遺跡	平城	中世・近世	43	下邑遺跡	散布地	縄文･古代･中世･近世	71	ゴダイ塚	その他	中世
16	友坂天神遺跡	集落	縄文・古代	44	各願寺前遺跡	集落	縄文･古代・中世	72	下瀬遺跡	散布地	不明
17	杉谷古墳群	古墳	縄文・弥生・古墳	45	下邑東遺跡	集落	古墳・古代	73	掘割砦	山城	中世
18	友坂遺跡	集落・城館	縄文･古代･中世･近世	46	古里保養園前遺跡	散布地	縄文・弥生？	74	南部Ⅱ遺跡	集落	中世
19	総野Ⅰ遺跡	散布地	不明	47	五ツ塚古墳群	円墳	古墳	75	小倉中稲Ⅱ遺跡	集落	中世
20	総野Ⅵ遺跡	散布地	不明	48	菅谷城跡	城館	中世	76	小倉中稲遺跡	集落	古代・中世・近世
21	総野Ⅱ遺跡	散布地	縄文	49	家老屋敷城跡	山城	中世	77	千里E遺跡	集落	古代・中世・近世
22	総野Ⅲ遺跡	散布地	縄文・古墳	50	長沢城跡	山城	中世	78	千里D遺跡	散布地・集落？	古代・中世・近世
23	新開遺跡	集落・散布地	旧石器・古代	51	鐘突堂遺跡	山城・その他	中世	79	千里B遺跡	散布地	古代・中世・近世
24	総野Ⅳ遺跡	散布地	縄文	52	砂子田Ⅰ遺跡	集落	古墳・古代・中世	80	千里C遺跡	集落・散布地	弥生・古代
25	大開Ⅱ遺跡	散布地	不明	53	袋遺跡	散布地	古代	81	千里F遺跡	散布地	古代
26	小長沢北塚	砦跡？	不明	54	鏡坂Ⅱ遺跡	散布地	中世	82	大館城跡	城館	中世
27	小長沢Ⅰ遺跡	集落	古代・中世(戦国)	55	鏡坂Ⅲ遺跡	集落	縄文	83	猿ヶ馬場城跡	山城	中世
28	平岡遺跡	散布地	縄文	56	鏡坂Ⅰ遺跡	集落	縄文・古代	84	山田南砦	山城	中世

表１　周辺の遺跡一覧



第1図　周辺の遺跡分布図(1/30000)

第２章　調査に至る経緯と経過

１　調査に至る経緯

婦中町教育委員会（以下、町教委）は町内の遺跡を把握するため、平成11年４月８日～同年４月15日にかけて長沢を含む古里地区と朝日地区で分布調査を行った。その結果、現在の鍛冶町遺跡付近で、縄文土器・須恵器・古代土師器・珠洲・中世土師器・越前・瀬戸・瓦質土器・近世陶磁器・土師質土器・土製品が採取された。「鍛冶町（かんじゃまち）」という字名が残っていること、近隣には数多くの遺跡・戦国時代の山城跡が存在することを考慮し、町教委では、新規に古代・中世・近世の遺跡として鍛冶町遺跡を設定した。

その後、２次にわたって試掘調査を行った。第１次試掘調査は、富山土木事務所より近くを流れる辺呂川河川改修工事に伴い、バスが迂回するためのロータリーを造成する必要が生じた。そこで、国道予定地である田が対象となり、平成11年９月９日から同年９月10日にかけて行った。幅1.3mの試掘トレンチを１箇所設定した。調査面積は23㎡である。結果、弥生時代終末期から古代・中世にかけてのさまざまな遺構（竪穴住居跡・柱穴・溝・土坑等）を検出した。遺物は弥生時代終末期の土器を中心に点数にして1,000点以上の遺物が出土した。そこで、町教委では遺跡の時代を弥生時代から近世までの複合遺跡として変更した。

第２次試掘調査は、富山土木事務所より一般国道359号道路（婦中西バイパス）改築改良事業をうけ、本遺跡内を通過する部分を対象に、平成11年11月16日から同年11月20日にかけて行った。幅1.0mの試掘トレンチを８箇所設定した。調査面積は135㎡である。結果、再び弥生時代終末期から古代・中世にかけての遺構・遺物を検出した。遺物は弥生時代終末期の土器を中心に点数にして約1,000点以上の遺物が出土した。（第２図）

２　調査の経過

試掘調査後、富山土木事務所との協議により、本調査を平成12年度より２ヵ年、報告書作成に１ヵ年とする事業計画が作成された。平成12年３月より、まず平成12年度の調査区であるA区、D区の重機による表土剥ぎと、全調査区の畦設置作業を行った。平成12年度は、平成12年５月17日より、A区から発掘調査作業を開始した。これは事業主体である富山土木事務所より、最優先で調査するよう依頼されたためである。同年12月25日に平成12年度の現地調査A・D区2,650㎡を終了した。

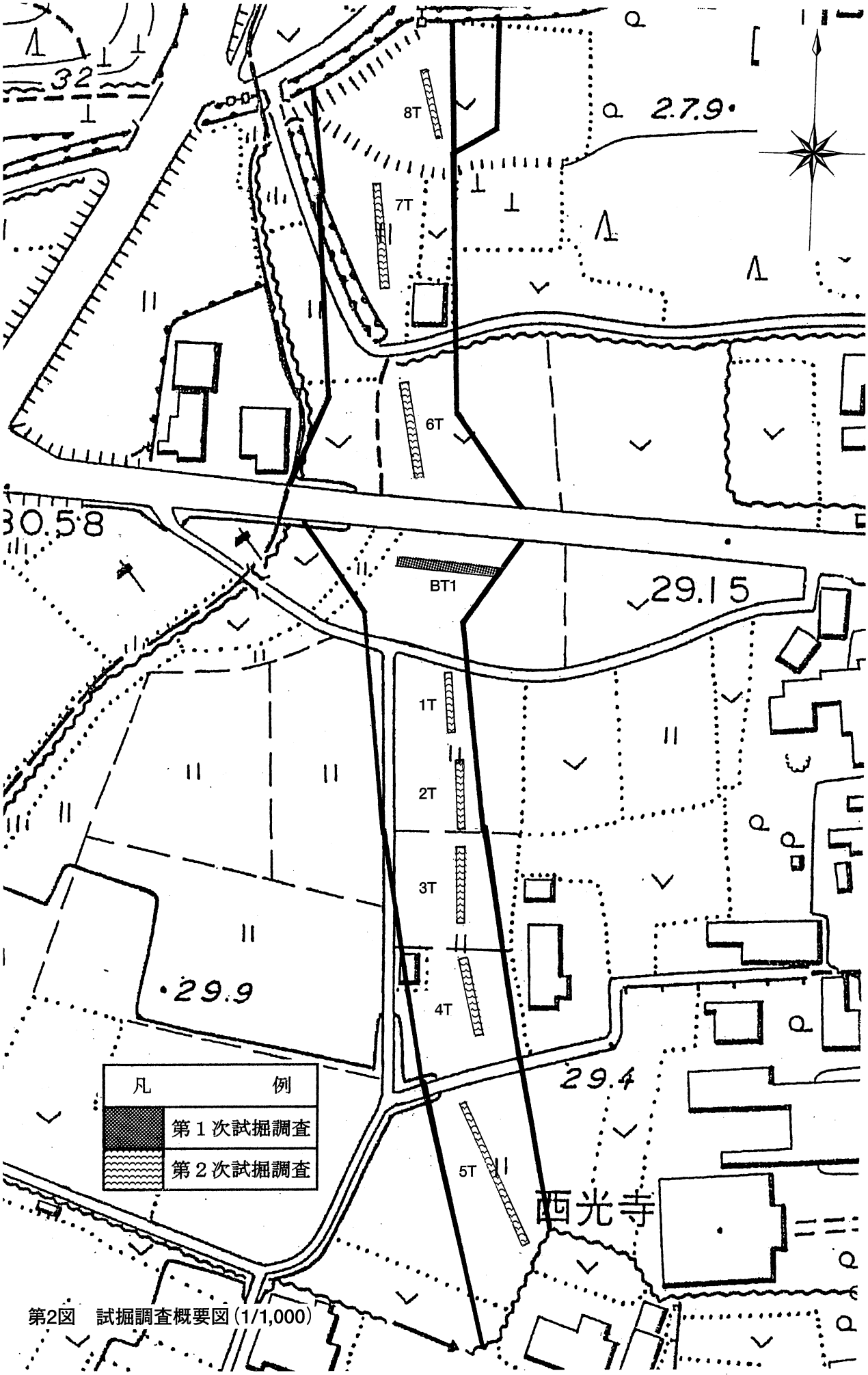
平成13年度は、平成13年５月21日より残りの調査区の重機による表土剥ぎ作業を開始し、同年５月28日より、E区から発掘調査作業を開始した。これは面積が広く、調査を早く完了させるためである。同年11月17日には２年間の発掘調査の成果を踏まえ、現地説明会を行った。悪天候にもかかわらず、地元の方を中心に約100名の参加があった。同年11月30日に平成13年度の現地調査B・C・E区1,920㎡を終了した。

３　遺物整理

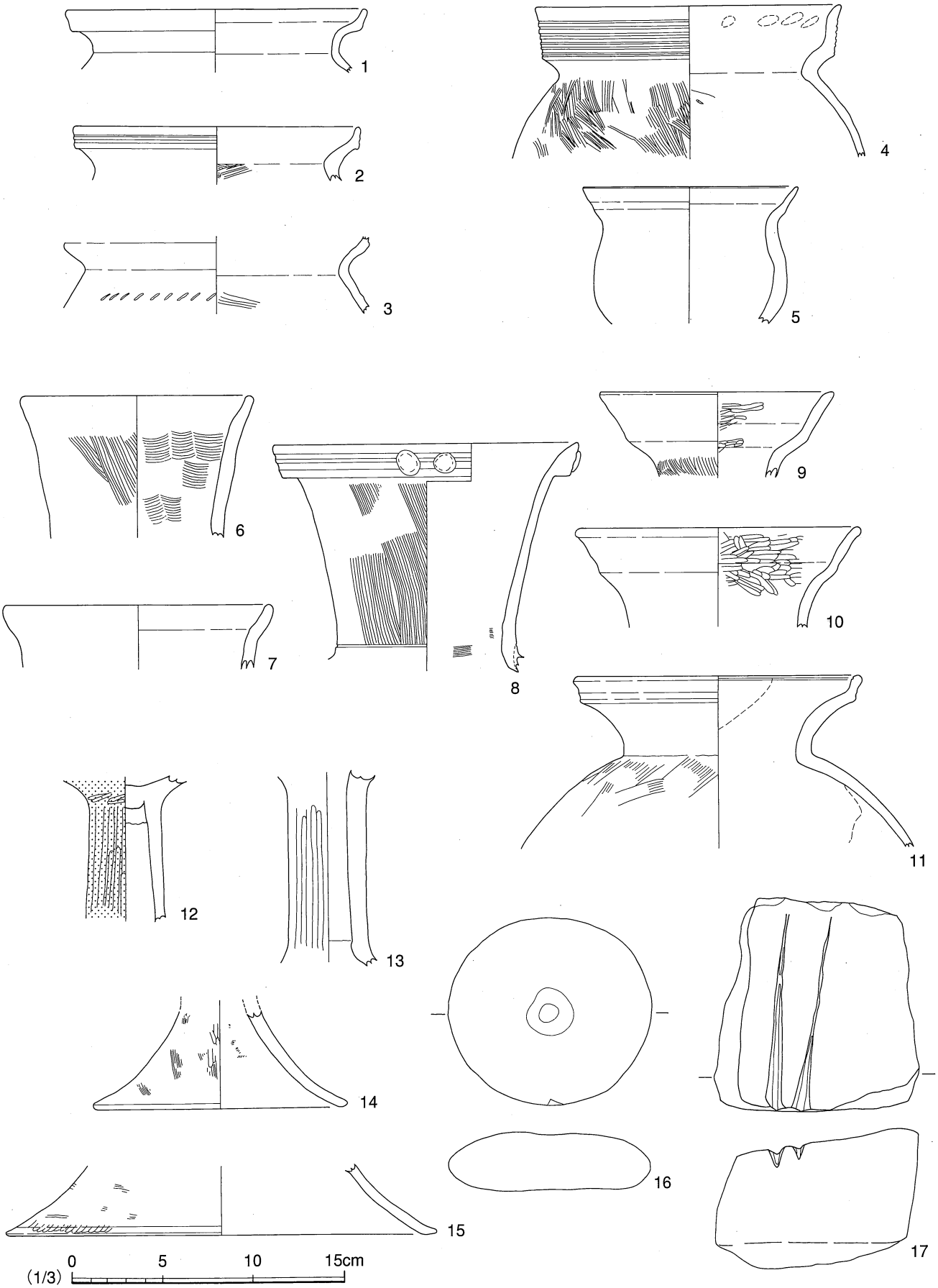
出土した遺物は収容コンテナでおよそ212箱である。できるかぎり現地事務所で随時洗浄を行い、土師質のもろい遺物に関してはバインダー浸透作業も行った。注記も行ったが、大量の遺物に対応するため、平成13年度には、インクジェットマーカーを１台借りて作業を行った。その後現地調査が終了後、遺物の接合・復元作業を行った。遺物の量が非常に多く、完形に復元できるものが多かったため、作業は平成14年７月までかかった。

遺物の実測作業は平成13年度の現地調査終了後富山大学考古学研究室の学生によって行っていたが、作業の進行を鑑み、主に弥生土器に関して、接合作業の完了に合わせ、平成14年７月に㈱中部日本鉱業研究所に委託し、平成14年10月に完了した。

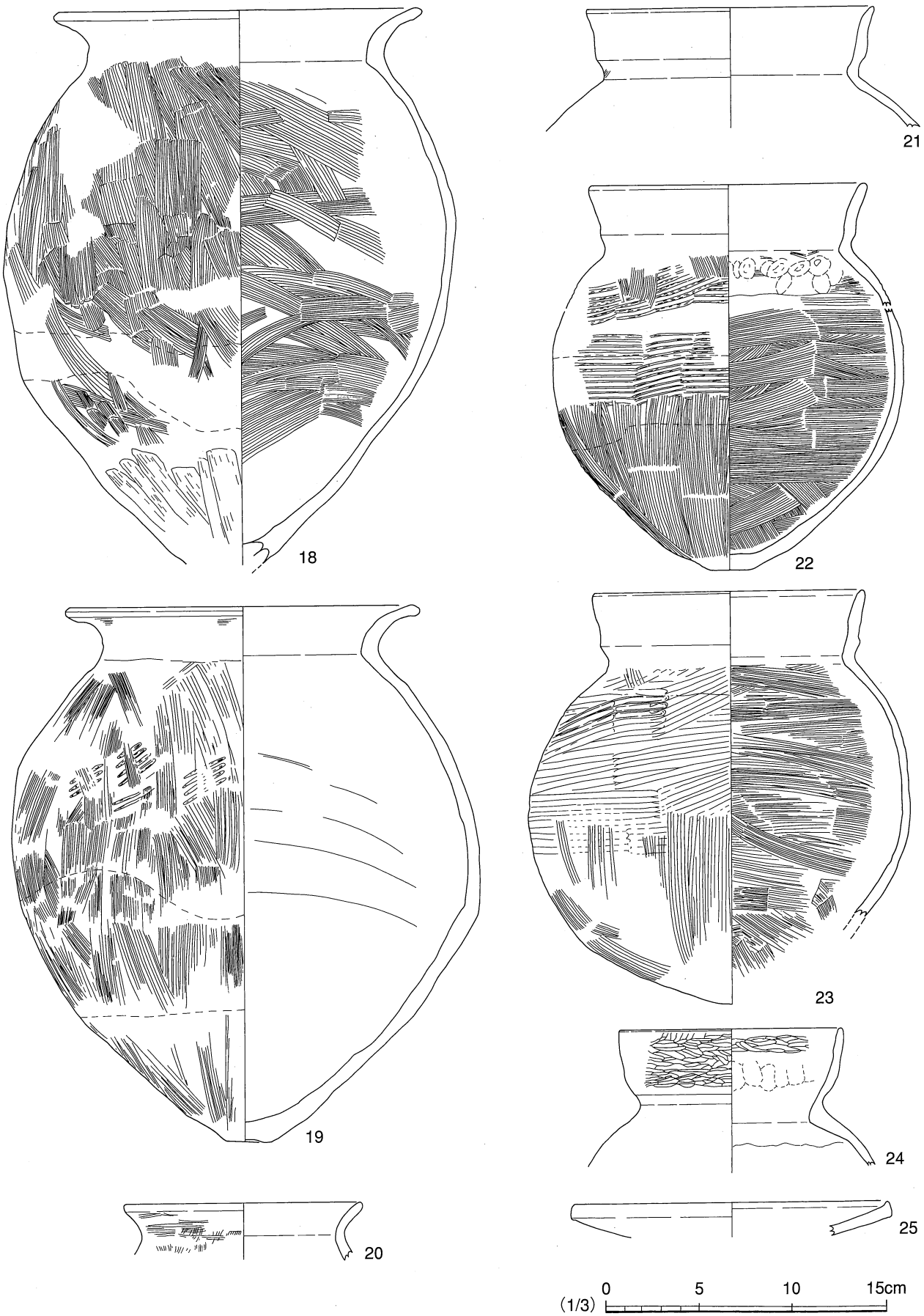
自然科学分析については、パリノサーヴェイ㈱に依頼し、平成13年７月にサンプリングと現地確認を行った。分析報告を平成14年２月に受け、完了した。　（細辻）



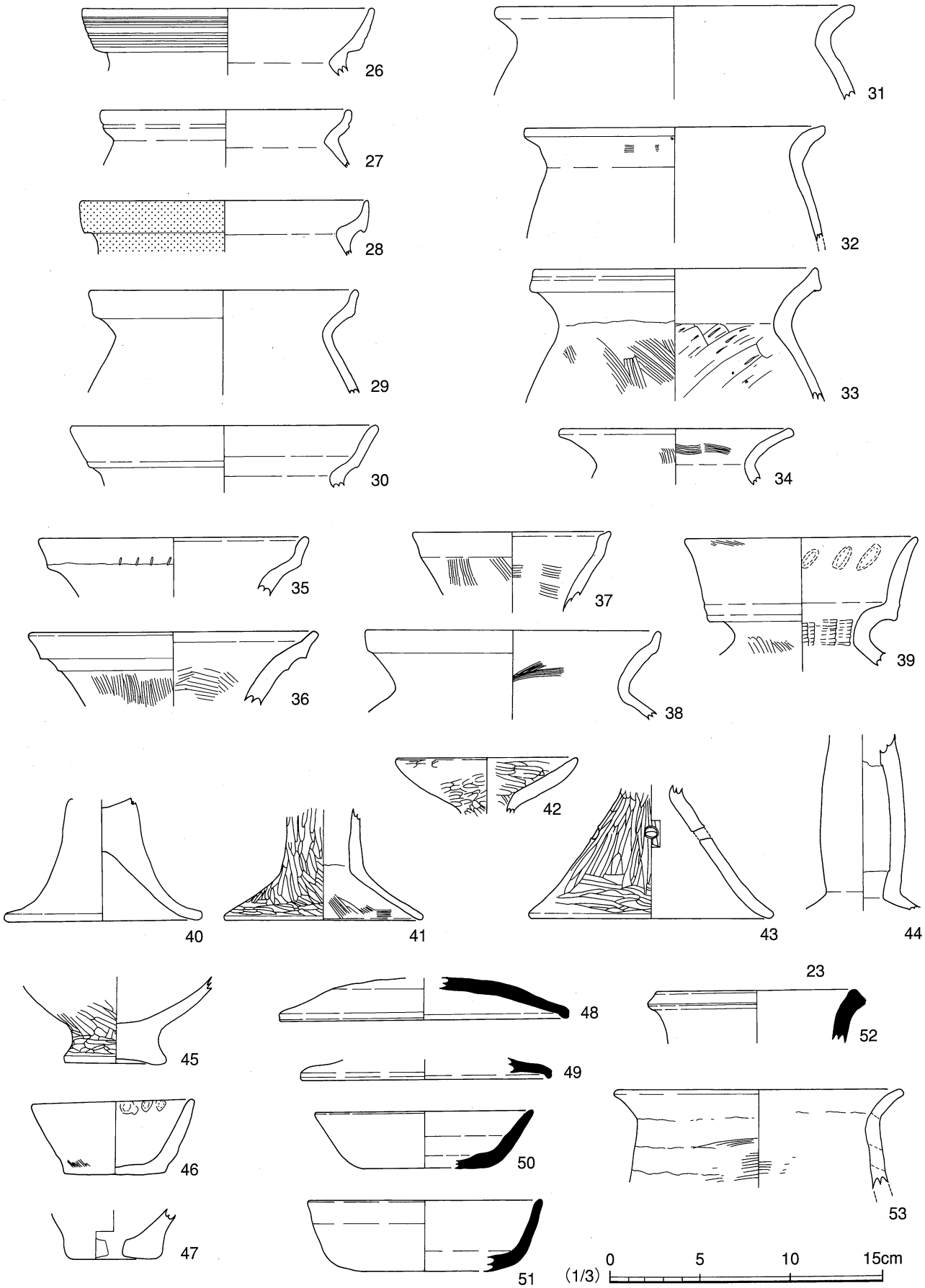
第2図　試掘調査概要図(1/1,000)



第1図　第1次試掘調査出土遺物(1/3)　BT1 SP内:2,6～9,11　BT1 NO.2:4　BT1 NO.6:1,10,15
BT1 NO.8:3,5,12～14　BT1 NO.12(B区 SI745内):17　BT1 包含層:16



第4図　第1次試掘調査出土遺物(1/3) BT1 NO.12(B区 SI745内)



第5図　第2次試掘調査出土遺物(1/3)　T1:28～35,37,38,40～46　T2:27,39,49,50,53　T5:26,47,48,51,52　T6:36

第３章　調査の概要

１　調査区と座標軸の設定

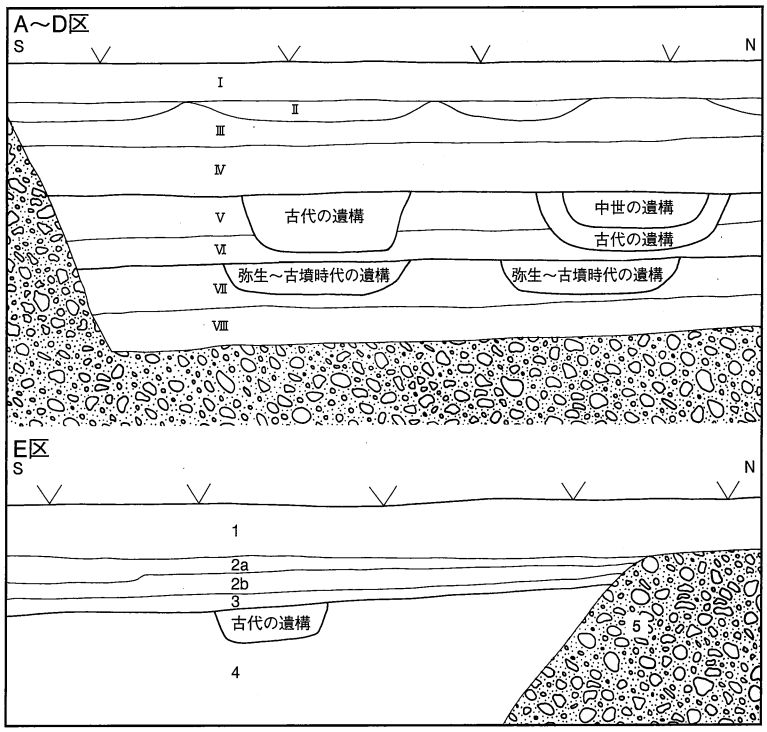
調査区割は、２年間の調査期間であること、調査区が南北約200mと長いこと、地形や既存の用・排水の状況、試掘結果などを考慮し、北から順にA・B・C・D・E区の五つの調査区を設定した。そこで、試掘の結果からD区南側からE区北側にかけては、礫層が隆起し耕作土と礫層の間にはほとんど土の堆積は見られない。そのため、調査対象から除外した。また、B区西側に隣接する光円寺への進入道路は、迂回路の確保ができないため、これも調査対象から除外した。

座標軸は国土地理院設定の第Ⅶ座標系公共座標のうち、X＝71,400、Y＝－4,000を０原点として設定した。南北軸をX軸とし、X＝０から北方向に進むにつれてX座標の数値が増える。同様に東西軸をY座標とし、Y＝０から東方向に進むにつれて、Y座標の数値が増える。１グリットの区画は２m×２mを１単位とし、調査区の範囲はX＝106～203、Y＝158～178となる。（第７図）

２　基本層序

調査区が南北に長いため、A～D区と、E区では様相が異なる。（第６図）

A～D区はおおよそⅠ層：暗灰黄色土（耕作土）、Ⅱ層：黄褐色砂質シルト（近世以降堆積層、水田基盤土）、Ⅲ層：黄灰色シルト（中世以降堆積層）、Ⅳ層：暗褐色シルト（中世・古代遺物包含層）、Ⅴ層：褐色粘質シルト（中世・古代遺構検出面）、Ⅵ層：にぶい黄褐色シルトに褐色シルト混じり（弥生～古墳時代遺物包含層）、Ⅶ層：にぶい黄褐色砂質土（地山、弥生～古墳時代遺構検出面）、Ⅷ層：オリーブ褐色粗砂と礫（地山基盤層）となる。



第6図　基本層序模式図

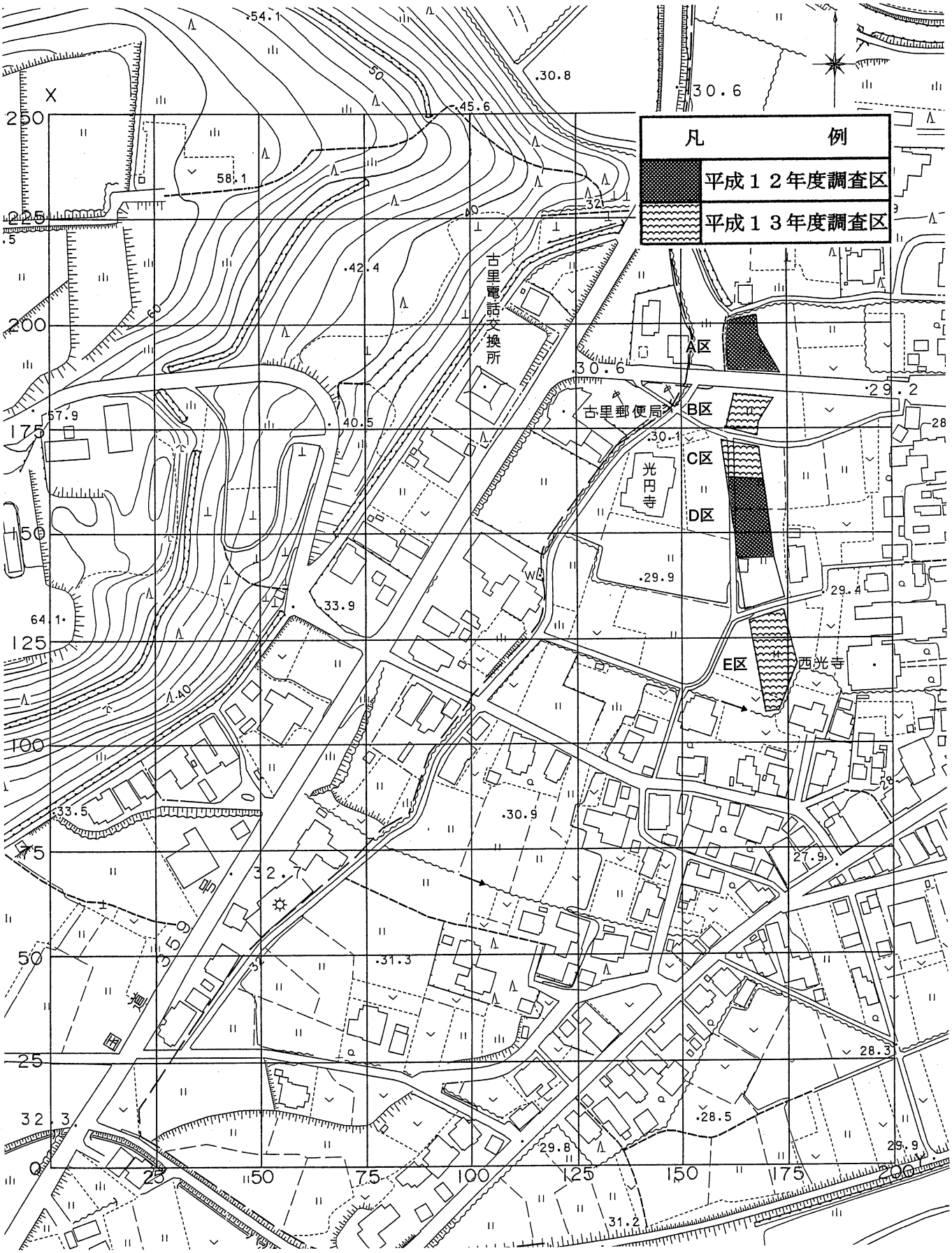
E区は１層：暗灰黄色土（耕作土）２a層：灰黄褐色土（近世以降堆積土、水田基盤土）、２b層：オリーブ褐色シルト（中世以降堆積層）、３層：暗褐色砂質土（古代遺物包含層）、４層：黄褐色粘質シルト～砂質シルト（地山、古代遺構検出面）、５層：褐色粗砂と礫（地山基盤層）となる。なお、調査区全般にわたって、地山は北から南に向かって低くなっている。

全体的に中世の遺構は後世に削平されており、一部の深い遺構を除いて遺存状況は良くない。

D区のほぼ中央を南西から北東にかけて旧河川と思われる落ち込みが見られる。E区北側の礫層はD区の南端に向かって隆起してきており、耕作土以外に堆積は見られない。（細辻）

３　各地区の概要

調査年度が２ヵ年にわたっているため、以下、各地区ごとに調査の概要を記載する。おおむね弥生時代後期後半から古墳時代前期前半にかけての遺構、古代の遺構、中・近世の遺構、と時代の古い順に記載した。遺物についてはここでは詳しくは触れず、器種細分などは第４章でふれることにしたい。



第7図　グリット配置図及び区割図（1/2,500）

A区

弥生時代後期後半～古墳時代前期前半の遺構

SI15（第10・11図）　X191～195Y164～168付近に位置する。規模及び形態は、平面形が一辺約６mの隅丸方形で、床面積は31.8㎡を測る。深さは約40cmを測る。床面はほぼ水平である。貼床、硬化面、周壁溝は検出されなかった。住居の軸方向はN－45°－Wである。遺構のほぼ中央で、炉跡を検出した。炭化物と焼土が詰まった地床炉である。他に土器の詰まったピットを２箇所検出した。Ｐ１は炉跡の東より1.4mに位置する。長軸82cm、短軸72cmを測る。Ｐ２は、炉跡より南西側1.3mに位置し、長軸86cm、短軸68cmを測る。SI15の埋土は黒褐色シルトと暗オリーブ褐色シルトの混じりである。遺物は床面全体で大半が出土した。ほぼ原位置を保っていると思われ、完形に復元できるものも多くあった。器種には甕・長頸壺・無頸壺・高坏・器台受部・器台脚部等があり月影Ｉ式に比定される。周辺遺構との切り合い関係はSK60を切り、SK61・SX01・SD42に切られている。

SK108（第９図）　X189～191Y166～170付近に位置する。規模及び形態は、南側が調査区域外であるため不明である。平面形は不定形で、検出した規模は、長軸６m以上、短軸2.5～３m、深さは10cm～18cmを測る。主軸の方向は不明である。埋土は、オリーブ褐色土と褐色土の混じりである。土器の出土量、平面形の不定形から自然地形の窪みを利用した土器廃棄場と思われる。遺物は甕・壺・高坏坏部・高坏脚部・蓋等があり月影Ｉ式に比定される。出土遺物を観察すると、長頸壺の口縁部分や高坏の坏部・脚部の割合が高く、土器廃棄の際に、特定の部分を決めて廃棄する風習・祭祀が存在した可能性もある。赤彩品はわずかしか出土していない。

SK12（第９図）　X193～195Y162～164付近に位置する。規模及び形態は、平面形はやや歪な楕円形を呈し、長軸194cm、短軸100～115cmを測る。深さは25cmを測る。長軸の方向はN－10°－Eである。埋土は暗灰黄～黒褐色シルトである。遺物は中央底部付近に集中しており、器種としては壺があり月影Ｉ式に比定される。

SK48（第９図）　X192～193Y161～162付近に位置する。規模及び形態は、西側が調査区の端で切られているが、平面形は直径１mの円形または楕円形と思われる。深さは９cmを測る。埋土はオリーブ褐色～暗オリーブ褐色シルト、遺物は甕・壺等があり、古府クルビ式に比定される。

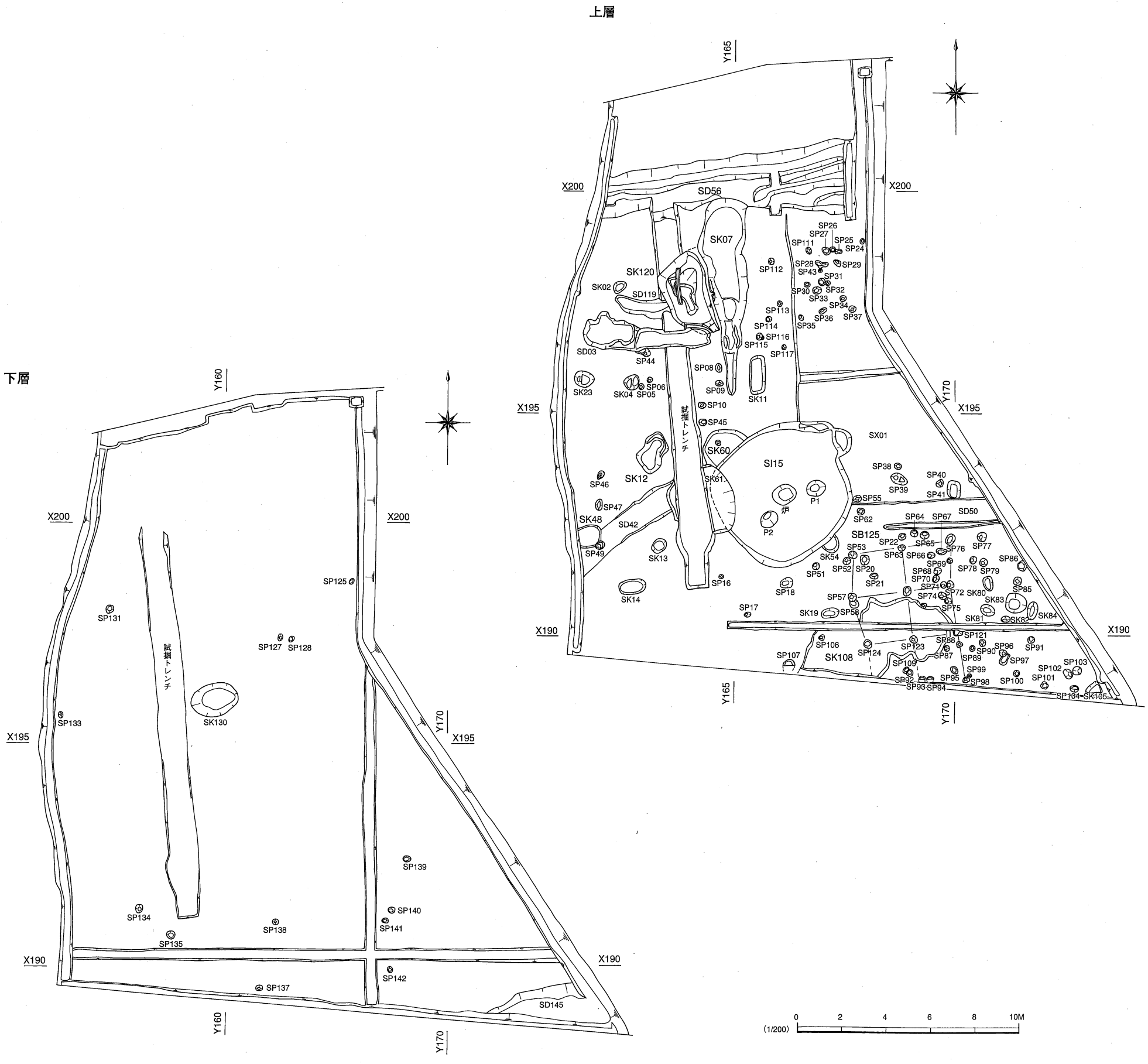
SK120（第９・10図）　X196～199Y163～165付近に位置する。規模及び形態は、SD03・SK07に切られているが、平面形は隅丸方形ないし長方形と思われ、長軸3.8m、短軸2.1m以上を測る。深さは25cm～50cmである。底面に長軸1.9m、短軸0.5m～1.4m、深さ40cmの掘り込みが見られる。埋土は上からオリーブ褐色土と暗灰黄色土の混ざり、黒褐色土とオリーブ褐色土の混ざり、褐色土と暗オリーブ褐色土の混ざりである。遺物は、甕・壺・高坏等があり月影Ｉ式に比定される。底面の掘り込みからはほとんど確認出来なかった。

中・近世の遺構

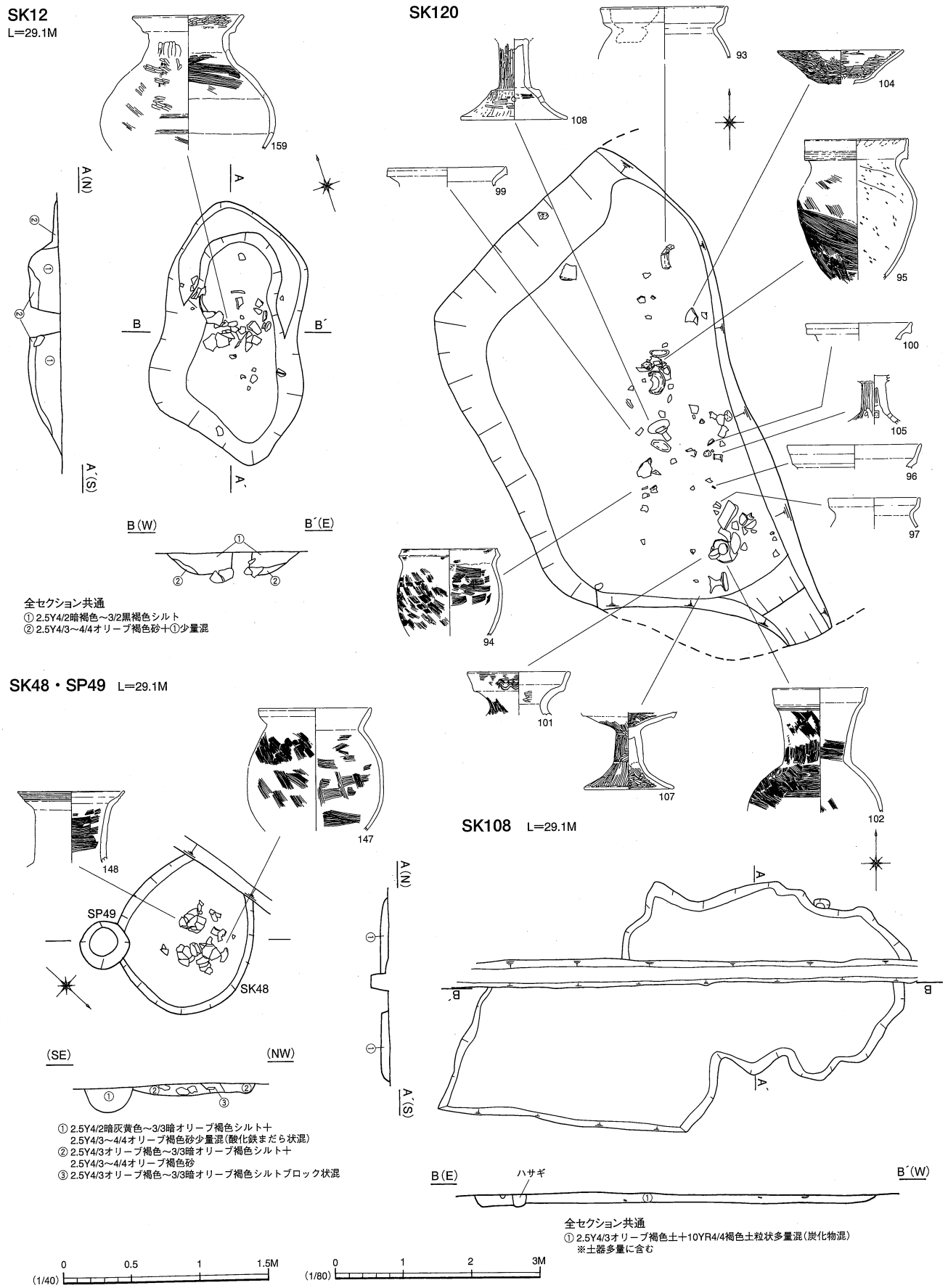
SD56（第10図）　X199～202に位置し、調査区を東から西へ横断している。断面形は緩やかなU字形を呈する。埋土は、堆積から判断して、２回は掘り直しをしていると思われる。南側の旧溝は幅1.5m、深さ50cmである。北側の新溝は西へいくほど深くなっている。幅1.7～1.9m、深さ25～50cmである。遺物には珠洲がある。遺物から14世紀前半～15世紀前半に比定される。

SB125（第12図）　X189～193Y167～171に位置する２間×３間以上の掘立柱建物で、調査区南側に広がると考えられる。間尺はSP53－SP76間2.25m＋2.2m、SP57－SP72間2.5m＋1.95m、SP124－SP121間2.05m＋２m、SP53－SP124間２m＋2.2m、SP63－SP123間1.95m＋2.2m、SP76－SP98間2.05m＋2.15m＋2.15mである。柱穴規模は直径28cm～48cm、深さ14cm～30cm、平均は直径36cm、深さ23cmである。建物の主軸方向はN－７°－Wである。遺物はSP123から中世土師器があり、13世紀後半～14世紀前半に比定される。他は実測に耐えるものがなかった。

SK07（第10図）　X195～200・Y164～166付近に位置し、南から北に向けて深くなっている。規模及び形態は、長軸

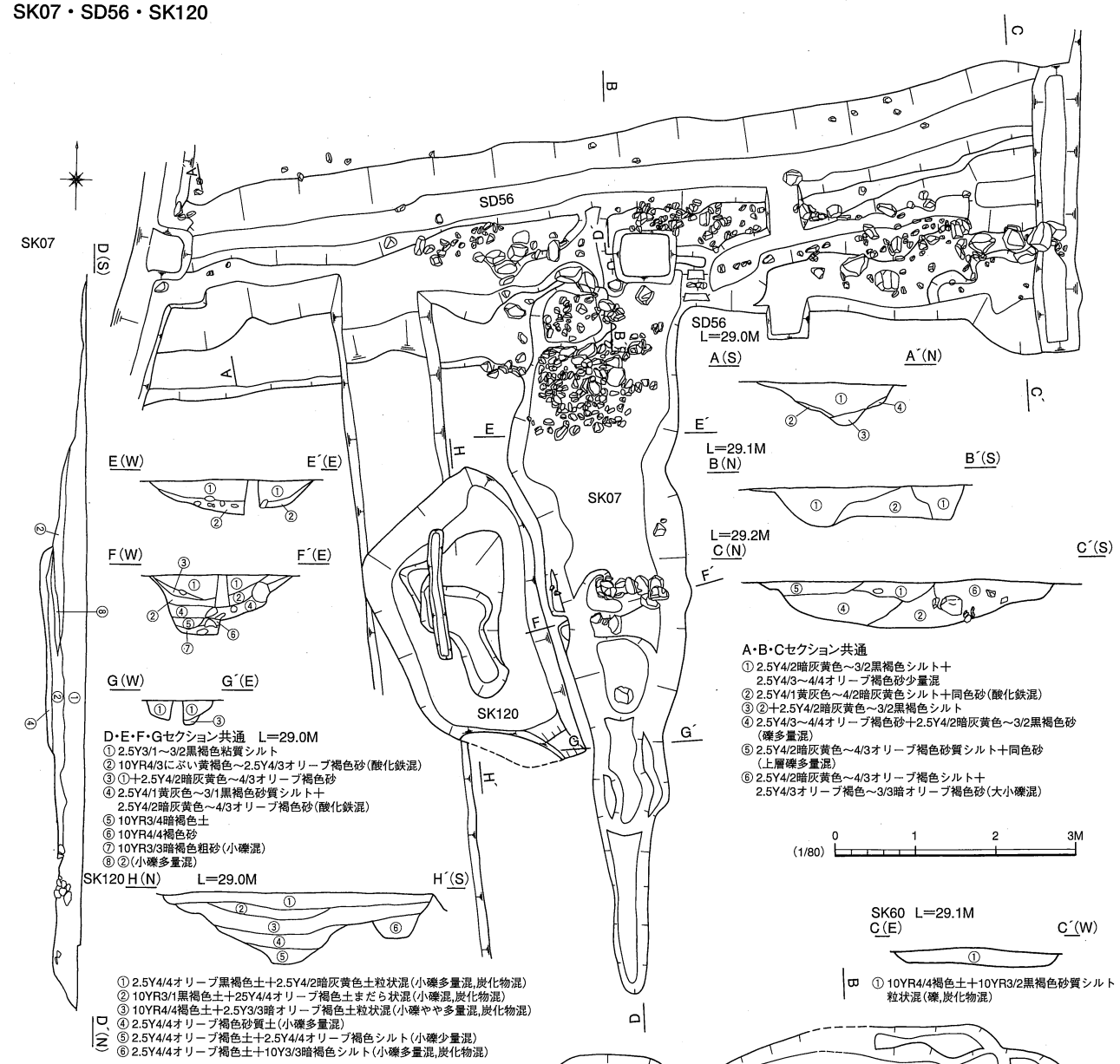


第8図　A区　遺構配置図（1/200）

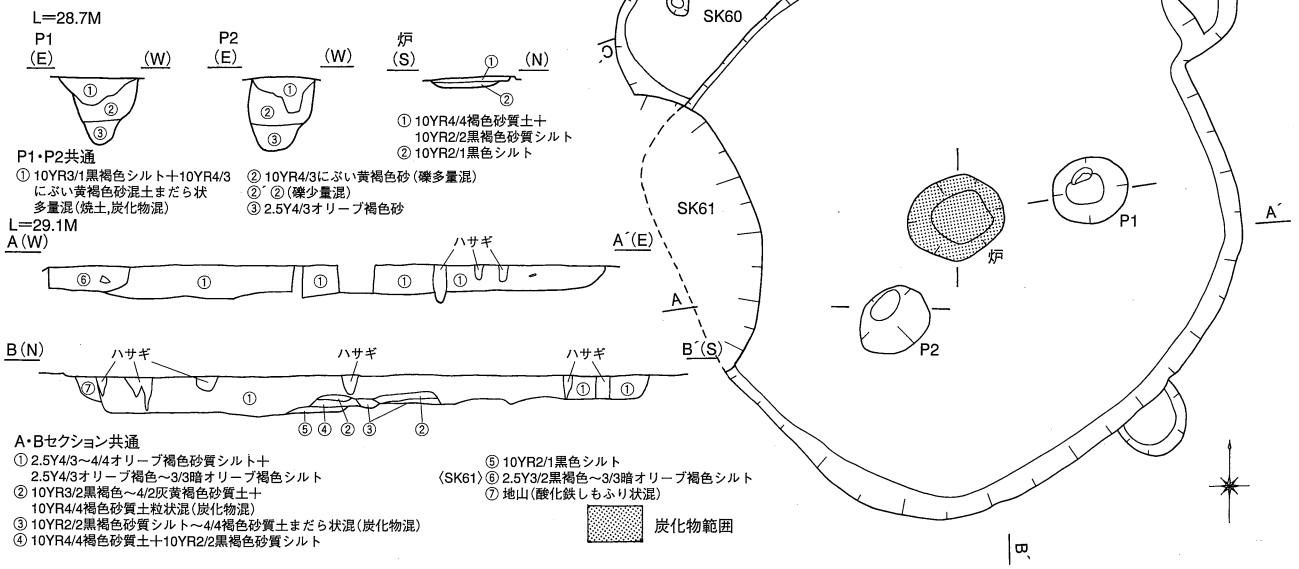


第9図　A区　SK12・SK48・SP49遺物出土状況図及び断面図(1/40),主な遺物の出土位置(1/8)
SK120遺物出土状況図(1/40),主な遺物の出土位置(1/8),SK108平面図及び断面図(1/80)

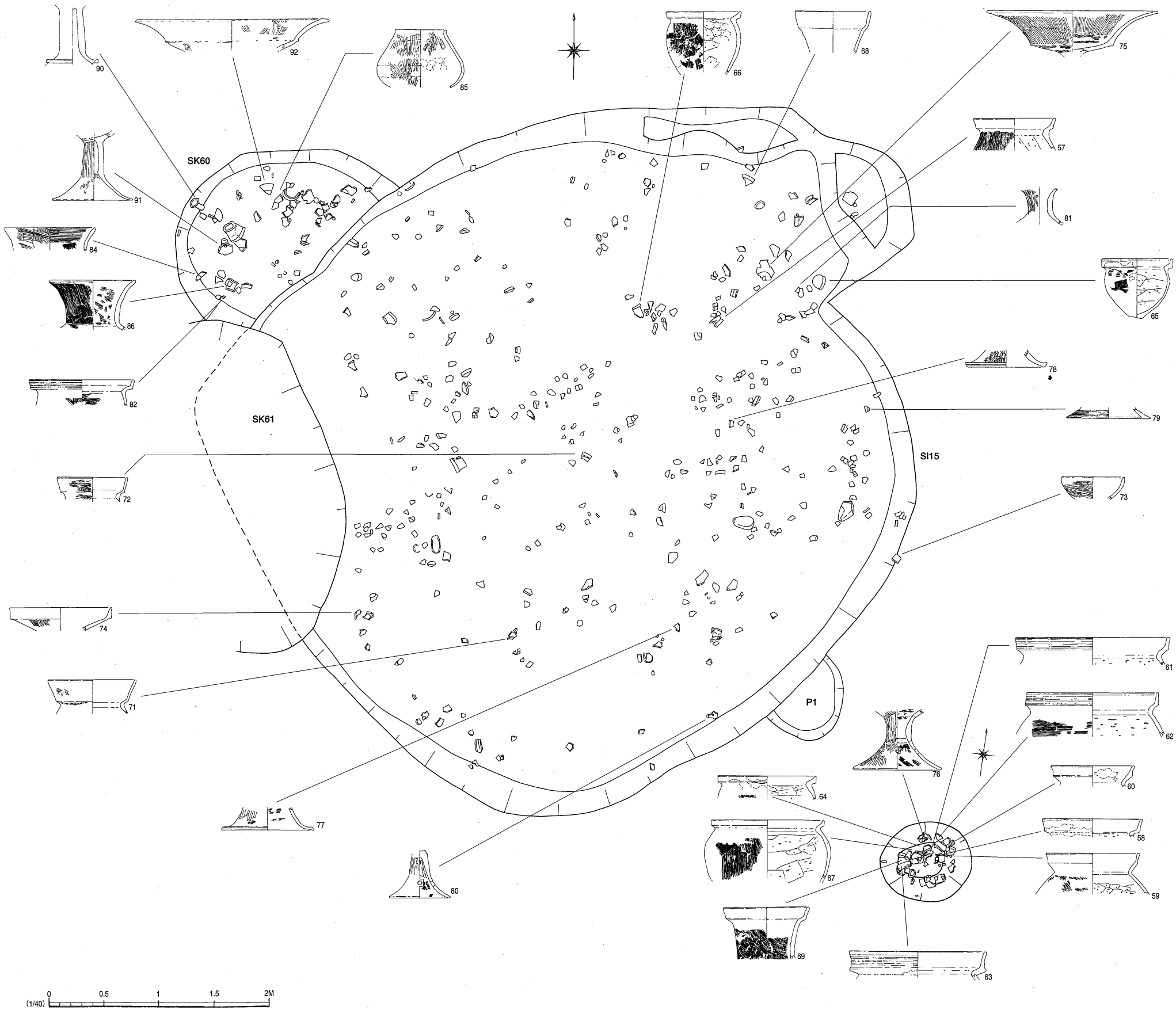
SK07・SD56・SK120



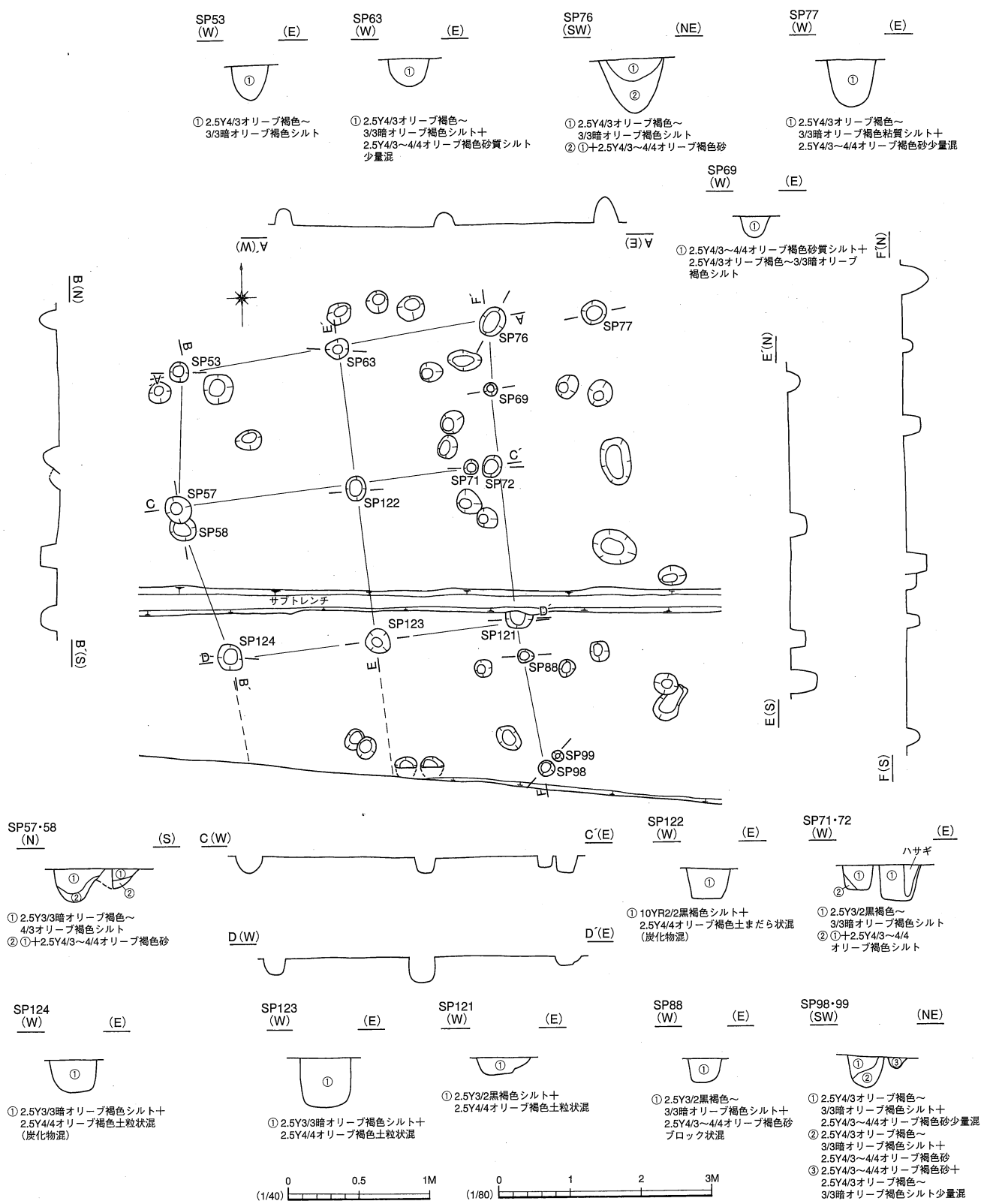
SI15・SK60・SK61



第10図　A区　SK07・SD56・SK120平面図及び断面図(1/80),SI15・SK60・SK61平面図及び断面図(1/80)



第11図　A区　SI15・SK60遺物出土状況図(1/40)及び主な遺物の出土位置(1/8)



第12図　A区　SB125平面図及びエレベーション（1/80）,ピット断面図（1/40）

9.2m、短軸0.6m～2.1mを測る。深さは15㎝～75㎝である。平面形は不定形である。埋土は上から黒褐色粘質シルト、にぶい黄褐色～オリーブ褐色砂、黄灰色～黒褐色砂質シルトと暗灰黄色～オリーブ褐色砂の混ざりである。遺物は、越中瀬戸・近世陶器があり16世紀末に比定される。他にはSK120を切っており弥生土器がある。　　（堀内）

B区

弥生時代後期後半～古墳時代前期前半の遺構

SI908（第14・15図）　X178～181Y168～169に位置する。遺構の規模及び形態は、南東側が調査区域外にあり、なおかつSK907に切られているため不明であるが、検出した規模は2.7m×6.0m、床面積は13.0㎡、深さはおよそ25～30㎝を測る。平面形は一辺６mの隅丸方形であると考えられる。住居の軸方向は不明である。床面はほぼ水平と考えられるが、硬化面や貼床は検出していない。遺構全体で、周壁溝を検出した。幅40㎝、深さは床面からおよそ10㎝を測る。炉跡やピットは検出していない。埋土は主に褐色粘質シルト炭化物混である。遺構全体に埋土と床面の間に炭化物の堆積が５㎝ほど見られる。検出の際は埋土と地山の区別がつきにくく、サブトレンチを入れ、炭化物や他の土の混じり具合で区別した。遺物は遺構全体の炭化物層と床面の間から大半が出土した。器種には甕・壺・高坏・小型土器があり、月影Ⅱ式に比定される。完形に復元できる土器が多く、高杯などの煮炊きをしない遺物を観察すると、焼成時ではなく後から２次的被熱を受けているようである。或いは炭化物層が遺構床面だけに均一に堆積していることから、燃焼によって生成されたものではない可能性もある。

SI745（第16・17図）　X178～182Y161～165に位置する。遺構の規模及び形態は、北側をSD746及び第１次試掘調査時のトレンチに切られているが、一辺約８m、床面積は51㎡を測る。深さはおよそ25～30㎝を測る。住居の軸方向はN－16°－Eである。平面形は隅丸方形と考えられる。床面はほぼ水平であると思われるが、硬化面や貼床などは検出されなかった。遺構の東壁寄りで、炉跡かと思われる集石があったが、断ち割ってみたところ、断面からは明確に炉と判断は出来なかった。周壁溝らしきものは東・南壁全体と西壁途中まで検出した。幅20㎝、深さは床面から５㎝を測る。ピットは11箇所検出したが、ピット１以外はあまりはっきりとした輪郭ではなく、主柱穴と考えられるものはない。ピット１は遺構のほぼ中央に位置する。長軸43㎝、短軸40㎝、深さ22㎝を測る。ピット２は、遺構中央より南西寄りに位置し、長軸52㎝、短34㎝、深さ12㎝を測る。遺構の埋土は、黒褐色粘質土・にぶい黄褐色粘質シルト地山粒混・褐色粘質シルト地山粒混である。遺物は埋土から地山直上まで様々な状態で出土した。器種には甕・壺・台付壺脚部・高坏・器台・鉢・蓋・小型土器があり、白江式に比定される。

SK728（第18図）X179Y166～168に位置する。遺構の規模及び形態は、東側が調査区端で切られているため不明であるが、検出した規模は、3.0m×3.5m、深さ15㎝を測る。平面形は長方形に近いと考えられる。埋土は、暗褐色粘質シルト地山粒混である。はさ木により遺構全体が撹乱を受けていた。遺物は弥生土器があるが、小破片ばかりで、実測出来るものはなかった。

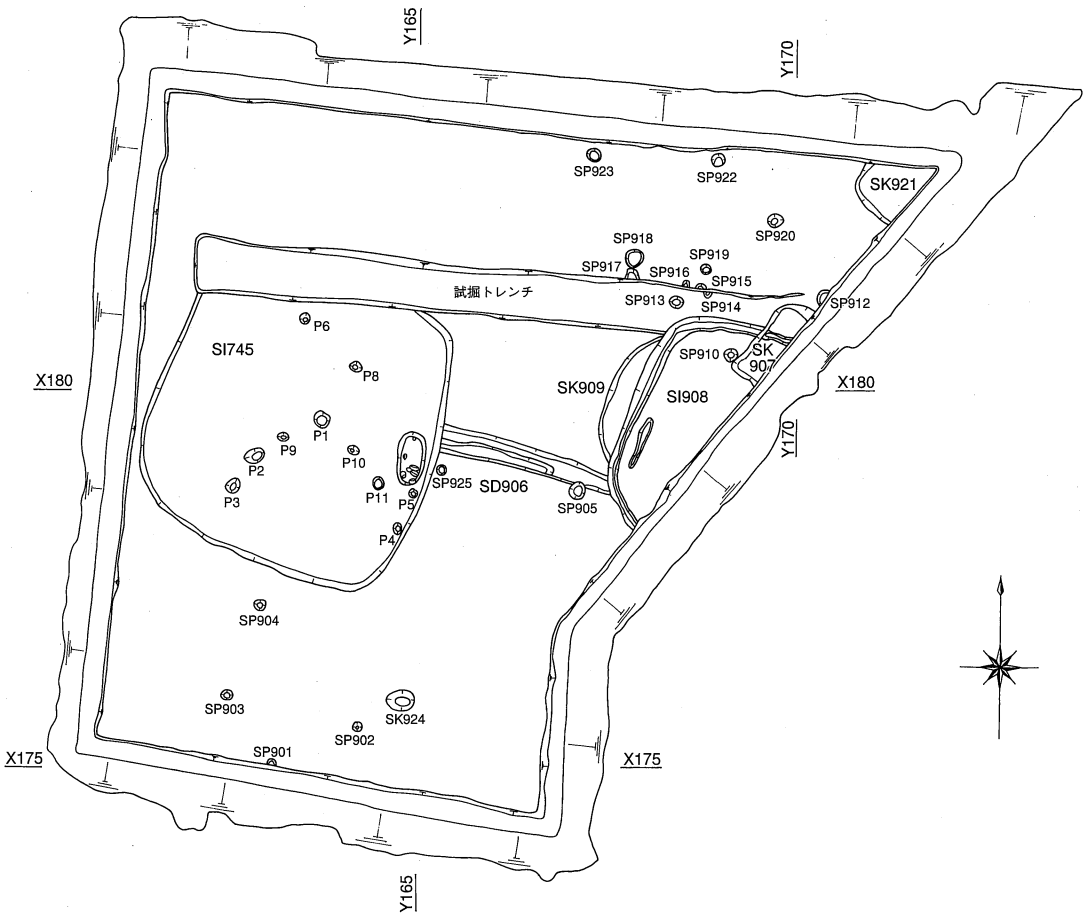
SD725（第14図）X175～176に位置する東西に走る溝。Y161より西側とY165より東側の部分は削平されているためか途切れている。規模は幅0.6m、深さ25㎝を測る。断面形は急な角度を持つU字形を呈する。埋土は褐色粘質シルトで地山とほとんど区別がつかなかったが、炭化物や酸化鉄の粒の混ざり具合により遺構のプランを検出した。遺物は壺・小型高坏・器台脚部などがあり、月影Ⅱ式に比定される。

SD906（第14・15図）　X179Y166～168に位置し、SI745とSI908に両端を切られている。遺構の規模及び形態は、幅0.75m、深さ20㎝を測る。断面形は緩やかなU字形を呈する。埋土は、断面を見ると、堆積状況から１度埋まってから掘り直されて幅を拡張しているらしい。遺物はほぼ完形の高坏坏部が１点ある。月影Ⅱ式に比定される。

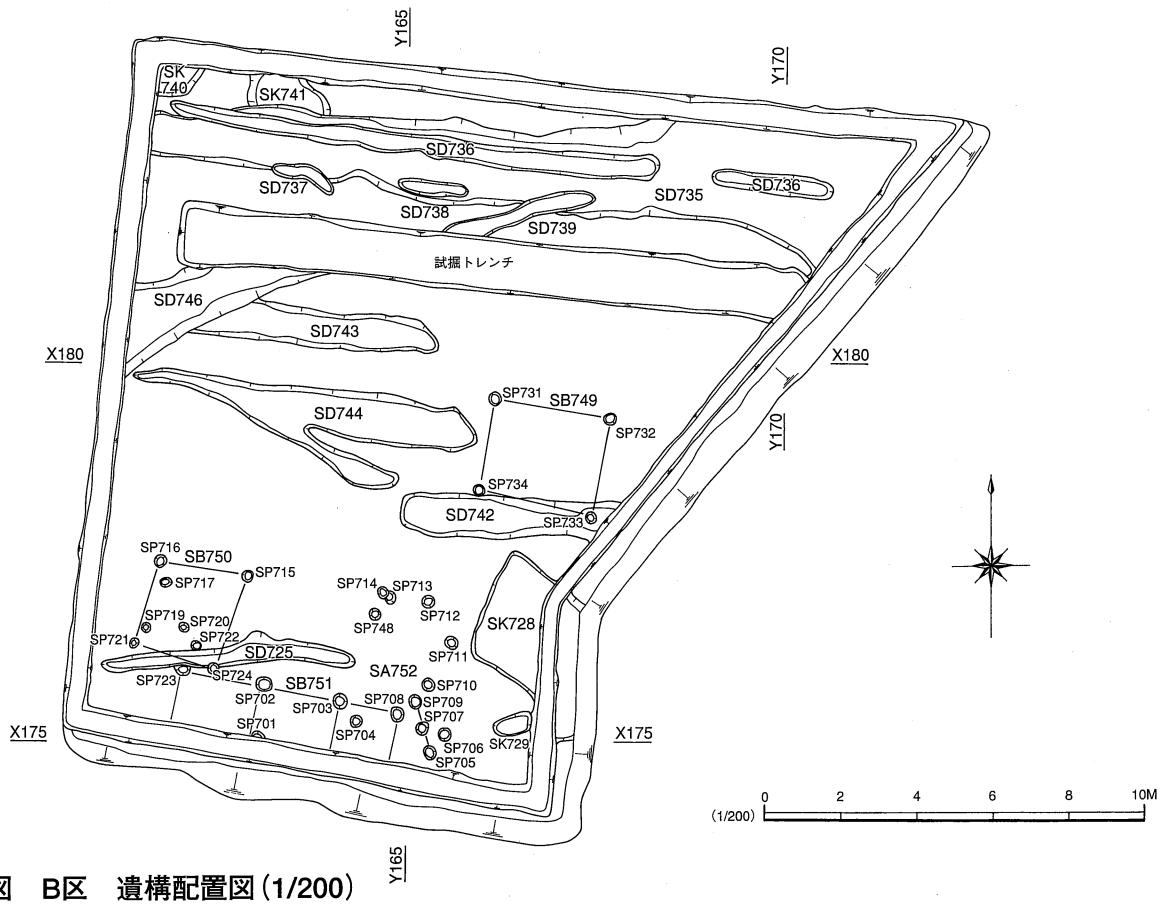
古代の遺構

SD742（第19図）　X178Y165～169に位置する。西へいくほど浅くなり、Y165付近で消滅する。遺構の規模及び形

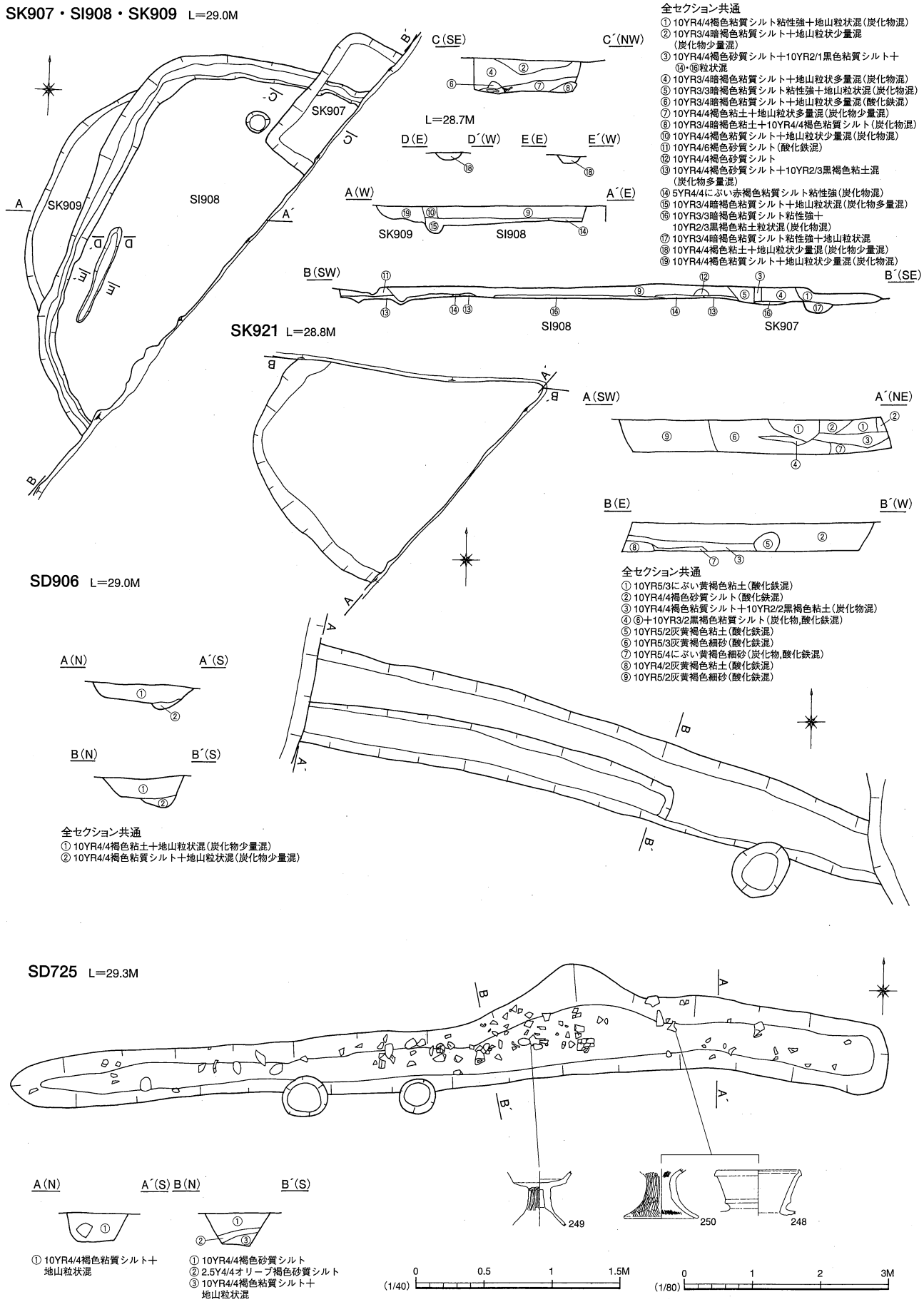
下層



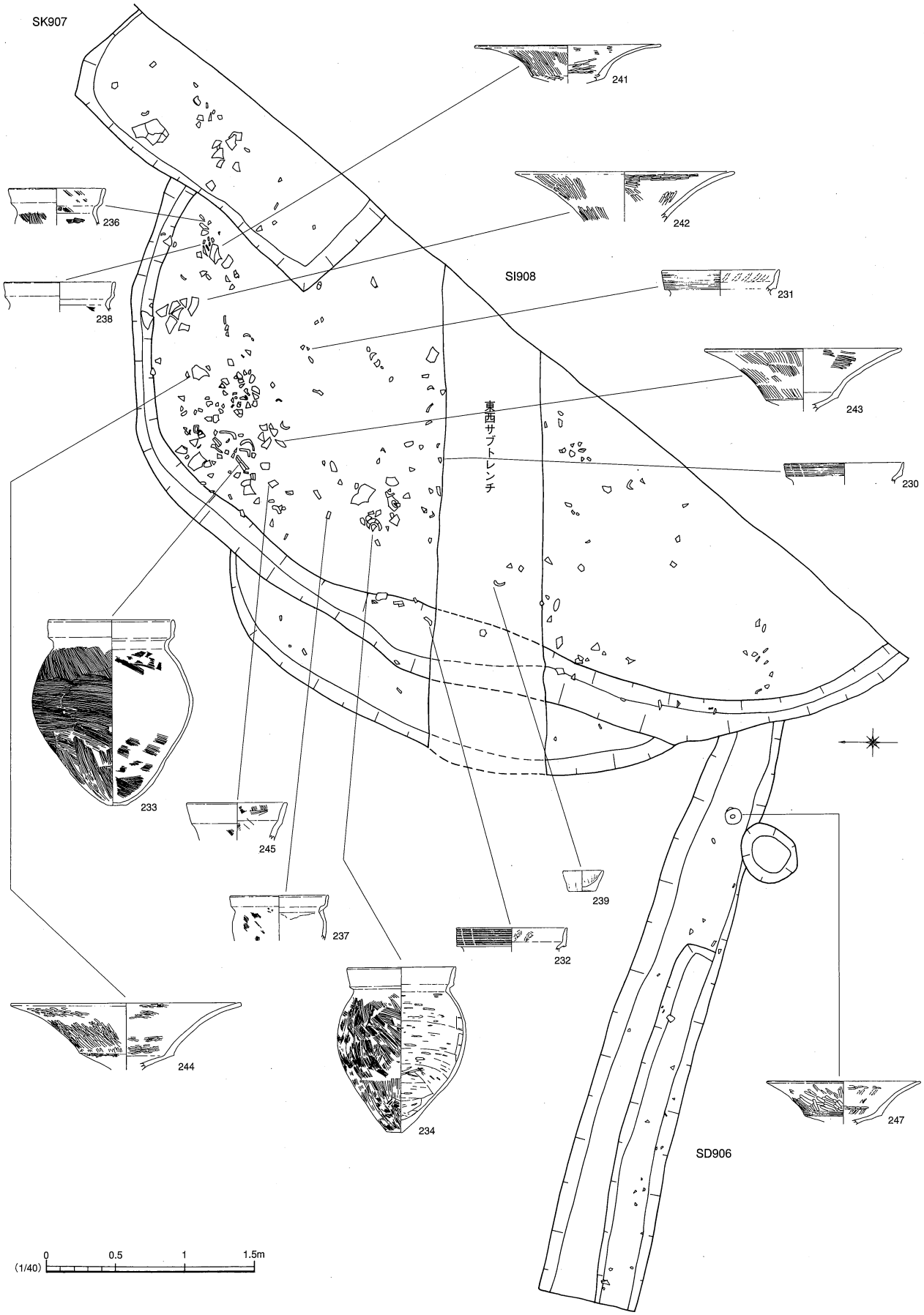
上層



第13図　B区　遺構配置図(1/200)

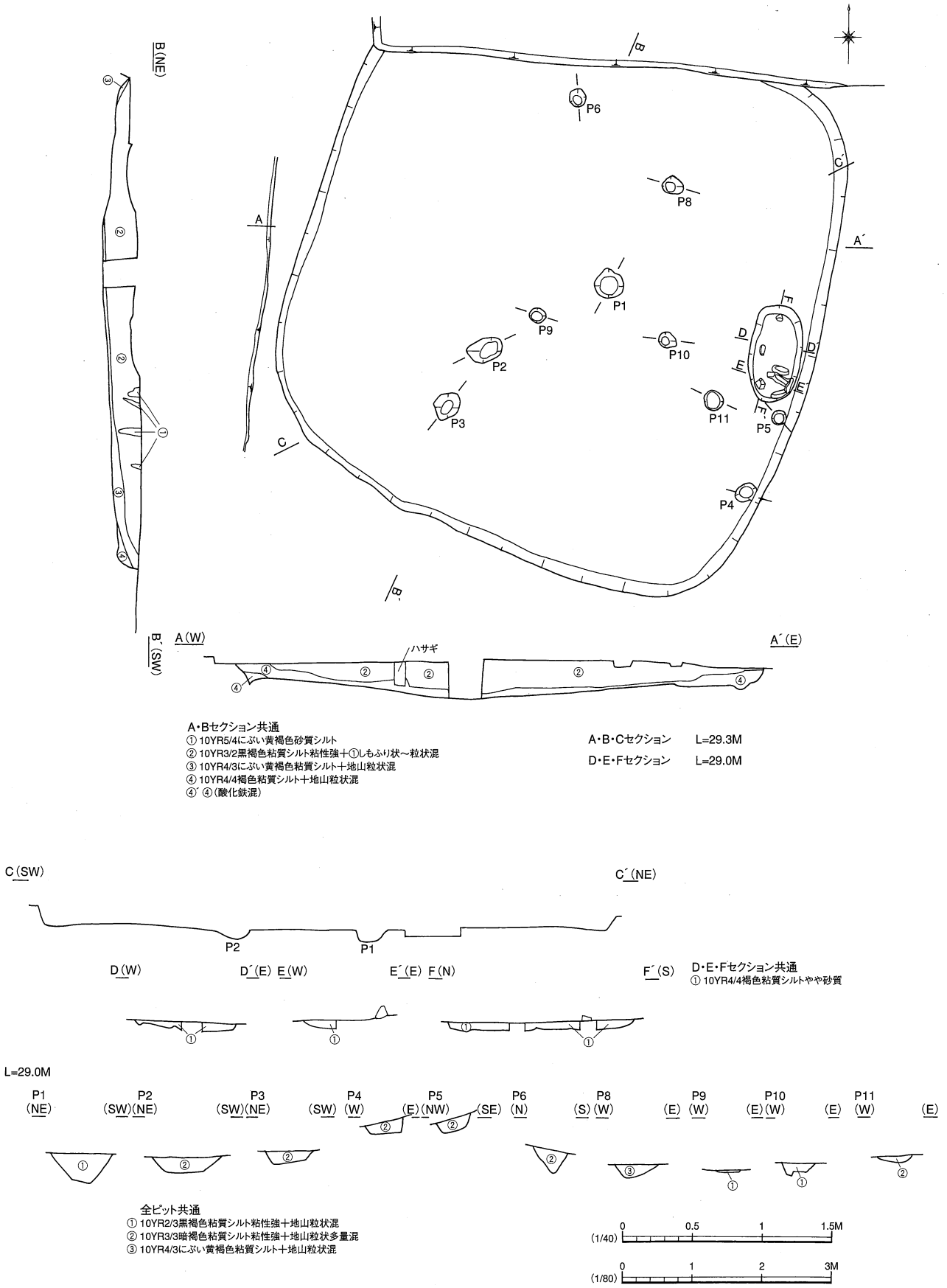


第14図　B区　SK907・SI908・SK909平面図(1/80)及びA・B断面図(1/80),C・D・E断面図(1/40)
SK921平面図及び断面図(1/40),SD906平面図及び断面図(1/40)
SD725遺物出土状況図及び断面図(1/40),主な遺物の出土位置(1/8)

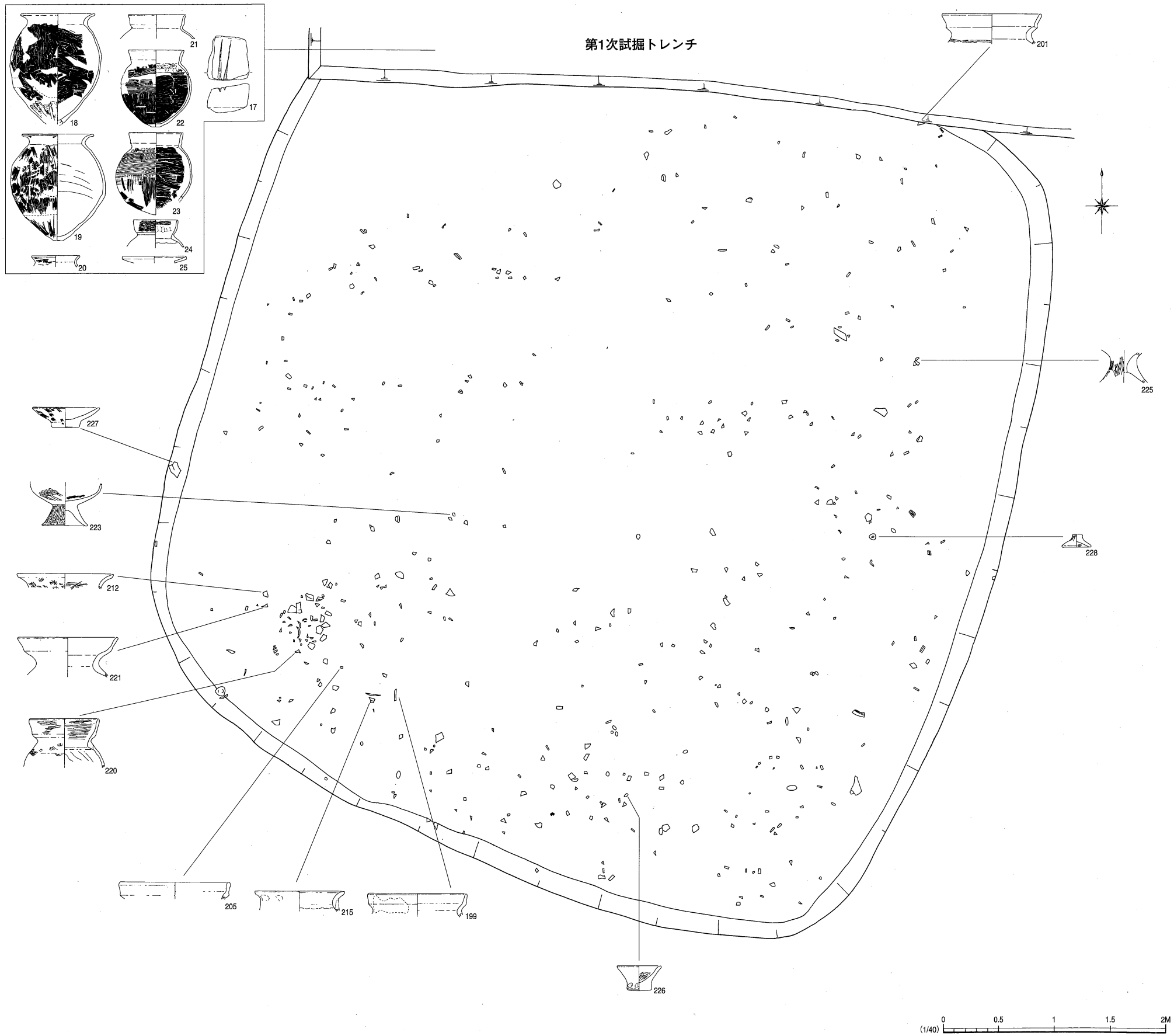


第15図　B区　SD906・SK907・SI908・SK909遺物出土状況図（1/40）及び主な遺物の出土位置（1/8）

SI745

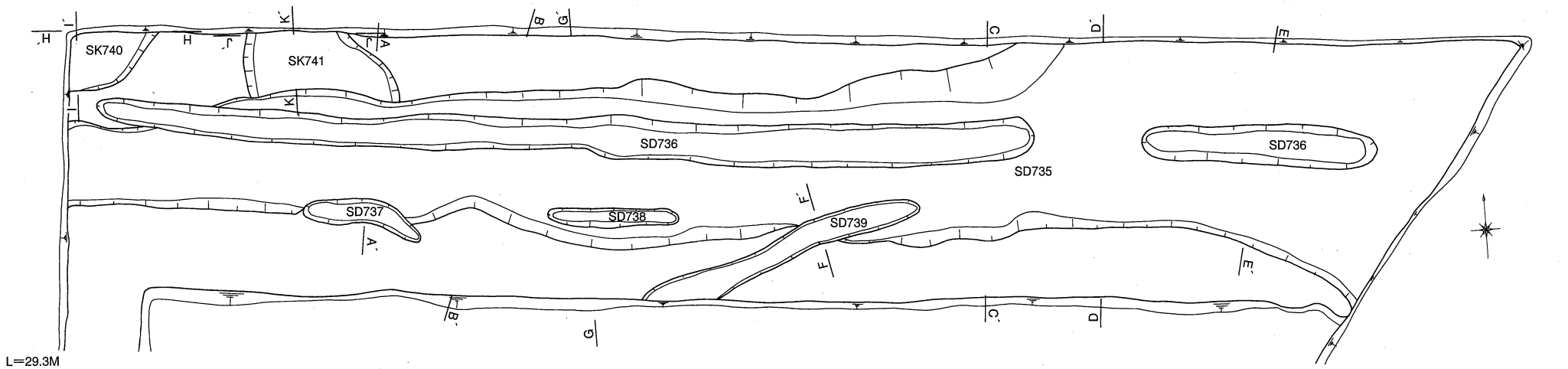


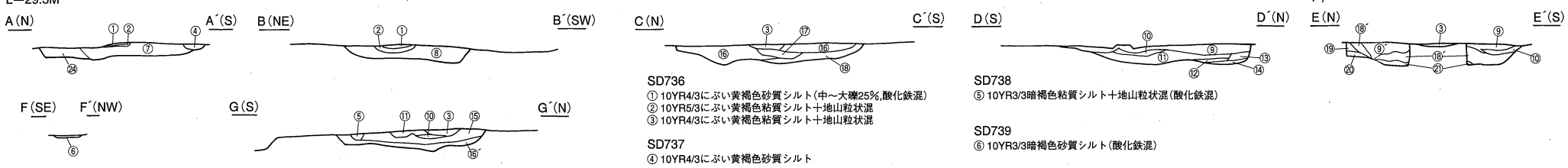
第16図　B区　SI745平面図及びA・B断面図，エベレーション(1/80)，D・E・F断面図及びピット断面図(1/40)



第17図　B区　SI745遺物出土状況図(1/40)及び主な遺物の出土位置(1/8),第1次試掘の出土遺物(1/12)

SD735・736・737・738・739　SK740・741





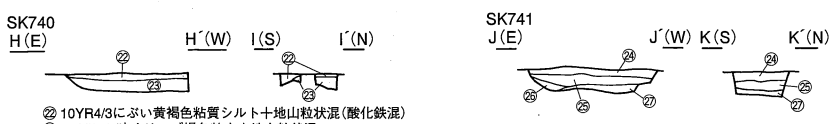
SD736
① 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト（中～大礫25%,酸化鉄混）
② 10YR5/3にぶい黄褐色粘質シルト＋地山粒状混
③ 10YR4/3にぶい黄褐色粘質シルト＋地山粒状混

SD737
④ 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト

SD738
⑤ 10YR3/3暗褐色粘質シルト＋地山粒状混（酸化鉄混）

SD739
⑥ 10YR3/3暗褐色砂質シルト（酸化鉄混）

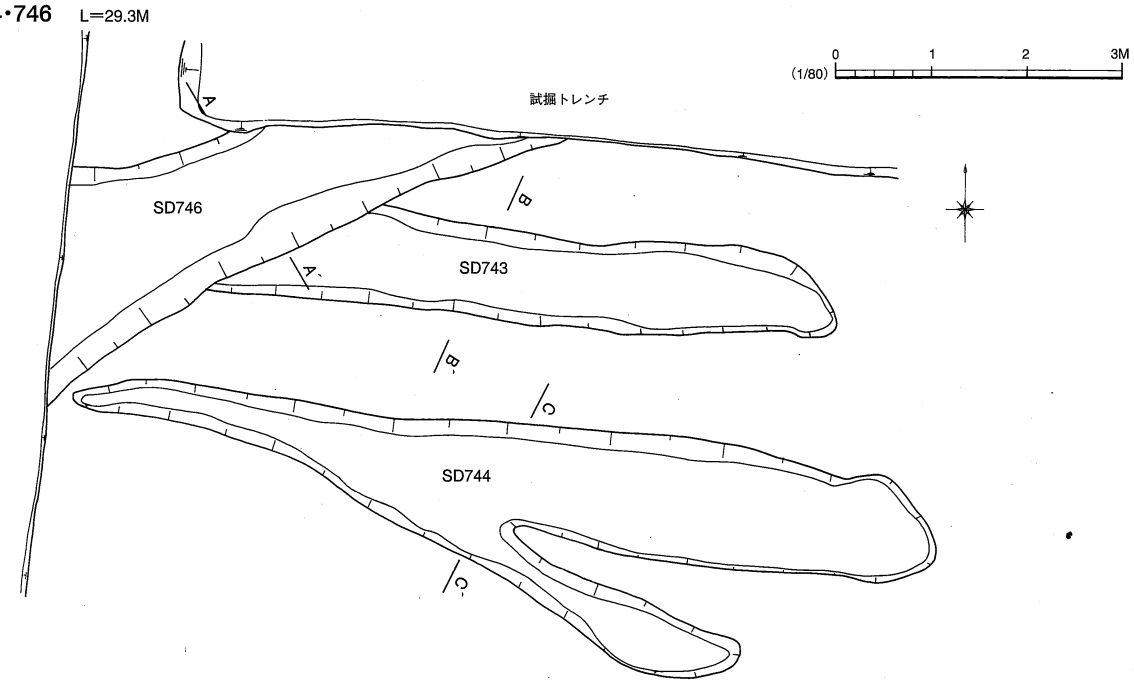
SD735
⑦ 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト
⑧ 10YR4/3にぶい黄褐色粘質シルト
⑨ 10YR4/2灰黄褐色粘質シルト
⑨´⑨（酸化鉄混）
⑩ 10YR4/3にぶい黄褐色粗砂（大礫2～20%混）
⑪ 10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト（酸化鉄混）
⑫ 2.5YR5/3黄褐色粘質シルト（酸化鉄混）
⑬ 2.5YR5/3黄褐色砂質シルト（酸化鉄混）
⑭ 10YR5/2灰黄褐色粘質シルト（酸化鉄混）
⑮ 10YR5/4にぶい黄褐色粘質シルト（酸化鉄混）
⑯ 10YR5/3にぶい黄褐色粘質シルト
⑯´⑯（酸化鉄混）
⑰ 10YR5/3にぶい黄褐色粗砂（中礫20%混）
⑱ 10YR5/2灰黄褐色粘質シルト
⑱´⑱（酸化鉄混）
⑲ 2.5Y4/2暗灰黄褐色粘質シルト（酸化鉄混）
⑳ 10YR4/3にぶい黄褐色粘質シルト（酸化鉄混）
㉑ 10YR4/2灰黄褐色粗砂（中～大礫30%混）

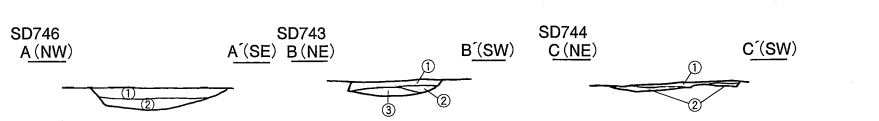


㉒ 10YR4/3にぶい黄褐色粘質シルト＋地山粒状混（酸化鉄混）
㉓ 2.5YR3/3暗オリーブ褐色粘土＋地山粒状混

㉔ 10YR4/4褐色砂質シルト＋地山粒状混
㉕ 10YR3/4暗褐色粘質シルト＋地山粒状混
㉖ 10YR4/4褐色細砂
㉗ 10YR4/3にぶい黄褐色粘質シルト

SD743・744・746　L=29.3M



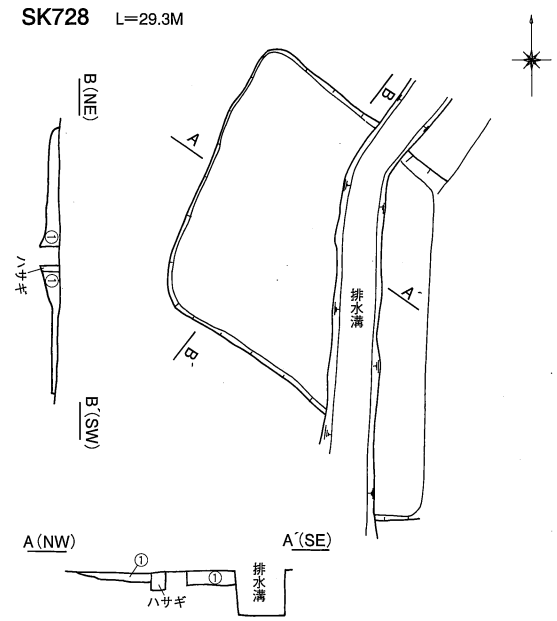


① 10YR5/3にぶい黄褐色細砂（酸化鉄混）
② 10YR4/3にぶい黄褐色粗砂（大礫30%混）

① 10YR5/4にぶい黄褐色砂質シルト
② 10YR4/4褐色粘質シルト粘性強
③ 10YR4/3にぶい黄褐色粗砂（大礫30%混）

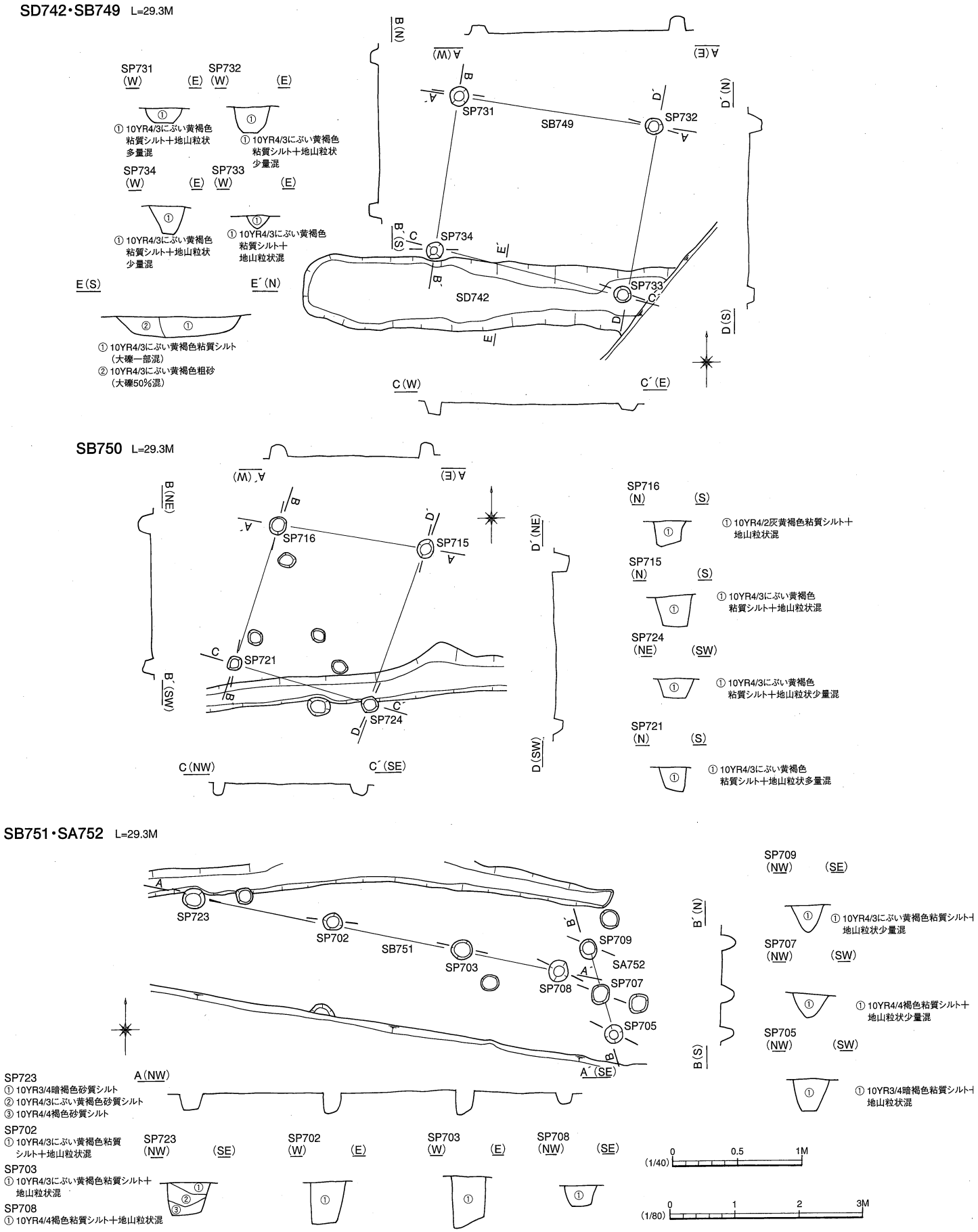
① 10YR5/4にぶい黄褐色粘質シルト
② 10YR5/4にぶい黄褐色細砂（中～大礫30%混）

SK728　L=29.3M



全セクション共通
① 10YR3/3暗褐色粘質シルト＋地山粒状少量混

第18図　B区　SD735・736・737・738・739・SK740・741平面図及び断面図（1/80）
SD743・744・746平面図及び断面図（1/80）,SK728平面図及び断面図（1/80）



第19図　B区　SD742平面図(1/80)及び断面図(1/40),SB749平面図及びエレベーション(1/80),ピット断面図(1/40),SB751・SA752平面図及びエベレーション(1/80),ピット断面図(1/40)

態は、幅1.1m、深さ16cmを測る。断面形は緩やかなU字形を呈する。埋土は粗砂に直径１～２cmほどの砂利が混入する。平面形からはSD744とつながりそうであるが、サブトレンチを入れて確認したところ、つながらなかった。遺物は図示したもの以外に須恵器等がある。

SD743（第18図）　X180Y161～164に位置する。東へいくほど浅くなり、Y165付近で消滅する。遺構の規模及び形態は、幅0.45m、深さ10cmを測る。断面形は緩やかなU字形を呈する。埋土は黄褐色の粗砂に直径１～２cmほどの砂利が混入する。遺物は10世紀に比定され、図示したもの以外に須恵器等がある。

SD744（第18図）　X179Y161～166に位置し、SI745の上を流れている。Y164付近で２つに分かれる。東へいくほど浅くなり、Y166付近で消滅する。遺構の規模及び形態は、幅1.3m、深さ10cmを測る。断面形は緩やかなU字形を呈する。埋土は黄褐色の粗砂に直径１～２cmほどの砂利が混入する。遺物は11世紀に比定され、図示したもの以外に土師器・須恵器がある。

中世の遺構

SD735（第18図）　X182～183Y162～173に位置し、調査区北端を西から東へ横断している。遺構の規模及び形態は、幅2.7m以上、深さ30cmを測る。断面形は緩やかなU字形を呈する。東にいくほど幅が広く、深さも深くなっている。埋土は、にぶい黄褐色粘質シルト～灰黄褐色粗砂である。遺物は須恵器・土師器・中世土師器・珠洲等があり、長期間溝として存在していたと考えられる。

SD736（第18図）　SD735の真上、X183付近に位置している。遺構の規模及び形態は、幅60cm、深さ10cmを測る。断面形は緩やかなU字形を呈する。埋土はにぶい黄褐色砂質シルトに酸化鉄が混じる。大部分を後世に削平されたようで、遺構の底部分のみが部分的に遺存していると考えられる。遺物は珠洲があるが実測に耐えるものはなかった。

SB749（第19図）　X179Y167に位置する１間×１間の掘立柱建物である。間尺はSP731－SP732間2.8m、SP732－SP733間2.4m、SP733－SP734間2.8m、SP734－SP731間2.2mを測る。柱穴規模は直径20cm～29cm、深さ10cm～22cm、平均は直径26.2cm、深さ13.3cmを測る。建物の主軸方向はN－79°－Wである。SP733が古代の溝SD742を切っている。遺物は実測に耐えるものがなかった。

SB750（第19図）　X176Y162に位置する１間×１間の掘立柱建物である。間尺はSP715－SP716間2.1m、SP716－SP721間2.0m、SP721－SP724間2.0m、SP724－SP715間2.3mを測る。柱穴規模は直径22cm～29cm、深さ15cm～25cm、平均は直径26.5cm、深さ19.5cmを測る。建物の主軸方向はN－17°－Eである。遺物は実測に耐えるものがなかった。

SB751（第19図）　X175Y162～165に位置する３間×１間以上の掘立柱建物である。調査区の南端で切られているため、柱穴の列としては１列しか検出していないが、柱穴や間尺から見て、掘立柱建物と判断した。間尺はSP723－SP702間1.9m、SP702－SP703間1.8m、SP703－SP708間1.3mを測る。柱穴規模は直径25cm～33cm、深さ17cm～41cm、平均は直径28.5cm、深さ29cmを測る。建物の軸方向はN－77°－Wである。遺物は実測に耐えるものがなかった。

SA752（第19図）　X175Y165に位置する。柱穴の大きさから見て、掘立柱建物の可能性もあるが、対応する柱の列が検出されず、柱間も狭いため柵列とした。間尺はSP705－SP707間40cm、SP707－SP709間42cmを測る。柱穴規模は直径24cm～29cm、深さ20cm～25cm、平均は直径27cm、深さ22cmを測る。柵列の軸方向はN－18°－Wである。遺物は実測に耐えるものがなかった。

C区

弥生時代終末～古墳時代前期前半の遺構

SK816（第22図）　X171Y167に位置する。遺構の規模及び形態は、試掘トレンチにより西端を切られているため不明であるが、検出された規模は２m×1.6m、深さはおよそ35cmを測る。平面形は楕円形であると考えられる。長軸の方向は、N－73°－Eである。埋土は地山の黄褐色土がベースであるが、黒褐色・暗褐色・褐色の土や多量の炭化

物が混ざりあい、粘り気が強く、乾くとねじり鎌でなかなか削れないくらい硬く締まる。地山が砂質土であるのに対し、異質である。あるいは被熱を受けている可能性もある。遺物は埋土上層から多く出土した。器種には甕口縁部・壺口縁部・高坏坏部・高坏脚部・赤彩小型壺があり、法仏Ⅱ式に比定される。

古代の遺構

SI615（第21・22図）　X166～169Y162～164に位置する。中世の遺構SK621がほぼ中央に掘り込まれており、遺構中央部の詳細は不明である。規模及び形態は、一辺約4.8m、床面積は24.2㎡を測る。深さは20～30㎝を測る。平面形は方形を呈する。住居の軸方向はN－94°－Eである。床面はほぼ水平と思われる。SK621に切られているためわずかしか残っていないが、中央部に乾くとねじり鎌でもほとんど削れない硬く締まった混ざり土の部分があり、貼床と思われる。遺構の東壁北寄りで、炭化物と焼土の堆積した掘り込みを検出した。カマドの支脚が出土しており、天井や袖は失われているものの、カマドの跡と考えられる。近辺からカマドに伴うと思われる長胴甕が出土した。周壁溝・柱穴は検出されなかった。埋土は暗褐色粘質シルトである。遺物はカマド近辺の遺物以外は床面よりやや浮いた状況で出土した。器種には土師器甕・高坏脚部・須恵器坏H・内黒土器碗・砥石があり、７世紀中頃に比定される。

SB530（第21図）　X165～166Y164～165に位置する１間×１間の掘立柱建物である。間尺はSP567－SP597間1.9m、SP597－SP548間2.0m、SP548－SP570間2.4m、SP570－SP567間2.0mを測る。柱穴規模は直径29㎝～40㎝、深さ13㎝～35㎝、平均は直径34.8㎝、深さ23㎝を測る。建物の主軸方向はN－10°－Wである。遺物はSP548から須恵器があるが実測に耐えるものがなかった。

SB531（第21図）　X168～169Y160～162に位置する。SK621に切られて柱穴が１つ消失しているが、１間×１間の掘立柱建物であると考えられる。間尺はSP519－SP522間2.5m、SP522－SP527間2.6mを測る。柱穴規模は直径29㎝～35㎝、深さ33㎝～34㎝、平均は直径31.6㎝、深さ33.3㎝を測る。建物の軸方向はN－０°－Eである。遺物は実測に耐えるものがなかった。

SD302（第21図）　調査区南端X165に位置する。調査区を西から東へ横断し、Y166付近でD区との境により途切れている。遺構の規模及び形態は最大幅1.2m、深さ40㎝を測る。断面形は緩やかなU字形を呈する。埋土は上から暗褐色粘質シルト・にぶい黄褐色粘質シルト・褐色粘質シルト・にぶい黄褐色粘質シルト地山粒混である。堆積状況から、時間をかけて埋まっていったものと考えられる。遺物は須恵器・土師器等があり、８世紀後半に比定される。

中世の遺構

SK587（第21図）　X168～170Y165～167に位置する。遺構の規模及び形態は、試掘トレンチにより東側を切られているため不明であるが、検出された規模は東西2.9m以上、南北3.9mを測る。深さはおよそ80㎝を測る。平面形は不定形であるが、円形と方形を組み合わせた形にも見える。埋土は灰黄色粘質土に酸化鉄が多量に混じる。遺構底部には地山の土が混じる。遺物は遺構底部で中世土師器と鞴羽口が出土しており、14世紀代に比定される。同じ調査区内のSK590、SK621も規模・平面形・埋土がよく似ており、同じ目的で作られた遺構であると考えられる。　（細辻）

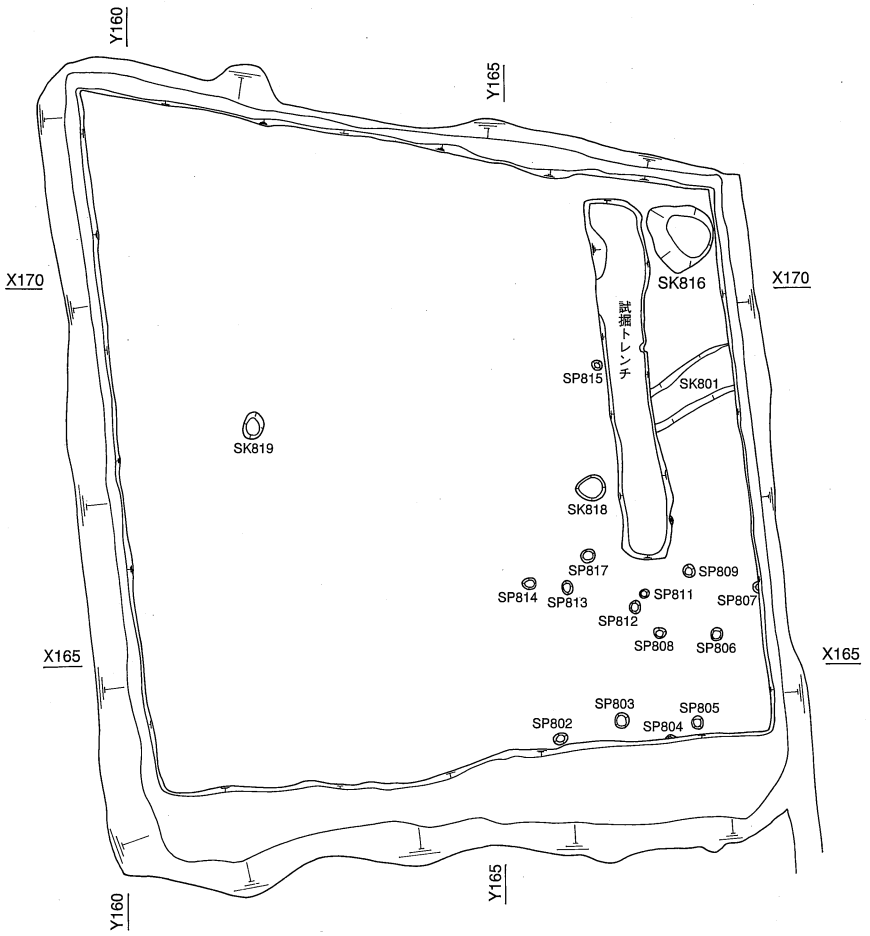
D区

弥生時代後期後半～古墳時代前期前半の遺構

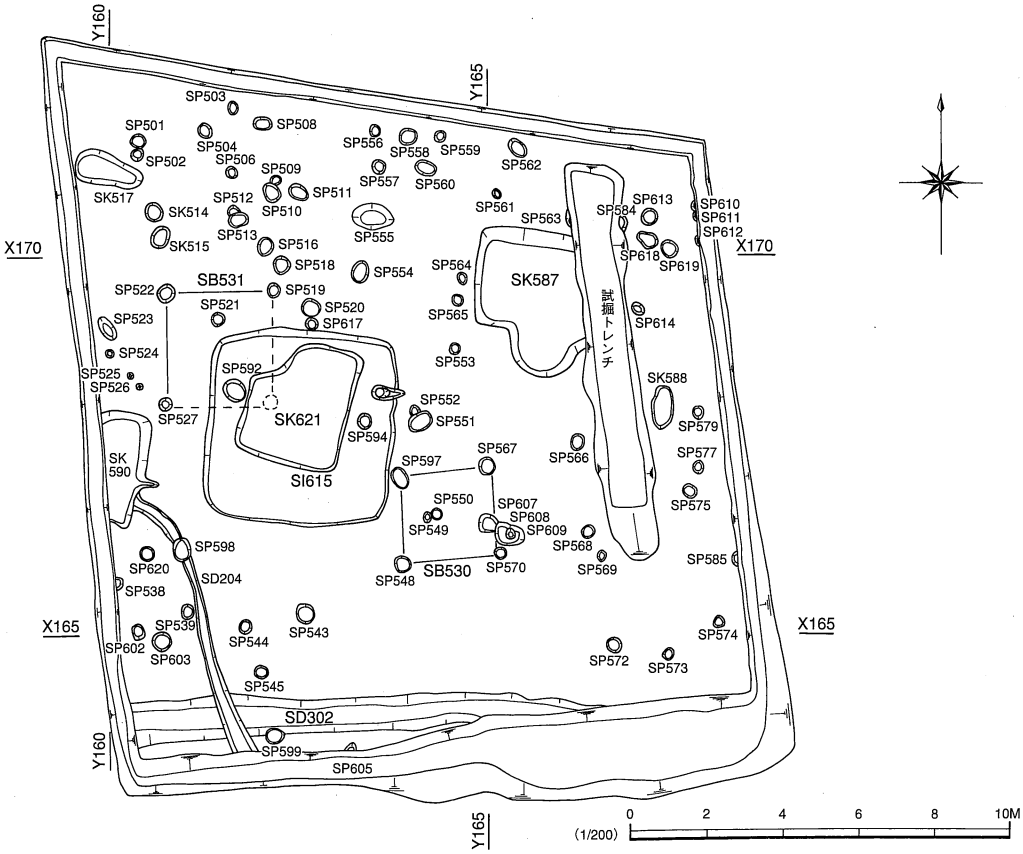
SD275（第23・25図）　X160～164付近に位置し、調査区東西に走る溝。遺構の規模及び形態は、幅3.8m～5.5m、深さは最も深いところで116㎝を測る。断面形は急な角度を持つU字形を呈する。調査区北東端でSD277と合流している。埋土は黒褐色粘質シルトとにぶい黄褐色シルトブロック状の混ざりで、遺構底部には地山の土が混じる。遺物は弥生土器甕・壺・高坏・器台等があり、法仏～白江式に比定される。

SD277（第23・25図）　調査区を南西から北東に縦断するように走る溝。SD277になぞるようにSD276が走っており、遺構の規模及び形態は不明であるが、幅7.5m以上、深さは最も深いところで145㎝を測る。断面形は緩やかな角度を

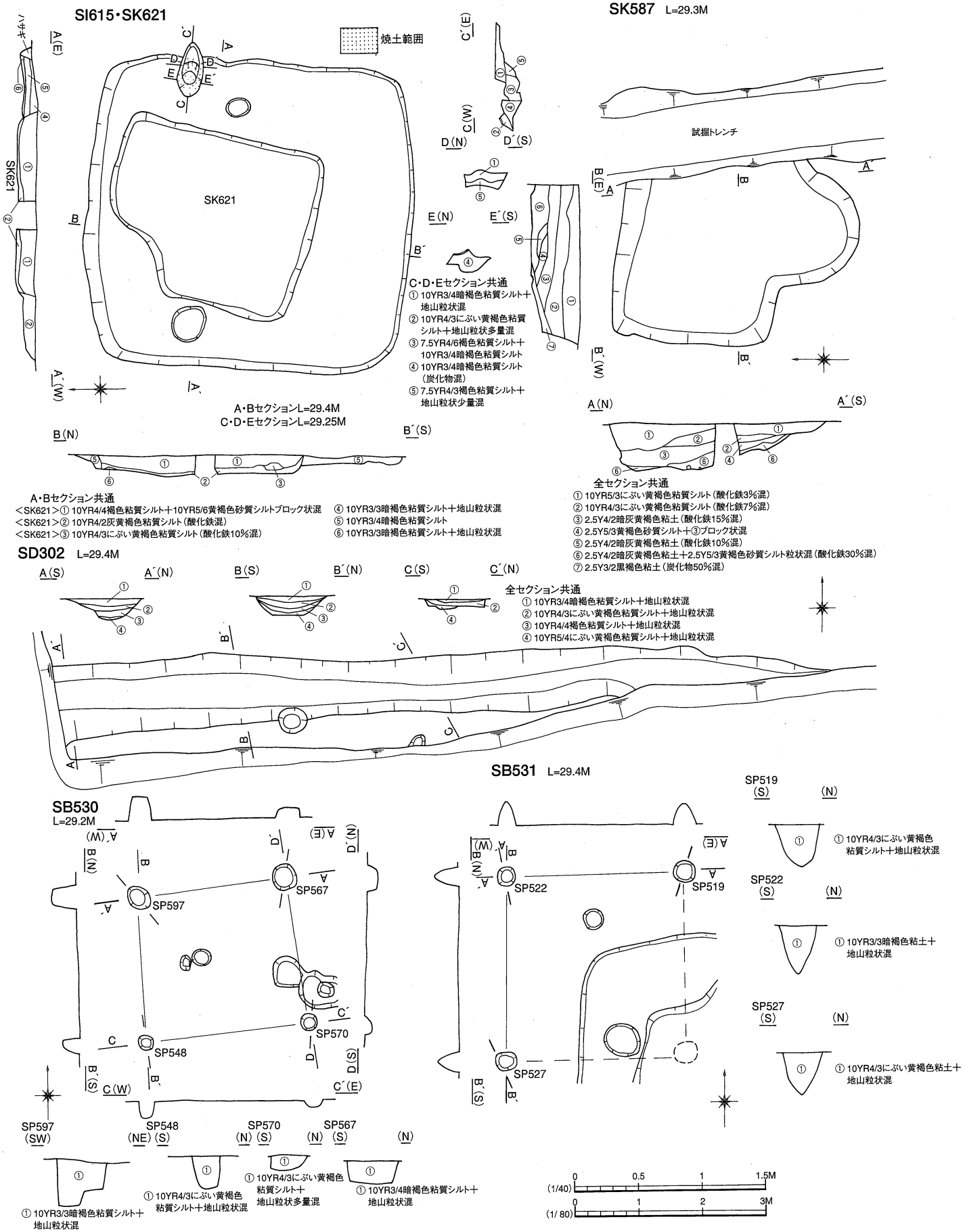
下層



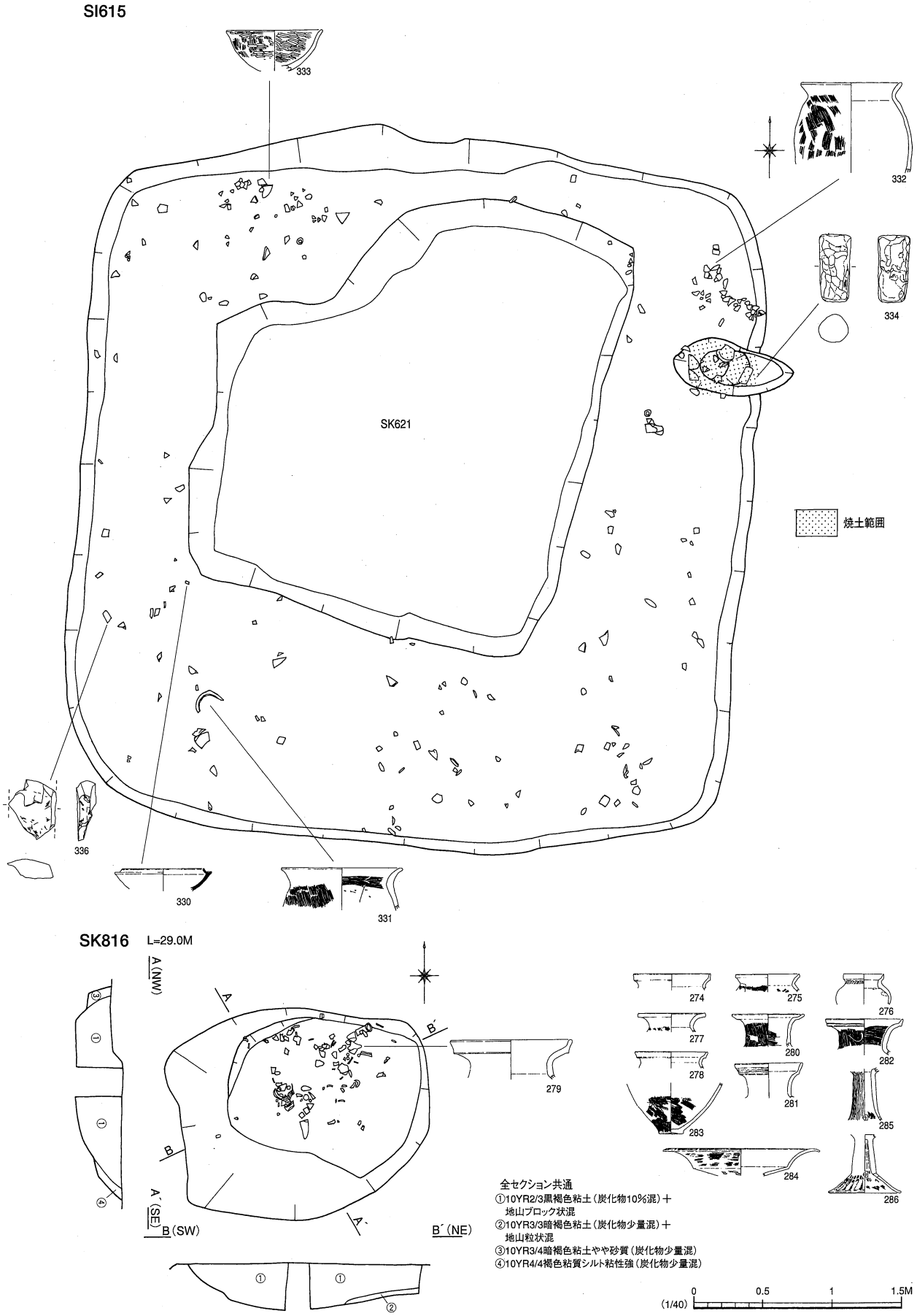
上層



第20図　C区　遺構配置図(1/200)



第21図　C区　SI615・SK621平面図及び断面図（1/80）,SI615カマド断面図（1/40）,SK587平面図及び断面図（1/80）,SD302平面図及び断面図（1/40）,SB530・SB531平面図及びエベレーション（1/80）,ピット断面図（1/40）



第22図　C区　SI615遺物出土状況図（1/40）及び主な遺物の出土位置（1/8）
SK816遺物出土状況図及び断面図（1/40），主な出土遺物（1/12） (279は1/8)

持つU字形を呈する。調査区北東端でSD275と合流している。埋土は黒褐色粘質シルトと灰黄褐色シルトブロック状の混ざり、黒褐色粘質シルトとにぶい灰黄褐色砂ブロック状の混ざりである。遺物は弥生土器甕・壺・高坏・器台があり、法仏～白江式に比定される。

古代の遺構

SI271（第25図）　X158～162Y161～165に位置する。規模及び形態は、一辺4.5mの隅丸方形、床面積は20.5m²を測る。深さは約８cmを測る。住居の主軸方向はN－21°－Eである。床面はほぼ水平である。貼床、硬化面、周壁溝は検出されなかった。南壁西寄りで、カマドと思われる掘り込みを検出した。埋土は暗褐色土と褐色シルトが斑状に堆積し、焼土を含んでいる。遺物は床面でわずかに出土した。器種は須恵器坏蓋が１点完形で出土した他は、土師器甕などがあるが、図示したもの以外は実測できるものはなかった。遺物から８世紀代に比定される。

SI272（第25図）　X156～159Y161～164に位置する。南西端が調査区の端で切られているが、一辺４mの隅丸方形で、床面積は14.8m²を測る。深さは８cmを測る。住居の主軸方向はN－28°－Eである。床面は住居の中央部分２m四方が高くなっており、壁から内側に幅90cm、深さ10cmほど掘り込まれている。やや幅が広すぎるが周壁溝の可能性がある。貼床・硬化面・ピットは検出していない。北壁ほぼ中央で、カマドと思われる掘り込みを検出した。埋土は暗褐色シルトと褐色シルトが斑状に堆積し床面の掘り込まれている部分は灰黄褐色砂と褐色シルトの混成に黒褐色の粒が混じる。遺物は土師器甕などがわずかに出土しているが、図示したもの以外は実測できるものはなかった。遺物から８世紀代に比定される。

SD276（第23・25図）　調査区南西から北東に縦断するように走る溝。SD277をなぞるように走る溝である。規模は、幅3.5m～7.4m、深さは最も深いところで40cmを測る。埋土は黄褐色～灰黄色細砂である。遺物は遺構全体から出土した。器種は弥生土器甕・壺・高坏・器台、須恵器坏A・坏B・坏蓋・長頸壺等が出土した。遺物から８世紀後半～９世紀前半に比定される。

中世の遺構

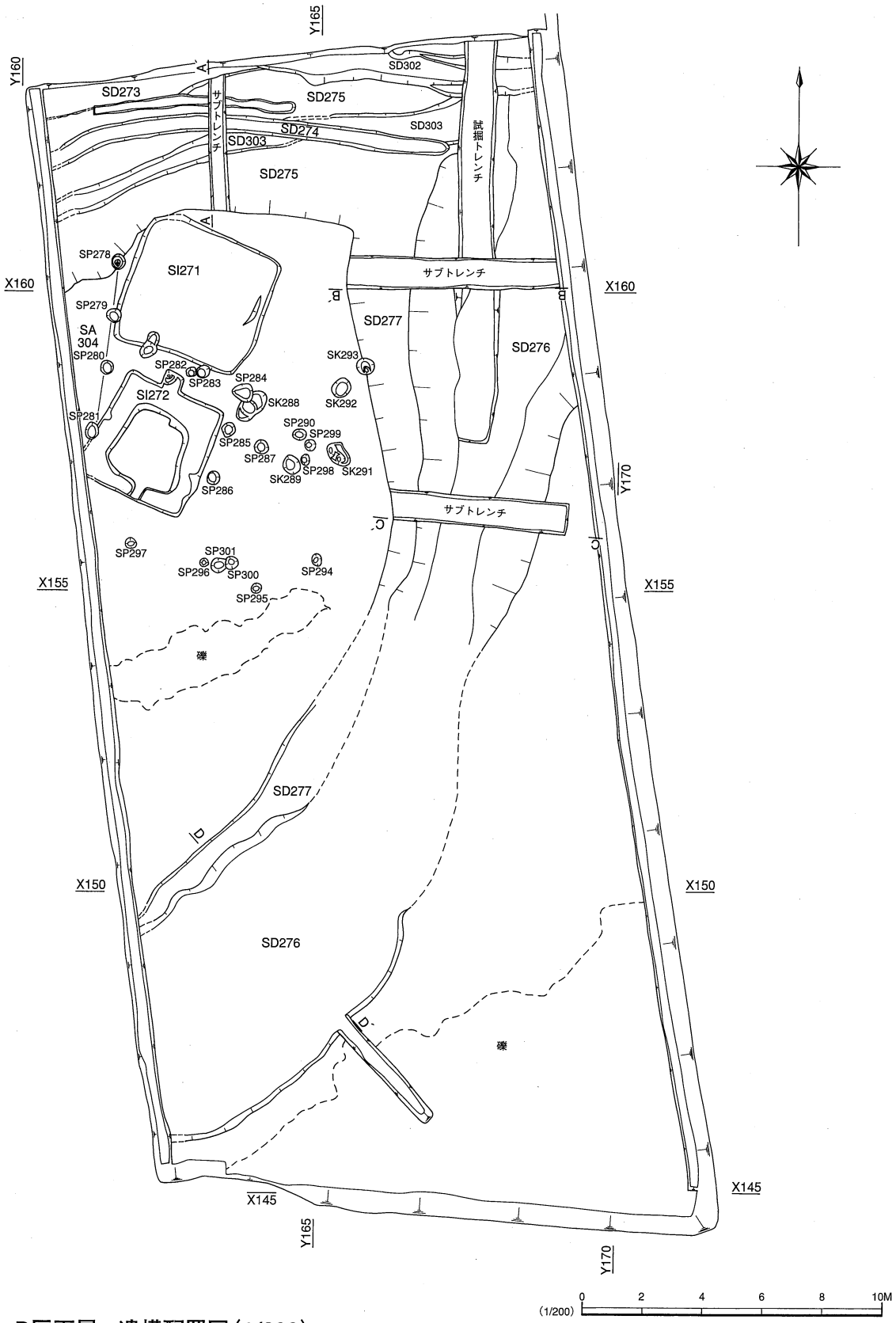
SX201（第26図）　X162～163Y161～162付近に位置する石組遺構。規模は、長軸120cm、短軸63cmの長方形で、深さは13cmを測る。底には10cm～25cm大の川原石を敷き、四面の壁には10cm～20cmの川原石を一段ないし二段に積む。石組内法は、長軸105cm、短軸47cmである。遺構の長軸の方向はN－14°－Eである。埋土には焼土や多量の炭化物を含んでいる。石に被熱痕は特に見受けられなかったが、屋外炉のような目的で使用された可能性が高い。遺物は中世土師器が出土しており、15世紀後半に比定される。福光町の梅原胡摩堂遺跡に類例が見られる。

SX241（第24図）　X147～156Y163～170に位置し、調査区南半分を占めている。規模及び形態は、東側は調査区端で切られており不明であるが、検出した規模は、東西13.4m以上、南北16.5m、深さはおよそ50cmを測る。平面形は不定形である。埋土は灰褐色シルト、黒褐色シルトと灰黄褐色砂の混ざりである。遺物は、中世土師器・白磁があり、14世紀に比定される。また、SD276・277を切っており、弥生土器・須恵器・古代土師器が確認された。

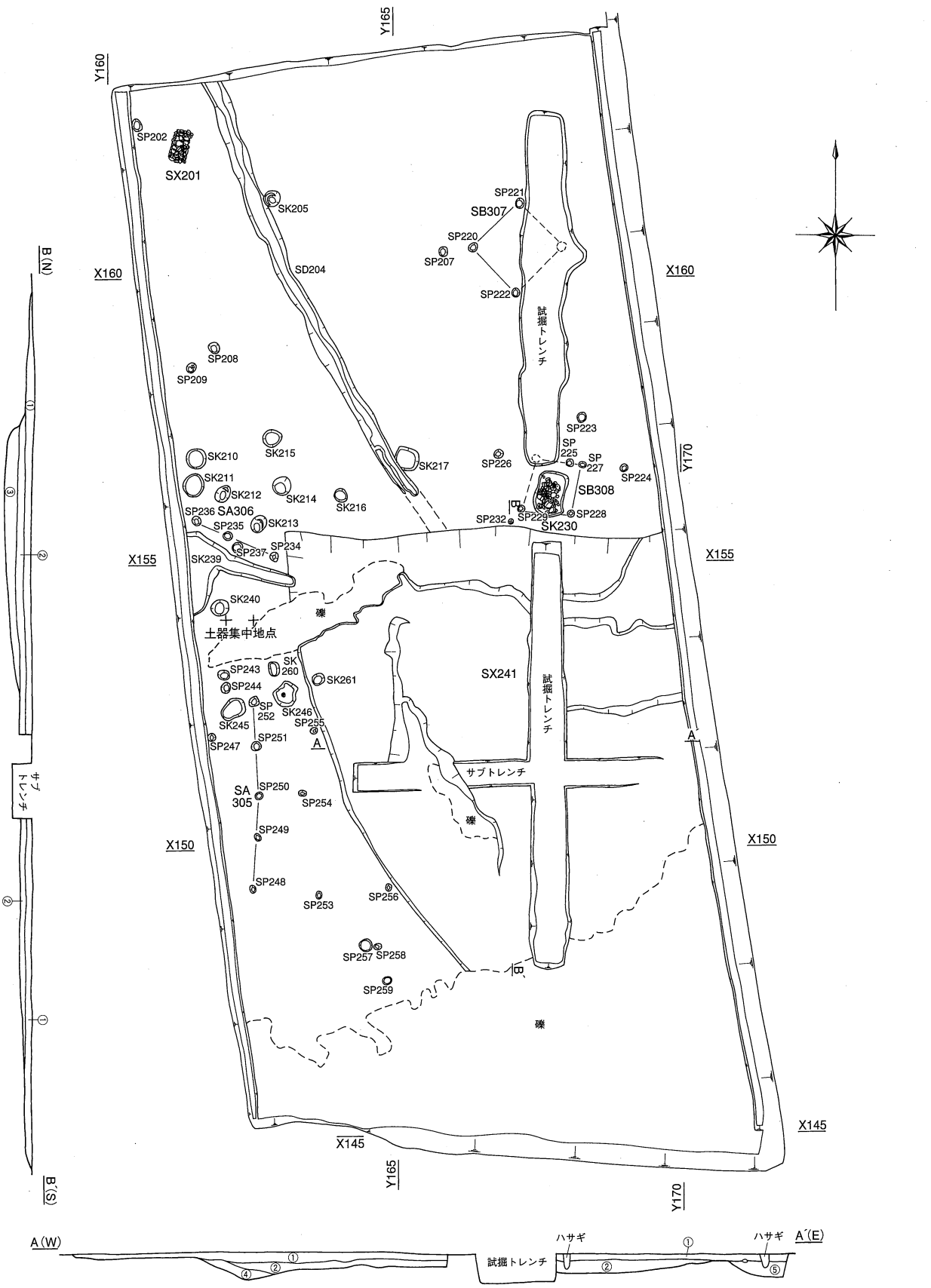
中世土師器廃棄遺構（第26図）　X153～155Y162～163に位置する。規模は40cm×50cmの範囲に、中世土師器が数個体積み重なった状態で出土した。何かの祭祀の後、一括して廃棄されたらしく、復元するとほとんどが完形になった。15世紀末～16世紀前半に比定される。

SA304（第25図）　X158～161Y160～162付近に位置する３間の柵列である。間尺はSP278－SP281間1.9m＋1.8m＋2.2mである。柱穴規模は直径48cm～52cm、深さ18cm～34cm、平均は直径49cm、深さ26cmである。軸方向はN－９°－Eである。遺物は実測に耐えるものがなかった。

SA305（第26図）　X149～153Y162～163付近に位置する４間の柵列である。間尺はSP248－SP252間1.85m＋1.25m＋1.7m＋1.6mである。柱穴規模は直径26cm～34cm、深さ20cm～34cm、平均は直径29cm、深さ27cmである。軸方向は



第23図　D区下層　遺構配置図(1/200)

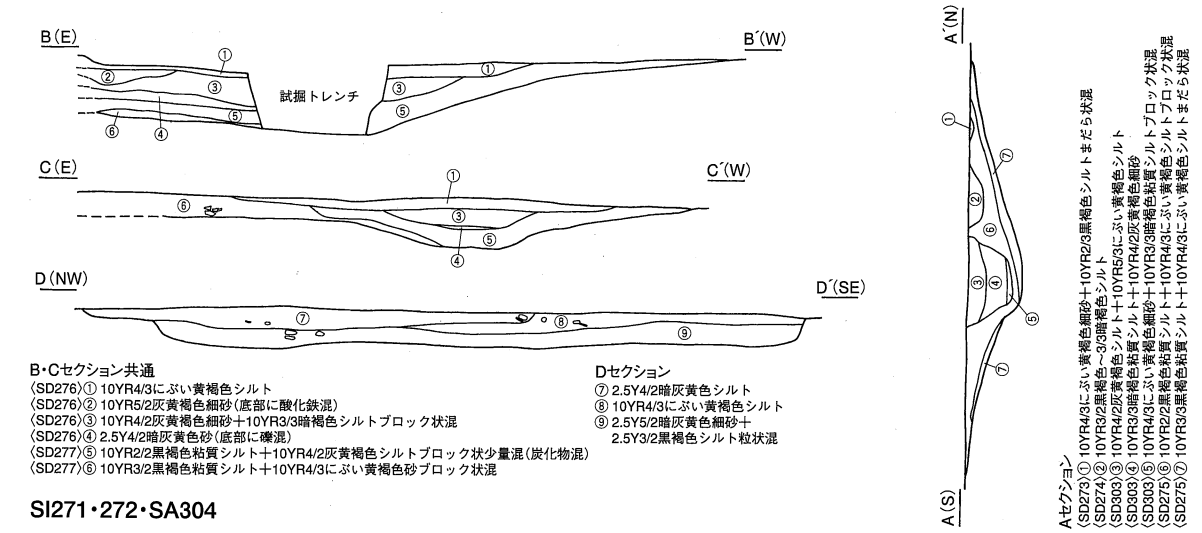


SX241　全セクション共通　　L=29.2M
① 10YR4/1褐灰色シルト
② 2.5Y3/2黒褐色シルト十10YR5/2灰黄褐色砂粒状混(炭化物混)
③ 2.5Y4/2暗灰黄色粘質シルト十2.5Y4/3オリーブ褐色シルト粒状混(炭化物混)
④ 2.5Y3/3暗オリーブ褐色粘質シルト十10YR5/2灰黄褐色砂粒状混
⑤ 10YR4/2灰黄褐色シルト十2.5Y4/3オリーブ褐色シルト

(1/100) 0 1 2 3 4 5M
(1/200) 0 2 4 6 8 10M

第24図　D区上層　遺構配置図(1/200)及びSX241断面図(1/100)

SD273・274・275・276・277・303　L=29.1M

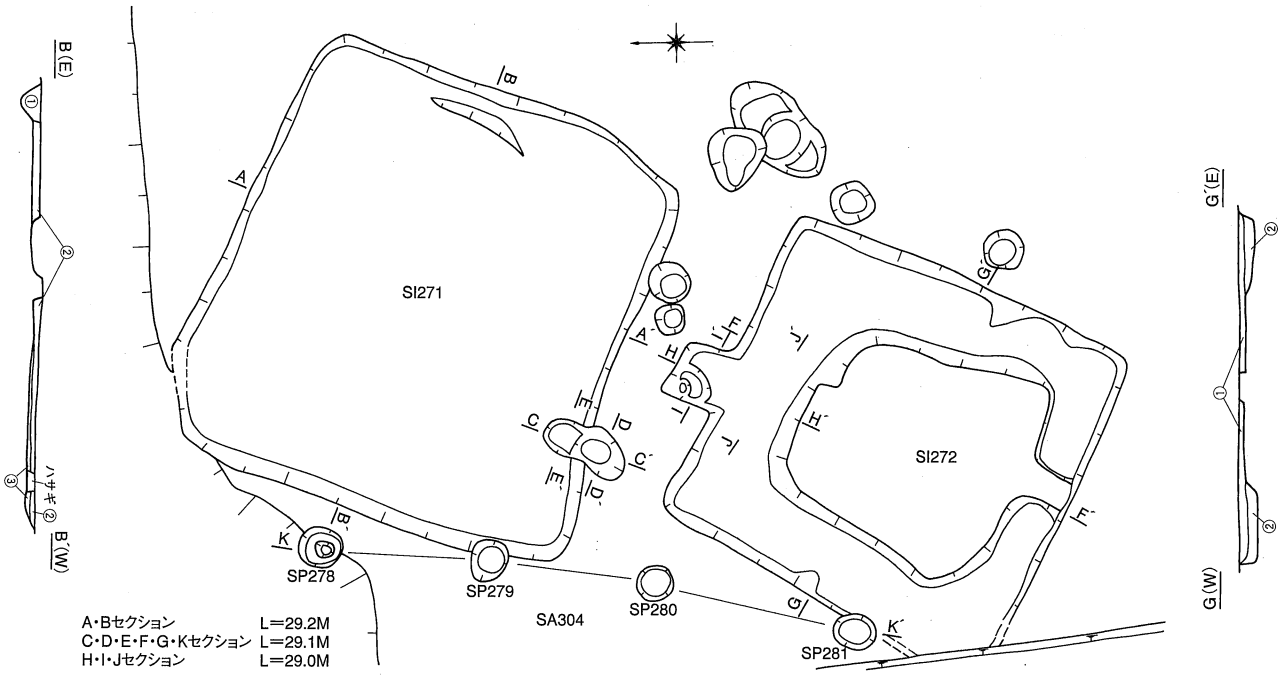


B・Cセクション共通
〈SD276〉① 10YR4/3にぶい黄褐色シルト
〈SD276〉② 10YR5/2灰黄褐色細砂（底部に酸化鉄混）
〈SD276〉③ 10YR4/2灰黄褐色細砂＋10YR3/3暗褐色シルトブロック状混
〈SD276〉④ 2.5Y4/2暗灰黄色砂（底部に礫混）
〈SD277〉⑤ 10YR2/2黒褐色粘質シルト＋10YR4/2灰黄褐色シルトブロック状少量混（炭化物混）
〈SD277〉⑥ 10YR3/2黒褐色粘質シルト＋10YR4/3にぶい黄褐色砂ブロック状混

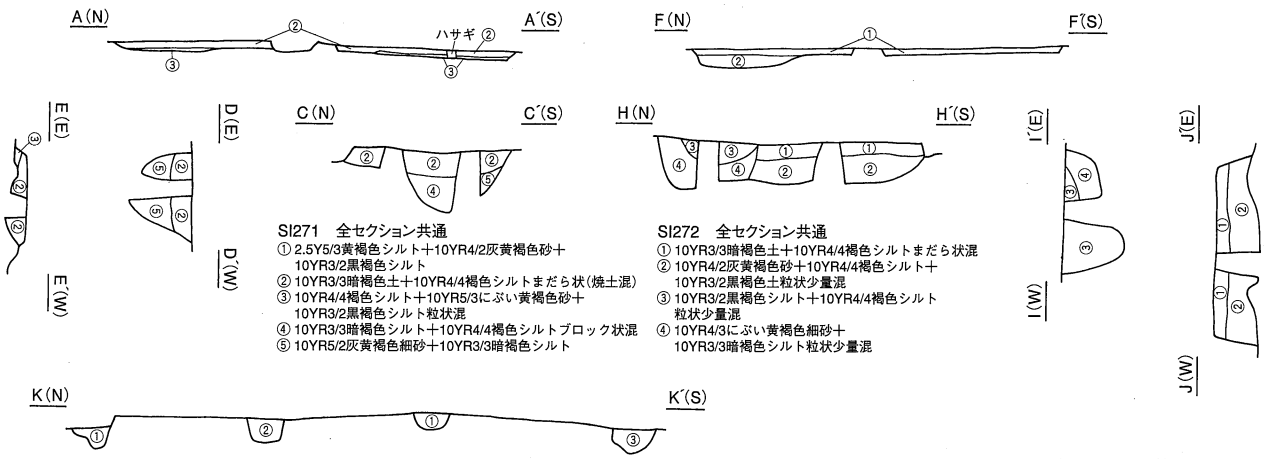
Dセクション
⑦ 2.5Y4/2暗灰黄色シルト
⑧ 10YR4/3にぶい黄褐色シルト
⑨ 2.5Y5/2暗灰黄色細砂＋2.5Y3/2黒褐色シルト粒状混

Aセクション
〈SD273〉① 10YR4/3にぶい黄褐色細砂＋10YR2/3黒褐色シルトまだら状混
〈SD274〉② 10YR3/2黒褐色～3/3暗褐色シルト
〈SD303〉③ 10YR4/2灰黄褐色シルト＋10YR5/3にぶい黄褐色シルト
〈SD303〉④ 10YR3/3暗褐色粘質シルト＋10YR4/2灰黄褐色細砂
〈SD303〉⑤ 10YR4/3にぶい黄褐色細砂＋10YR3/3暗褐色粘質シルトブロック状混
〈SD275〉⑥ 10YR2/2黒褐色粘質シルト＋10YR4/3にぶい黄褐色シルトブロック状混
〈SD275〉⑦ 10YR3/3黒褐色粘質シルト＋10YR4/3にぶい黄褐色シルトまだら状混

SI271・272・SA304



A・Bセクション　L=29.2M
C・D・E・F・G・Kセクション　L=29.1M
H・I・Jセクション　L=29.0M



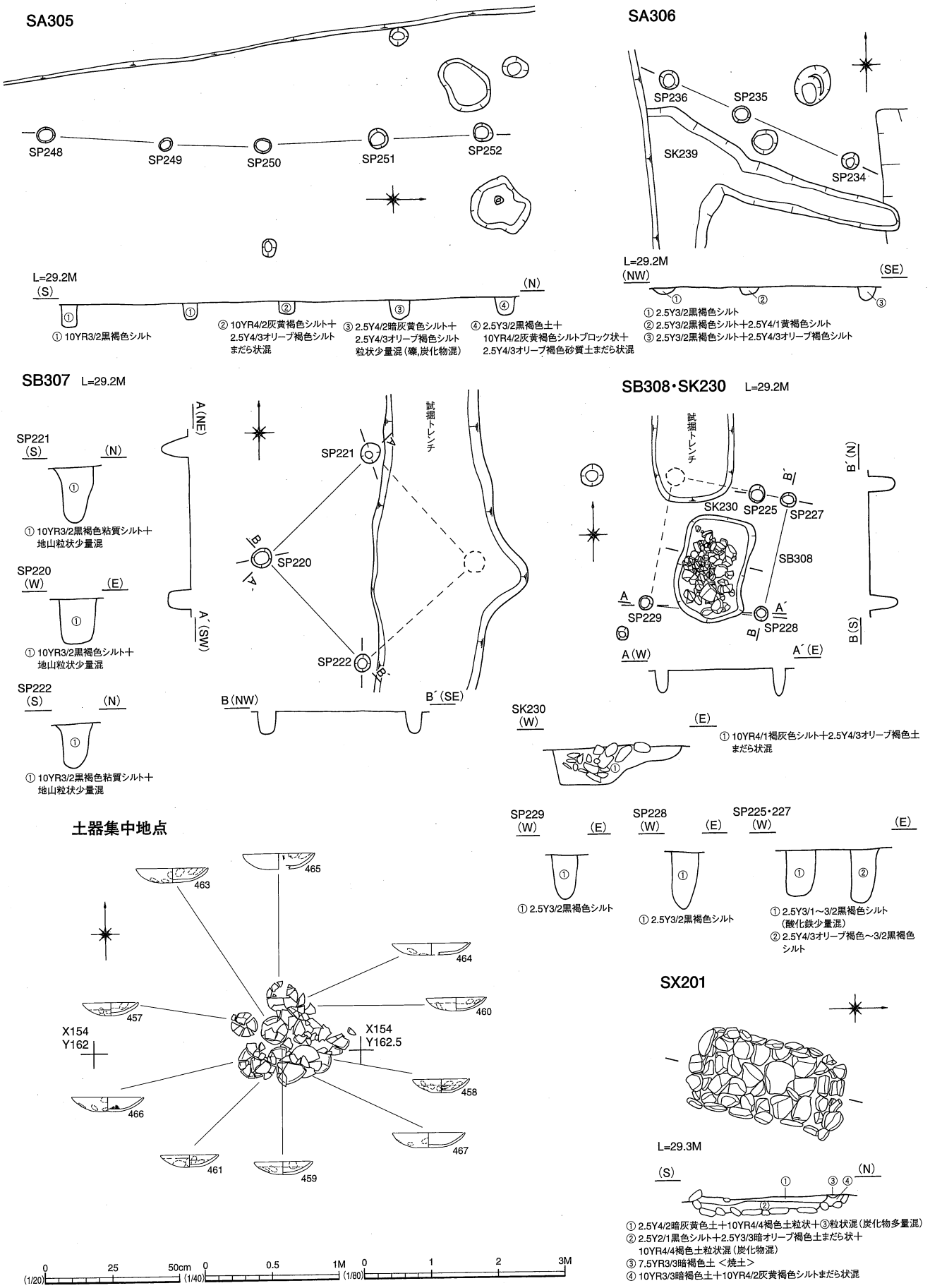
SI271　全セクション共通
① 2.5Y5/3黄褐色シルト＋10YR4/2灰黄褐色砂＋10YR3/2黒褐色シルト
② 10YR3/3暗褐色土＋10YR4/4褐色シルトまだら状（焼土混）
③ 10YR4/4褐色シルト＋10YR5/3にぶい黄褐色砂＋10YR3/2黒褐色シルト粒状混
④ 10YR3/3暗褐色シルト＋10YR4/4褐色シルトブロック状混
⑤ 10YR5/2灰黄褐色細砂＋10YR3/3暗褐色シルト

SI272　全セクション共通
① 10YR3/3暗褐色土＋10YR4/4褐色シルトまだら状混
② 10YR4/2灰黄褐色砂＋10YR4/4褐色シルト＋10YR3/2黒褐色土粒状少量混
③ 10YR3/2黒褐色シルト＋10YR4/4褐色シルト粒状少量混
④ 10YR4/3にぶい黄褐色細砂＋10YR3/3暗褐色シルト粒状少量混

① 10YR3/2黒褐色土＋10YR4/4褐色シルト粒状＋10YR5/3にぶい黄褐色砂ブロック状少量混
② 10YR3/2黒褐色土＋10YR4/4褐色シルトブロック状＋10YR5/3にぶい黄褐色砂ブロック状混
③ 10YR4/3にぶい黄褐色～3/3暗褐色シルト＋10YR4/3にぶい黄褐色～4/4褐色砂ブロック状混

(1/40)　0　0.5　1M
(1/80)　0　1　2　3M

第25図　D区　SD273・274・275・276・277・303断面図（1/80）,SI271・272平面図及び断面図（1/80）,カマド断面図（1/40）,SA304平面図及びエレベーション（1/80）



第26図　D区　SA305・306平面図及びエレベーション（1/80）,SB307・308・SK230平面図及びエレベーション（1/80）,SK230・ピット断面図（1/40）,土器集中地点遺物出土状況図（1/20）及び主な遺物の出土位置（1/8）,SX201平面図及び断面図（1/40）

N－0°－Wである。遺物は実測に耐えるものがなかった。

SA306（第26図）　X155～156Y161～163付近に位置する2間の柵列である。間尺はSP234－SP236間1.8m＋1.2mである。柱穴規模は直径32cm～34cm、深さ10cm～20cm、平均は直径33cm、深さ15cmである。軸方向はN－65°－Wである。遺物は実測に耐えるものがなかった。

SB307（第26図）　X166～168Y159～162付近に位置する1間×1間の掘立柱建物である。間尺はSP220－SP221間2.2m、SP221－SP222間2.2mである。柱穴規模は直径26cm～32cm、深さ30cm～40cm、平均は直径30cm、深さ34.5cmである。建物の軸方向はN－46°－E、である。遺物は実測に耐えるものがなかった。

SB308（第26図）　X155～157Y167～169付近に位置する1間×1間の掘立柱建物である。間尺はSP227－SP228間1.75m、SP228－SP229間1.75mである。柱穴規模は直径22cm～26cm、深さ32cm～40cm、平均は直径24cm、深さ37cmである。建物の軸方向はN－12°－Eである。SK230を囲っており、これはSB308に伴う遺構である可能性がある。遺物は実測に耐えるものがなかった。（堀内）

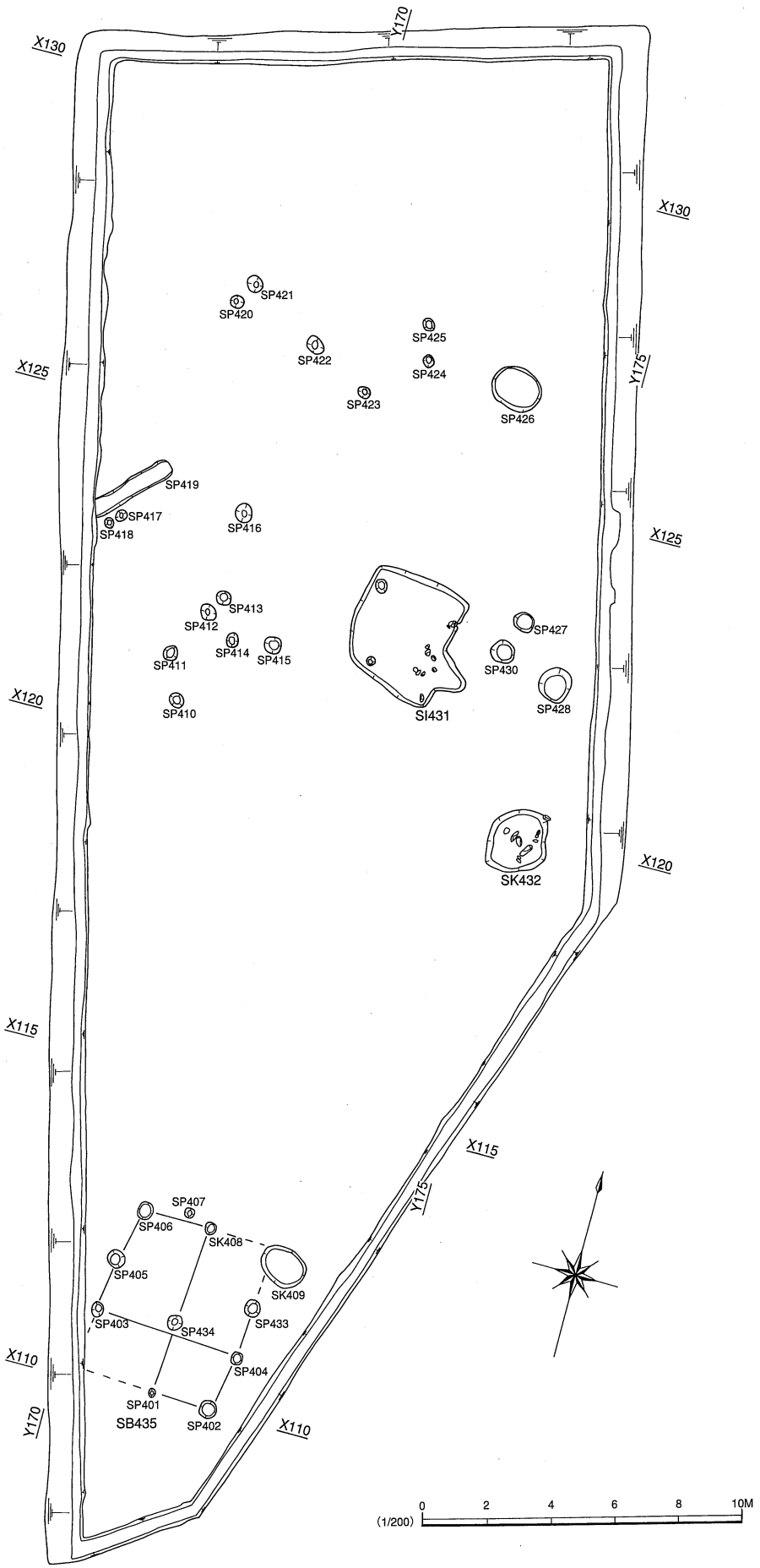
E区

古代の遺構

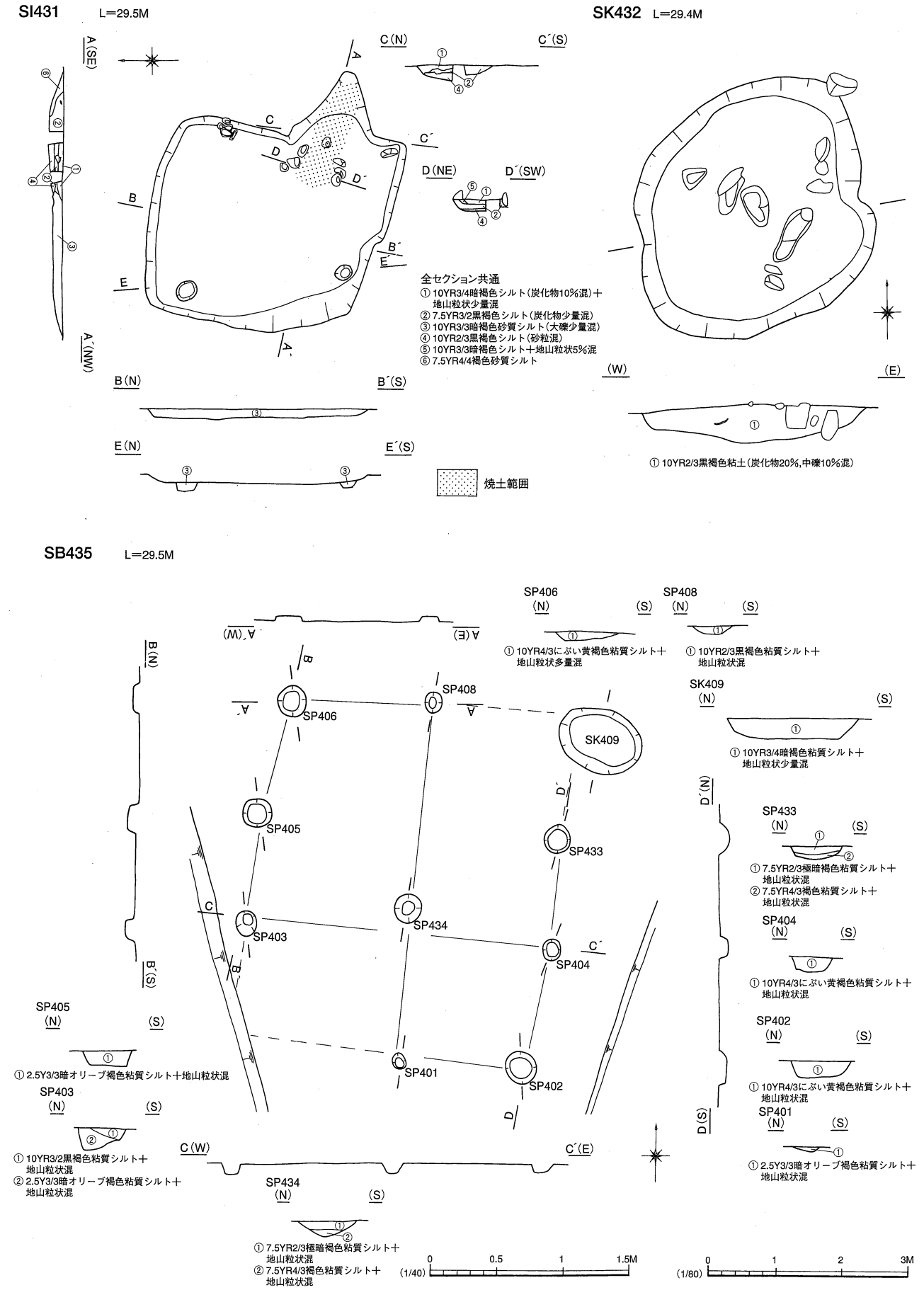
SI431（第28・29図）　X123～124Y172～173に位置する。規模及び形態は、平面形はやや歪んだ長方形で、長辺約3.5m、短辺約3.0m、床面積は10.9㎡を測る。深さはおよそ15cmを測るが、壁の立ち上がりは緩やかで、後世に削平されている可能性がある。床面はほぼ水平で、貼床・硬化面・周壁溝は検出されなかった。住居の軸方向はN－114°－Eである。遺構の東壁の南寄りに、焼土の堆積した掘り込みがある。周辺に被熱を受けた石が6個長軸を上下にして立った状態で見つかり、カマドの袖石と思われる。その間から、土師器長胴甕が出土した。他にピットを2箇所検出した。ピット1は遺構の北西角寄りに位置する。長軸30cm、短軸23cm、深さ14cmを測る。ピット2は、遺構の南西角寄りに位置し、長軸26cm、短軸23cm、深さ10cmである。埋土は黒褐色砂質シルトと暗オリーブ褐色シルトの混じりである。遺物はカマド周辺を中心に床面全体で大半が出土した。器種は土師器長胴甕・須恵器坏Aがあり、8世紀後半に比定される。

SK432（第28・29図）　X120Y175に位置する。遺構の規模及び形態は、長軸2.2m、短軸1.8m、深さ30cmを測る。平面形は不整形な楕円形である。遺構の長軸方向は、N－54°－Wである。埋土は黒褐色で粘り気が強く、炭化物が大量に混じる。遺物は埋土の上の方から多く出土した。器種は土師器甕・須恵器坏A・坏B・坏蓋・長頸壺・短頸壺・砥石があり、須恵器は10世紀前半に比定される。須恵器短頸壺のうち、鉄滓が付着したものがある。また、図示しなかったが、土を焼いて正方形の柱状にした不明土製品もあった。大きさは残存部分で長さ55cm、幅18cmである。鍛冶関係の仕事をした後、使わなくなったものを集めて捨てたごみ穴と考えられる。

SB435（第28図）　X110～113Y170～174に位置する2間×2間以上の掘立柱建物である。西側が調査区域外にあるため、全容は不明である。間尺はSP403－SP406間1.24m＋1.38m、SP406－SP408間1.76m、SP433－SP402間1.22m＋1.36m、SP404－SP403間1.90m＋2.12mである。柱穴規模は直径20cm～46cm、深さ7cm～18cm、平均は直径36.3cm、深さ12.1cmである。建物の軸方向はN－6°－Eである。遺物は須恵器・土師器があるが実測に耐えるものがなかった。（細辻）

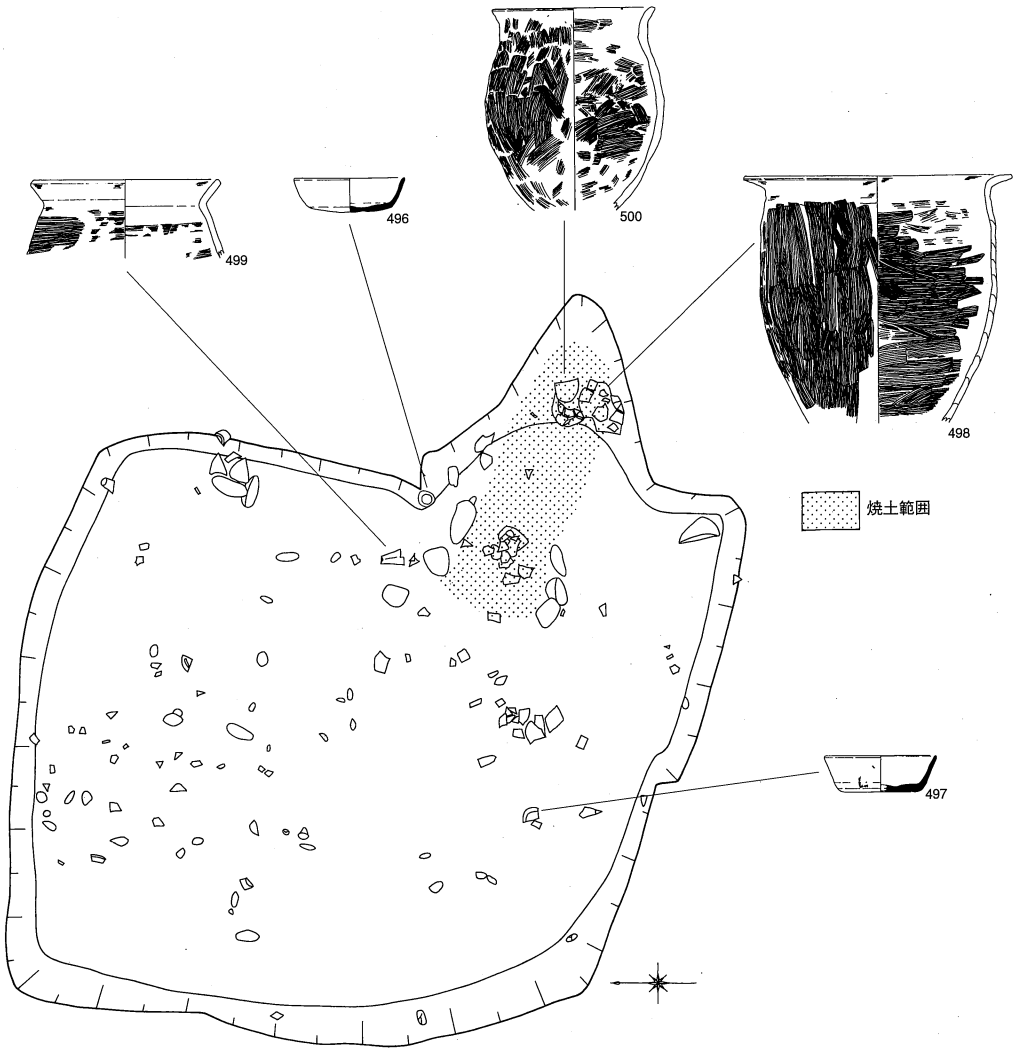


第27図　E区　遺構配置図（1/200）

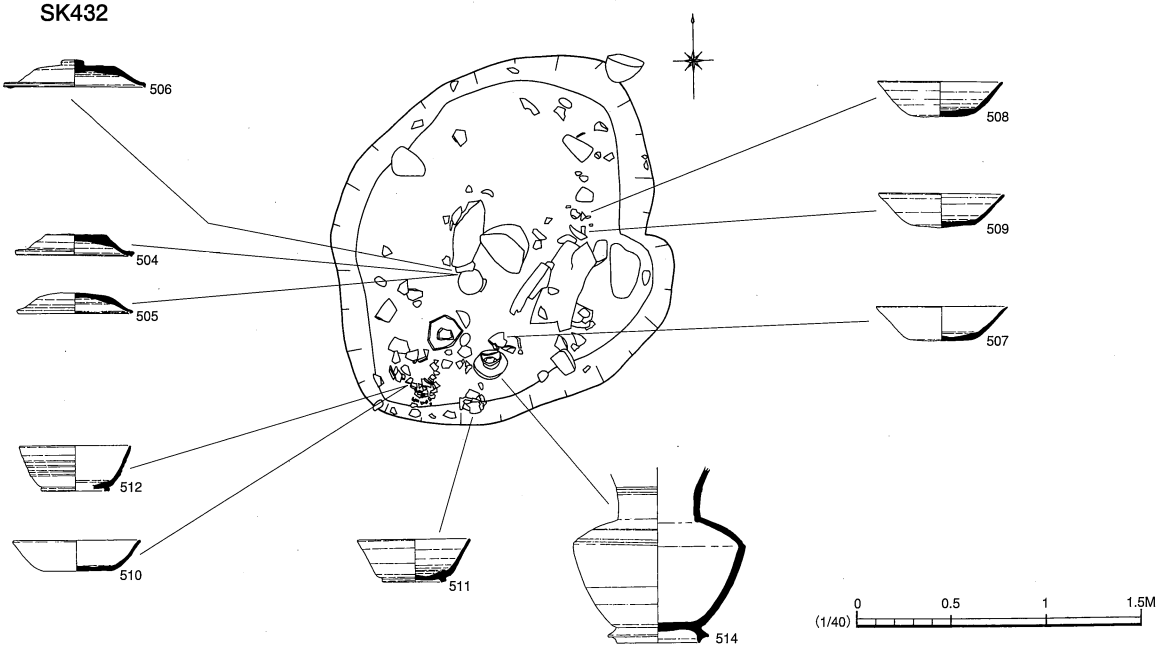


第28図　E区　SI431平面図及び断面図(1/80),SK432平面図及び断面図(1/40)
SB435平面図及びエレベーション(1/80),ピット断面図(1/40)

SI431



SK432



第29図　E区　SI431・SK432遺物出土状況図（1/40）及び主な遺物の出土位置（1/8）

第４章　まとめ

鍛冶町遺跡では平成12年度、13年度の２年間にわたり、延べ4,570㎡の発掘調査を行った。遺跡は弥生時代後期後半～古墳時代前期前半・古代・中世の３つの文化層が存在し、特に土器については良好な一括資料が出土し、この地域の歴史の一端を明らかにすることができた。最後に遺構と遺物についてまとめをここでふれておきたい。なお、調査区名、遺構番号は第３章で記したもの、図中の番号は遺物実測図版の番号と一致する。

１　遺構について

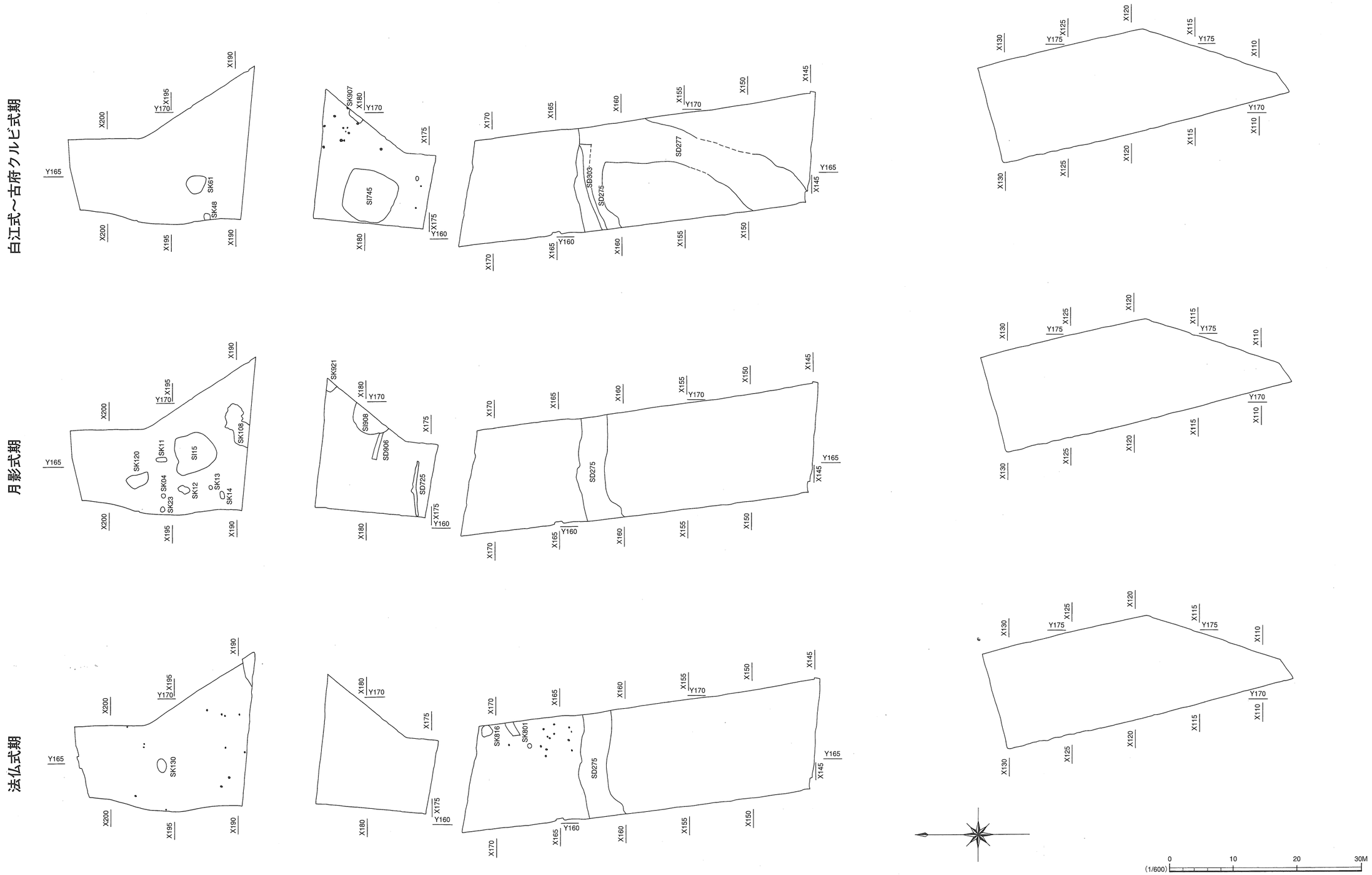
弥生時代後期後半～古墳時代前期前半（第30図）

今回の調査では、この時期の遺構はA区からD区において検出されている。なお、E区においてもかなりの量の遺物が出土していることから、近辺に遺構が分布している可能性は高い。法仏Ⅱ式期に属する遺構はA区SK130・C区SK816とピットが検出された。C区SK816は、地山とは明らかに違う埋土であり、被熱を受けた跡も窺える。弥生土器が一括して出土したが、復元すると、壺口縁部や高坏脚部が多く、土器の器種や部分によって、一定の決まりや風習が存在したのかもしれない。この時期に定住した証拠となる遺構は見つかっていないが、包含層からも多くの遺物が出土すること、近隣の富崎赤坂遺跡・離山砦遺跡では遺構・遺物が確認されていることから、本遺跡でも調査区外に埋蔵されている可能性がある。月影式期には遺構の数が増加し、大量の遺物が出土した。集落の最盛期を迎えたと考えられる。この時期に属する遺構は、竪穴住居跡が２軒検出された。土器の様相から、A区SI15が月影Ⅰ式、B区SI908が月影Ⅱ式であると考えられる。SI908は、完形に復元できる土器が多かったこと、高坏など煮炊きに使われない遺物が、焼成時ではなく後から２次的被熱を受けているようであること、この２点から、炭化物層は整地の時や廃棄の時に意図的に燃やした際にできたものではなく、偶然の事故にあって生成され、よって住居は焼失し廃棄されたと考えられる。あるいは炭化物層が床面のみに一定の厚さで均等に堆積していること、壁には堆積が見られなかったことなどから、炭化物層は燃焼によって生成されたものではない可能性もある。A区SK108は、土器廃棄場と考えられ、大量の一括廃棄された土器が出土した。この地域の土器様相を考える上で貴重な資料となる。C区SK816と同様に、復元してみると、甕などはわずかで長頸壺の口縁部や高坏坏部・高坏脚部など特定の部分の比率が高い。このことから、土器を廃棄する際に、特定の器種・部位を決めて廃棄する風習・祭祀はこの時期まで存続したのかもしれない。白江式期に属する遺構には、B区SI745がある。一辺約８mの隅丸方形で、この時期の住居としては大型の住居である。一家族の住居ではなく、共同で使用するスペースであるかもしれない。この他、法仏Ⅱ式期から白江式期まで継続した遺構にD区SD275・277溝がある。SD277は溝の肩部から土器が出土した。このことから弥生時代後期後半から古墳時代前期前半にかけて川溝に土器を廃棄するという行為が、共通の祭祀として継続していた可能性がある。

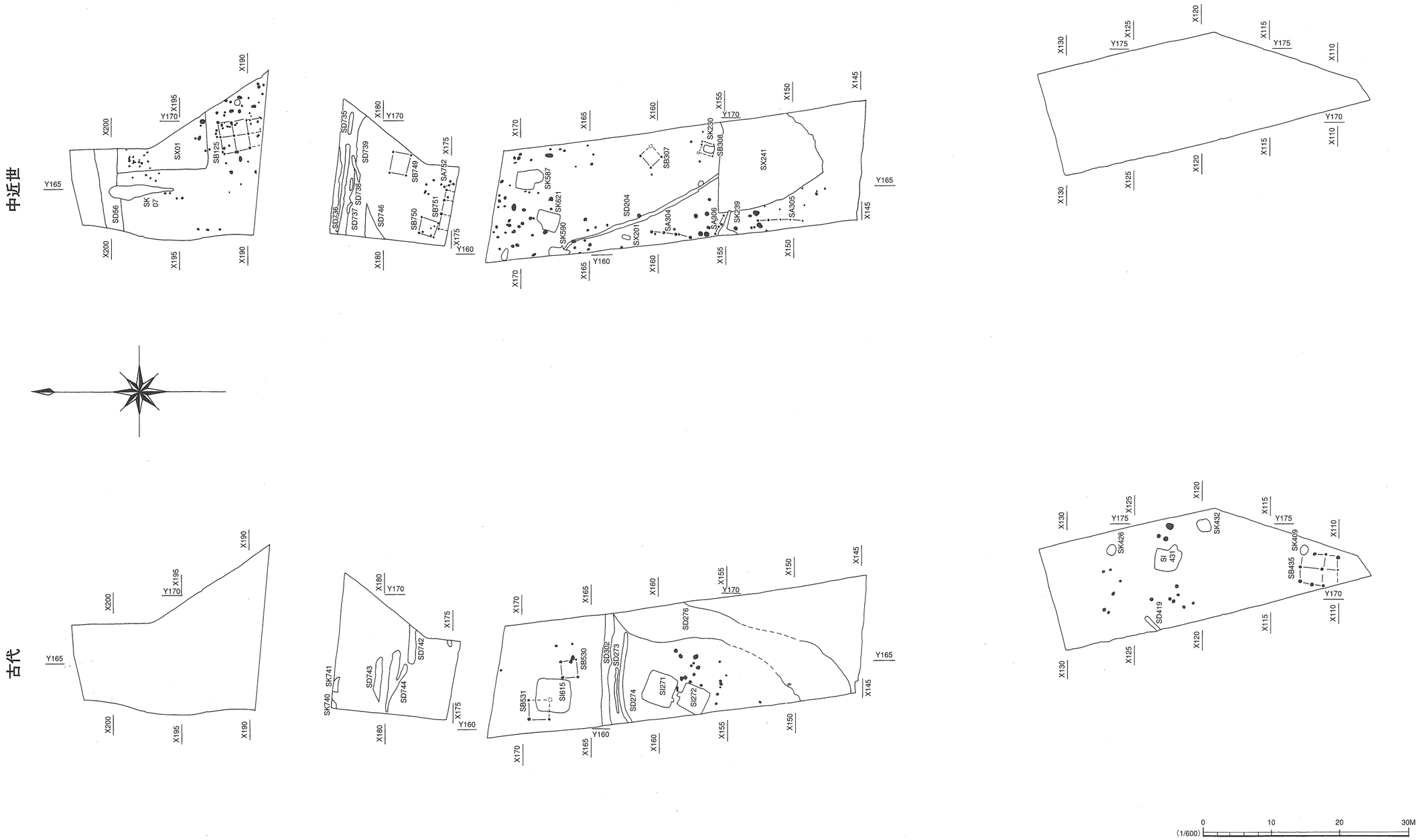
人々は、法仏Ⅱ式期にA区近辺で集落を形成し始め、月影式期には定住して西側丘陵上に四隅突出型墳丘墓の鏡坂墳墓群を築いた。この時期が集落の最盛期だと考えられる。白江式期には南に向かって居住地域を移した、或いは広げていったと考えられる。その間、継続して南に位置する川溝への土器廃棄を行っていたと考えられる。

古代（第31図）

この時期の遺構はB区からE区において検出されている。A区では遺構は検出されなかったが、遺物は一定量出土しており、後世に削平されたか、近辺に存在する可能性は高い。まず７世紀中頃の遺構にC区SI615が検出された。東側壁の掘り込みからカマドの支脚が出土している。天井や袖は失われているものの、カマドと考えられる。この時代の竪穴住居跡は調査例が少なく、様相が不明な点が多い。それを補う貴重な調査例といえる。各願寺創建に携わった人々が生活していた可能性もある。８世紀代の遺構としてはD区SI271・272・E区SI431の３軒が検出された。いずれも方形でカマドを持つ。但し、カマドの方向が、SI271は南、SI272は北、SI431は東、と３棟とも違っていること、



第30図　弥生～古墳時代遺構配置図(1/600)



第31図　古代・中近世遺構配置図（1/600）

特にSI271とSI272の住居はカマド近距離で向かい合わせになっていることなど不明な点もある。掘立柱建物跡は３棟検出した。C区SB530・531は小規模な建物で小屋のような施設であると考える。E区SB435は柱間が均等でなく、土器が出土していないため、柱穴の時期が違う可能性もある。E区SK432からは鉄滓の付着した須恵器・砥石・不明土製品が出土しており、須恵器の時期から10世紀前半である。鍛冶仕事に伴い出た不要品やごみを廃棄した穴と考えられる。D区SD276は弥生時代から続く大溝で、この時代にも、まだ溝としての機能は保っていたようである。埋土から須恵器・土師器などが多量に出土し、須恵器の時期から、９世紀前半迄に埋没したと考えられる。また、遺構からの出土ではないが、「鷲」と墨書された須恵器が見つかった。「鷲」という字は類例がなく、複雑な字である。この地域には、この時代には複雑な字を認識できる人々が生活していた可能性がある。

字名には、その土地の歴史や由来を示す呼称が残される場合が多々ある。『鍛冶町』（かんじゃまち）という字名は、もともと『鍛冶屋町』（かじやまち）だったものが、なまった呼び方で現在まで伝えられてきたものと推測できる。今回の調査では、鍛冶関係の遺構・遺物が検出され、由来を裏付けるとともに、字名の起源が少なくとも10世紀前半までは遡ることができるのではないかと考えられる。

中世（第31図）

この時期の遺構は、A区からD区まで検出されているが、北のA・B・C区では地山の標高が高く、後世に削平されているためか、一部の深い遺構を除いて遺構の残りがあまりよくない。遺物に関しては、全ての地区で出土しているが、特にD区での出土が多い。C区で検出したSK587、SK590、SK621は、特にSK587からは底部から鞴羽口・14世紀代の中世土師器、SK590からは14世紀代の中世土師器が出土している。はっきりと断定はできないが、鞴羽口が出土していることから、鍛冶関連の遺構の可能性がある。D区SX201は、遺構の埋土などから、屋外炉のような施設と考えられる。県内では、福光町の梅原胡摩堂遺跡で１例類例がある。SX201と類例を比較すると、横壁の石組がSX201は一段、類例は二段であること、SX201は単独で存在するが、類例は掘立柱建物に伴う、などの違いがある。今後の調査例の増加を待ちたい。掘立柱建物は６棟検出した。柱穴に伴う遺物が少なく、時期不明のものが多いが、古代の遺構を切っていたり、埋土の状況から、中世以降に建てられた可能性が高い。B区SD735は遺物の様相から、古代から中世まで長い期間溝として存在したと考えられる。また、出土遺物に青磁・白磁・瀬戸瓶子・天目茶碗など、非日用品もわずかではあるが見られる。関連は不明ではあるが、近隣には寺も存在し、身分の高い人々が生活していた可能性もある。

この地域は、射水・婦負二郡の守護代である神保氏の根拠地として、また砺波市に位置する増山城などへ抜ける県東部と西部とを結ぶ交通の要衝として、早くから争奪戦が繰り返された。山田川を挟んだ両岸の丘陵上には富崎城をはじめとする山城が密集して築かれている。また、千坊山遺跡でも、中世の屋敷跡と推測される遺構が検出されている。小沢国夜史氏の研究によれば、富崎城の攻防戦は、大きなものは永禄３年・永禄５年・元亀３年・天正10年の４回あり、その都度、この地域は戦場となったと考えられる。人々は、生き抜くために、ある時は戦国武将の威光を得て村を守るための制札を買い求めたり、ある時は山へ逃げて、戦いの収まるのをじっと待っていた、ということである。そのためには、情報を集めてしたたかにどちらの武将に組した方が得策か判断したと思われる。今回の調査では、戦に明け暮れて命の危険に晒されながらも、少しでも生き延びようとした人々の生活の痕跡をわずかながらうかがい知ることができた。

（細辻）

2　遺物について

弥生時代後期から古墳時代初頭の器種細別型式分類（第32図・第33図・第34図）

全体の器形が分かるものが少ない為、主に口縁部・脚部の形態を中心に分類を行った。なお、ここでは便宜上、器種の後に付くべき「形土器」は省略した。

(1)　甕

（甕A・B）有段口縁甕。口縁部外面に擬凹線・凹線を施すもの（A類）と無文のもの（B類）がある。

A（B）1　長く外反する頸部に付加状口縁部が付く。擬凹線は2条程度と少ない。

A（B）2　長めの外反する頸部に外反・外傾する短い口縁部が付く。擬凹線は2～3条程度と少ない。

A（B）3　段の屈曲が強く、短く外反する頸部をもち、伸展する口縁部が直立・外傾する。口縁部内面に指頭圧痕を残すものがある。

A（B）4　短く外反する頸部をもち、伸展する口縁部が外反する。段の屈曲が強いものとやや緩やかなもの、口縁部内面に指頭圧痕を残すものがある。

A（B）5　段の屈曲が頸部と胴部の境を内側にやや窪ませる程度であり、伸展する口縁部がやや外傾して直線的に立ち上がる。口縁部内面に指頭圧痕を残すものがある。胴部外面を叩き調整する畿内系の影響を受けたものもある。

A（B）6　段の屈曲が口縁部外面下端で肥厚する程度であり、伸展する口縁部が外傾して直線的に立ち上がる。

B 7　かなり短い頸部から口縁部が短く立ち上がり、断面が三角形に近い形態を呈する。

B 8　外反する頸部に、斜め上方に短く摘み出した口縁部が付く。

B 9　緩く内湾した口縁部をもつ。

B10　口縁端部を短く上方に摘み上げて受け口状とする。屈曲の強いB10a、口唇部を凹状に面取りするB10b、口唇部を内傾して面取りするB10cがある。東海・近江系の影響が推定される。

B11　段の屈曲が強く、口縁部下端を外側に強く突出させる。山陰系の影響が推測される。

（甕C）「く」の字状口縁甕。

C 1　口縁端部を強く面取りし、断面が三角形に近い形態を呈する。

C 2　口縁端部を面取りする。頸部で緩く屈曲して外反する比較的短い口縁部をもつC 2 a、頸部で強く屈曲して内面に稜をもち、やや外反して直線的に伸びる口縁部をもつC 2 b、頸部で屈曲して内面に稜をもち、外反して長く伸びる口縁部をもつC 2 cがある。

C 3　口縁端部を丸く仕上げる。頸部で緩く屈曲し、外反する比較的短い口縁部をもつC 3 a、頸部で鋭く屈曲して内面に鋭い稜をもち、強く外反する短い口縁部をもつC 3 b、頸部で屈曲して内面に稜をもち、大きく外反して長く伸びる口縁部をもつC 3 c、頸部で強く屈曲して内面に稜をもち、口縁部が外傾して端部が若干内湾気味になる球胴状のC 3 dがある。C 3 dは畿内系の影響を受けたものか。

(2)　壺

（壺A）長頸広口壺。外傾・外反する長い頸部をもつ。

A 1　口縁端部を丸く仕上げる。

A 2　口縁端部を面取りする。

A 3　口縁端部に断面三角形の口縁帯を作り出す。口縁帯を浮文や擬凹線で加飾するものもある。

（壺B）長頸有段壺。外傾・外反する長い頸部をもつ。

B 1　口縁部が内湾し、外側に大きく開く。口縁部外面を擬凹線で加飾するものもある。

B 2　口縁端部を上方に短く拡張する。口縁部外面を擬凹線で加飾するものもある。

Ｂ３　段が強く屈曲する。

Ｂ４　段の屈曲が口縁部下端で外側にやや出っ張る程度のもの。

Ｂ５　内傾する頸部から、外傾する口縁部が付くもので、口縁部下端が肥厚するＢ５aと口縁部がやや内湾気味に立ち上がるＢ５bがある。Ｂ５bは口縁部外面を擬凹線で加飾するものもある。

（壺C）短頸有段壺。

Ｃ１　口縁部が短く外傾し、段の屈曲が口縁部外面下端で肥厚する程度のもの。

Ｃ２　段が強く屈曲し、口縁部が外傾気味に立ち上がる。

Ｃ３　段が強く屈曲し、伸展する口縁部がやや外反する。

Ｃ４　伸展する口縁部が内湾する。

Ｃ５　伸展する口縁部がやや外傾して直線的に立ち上がり、段の屈曲が口縁部外面下端で突出する程度のもの。

Ｃ６　直立的に立ち上がるやや長い頸部をもち、口縁部が直立気味に立ち上がる。

Ｃ７　大きく外反するやや長い頸部をもち、口縁部が外傾する。口縁部外面を波状文で加飾するものもある。

Ｃ８　大きく外反するやや長い頸部をもち、口縁部は短く上方に拡張する。

（壺D）やや長い頸部に、外反する口縁部が付く有段壺。

Ｄ１　直立的に立ち上がる頸部をもち、口縁部が外反する。

Ｄ２　段は口縁部外面下端を肥厚させる程度であり、頸部・口縁部ともに外反する。

Ｄ３　段は口縁部外面下端を突出もしくは肥厚させる程度であり、頸部・口縁部ともに外傾して直線的に伸びる。

Ｄ４　頸部・口縁部ともに強く外反し、口縁部下端を外側に突出させる。山陰系の影響があるか。

（壺E）「く」の字状口縁壺。

Ｅ１　頸部のくびれが緩やかで、短い口縁部が外反する。端部を丸めるものと面取りするものがある。

Ｅ２　頸部のくびれが強く、口縁部が外反して開く。

（壺F）外側上方に直線的に立ち上がる長めの口縁部をもつ。直口壺と推定される。

（壺G）加飾広口壺。他地域の影響が推定されるもの。

Ｇ１　外反する頸部をもち、口縁部は短く上方に拡張して有段口縁とする。口縁帯をスタンプ文や円形浮文で加飾する。

Ｇ２　外傾して直線的に伸びる口縁端部に断面三角形の口縁帯を作り出す。口縁帯を棒状浮文や擬凹線で加飾するものもある。東海系パレススタイル壺の影響が推定される。

（壺H）台付装飾壺を総括する。胴部に突帯もしくは赤彩をめぐらす。胴部で屈曲しそろばん玉状になるものと、胴部が丸いものがある他、口頸部の形態で更に細分化される。

（壺I）短頸壺。肩の張る胴部に短い口縁部が付く。

（壺J）小型壺。

(3)　高坏

（坏部A）杯底部が水平ないしは外側上方へ直線的に伸び、口縁部が底部境で屈曲し、外反して伸びる。底部が大きめで口縁部が強く外反する浅めのＡ１と、底部がやや小さいＡ２がある。

（坏部Ｂ）杯底部が椀形を呈し、口縁部が底部境で屈曲し、外反して伸びる。底部がかなり大きく底部境の屈曲が強いＢ１、底部が小さく長めの口縁部が付くＢ２、底部が小さく底部境の屈曲が弱いＢ３がある。

（坏部Ｃ）椀形を呈する。杯底部から口縁部にかけて内湾して立ち上がる。

（坏部Ｄ）口縁部がやや内湾して開く。東海系もしくは畿内系の影響が推定される。

（脚部Ａ）棒状有段脚。

（脚部Ｂ）裾部途中で強く屈曲し、外へ直線的に開く。

（脚部Ｃ）裾部途中から緩やかに外に開く。

（脚部Ｄ）短めの脚部で、裾部で外反する。

（脚部Ｅ）脚部中央が膨らみ、裾部で強く屈曲して外反する。畿内系の影響が推定される。

⑷　器台

（受部Ａ）有段口縁器台。受部が深く、底部から外反して開き、外反して長く伸びる口縁部をもつ。口縁部外面を擬凹線で加飾する。

（受部Ｂ・脚部Ｂ）有段口縁器台。受部は脚部に比して大きく、受部底から外反して伸び、口縁部がやや外傾して立ち上がる。脚部は中央で最も細くなり、外反して伸びる。

（受部Ｃ）受部底から外反・外傾して伸び、口縁端部が短く上方に立ち上がる。受部底から外反して伸び口縁端部を上方に若干拡張するＣ１と、受部底から外傾して直線的に伸び、口縁部が上方に短く屈曲するＣ２がある。口縁部外面を擬凹線で加飾するものもある。

（受部Ｄ・脚部Ｅ２）受部は平らな皿状となり、脚部は短めで裾部で外反する。受部から脚部に至る孔は無い。

（受部Ｅ）小型器台の受部。やや内湾気味に開く。

（脚部Ａ）有段の脚部。棒状になるＡ１と中央で最も細くなり外反して伸びるＡ２がある。外面を擬凹線で加飾するものもある。

（脚部Ｃ）裾部途中から緩やかに外に開く。

（脚部Ｄ）受部から脚部にかけてX状に開く小型のもの。脚部中央で、内面に稜をもって強く屈曲する。

（脚部Ｅ１）脚部は短めで裾部で外反する。

（脚部Ｆ）小型器台もしくはその影響を受けた小型の器台の脚部。杯底部から「ハ」の字状に開く。

⑸　蓋

（蓋Ａ）摘み頂部が窪み、体部が直線的に伸びる。

（蓋Ｂ）摘み頂部が平坦で、体部は内湾する。摘みが高さのある逆台形になるものもある。

（蓋Ｃ）小型で、内面に垂下する返しが付くもので、体部は直線的に伸びる。台付壺の蓋と推定される。摘み頂部が平坦で、摘みの形態が高さのある逆台形になるＣ１と、頂部に２箇所の突起が付くＣ２がある。

⑹　鉢

（鉢Ａ）有段口縁鉢。丸い胴部をもつ。

Ａ１　進展する口縁部をもつ。口縁部外面を擬凹線で加飾するものも多い。

Ａ２　口縁部があまり進展せず、深めの胴部をもつ。

Ａ３　口縁部下端が外側にやや屈曲して外側上方に短く摘み出すもので、深い体部をもつ。

（鉢Ｂ）台付鉢。

（鉢Ｃ）「く」の字状口縁鉢。深い胴部をもち、口縁部は緩く屈曲して外反する。

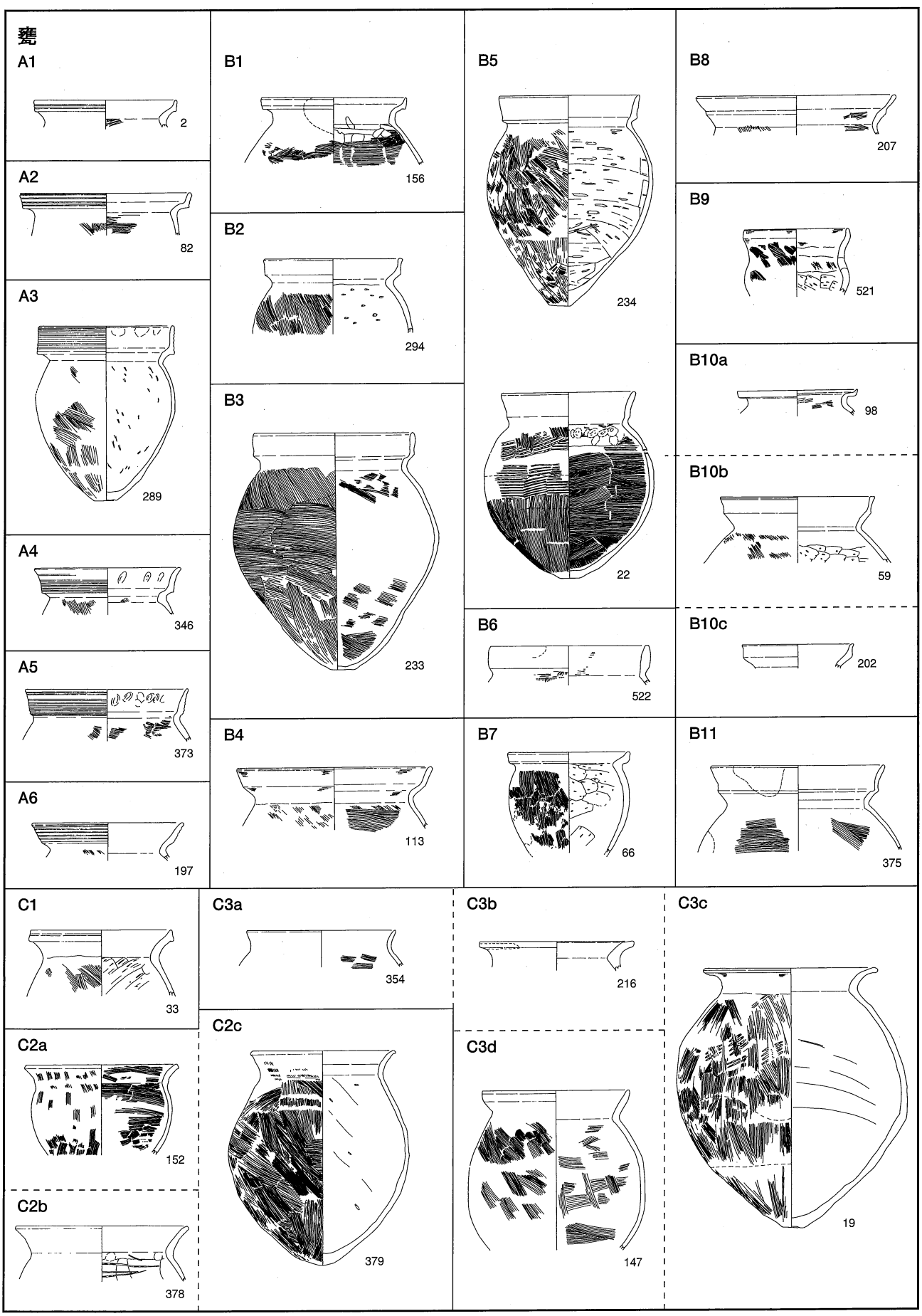
（鉢Ｄ）平底で、胴部は深く、直立気味に立ち上がる。

（鉢Ｅ）有孔鉢。底部が尖り、胴部は外傾して直線的に開くＥ１と、胴部が砲弾形を呈するＥ２がある。

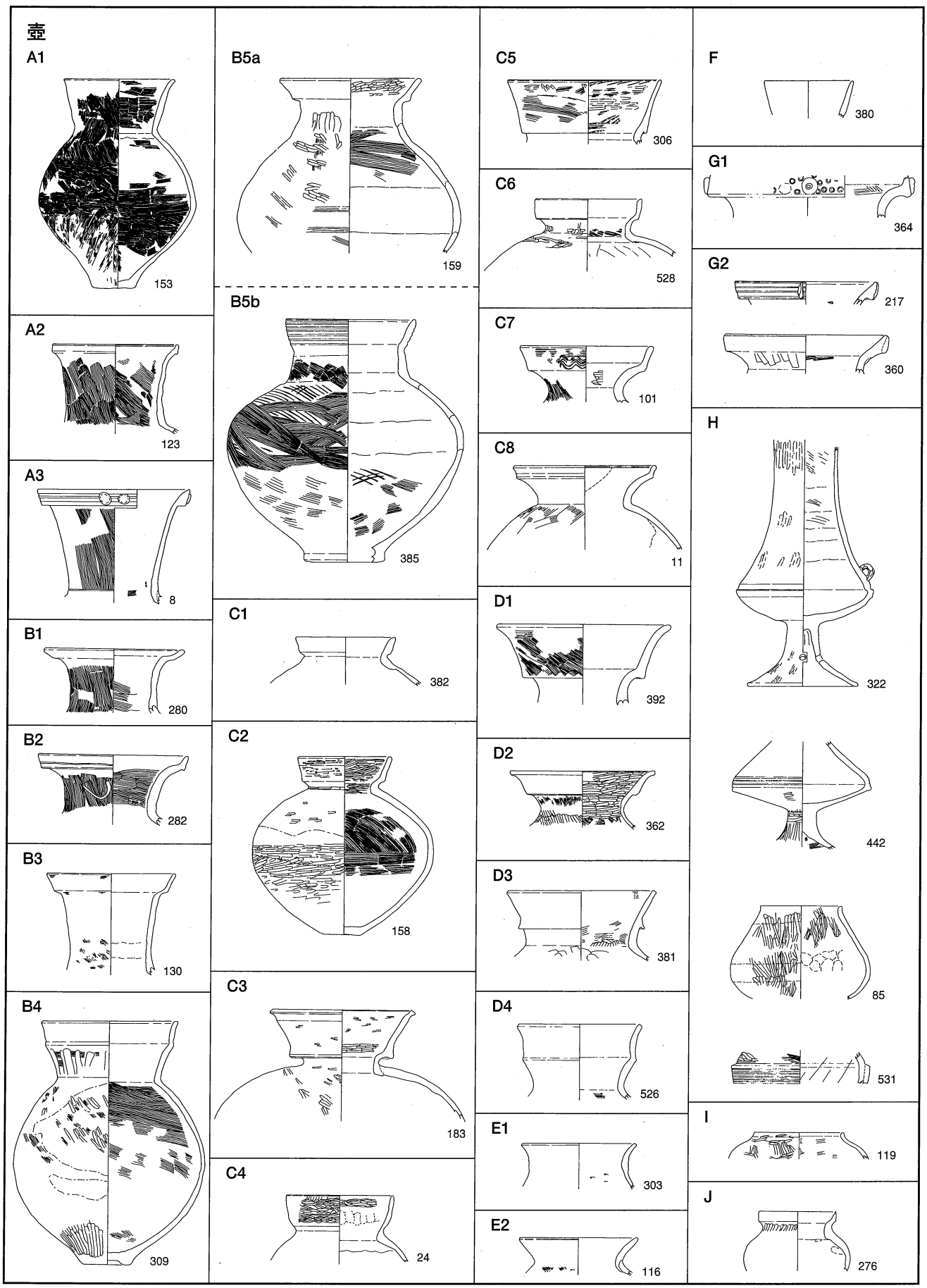
（鉢Ｆ）椀形鉢。

（鉢Ｇ）皿状の鉢。平底で、大きく外側に開いて伸びる胴部をもつ

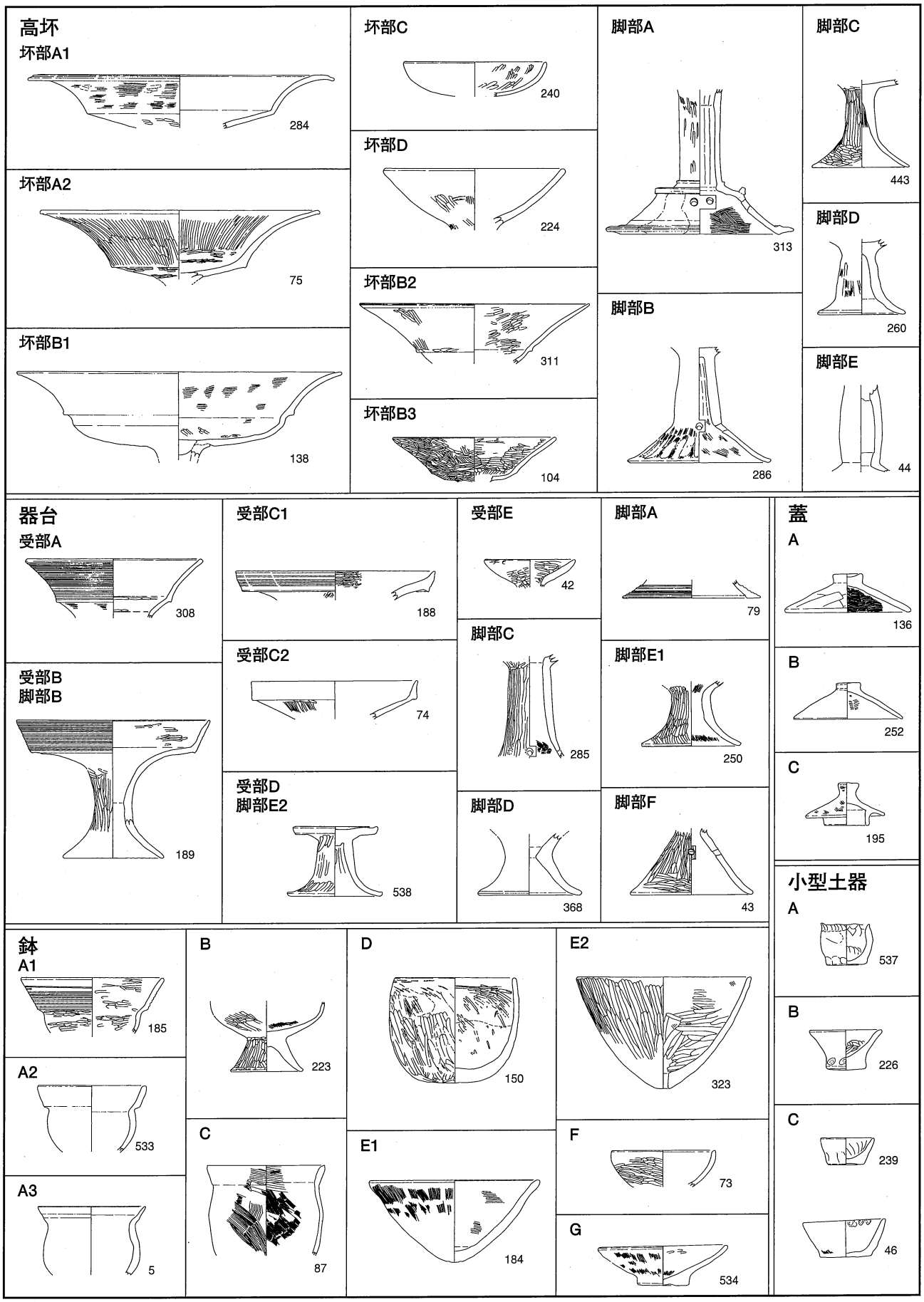
⑺　小型土器



第32図　弥生土器の器種分類図(1/6)



第33図　弥生土器の器種分類図(1/6)



第34図　弥生土器の器種分類図（1/6）

（小型土器Ａ）内湾する深い胴部をもち、口縁先端が僅かに屈曲して外反する。

（小型土器Ｂ）厚い平底で、外傾して開く胴部をもつ。

（小型土器Ｃ）平底で、屈曲して外傾・内湾気味に立ち上がる胴部をもつ。　（大野）

古墳時代・古代の器種細別型式分類（第35図）

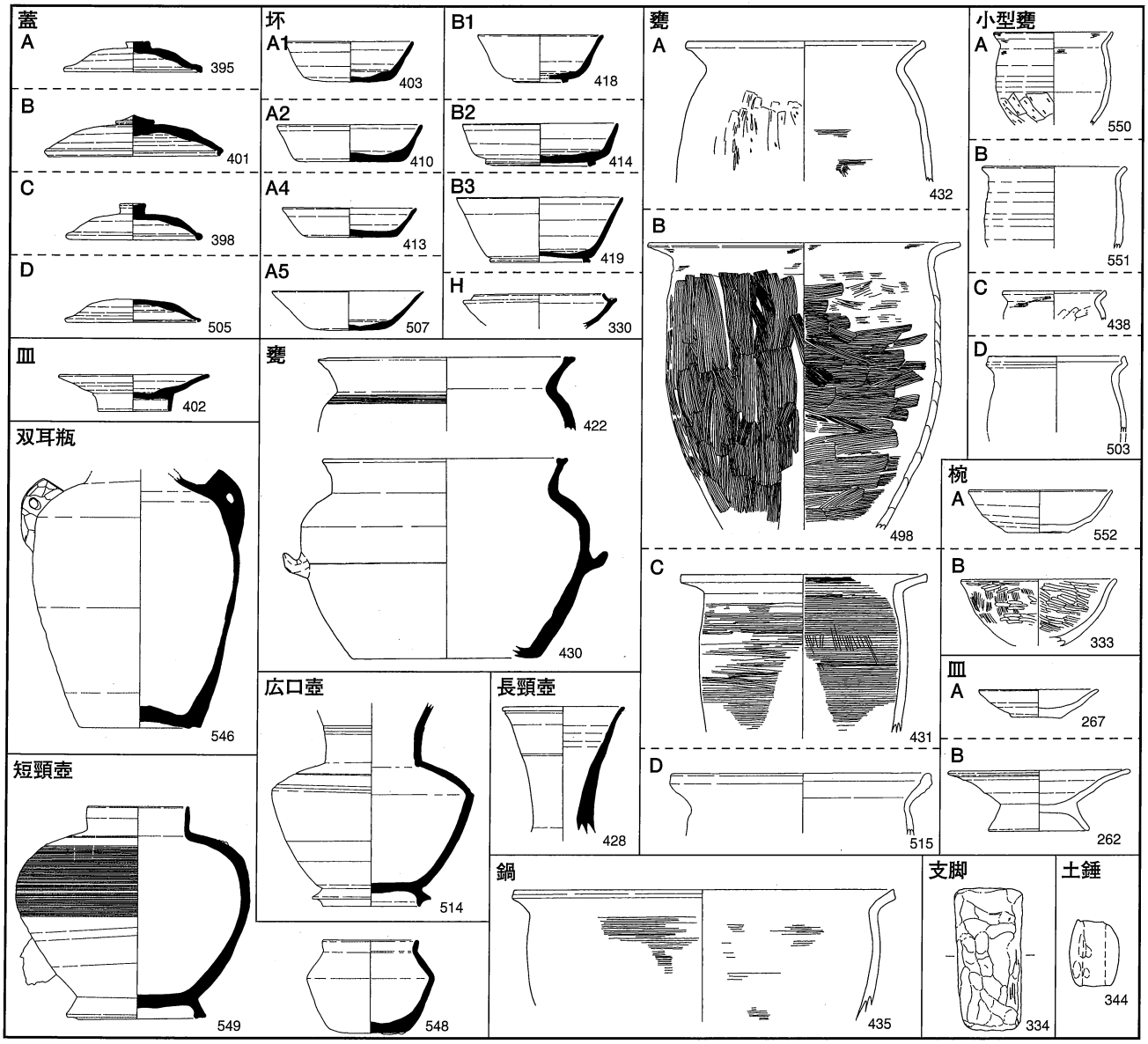
須恵器　出土した器種は、坏蓋、坏、皿、短頸壺、広口壺、長頸壺、双耳瓶、甕がある。

（坏蓋）　口縁部の形態から、断面三角形を呈するものを坏蓋A、口縁端部を内側に強く屈曲させるものを坏蓋B、巻き込むものを坏蓋C、その他、つまみ無いものを坏蓋Dとする。

（坏）　高台がつかないものを坏A、つくものを坏Bとする。更に、体部が外側上方に立ち上がるものをＡ１・Ｂ１、Ａ１・Ｂ１よりも器高が低く口径が大きいものをＡ２・Ｂ２、器高が高い大型のものをＢ３、これらには底部と体部の境が丸いものと角張るものがある。また、体部が大きく外傾するものをＡ４、皿型を呈するものをＡ５とする。かえりを持つものを坏Hとする。

土師器　出土した器種は、高坏、小型甕、甕、鍋、椀、棒状支脚である。

（小型甕）　小型甕Aは口縁部がやや内湾し端部を丸くおさめ、体部がやや膨らむもの。小型甕Bは大きく外反する



第35図　古代の器種分類図（1/6）

口縁部の端部を丸くおさめ、体部が直線的に立ち上がる。小型甕Cは端部を面取りし、口縁部が断面四角形を呈する。小型甕Dは端部を内側に強く屈曲させるもの。

（甕）　甕Aは外反する口縁端部を丸くおさめ、体部がやや膨らむ。面取するものもある。甕Bは外反する口縁端部を丸くおさめ、体部が直線的に立ち上がる。甕Cは端部を面取りし、口縁部が断面四角形を呈し、体部が直線的に立ち上がる。甕Dは口縁端部を内側に巻き込み、体部が直線的に立ち上がる。

（鍋）　鍋は端部を面取りし、口縁部が断面四角形を呈する。

（椀）　椀Aは黒色処理等を行わないもので、体部が内湾して立ち上がるもの。椀Bは内黒椀。

（皿）　高台がつかないものを皿A、つくものを皿Bとする。

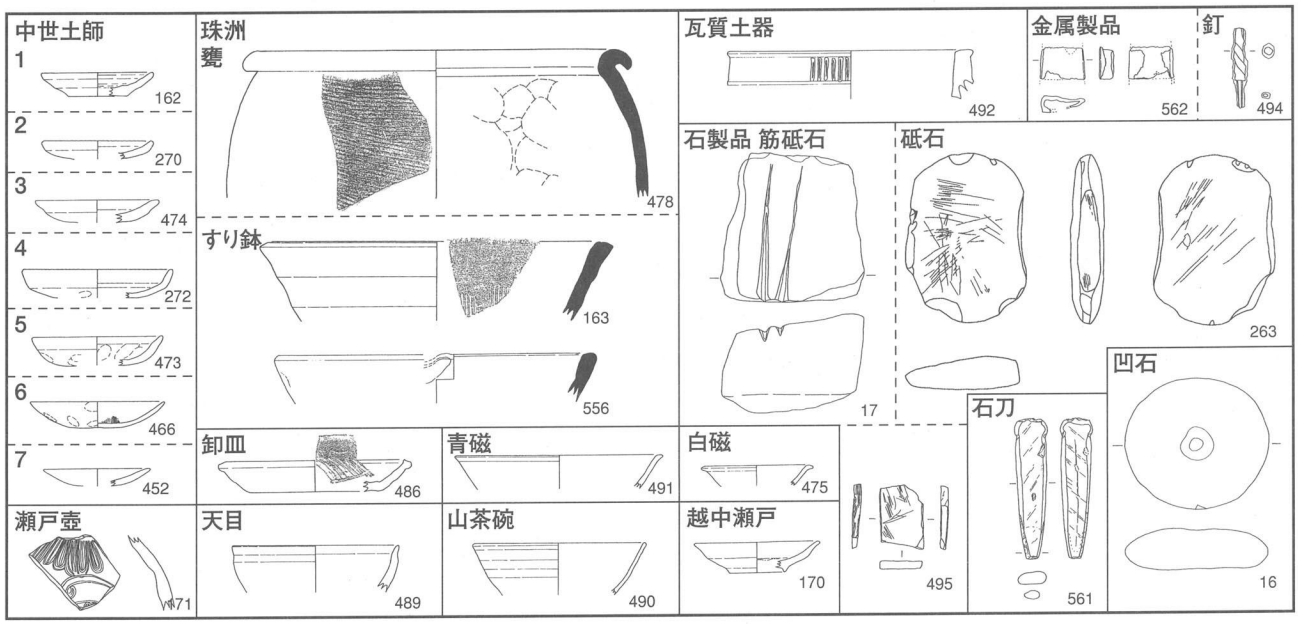
中世・近世・その他製品（第36図）

中世土師器　1類はロクロ成形で、やや小さめの平底から外傾する体部がつく。2類はやや丸底気味で器高が浅く、体部は内湾し、口縁部を丸くおさめる。3類は口縁端部に一段ナデを施し外反させる。4類は丸底で口縁端部をナデて直立気味に外傾させる。5類は平らな底部から体部が強く内湾して立ち上がり、口縁端部をナデて外反させる。6類は、底部が丸底で、体部から緩やかに内湾する。器壁が薄く、水簸された土を使う。7類は丸底で口縁端部を緩やかに外反させるもの。

その他、珠洲・甕・すり鉢、瀬戸・鉄釉瓶子胴部、瀬戸美濃・天目茶碗・卸皿、山茶碗、青磁碗・壺、白磁碗・皿、越中瀬戸・皿、瓦質土器・風炉がある。

石製品には、筋砥石・砥石・石刀・凹石等がある。

金属製品には、古銭・釘・不明銅製品等がある。　（堀内）



第36図　中近世・その他製品の器種分類図（1/6）

3　婦負における古墳出現期の土器の変遷

井田川・山田川合流域に広がる婦負平野一帯は、古墳出現期における地域的様相と社会の変遷を考える上で極めて重要な位置を占める地域である。この地域では、ここ数年の集落・墳墓の調査成果から、その豊かな地域性や他地域との交流関係が明らかとなってきたばかりでなく、古墳時代への社会の転換が早い段階に行われた、政治的にも進んだ地域であったことが判明してきている。しかし、このような古墳出現期の動態をより明確なものにするには、土器の分析による裏付けが不可欠である。そこでここでは、婦負における土器の様相と時間的推移を、先学の研究成果を基礎として概観したい。なお、今回基準資料とした遺跡は、千坊山遺跡群に含まれる10箇所の遺跡（鍛冶町遺跡、千坊山遺跡、南部Ⅰ遺跡、富崎赤坂・離山砦遺跡、富崎墳墓群、鏡坂墳墓群、六治古塚、向野塚、富崎千里古墳群、勅使塚古墳）に、富山市の杉谷A遺跡、杉谷古墳群、八尾町の翠尾Ⅰ遺跡を加えた13遺跡である。

(1)　各時期の概要

変遷図（第39図～第44図）の作成に際しては、上記の遺跡の遺構一括資料ないしそれに近いものを用い、主に口縁部・脚部の形態から分類して配列した。紙幅と作成時間の都合上、かなり大雑把な分類となってしまった部分がある。また現段階では全ての時期にまとまった量の良好な資料が存在する訳ではなく、不安定要素も多い。資料の増加を待って、今後改めて訂正・補足を行っていきたい。また今回出来なかった調整手法や容量などによる分析も今後の課題とするところである。

Ⅰ期（法仏Ⅱ式期）

当期は、先行する法仏Ⅰ式の形式を受け継いだ在地系土器で構成される。祭式土器は、大型品が多く、スタンプ文（S字状文、鋸歯文、同心円文）や浮文、赤彩による装飾など、加飾性に富む。

甕形土器（以下、「形土器」省略）は、胴部が長胴もしくは卵形であり、底部は平底となる。有段口縁甕のA・B類は短い口縁部に長い頸部をもつものが殆どで、付加状口縁となるA（B）2類も多い。A類の擬凹線の条数は少ない。受け口状口縁のB（A）6類の出土例は稀少である。くの字口縁甕のC類では、端部を面取りするC1類が多い。壺では長頸壺が多く、長頸有段となるもののうち口縁部が内湾するB2類は口縁部が外側に大きく広がる。D2類は外来系の影響が窺えるものであるが、在地化している。台付装飾壺のH類は、胴部が下半部で屈曲しそろばん玉状になるものであり、大きさは様々である。長頸のH1類、有段口縁のH2類があり、32は有段口縁壺と棒状脚が結合した大型品で稀少品である。高杯は大型品が多く、杯底部が直線的になるA類と椀形を呈するB類がある。A類は口縁部が長く伸び、口縁端部は内面に凸線を作り出すものや肥厚させるもの、短く外に屈曲させるものなどが見られる。B類は杯底部と口縁部の境が強く屈曲する。高杯の脚部は棒状有段となるものが多い。器台は、大型品が多く、発達した

時期区分		型式・様式	婦　負	南加賀・漆町 田嶋(1986)	畿内大和 寺沢(1986)
弥生時代	後期後半	法　仏	Ⅰ	2　群 (＋)	Ⅵ－3
	終　末	月　影　Ⅰ	Ⅱ－1 Ⅱ－2	3　群	庄内0
		月　影　Ⅱ	Ⅱ－3 Ⅱ－4	4　群	庄内1
古墳時代	前期前半	白　江	Ⅲ	5　群 6　群	庄内2 庄内3
		古府クルビ	Ⅳ	7　群 8　群 9　群	布留0
		高　畠	Ⅴ		布留1

表2　変遷案と関連編年の対応の目安

受部に対して脚柱部は細い。有段口縁のA類と、受部底から外反して伸び口縁端部を強く面取りもしくは付加状口縁とするC類がある。A類は脚部も有段となる。蓋は通気孔のあくA類と頂部が窪むC類がある。鉢には有段口縁のA類の大型品がある。

Ⅱ期（月影式期）

当期は、前期に引き続き土器組成は基本的に在来の形式で構成するが、Ⅰ期の加飾性は衰退する。以下、Ⅱ期を４段階（Ⅱ―１・２期は月影Ⅰ式期、Ⅱ―３・４期は月影Ⅱ式期）に分けて記述する。

甕は、胴部が卵形となり尖り気味の底部をもつ。有段口縁のA・B類は、Ⅱ―１・２期には頸部が引き続きやや長めではあるが、口縁部が伸長し始め付加状口縁は無くなる。また、段の屈曲が強くなり、直立もしくは外傾するものが多くなる。A類では擬凹線の条数が増える。B５類では口縁部断面が三角形になるものが一定量含まれる。Ⅱ―３・４期には、頸部は短くなり口縁部を外傾・外反させるようになる。また、段の屈曲が緩やかになり、口縁下端外面を肥厚させる程度のA（B）４類、A（B）５類が出現する。外来系の影響が推定されるものにⅡ―１・２期の近江・東海系の受け口状口縁のB６類があるが、出土例は稀少である。くの字口縁のC類は、Ⅰ期と変わらず端部を面取りするC１類が多い。壺は時期が下るにつれ長頸壺が減少し、短頸有段壺のC類の割合が増えて様々な形態のものが出現する。D２類は外来系の影響が窺えるものであるが、在地化している。くの字口縁のE類の出土量は少ない。台付装飾壺のH類は小型化し、時期が下るにつれ胴部が丸くなり、定型化してくる。高杯と器台は、時代が下るにつれ小型化する。高杯のA類は、Ⅱ―２・３期で底部が一旦小さくなる。Ⅱ―４期には底部は再度大きくなって、口縁部がやや短くなり立ち気味になる。Ⅰ期からの口縁端部内面を肥厚させるものはⅡ―３期まで見られる。B類は、Ⅱ―１期で底部が一旦大きくなり、Ⅱ―２・３期では再度小さくなり、Ⅱ―４期には口縁部がやや短くなり立ち気味となる。椀形を呈するE類は、量は少ないがⅡ期を通して存在する。高杯の脚部は、Ⅱ―１・２期は棒状有段となるものと裾部途中で強く屈曲して直線的に開くものが一定量を占めたが、時期が下るにつれ裾部途中から緩やかに外反するものとなる。器台は、有段口縁のA類は口縁部外面が無文化し、Ⅱ―３期には底部が内湾気味になる深い杯部のものが出現する。A類の脚部は、段の無いものが殆どとなる。C類は殆ど無くなり、Ⅱ―３期には小型のB類、D１類が出現する。蓋は、Ⅱ―１・２期はⅠ期からのA類とC類が継続するが、Ⅱ―３・４期には摘み頂部が平坦なB類と小型で内面に垂下する返しが付くD類に入れ替わる。

Ⅲ期（白江式期）

当期には、祭式土器を中心として外来系（特に東海系）の影響を受けた土器（東海系のパレススタイル壺・小型器台・高杯、畿内系の二重口縁壺・直口壺、山陰系の甕・壺）が波及する。ただし、それらには在地化したものも多く、全体的には依然として在地性が強い。

甕は、胴部が卵形もしくは球胴状となり肩部の張りは弱くなる。底部は尖る。有段口縁甕のA・B類は、口縁部の外傾・外反が強くなり、A（B）４類、A（B）５類の割合が高くなる。B４には胴部外面を叩き調整する畿内系の影響を受けた甕（222）も僅かに存在する。また、山陰系の影響が推測されるものとして口縁下端を外側に突出させるB７があるが、出土例は稀少である。くの字口縁甕のC類は、口縁端部を丸く仕上げるC２類が増加し、口縁部が外反して伸びるものが多くなる。壺では、長頸壺が更に減少し、長頸広口壺のA１類は消滅する。残ったものも頸部が短かめになるなどの退化が進み、頸部が内傾するB４類も見られる。短頸有段壺のC類は依然として様々な形態のものがあるが、全体に口縁部の外傾・外反が強くなる。外来系の影響が窺えるものでは、畿内系の二重口縁壺の影響が推測されるD１類、東海系パレススタイル壺の影響が推定されるD２類、山陰系の影響が推測されるD３類、畿内系の直口壺であるJ類が出現するが、在地化したものも多い。くの字口縁のE類は増加する。台付装飾壺のH類は、前期の定型化した小型装飾壺が退化・消滅する。高杯は更に小型化が進み、A類、B類共に口縁部が更に短かめに立つよ

うになる。その他、口縁部が長く直立気味に伸びる、器高の深いC類が出現する。外来系と在地系の折衷型であるF類では、C類の杯部と東海系の脚部が結合したF１類がある。外来系の影響が窺えるものでは、東海（もしくは畿内）系のG類が出現する。高杯の脚部は、前期からの裾部途中から緩やかに外反するものが継続する他、裾部で外反するもの、東海系のものなどがある。器台は、有段口縁のA類が激減し、小型の器台に転換する。特に、小型器台もしくはその影響を受けたと考えられるD２類が出現し、増加する。蓋は、前期からのB類、D類が継続する。

Ⅳ期（古府クルビ式期）

当期には、外来系土器は畿内系が強くなる。ただし布留系甕は受容しない。在地系土器は、祭式土器を中心にやや衰退傾向にあるものの、依然としてその比率は高い。

甕は、有段口縁甕のA・B類が衰退し、特に有文のA類は殆ど無くなる。無文のB類は段を僅かに残こす程度のものが存在する他、北近江系の長浜甕と考えられるB８類（271）が僅かに見られる。くの字口縁のC類は、口縁端部を丸く仕上げるC２類が多くを占め、口縁部が外反して伸びるものの他、外傾する口縁部の端部が若干内湾気味となり球胴状となる畿内系の影響が推測されるもの（276）が僅かに見られる。壺は、長頸壺が消滅し、短頸有段壺のC類の口縁部は更に外反が強くなる。外来系の影響が窺えるものでは、畿内系の二重口縁壺の影響が推定されるD１類、山陰系の影響が推定される大型のD３類、畿内系の直口壺のJ類がある。台付装飾壺のH類は、Ⅱ期で定型化したものとは形態が異なる小型品（285、286）が僅かに見られる。高杯は前期から継続するC類、B１類があり、器高が深くなる傾向がある。外来系の影響が窺えるものでは、東海・畿内系のG類の他、畿内系のH類が出現する。器台は、小型器台のD２類が多い。装飾器台のE類では、脚部が小型器台脚部に類似し、装飾性が退化したもの（298）が１点のみ見られる。蓋は、前期からのB類、D類が継続し、B類は摘みが高さのある逆台形となるものが多くなる。

Ⅴ期（高畠式期）

当期の資料として確認しているのは南部Ⅰ遺跡SI01出土土器のみである。当期には、土器の形態が斉一化される。前期に引き続き、外来系土器は畿内系を中心として見られるが、布留系甕は受容しない。

甕は、有段口縁甕がほぼ消滅し、くの字口縁甕で占められるようになる。C２類は胴部が倒卵形もしくは球状となり、丸底で、強く屈曲して外反する口縁部が付く。この形態に布留系甕の影響が若干窺えるか。壺では、強く外反する短頸有段壺C類と、畿内系の直口壺であるJ類が見られる。また、小型坩型土器のI類が出現する。高杯は前期から継続する畿内系のH類と、在地系の杯部と畿内系の脚部が結合したF２類が見られる。

(2) 数量分析

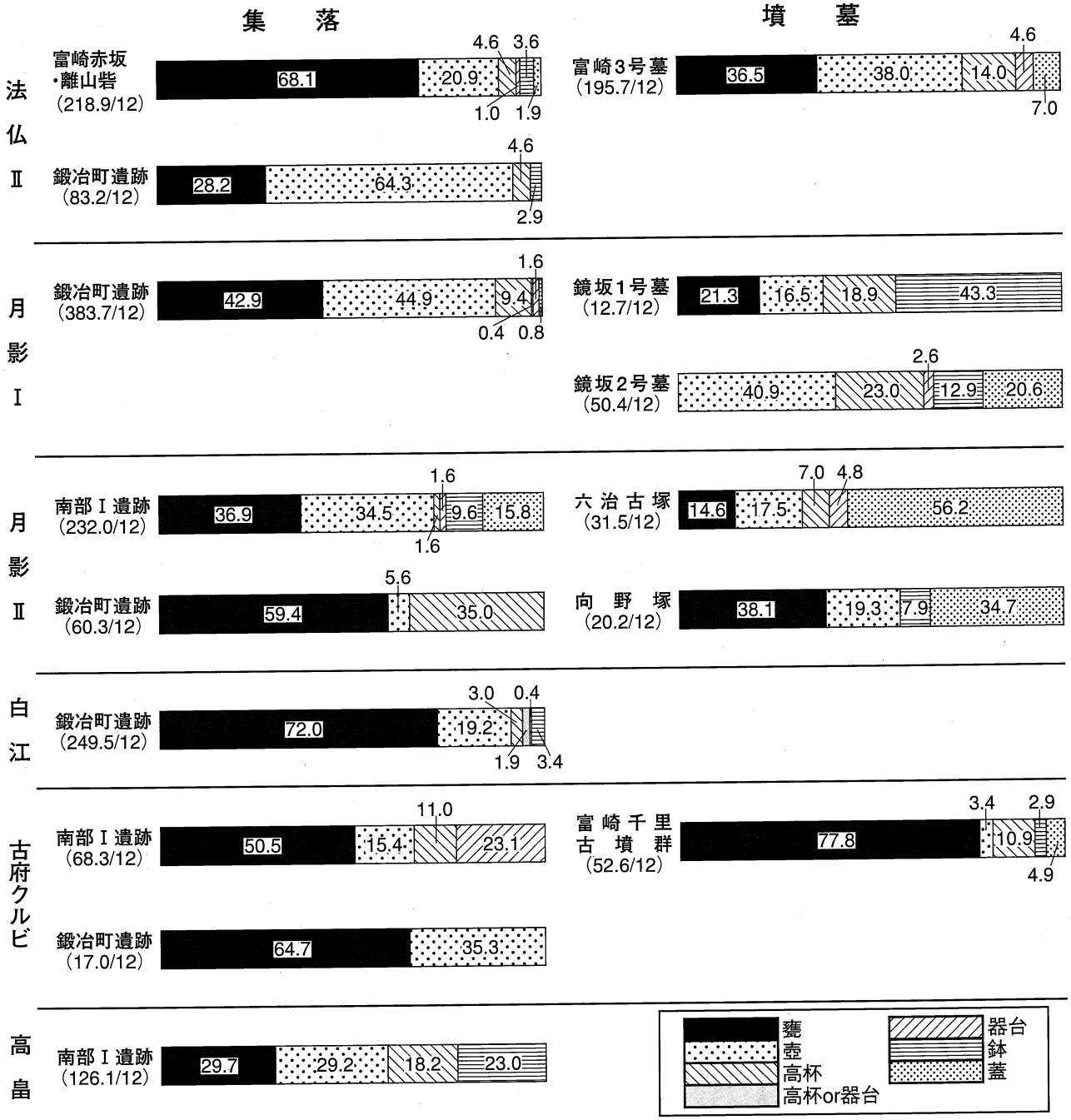
ここでは、婦負における遺跡別の器種構成比率と甕の口縁部形態類別構成比率を時期別に算出し、推移を追った。対象とした遺跡は、集落では鍛冶町遺跡、南部Ⅰ遺跡、富崎赤坂・離山砦遺跡、墳丘墓・古墳では富崎墳墓群、鏡坂墳墓群、六治古塚、向野塚、富崎千里古墳群である。土器の出土量は、口縁部計測法によって算出した（宇野1992）。ただし、個体識別法を併用していない為、実際の出土量が数値に反映されていない面があることを断っておきたい。

① 遺跡別器種構成比率（第37図）

これについては、先学によって、越中では法仏式期から古府クルビ式期にかけて甕が時期を下るにつれ漸移的に増加し、それと相反して壺が減少する傾向があることが指摘されていた（稲石1997）。今回の分析は、データ量の不足や遺跡・遺構の性格差などによってやや不安定な面はあるものの、ほぼ同様の傾向が得られた。集落では遺跡の性格上当然甕が多いが、法仏Ⅱ式期には壺の比率が甕を上回る遺跡が存在し、その後は徐々に壺が比率を減らして月影Ⅱ式期で壺と甕がほぼ同量となる。法仏Ⅱ式期から月影Ⅱ式期に至るまでは、北陸東部の他遺跡と比べると、壺の比率がやや高い印象がある。次の白江式期では壺の比率が激減し、反対に甕が激増する。高畠式期には再度、甕と壺が同量となり、高杯と鉢の比率が急増する。上記の変化に当てはまらない特異な構成比率となるものについては、データ

に使用した土器数が少ないことが第一の原因として挙げられるが、なかには遺跡や遺構の性格に起因すると推測されるものもある。例えば法仏Ⅱ式期（月影Ⅰ式期も含む）の高地性集落である富崎赤坂・離山砦遺跡は甕が主体となる構成であり、また、月影Ⅱ式期の鍛冶町遺跡はSI908出土土器のデータを使用しているが、壺が極端に少なく高杯が非常に多い特徴がある。古府クルビ式期の南部Ⅰ遺跡は溝祭祀が推測されるSD02出土土器のデータを使用しているが、高杯と器台が34.1%と高い比率を占めている。

一方、墳墓では、高杯を始めとした祭式土器の占める比率が高い。富崎３号墓以外は出土量が少ない為不安定なデータではあるが、壺と甕の比率については集落とほぼ同様の変化を遂げるようである。ただ、古府クルビ式期の富崎千里古墳群については、特に土器出土量が少なく傾向が捉えにくい。グラフでは甕が多用されるようにも見えるが、実際は口縁部が残存しない壺も一定量存在し、器台も存在する。同時期の首長墓である勅使塚古墳では壺・高杯を多用しており、首長墓クラスの古墳との階層差を含めて、今後改めて検討を深めていく必要がある。



第37図　遺跡別器種構成比率

※出土量の算出は口縁部計測法による（宇野1988,1992）

② 甕口縁部形態類別構成比率（第38図）

北陸東部における甕の口縁部形態の時間的な変化については、先学の研究成果により、法仏式期は有段口縁甕とくの字口縁甕がほぼ同じ比率で、月影Ⅰ式期には有段口縁甕がかなり優位に立つようになり、月影Ⅱ式期には有段口縁甕が優位に立ちながらも徐々にその比率を減らし始め、古府クルビ式期にはくの字口縁甕による北陸東部特有の組成が形成されることが指摘されてきた（小田木1989）。一方、婦負地域では、概ねこれと同様の変遷を辿るものの、法仏Ⅱ式期には既に有段口縁甕が68％と完全に優位に立っている。更に月影Ⅰ式期になると有段口縁甕は90.5％を占め、月影Ⅱ式期にはほぼ全てとなり、白江式期では比率は減るものの依然として60.7％を占めている。この比率が逆転するのは古府クルビ式期になってからであり、この時期にはくの字口縁甕が66％に急増する。有段口縁甕が殆ど無くなるのは高畠式期まで下る。これらのことから北陸東部でも婦負は、有段口縁甕が長期に渡って優位に立ち、くの字口縁甕への転換時期が遅いという地域性があることが推察される。有段口縁甕における有文口縁の比率については、法仏Ⅱ式期は18.4％と低いが、月影Ⅰ式期には29.3％と増加し、有段口縁甕が最も多くなる月影Ⅱ式期にピークを迎え、34.2％を占める。白江式期になると19.3％に減少し、古府クルビ式期には1.8％と殆ど無くなり、高畠式期には完全に消滅する。

(3) まとめ

以上が、婦負における古墳出現期の土器の変遷である。墳墓に見られる特徴も含めて考えると、婦負は北陸東部でも特に強い地域性をもち、他地域の文化を取り入れながらもその豊かな地域性を長く保持し続けた地域であったといえる。最後に、集落と墳墓の動向を含めた婦負の変遷の概略を記述し、まとめに変える。

弥生時代後期後半（法仏Ⅱ式期）

出現期。高地性集落を含む集落が２箇所に出現する。周溝墓的な四隅掘り残しタイプの四隅突出型墳丘墓が１基築造され、これ以降、同形態の墓を特定個人墓として築く墓制が成立する。この墳丘墓の受容形態は、他地域の墓制を固有のものに消化してから伝統的墓制の素地の上に取り入れたものと考えられ、婦負独特の地域性や他地域との交流の在り方を示している。先行する在来の形式を受け継いだ土器の様相もこれと合致するものである。

弥生時代終末期（月影Ⅰ・Ⅱ式期）

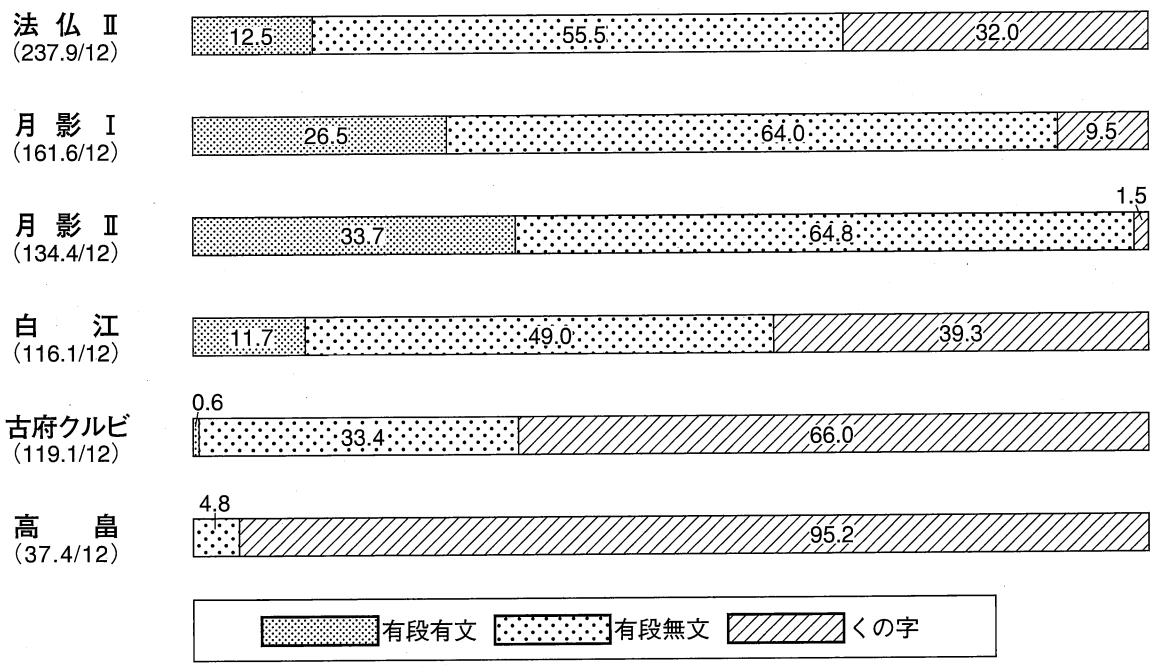
成立・発展期。集落は少なくとも６箇所に存在し、相互に等質的な農業共同体が成立する。四隅突出型墳丘墓は、前期からの四隅掘り残しタイプ１基と突出部が極端に肥大化した「千坊山型」ともいえる形態のもの４基が築造され、婦負で共通した墓制がとられる。また、月影Ⅱ式期には県内最古の前方後方形墳丘墓が築造される。土器は前期に引き続き、強い在地性をもつものである。なお、四隅突出型墳丘墓は次の白江式期に１基が造られて以後、消滅する。

古墳時代初頭（白江式期、古府クルビ式期）

流動・再編期（最盛期）。大きな地域社会の変動が起こり、急速に地域の統合が進んで集落が再編される。広域な範囲を取り込んだ重層的な階層性が生じ、それに応じて墳丘の形態や規模が複雑に序列化する。その中で、首長墓として卓越した規模の前方後方墳を県内で初めて導入しており、逸早く大和を頂点とした汎日本的政治秩序に参入していったことが推測される。しかしその反面、古墳には葺き石や埴輪を受容しないなどの地域性がある。土器についても、祭式土器を中心に外来系土器を受容し、古墳時代的土器様相への変化が始まる反面、依然として在地系土器も多く残り（祭式土器においても白江式期には多くは在地系で、古府クルビ式期になっても並存する）、地域性が維持される。古墳や土器に見られる選択的な受容形態から、一定の独自性、自立性を持った在地勢力の存在が想定できよう。

古墳時代前期前半（高畠式期）

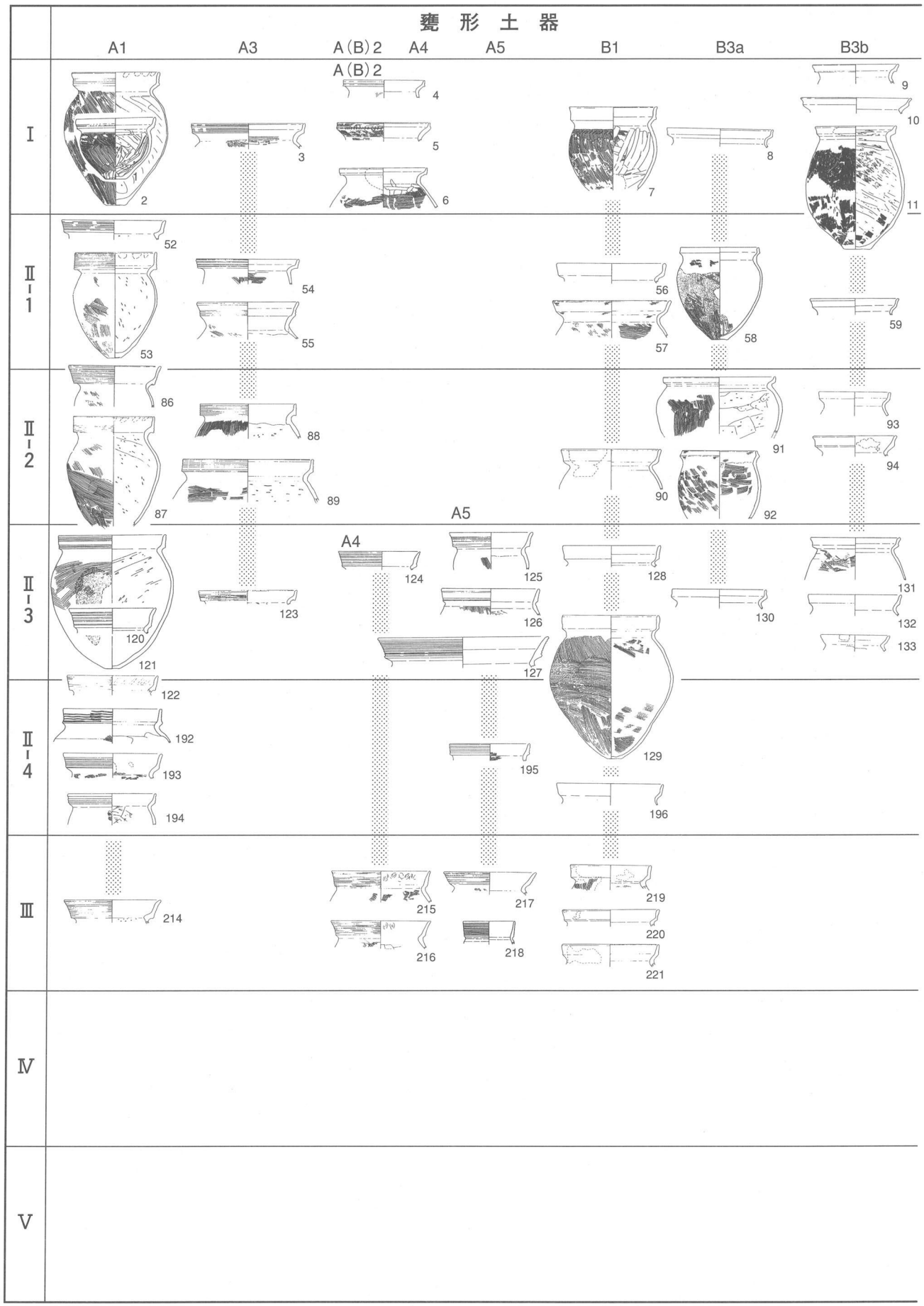
衰退期。集落が激減し、古墳の有無も不明である。土器は斉一化され、畿内の影響を強く受ける（特に祭式土器は全て畿内系となる）。ただし、依然として布留系甕は普及しない。在地勢力が衰退し、地域性が希薄化する。（大野）



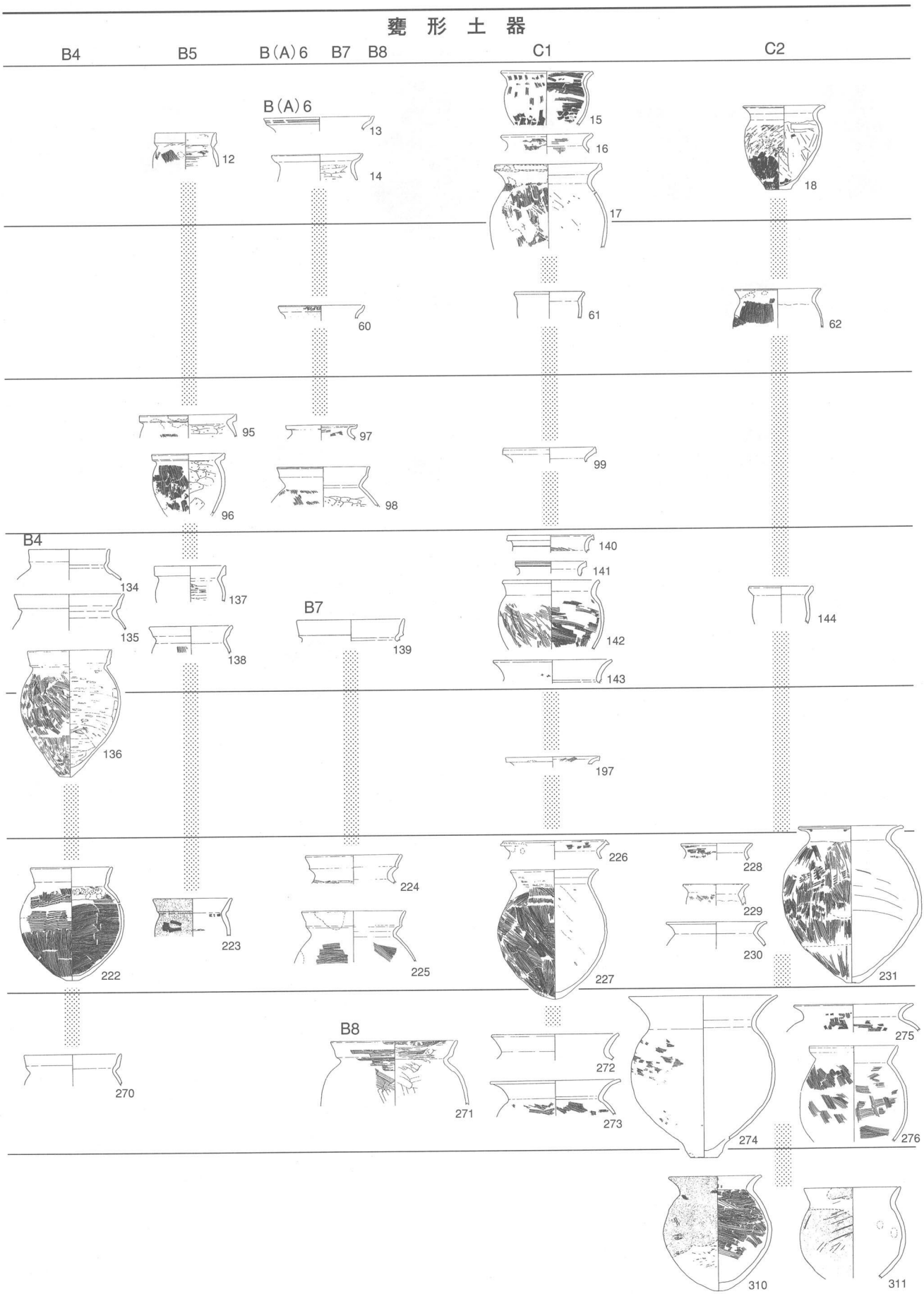
第38図　甕口縁部形態類別構成比率　　※出土量の算出は口縁部計測法による（宇野1988,1992）

時期	基　準　資　料
Ⅰ	鍛冶町遺跡A区SK130（6,25）、鍛冶町遺跡A区SD145（15）、鍛冶町遺跡A区包含層（45）、鍛冶町遺跡C区SK816（9,22,23,35,38,39,46）、鍛冶町遺跡C区下層包含層（2,31）、鍛冶町遺跡C区排水溝（42）、離山砦遺跡（13,20,21,48）、富崎赤坂遺跡（7,11,16,18,37,49,51）、富崎3号墓（1,3,4,5,8,10,12,14,17,19,24,26,27,28,29,30,32,33,34,36,40,41,44,50,43,47）
Ⅱ—1	鍛冶町遺跡A区SK60（54,67,71,78,84）、鍛冶町遺跡A区SK108（55,57,62,63,64,66,69,68,73,74,79,81）、鍛冶町遺跡A区包含層（80）、鍛冶町遺跡C区下層包含層（53）、鏡坂1号墓（52,56,72,75,77,82）、南部Ⅰ遺跡SK08〔H11〕（58,59,61,65,70,83,85）、南部Ⅰ遺跡試掘CT12（76）、南部Ⅰ遺跡試掘CT27（60）
Ⅱ—2	鍛冶町遺跡A区SI15（86,88,89,91,93,94,95,96,98,100,101,103,107,114,115,119）、鍛冶町遺跡A区SK120（87,90,92,97,99,104,109,110,112,113）、鏡坂2号墓（102,105,106,108,111,116,117,118）
Ⅱ—3	千坊山遺跡SI04・11（150,156,157,158,164,168,174,175）、南部Ⅰ遺跡SI01〔H8〕（120,124,125,126,128,130,131,132,134,135,137,138,139,140,141,142,143,144,145,149,151,152,153,154,155,159,166,171,172,173,178,179,183,184,186,187,188,189,190）、南部Ⅰ遺跡試掘BT64（121,127,146,148,165,169,182,185）、六治古塚（123,133,160,161,162,163,176,177,180,181）
Ⅱ—4	鍛冶町遺跡B区SI908（122,129,136,147,167,170,191）、翠尾Ⅰ遺跡（199,202,203,209）、向野塚（193,194,195,196,197,212）、杉谷A遺跡（192,198,200,201,204,205,206,207,208,210,211,213）
Ⅲ	鍛冶町遺跡B区SI745（214,217,219,221,222,224,226,228,229,231,233,238,239,244,255,256,261,265,266,268,269）、鍛冶町遺跡B区SI746（220,262）、鍛冶町遺跡C区上層包含層（232,242,258,259,260,263）、鍛冶町遺跡D区SD275（241）、鍛冶町遺跡D区SD277（215,216,225,227,234,236,237,240,249）、鍛冶町遺跡E区包含層（245）、南部Ⅰ遺跡試掘AT12（254）、南部Ⅰ遺跡試掘AT19（253）、南部Ⅰ遺跡試掘BT26（246）、南部Ⅰ遺跡試掘CT6（223,230,248,250,257,264,267）、翠尾Ⅰ遺跡（243,247,251）、杉谷4号墳（218,235,252）
Ⅳ	鍛冶町遺跡A区SK48（276）、南部Ⅰ遺跡SD02〔H8〕（270,272,273,274,275,279,281,283,287,296,298,299,300,305,308,309）、南部Ⅰ遺跡試掘BT29（294,303）、富崎千里4号墳（288,297）、富崎千里6号墳（292,307）、富崎千里9号墳（285,286,282,293,304）、富崎千里10号墳（284）、富崎千里16号墳（278,302）、富崎千里17号墳（271）、勅使塚古墳（277,280,289,290,291,295,306）
Ⅴ	南部Ⅰ遺跡SI01〔H11〕（310,311,312,313,315,316,317,318,319,320,321,322,323）、南部Ⅰ遺跡BT89（314）

表3　変遷図基準資料

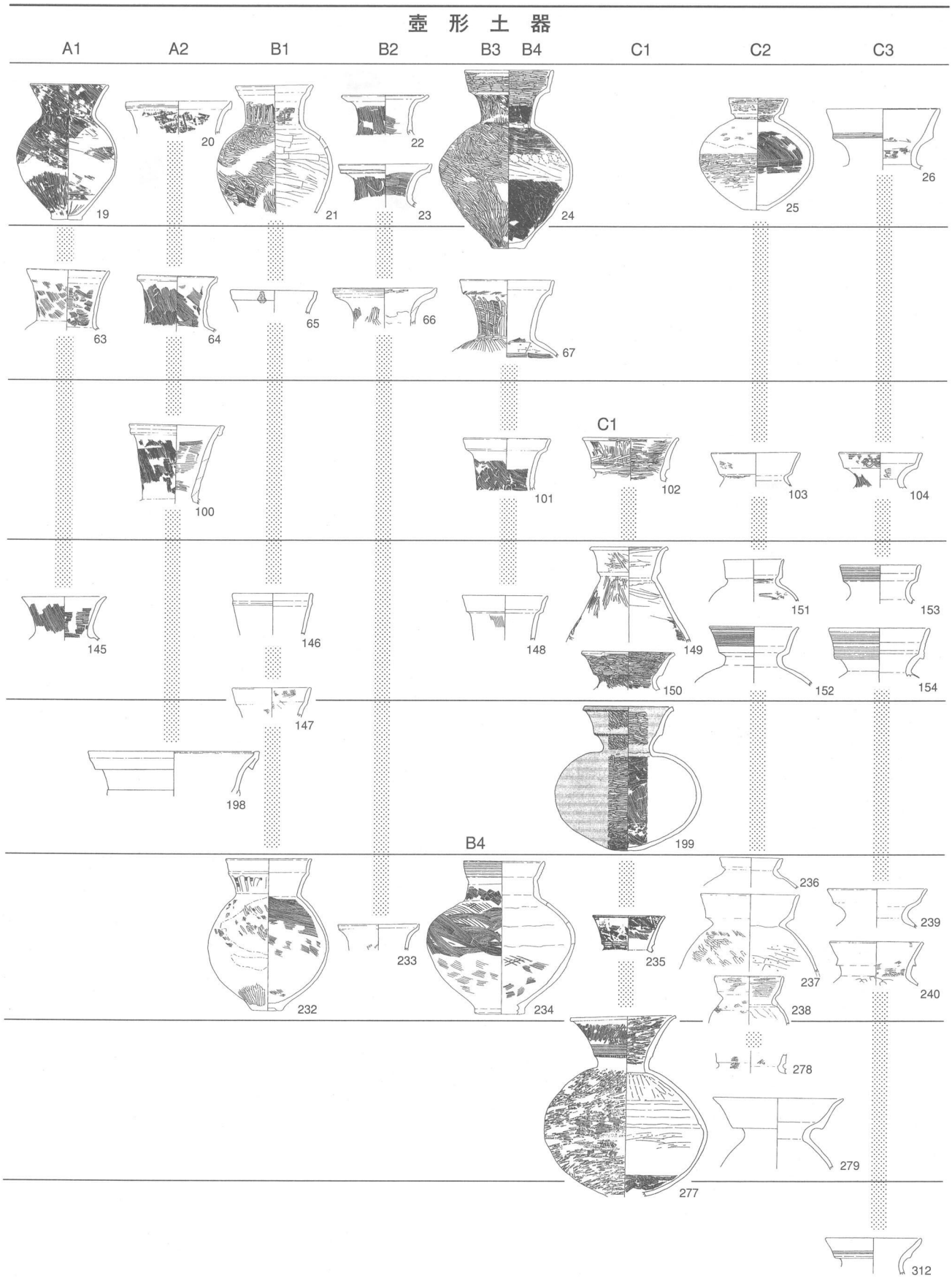


第39図　婦負における古墳出現期の土器変遷案(1)　S=1/10

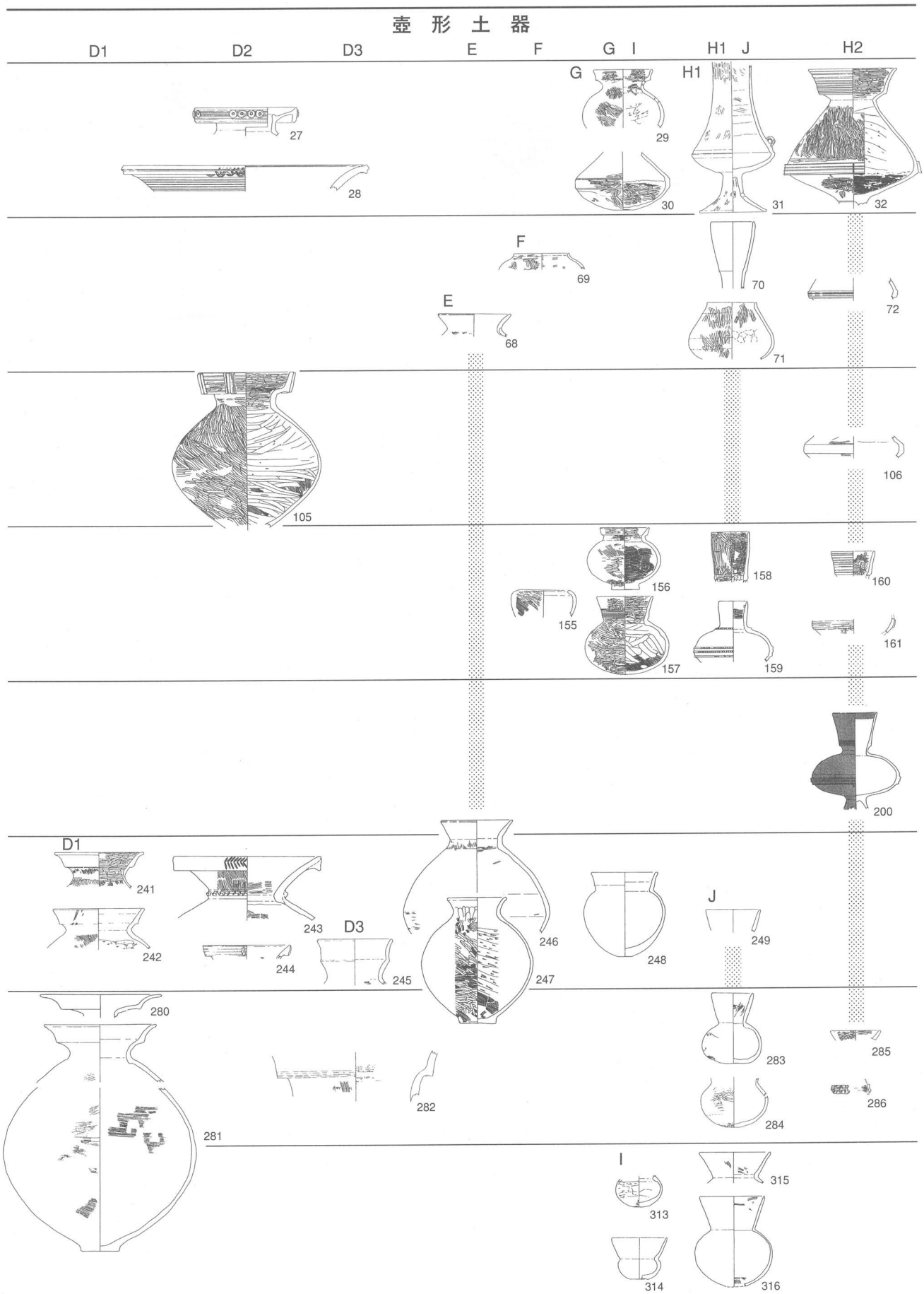


第40図　婦負における古墳出現期の土器変遷案(2)

S=1/10

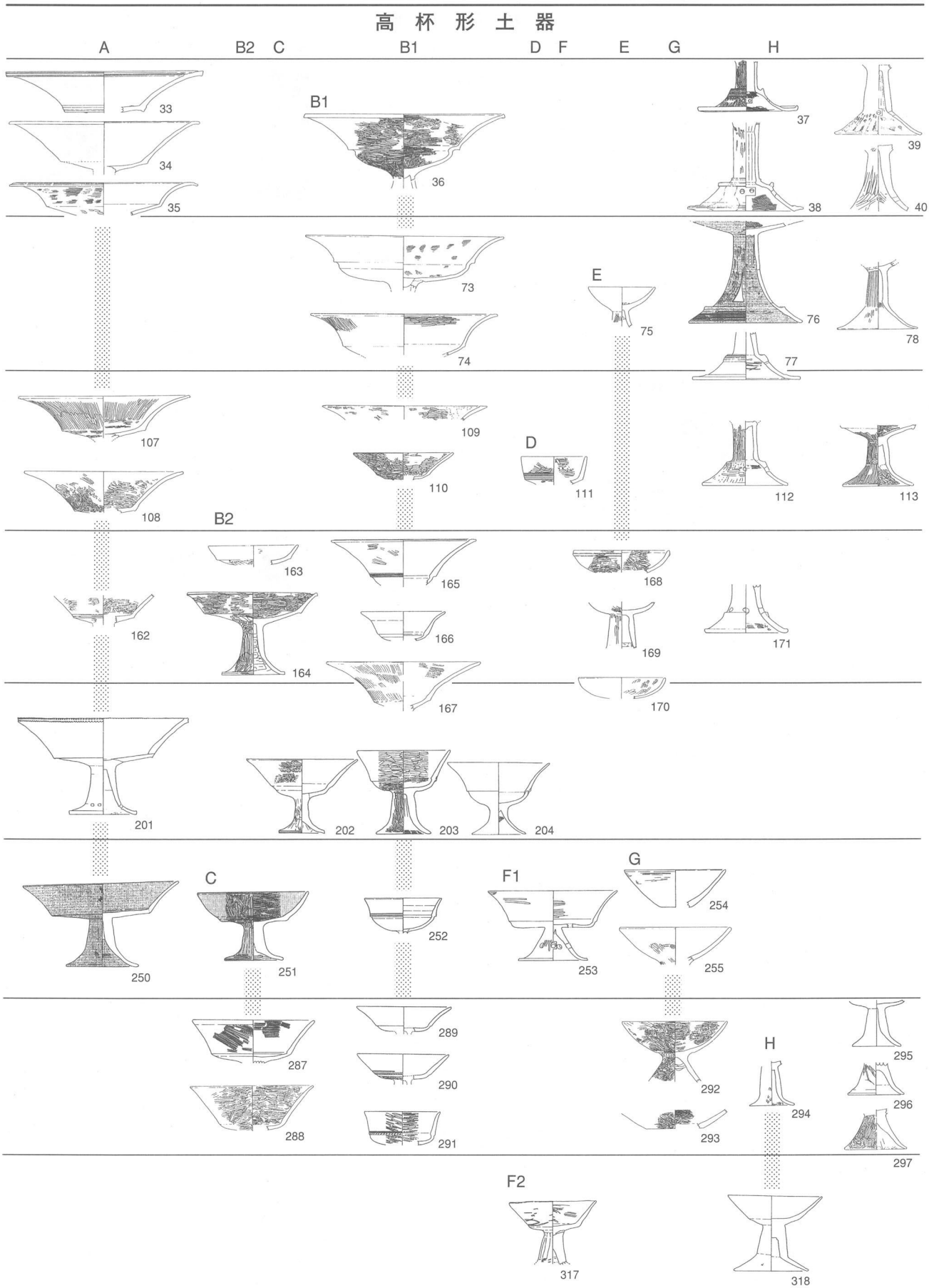


第41図　婦負における古墳出現期の土器変遷案(3)　S=1/10

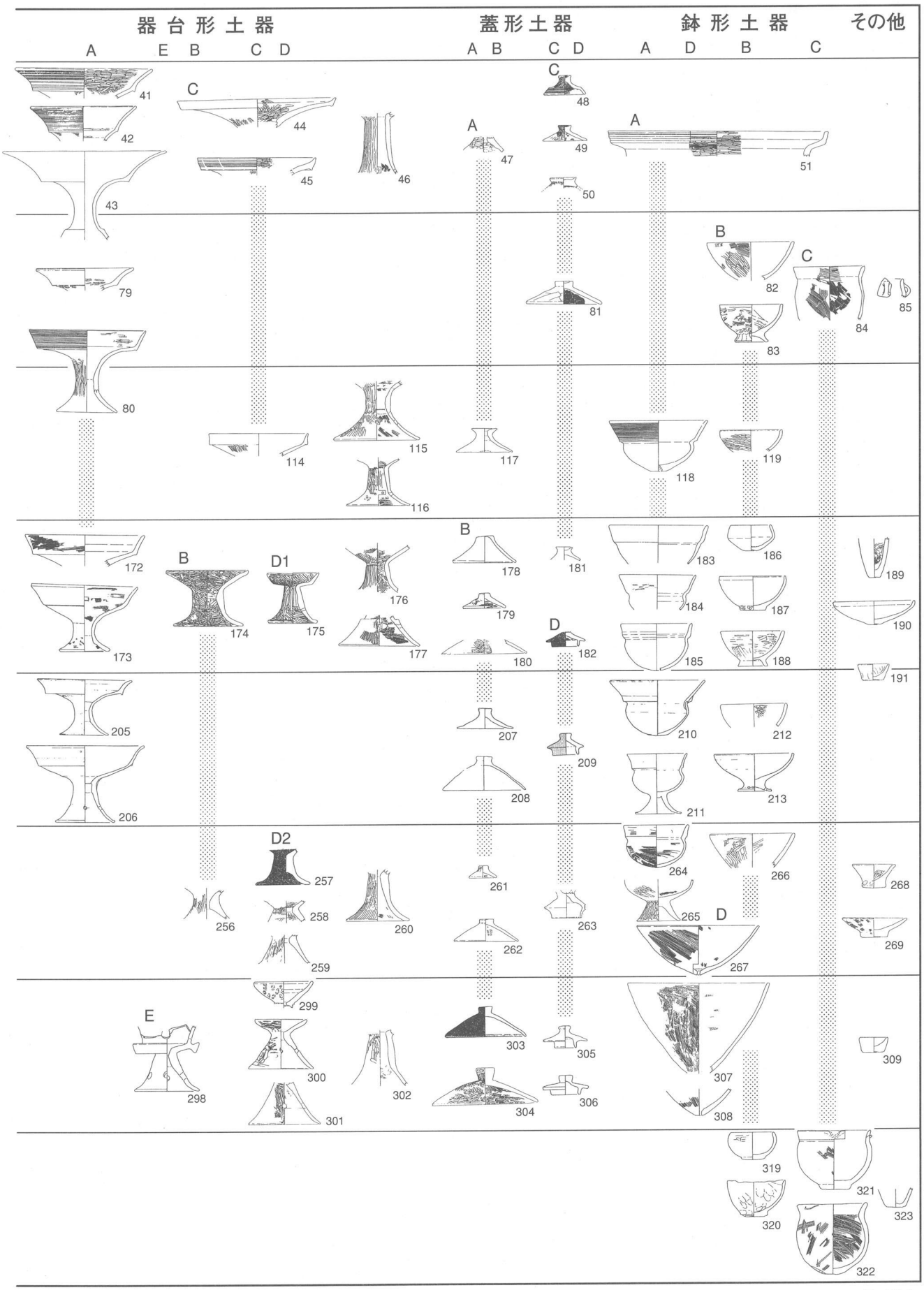


第42図　婦負における古墳出現期の土器変遷案(4)

S=1/10



第43図　婦負における古墳出現期の土器変遷案(5)　S=1/10



第44図　婦負における古墳出現期の土器変遷案(6)

S=1/10

参　考　文　献

あ　石川県立埋蔵文化財センター1986『漆町遺跡Ⅰ』

石川考古学研究会シンポジウム実行委員会1986『シンポジウム「月影式土器」について　報告編』

内田亜紀子1997「越中における古代土師器の編年予察」『埋蔵文化財調査概要―平成８年度―』財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所

内田亜紀子2000「越中婦負郡の古代土師器煮炊具―婦中町中名Ⅰ・Ⅴ・Ⅵ遺跡の竪穴住居出土資料を中心に―」『富山考古学研究』第３号

内田亜紀子2002「富山県の黒色土器―６～８世紀の県内資料を中心にして―」『富山考古学研究』第５号

宇野隆夫1992「食器計量の意義と方法」『国立歴史民俗博物館研究報告』第40集　国立歴史民俗博物館

越中瀬戸焼発祥四百年記念顕彰会実行委員会1988『越中瀬戸―発祥四百年記念誌―』

岡本淳一郎他1999「佐野台地における古墳出現期の土器について」『富山考古学研究』第２号

小沢国夜史2003「富崎城を中心とした城のうつり変わりにみる婦中町の戦国時代」婦中町教育委員会生涯学習フェスティバル文化財ミニ講座レジメ

小田木治太郎1989「北陸東部における古墳時代開始期の土器様相」『北陸の考古学Ⅱ　石川考古学研究会々誌』第32号　石川考古学研究会

か　上市町教育委員会1984『北陸自動車道遺跡調査報告―上市町土器・石器編―』

上市町教育委員会1984『北陸自動車道遺跡調査報告―上市町木製品・総括編―』

金沢市教育委員会1995『石川県金沢市上荒屋遺跡Ⅰ』

金沢市・金沢市教育委員会1996『西念・南新保遺跡Ⅳ』

金沢市埋蔵文化財センター1999『戸水遺跡群Ⅰ戸水ホコダ遺跡』

河合忍、稲石純子1997「Ⅳ考察―翠尾Ⅰ遺跡出土の弥生土器について―」『翠尾Ⅰ遺跡発掘調査報告書１』八尾町教育委員会

木田清1998「法仏式土器の認識と再確認」『石川考古学研究会々誌』第41号　石川考古学研究会

小杉町教育員会1999『HS―04遺跡発掘調査報告』

さ　財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所1994『梅原胡摩堂遺跡発掘調査報告（遺構編）』

財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所1994『梅原胡摩堂遺跡発掘調査報告（遺物編）』

財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所1998『五社遺跡発掘調査報告』

財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所1999『富山県指定史跡勅使塚古墳発掘調査レポート』

財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所2002『清水島Ⅱ遺跡・中名Ⅱ遺跡・持田Ⅰ遺跡発掘調査報告』

財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所2002『石名田木舟遺跡発掘調査報告』

酒井重洋　1997「中世土師器の分類について―清水島Ⅱ遺跡・中名Ⅱ遺跡・持田Ⅰ遺跡から―」『埋蔵文化財調査概要―平成８年度―』財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所

た　富山考古学会1999『富山考古学会創立50周年記念シンポジウム　富山平野の出現期古墳《発表要旨・資料集》』

富山市教育委員会1974『富山市杉谷地内埋蔵文化財予備調査報告書』

富山市教育委員会1975『富山市杉谷（A・G・H）遺跡発掘調査報告』

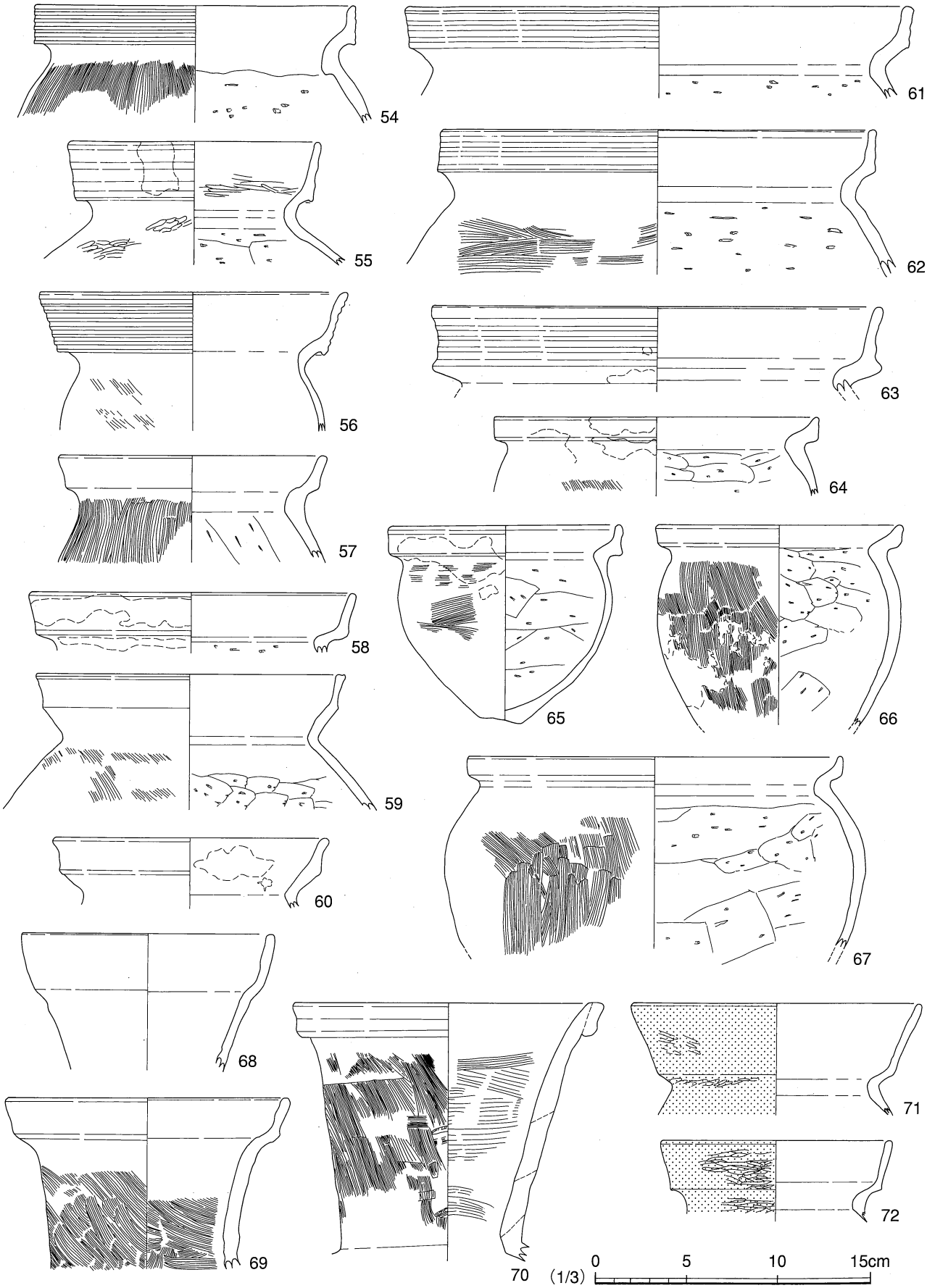
富山県教育委員会1986『富山県小杉町・大門町小杉流通業務団地内遺跡群　第８次緊急調査概要　―小杉丸山遺跡―』

富山県埋蔵文化財センター・大門町教育委員会1992『大門町企業団地内遺跡発掘調査報告（２）―布目沢北遺跡第３次調査―』

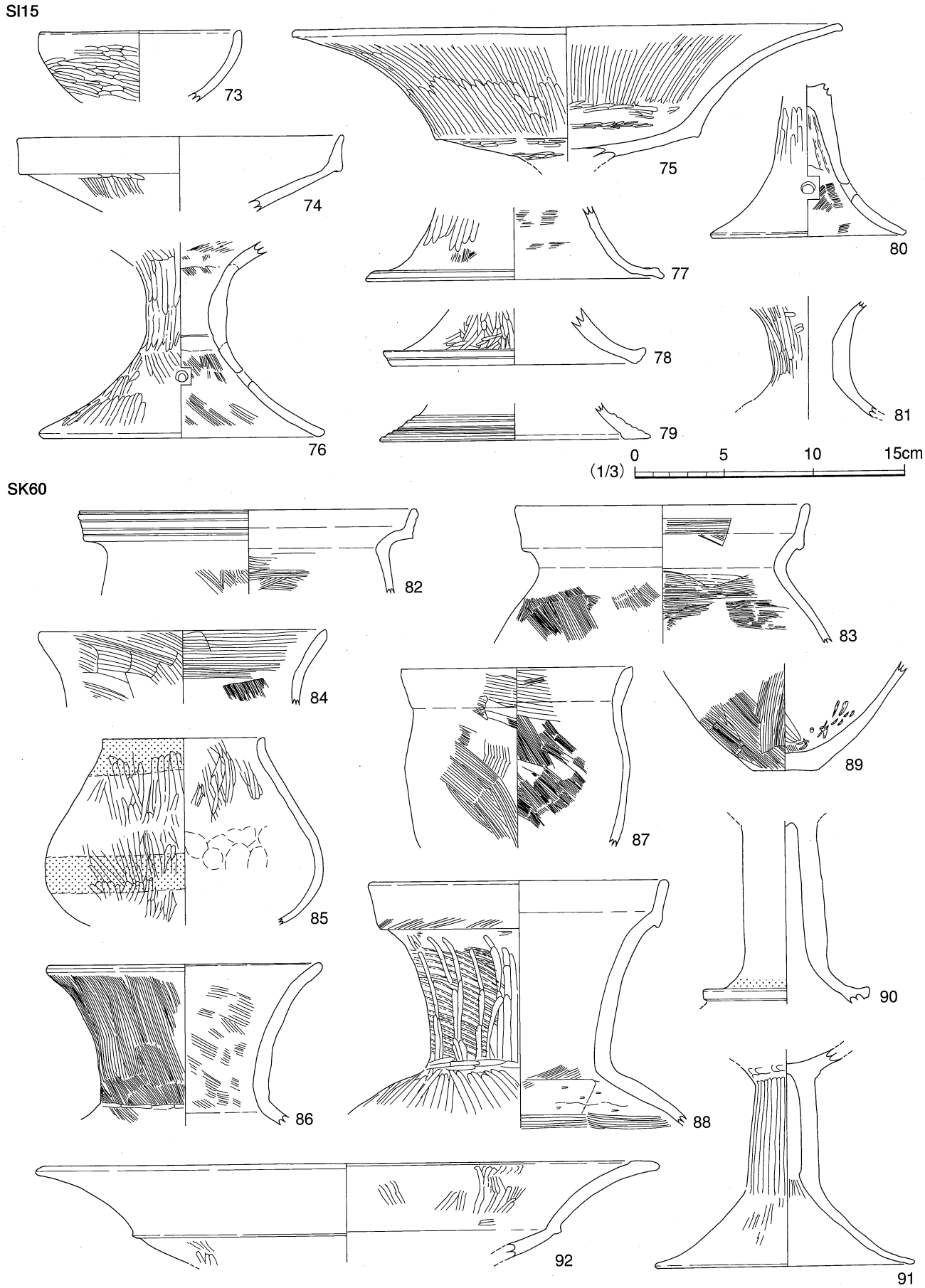
富山大学人文学部考古学研究室1990『越中王塚・勅使塚古墳測量調査報告―北陸の前方後円・後方墳の一考察』

は　婦中町1967『婦中町史』
婦中町1997『婦中町史』
婦中町教育委員会1995『千坊山遺跡（１）』
婦中町教育委員会1996『千坊山遺跡（２）』
婦中町教育委員会1998『千坊山遺跡（３）』
婦中町教育委員会1998『富山県婦中町南部Ⅰ遺跡発掘調査報告』
婦中町教育委員会2000『富山県婦中町南部Ⅰ遺跡発掘調査報告Ⅱ』
婦中町教育委員会2000『富山県婦中町県営担い手育成基盤整備事業に係る埋蔵文化財試掘調査報告書―婦中南部地区・千里地区』
婦中町教育委員会2002『富山県婦中町千坊山遺跡群試掘調査報告書』
北陸中世土器研究会1997『中近世の北陸―考古学が語る社会史』
ま　町田尚美2002「富山県出土の中世後期瓦質土器」『富山考古学研究』第５号
宮田進一1988「越中瀬戸の窯資料（１）」『大境』第12号富山考古学会
や　谷内尾晋司1983「北加賀における古墳出現期の土器について」『北陸の考古学　石川考古学研究会々誌　第26号』
八尾町教育委員会1997『翠尾Ⅰ遺跡発掘調査報告書１』
雄山閣1996『日本土器事典』
吉岡康暢1989『珠洲の名陶』珠洲市立珠洲焼資料館
吉岡康暢1991『日本海域の土器・陶磁［古代編］』六興出版

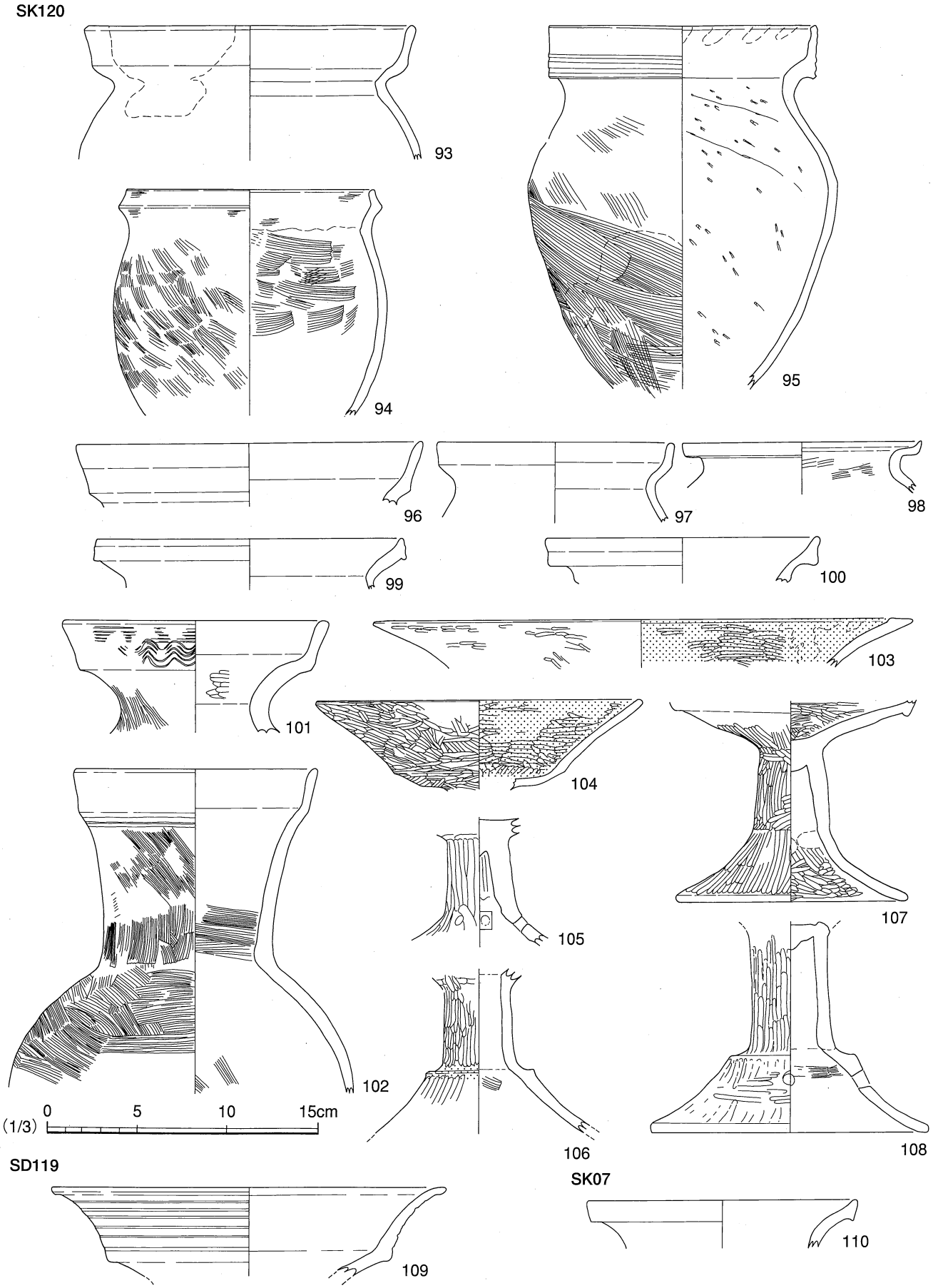
SI15



第45図　A区出土遺物(1/3)

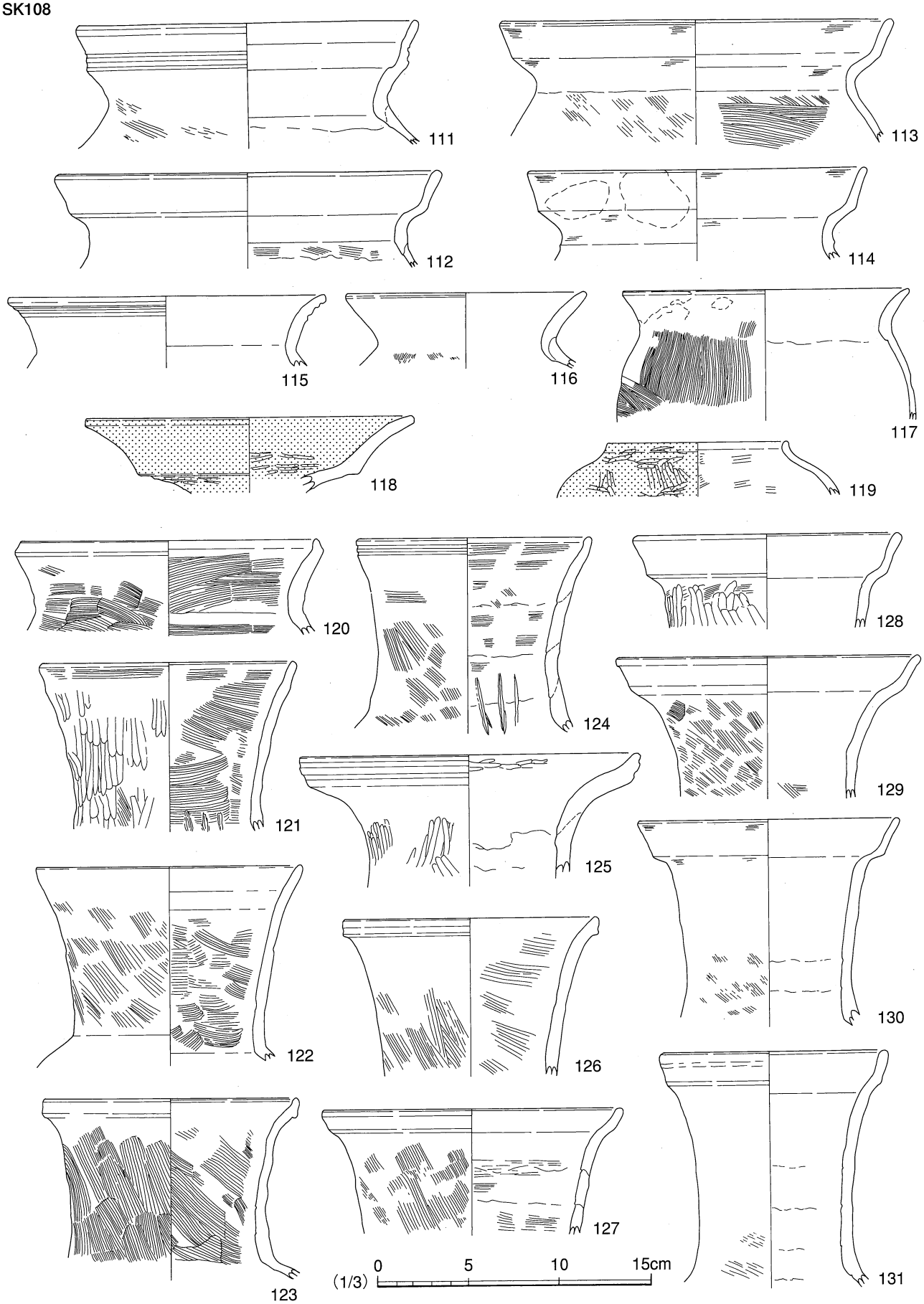


第46図　A区出土遺物(1/3)

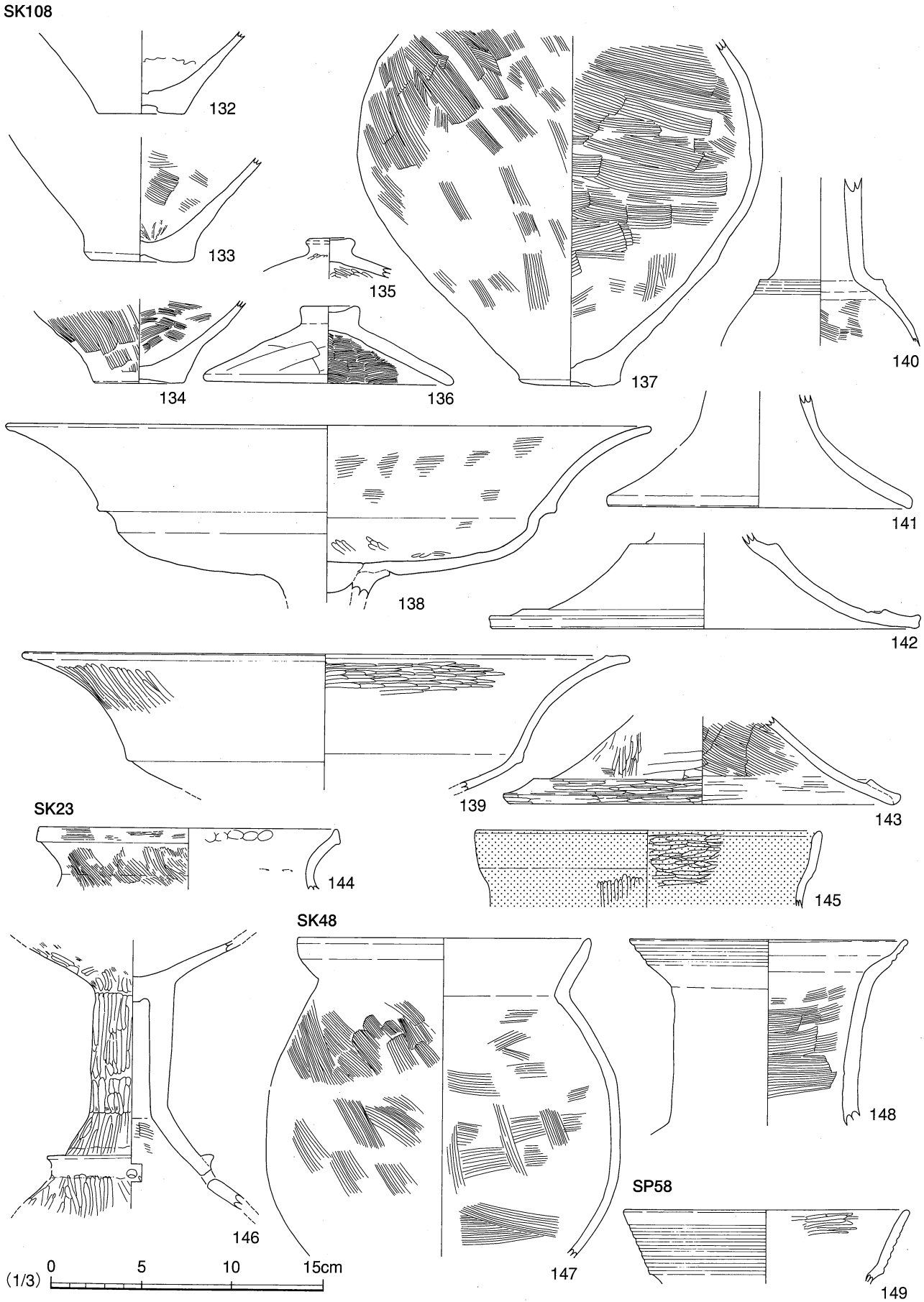


第47図　A区出土遺物(1/3)

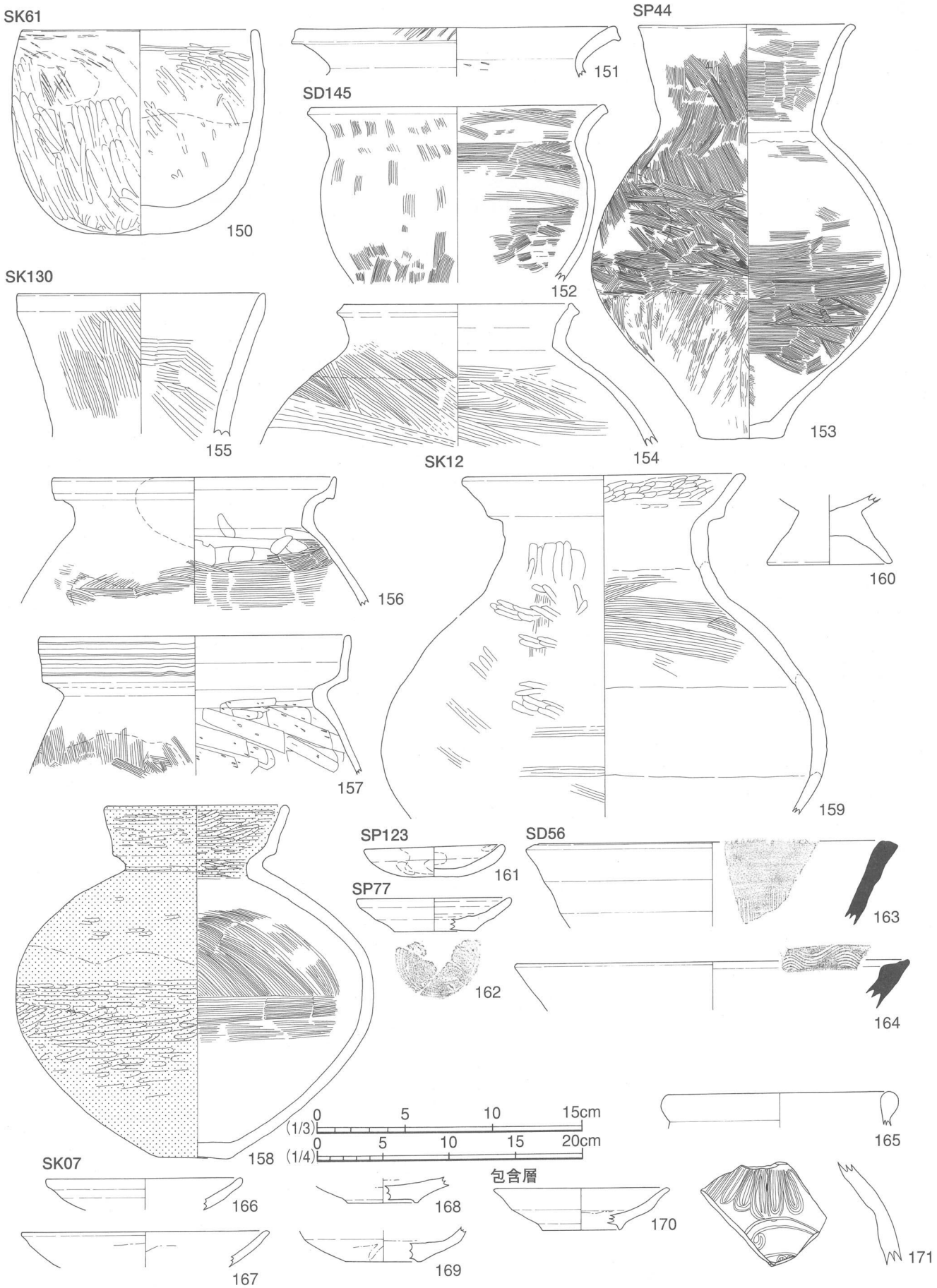
SK108



第48図　A区出土遺物(1/3)

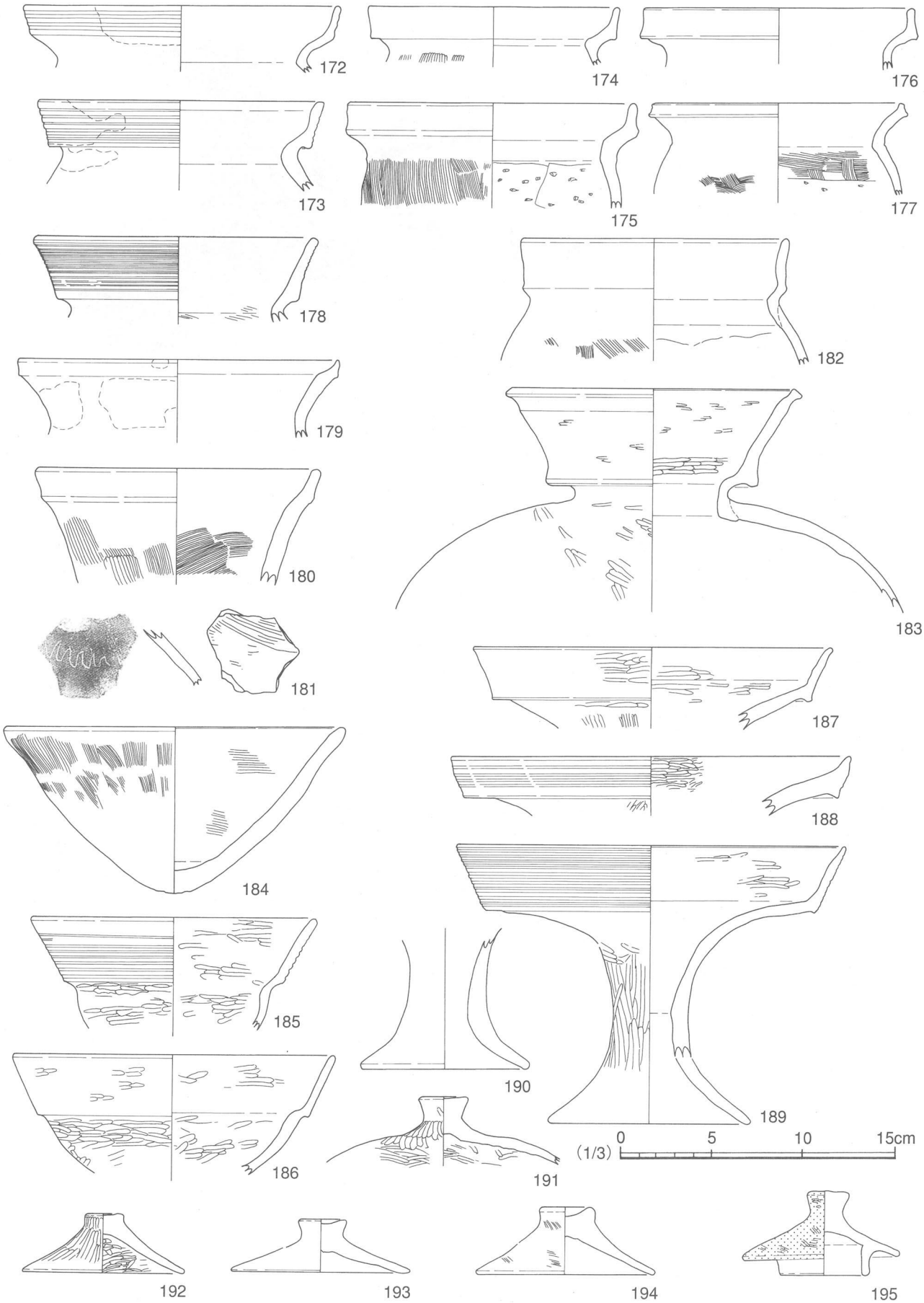


第49図　A区出土遺物(1/3)



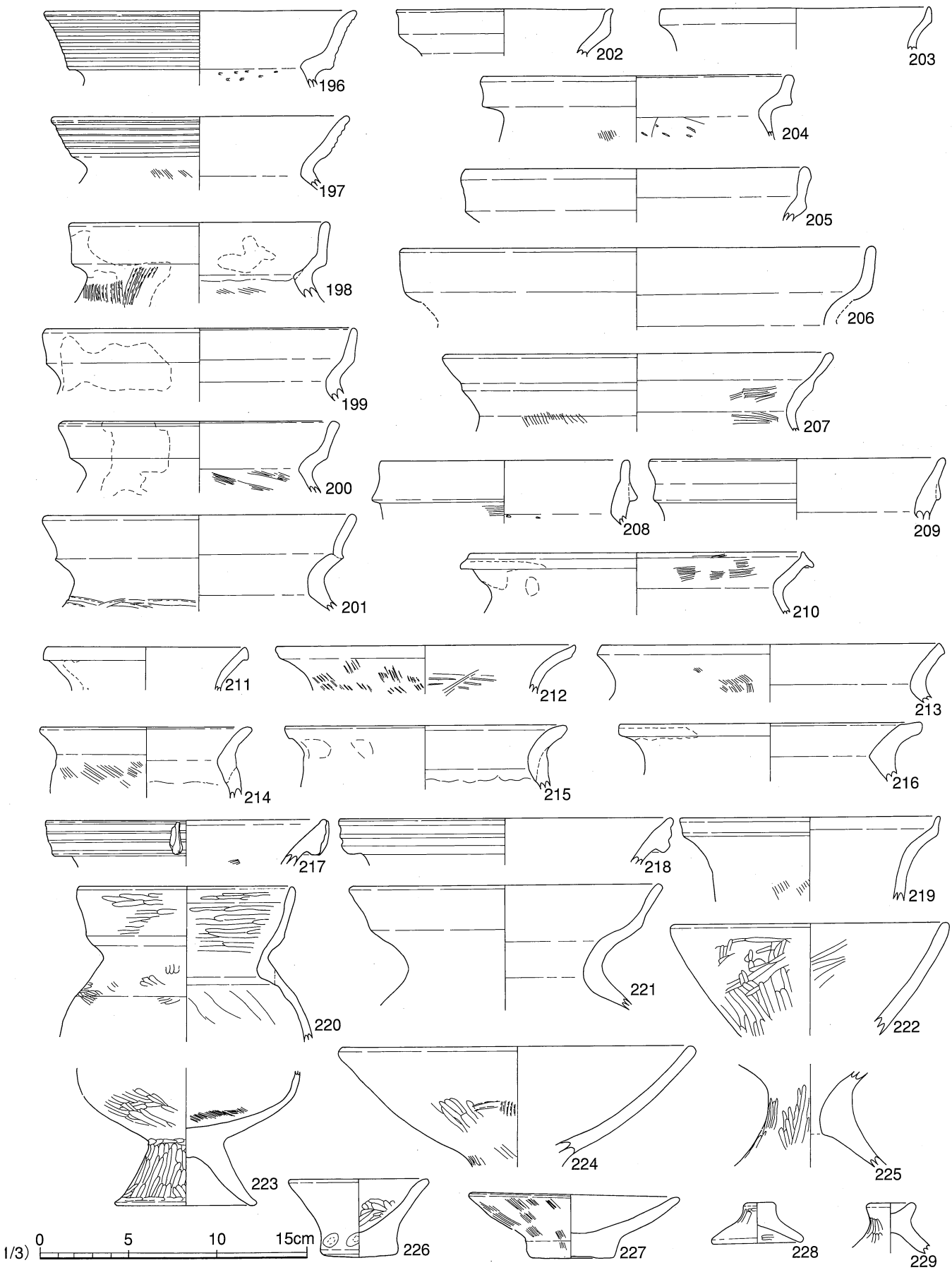
第50図　A区出土遺物（163・164は1/4,その他は1/3）

包含層

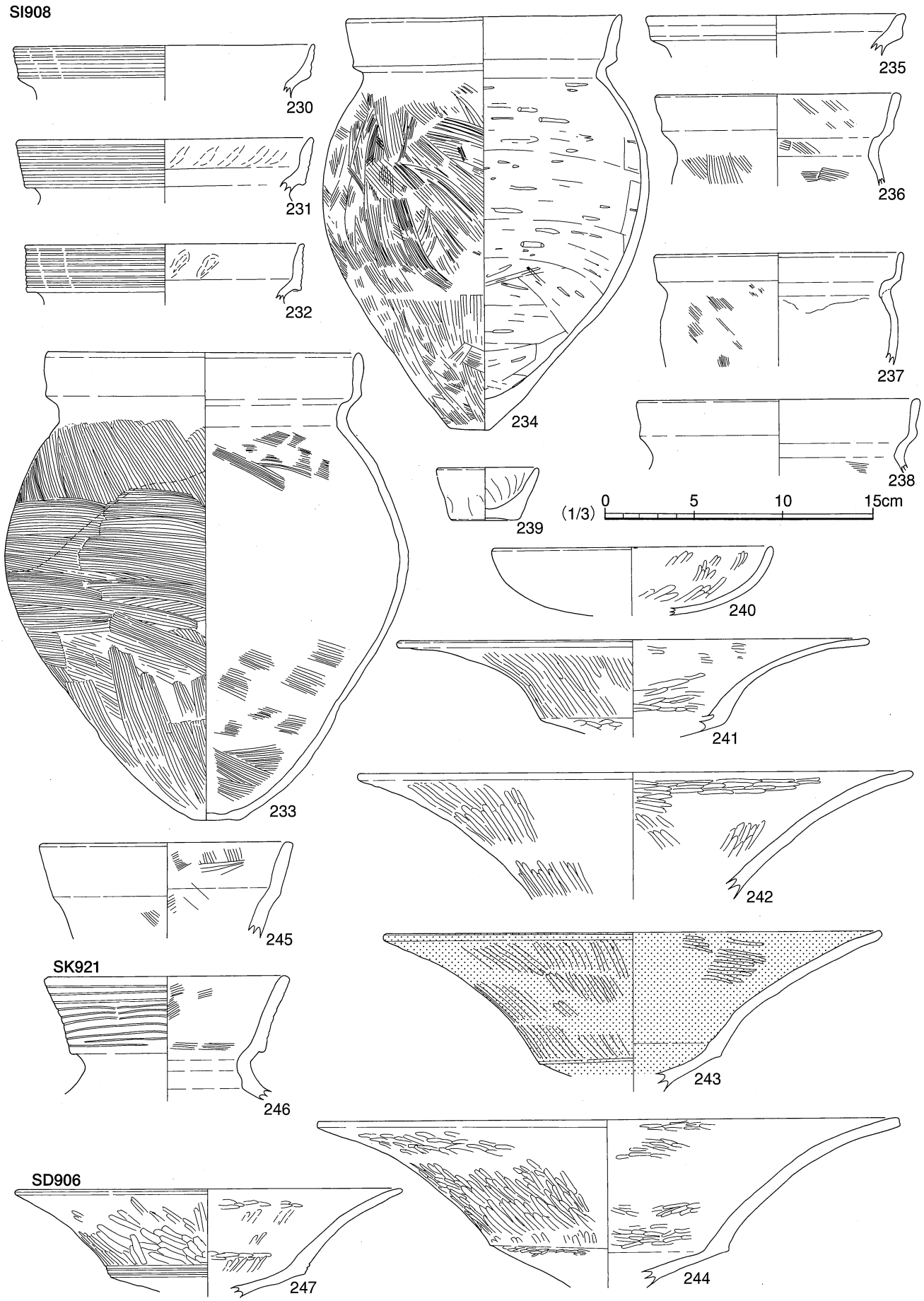


第51図　A区出土遺物(1/3)

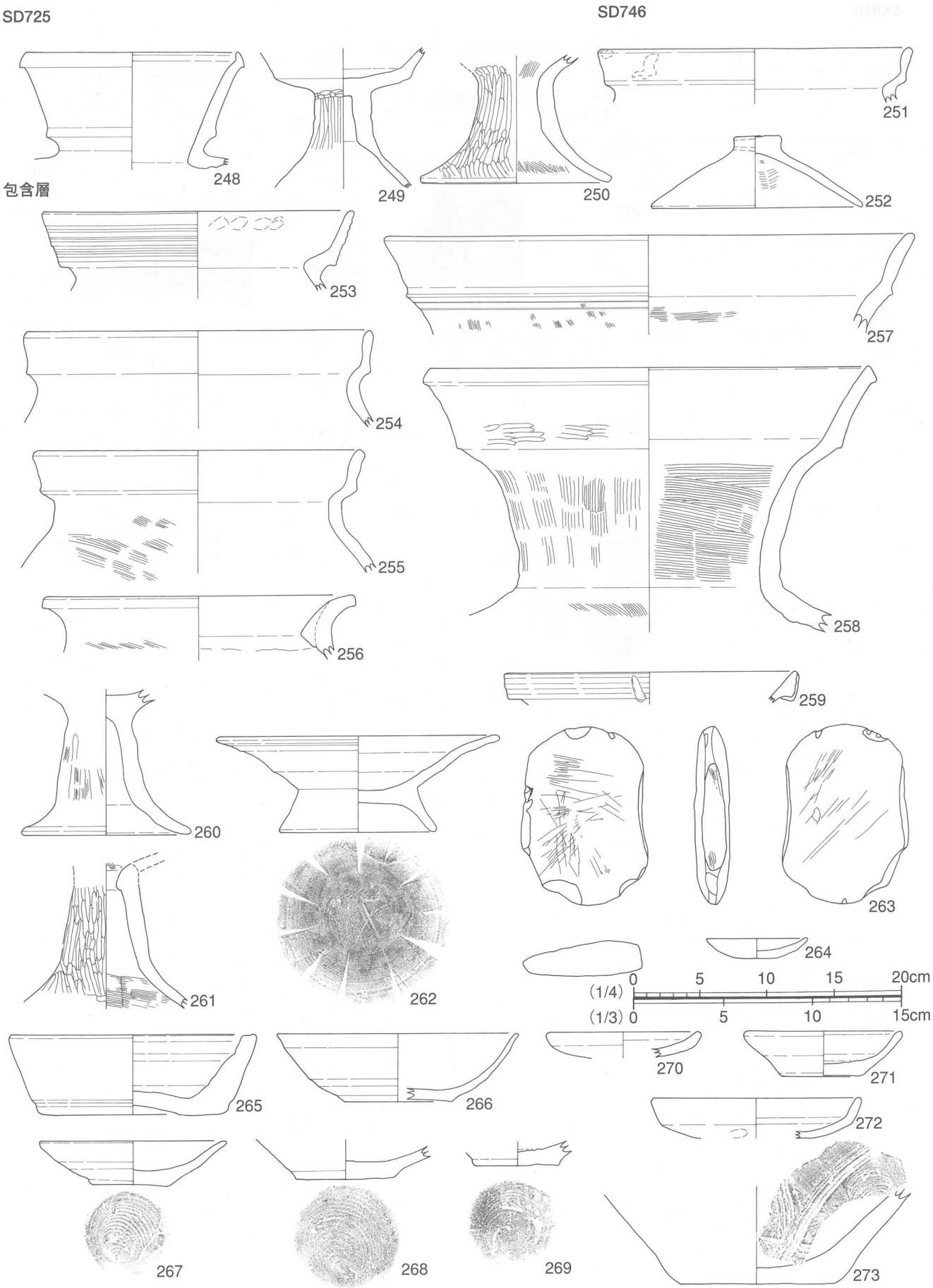
SI745



第52図　B区出土遺物(1/3)

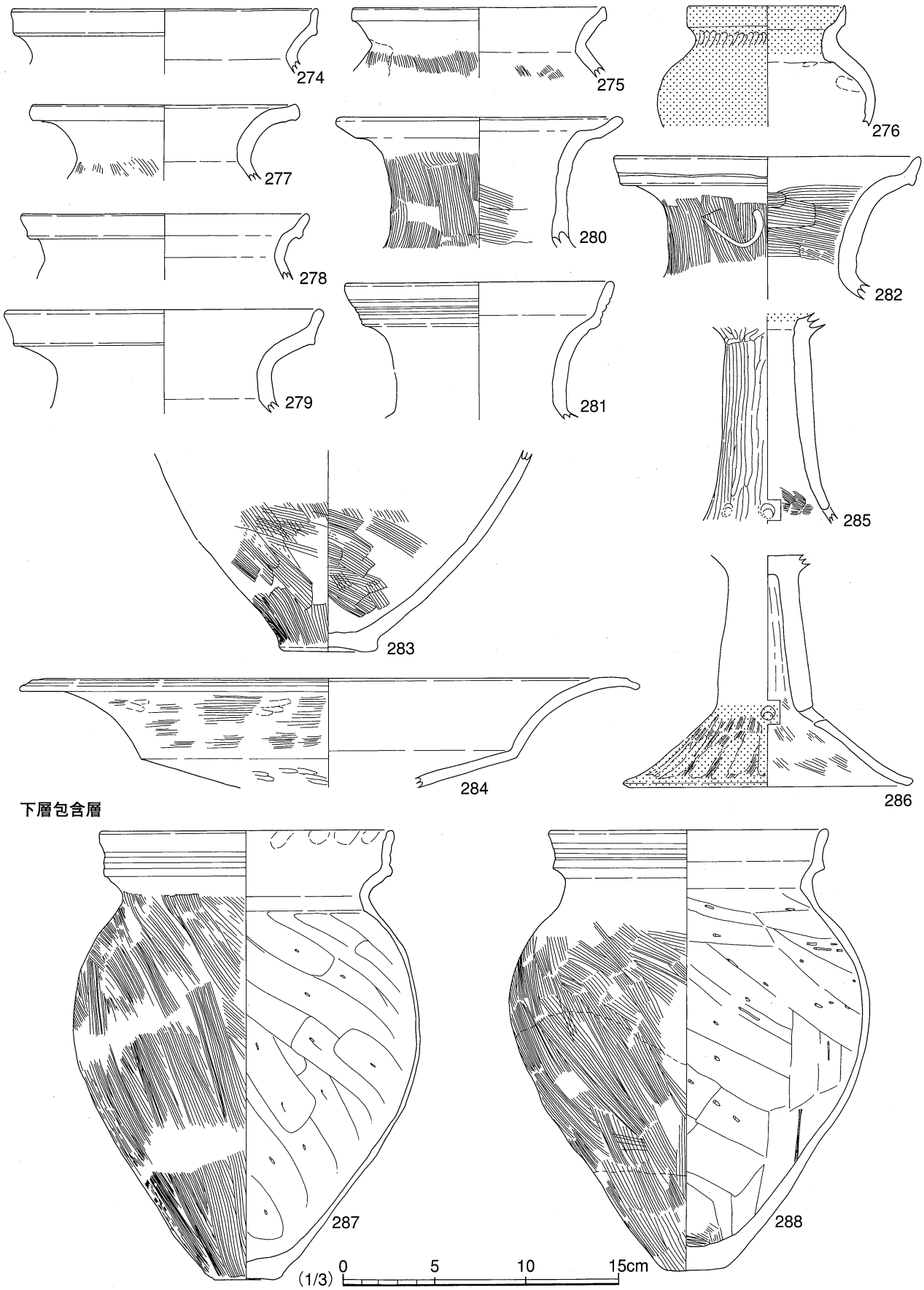


第53図　B区出土遺物(1/3)



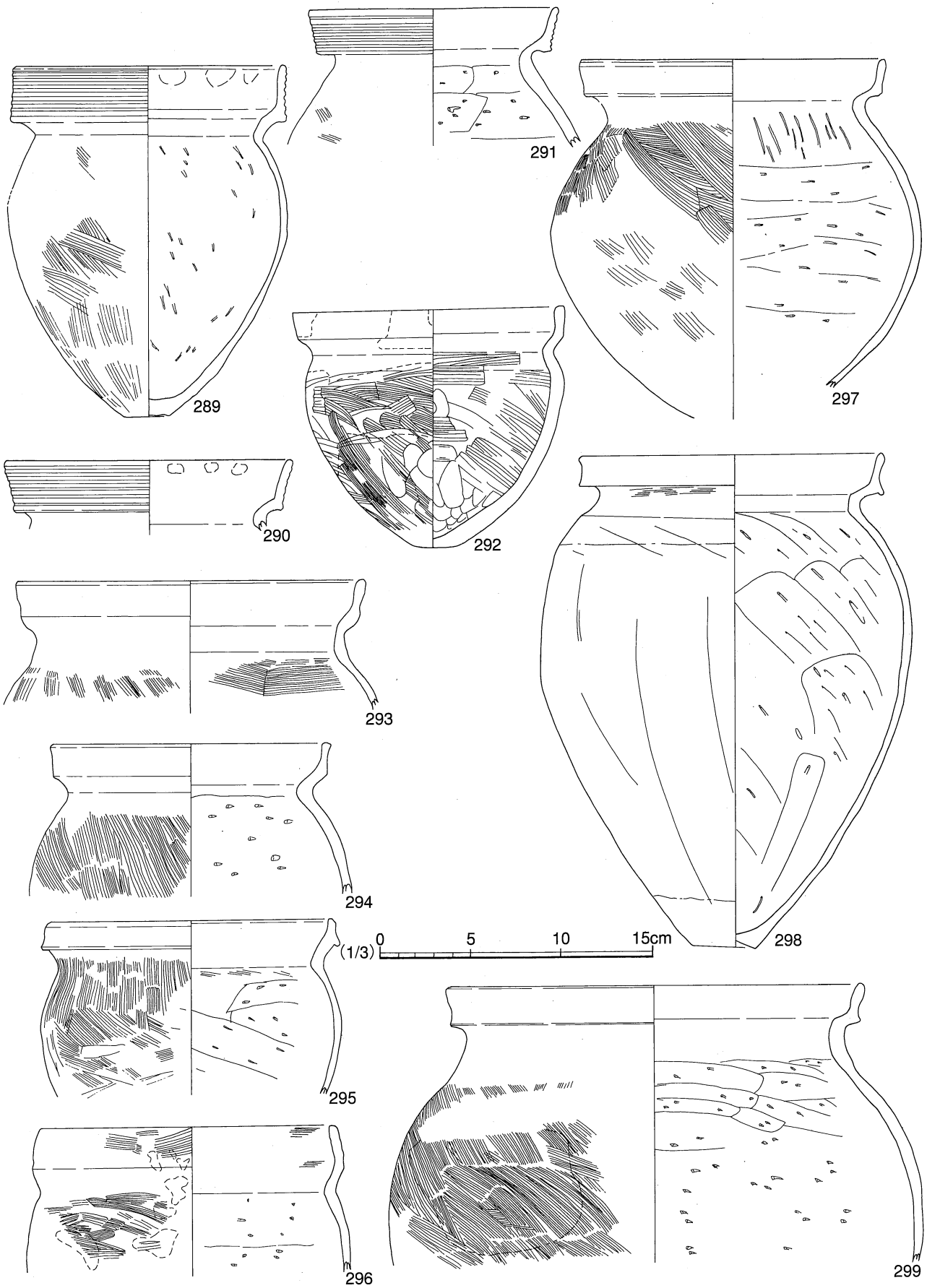
第54図　B区出土遺物（263・273は1/4，その他は1/3）

SK816



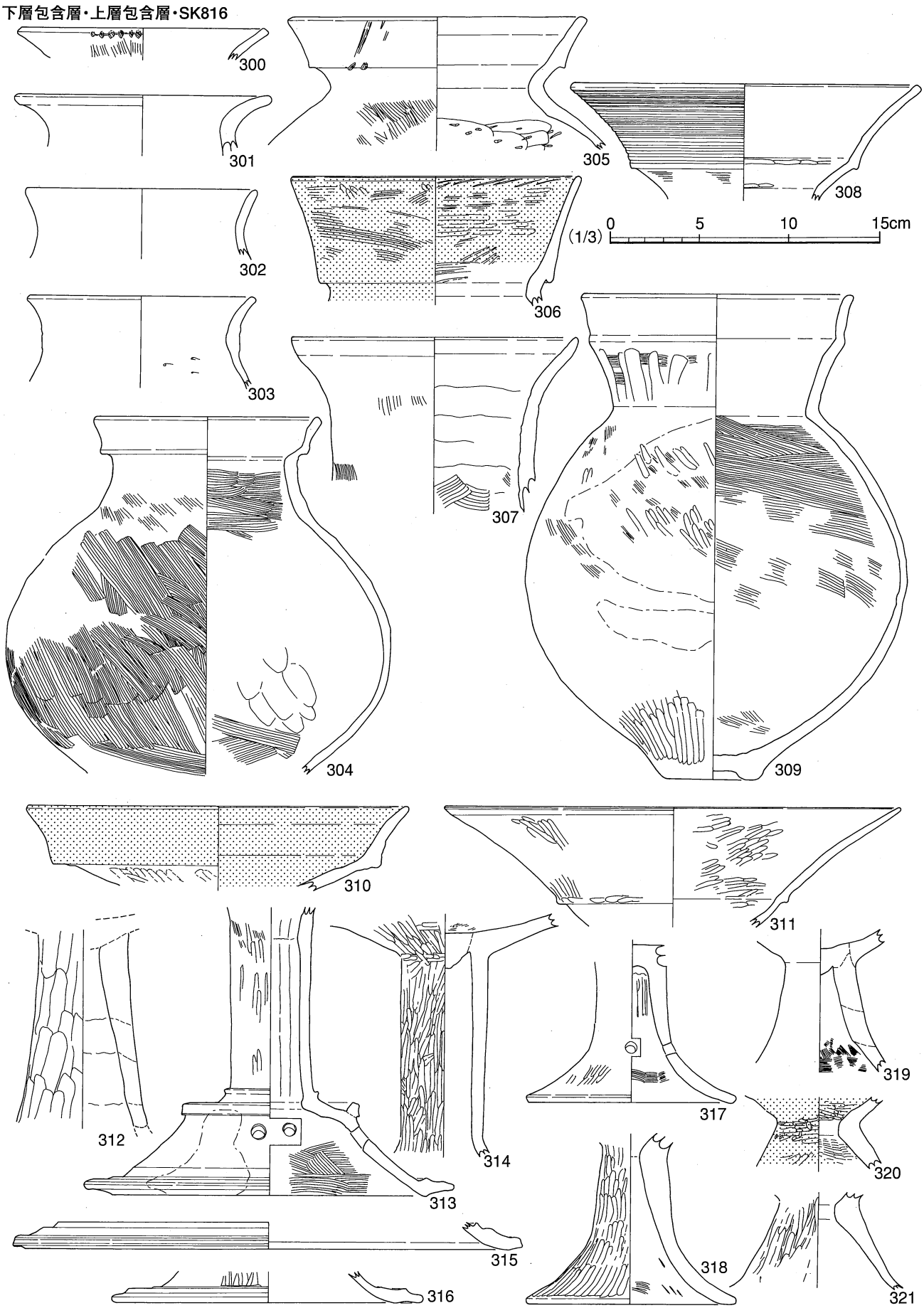
第55図　C区出土遺物(1/3)

下層包含層

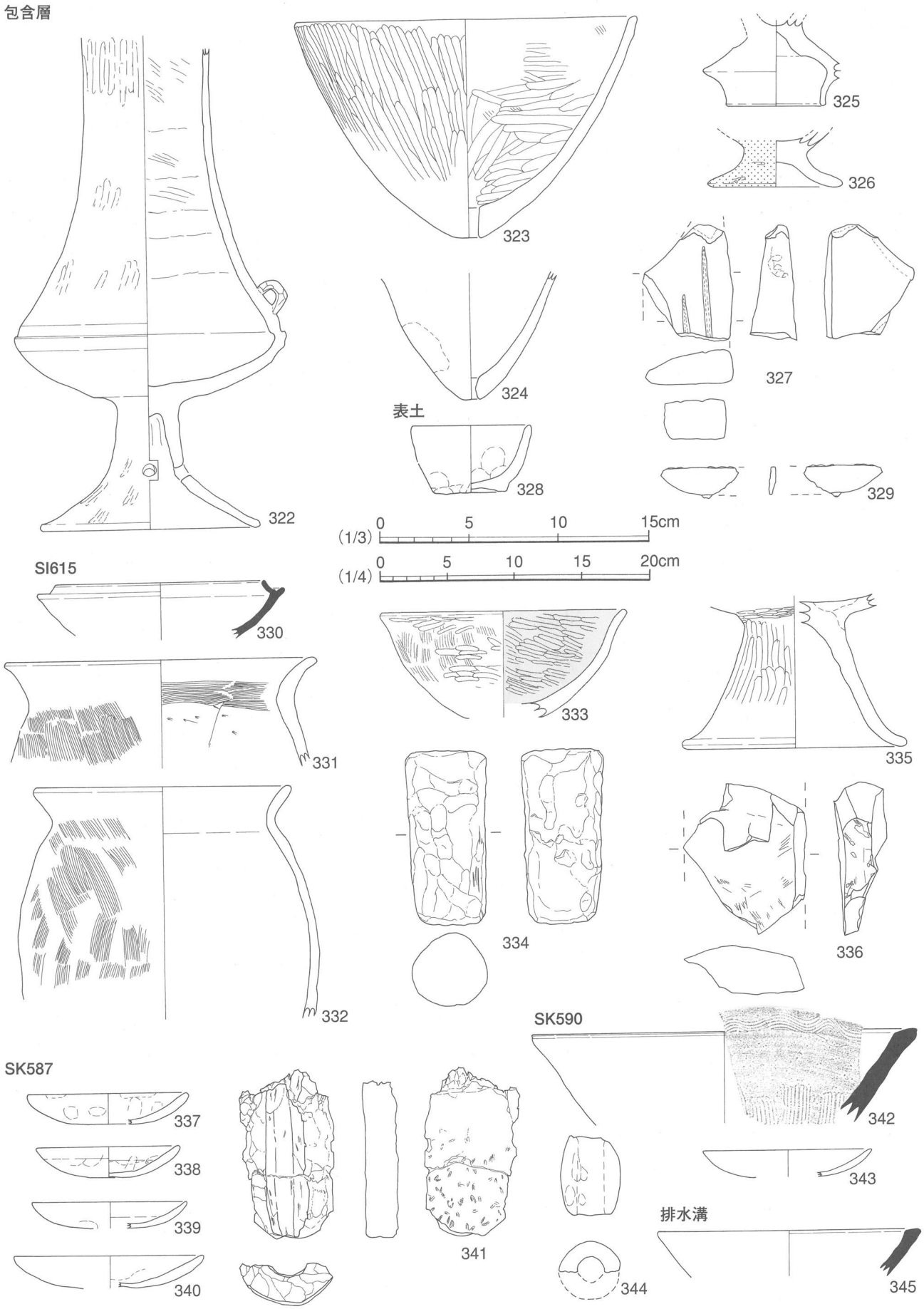


第56図　C区出土遺物(1/3)

下層包含層・上層包含層・SK816

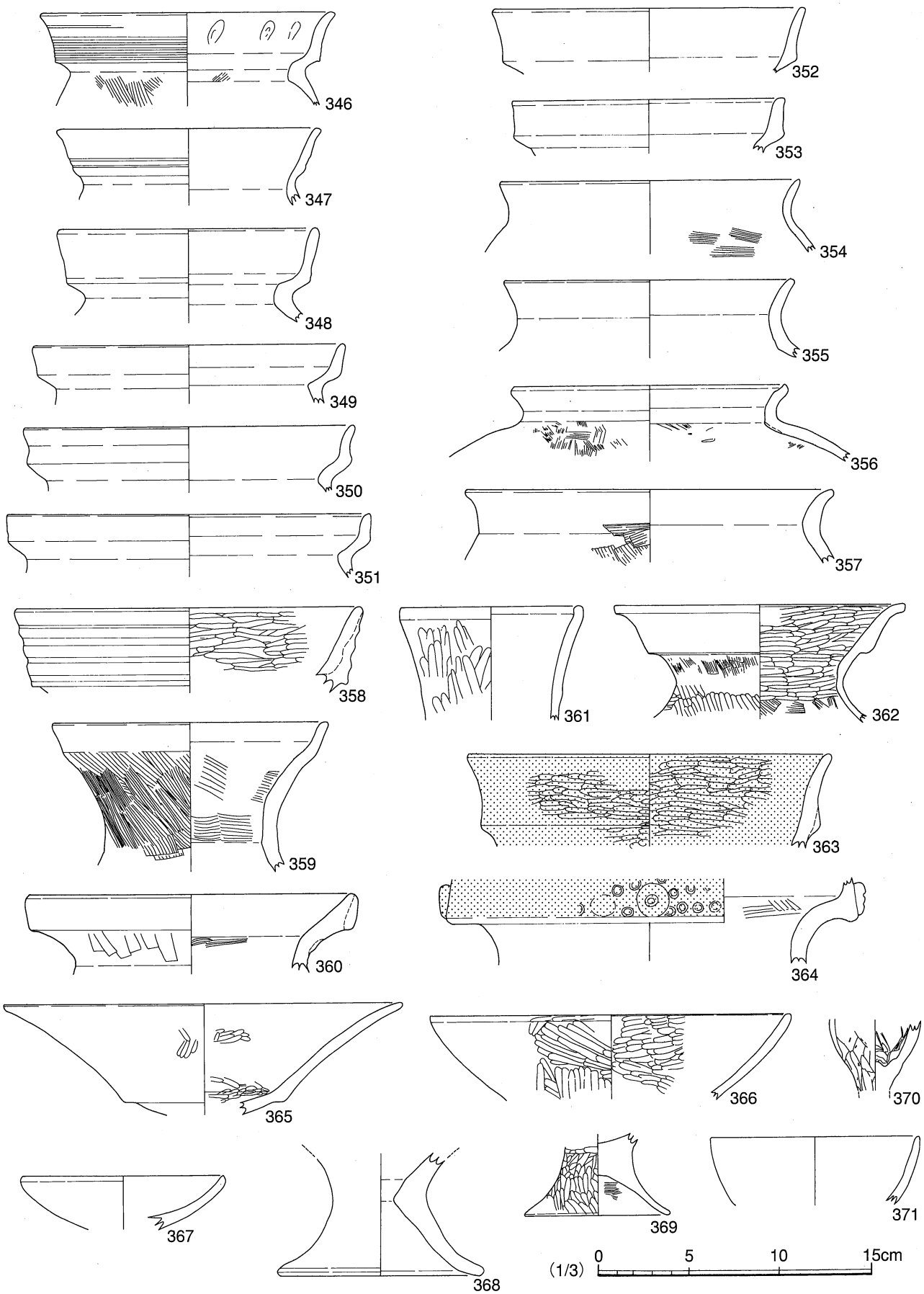


第57図　C区出土遺物(1/3)　下層包含層:300～302,304,306,310,311,314,317,319
上層包含層:305,309,318,320,321　SK816:313,316　排水溝:303,307,308,312
表土:315



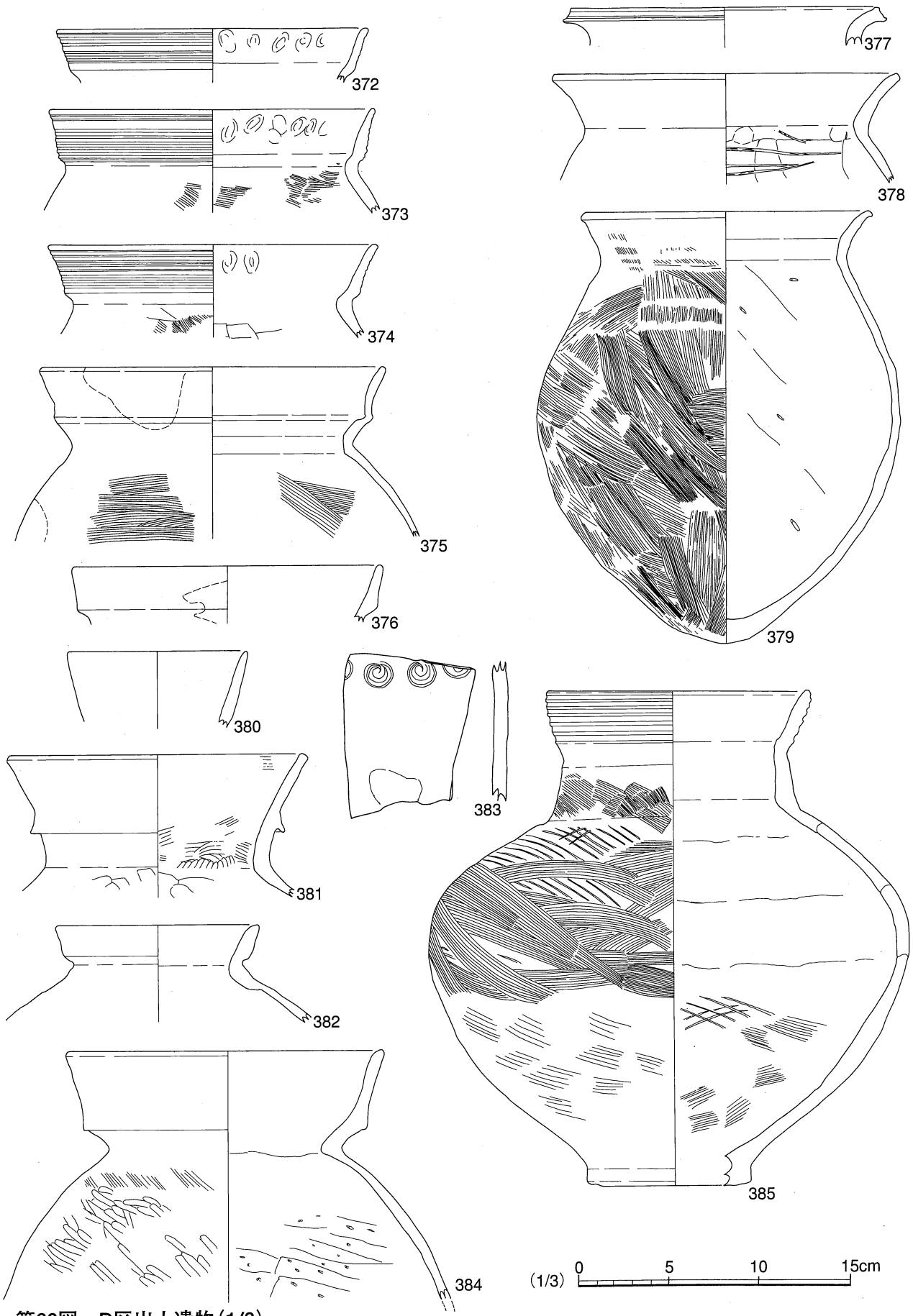
第58図　C区出土遺物（328・334・336・341・342・344・345は1/4,その他は1/3）
下層包含層:322～324,327　上層包含層:325,326

SD275



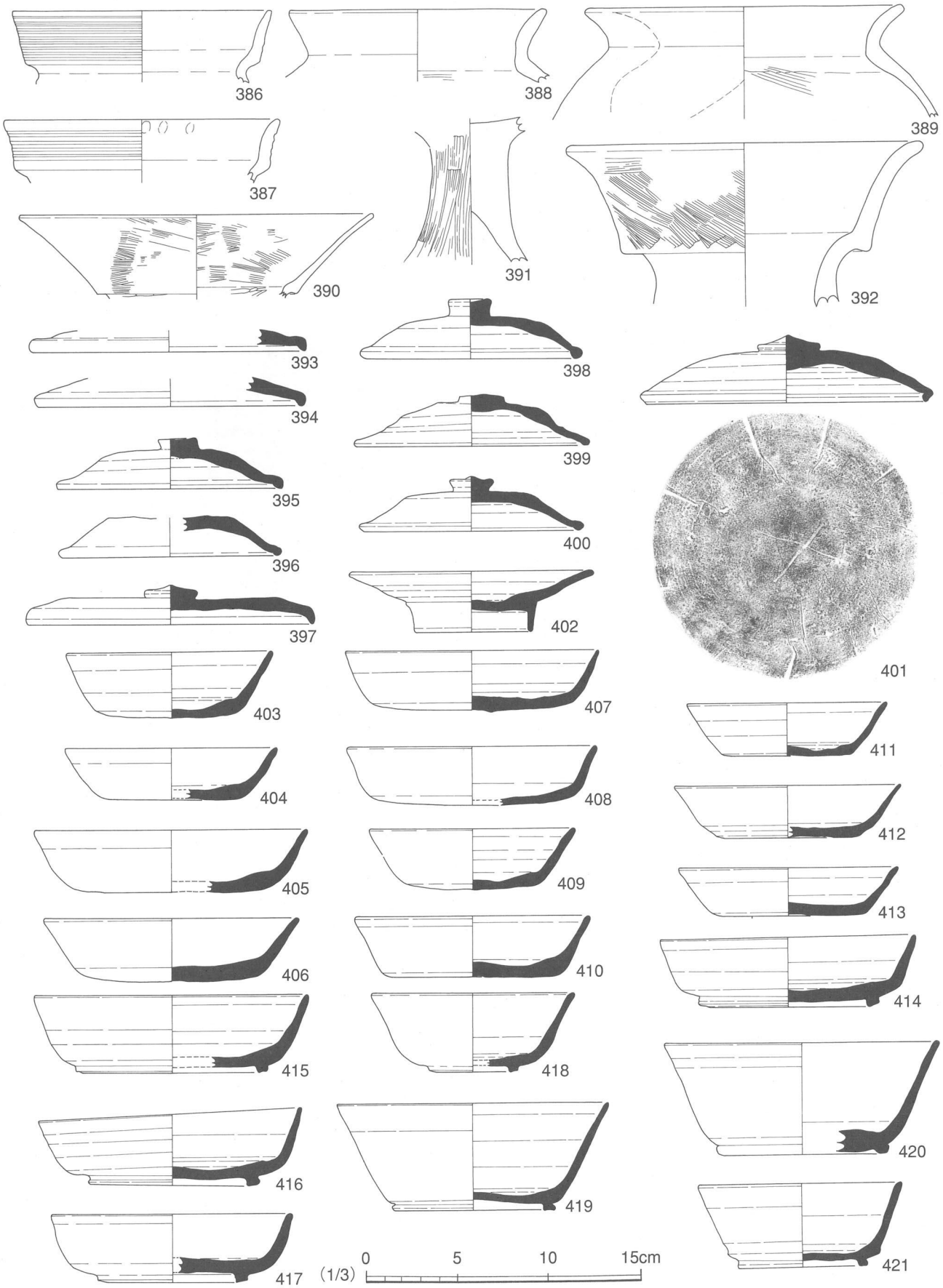
第59図　D区出土遺物(1/3)

SD277



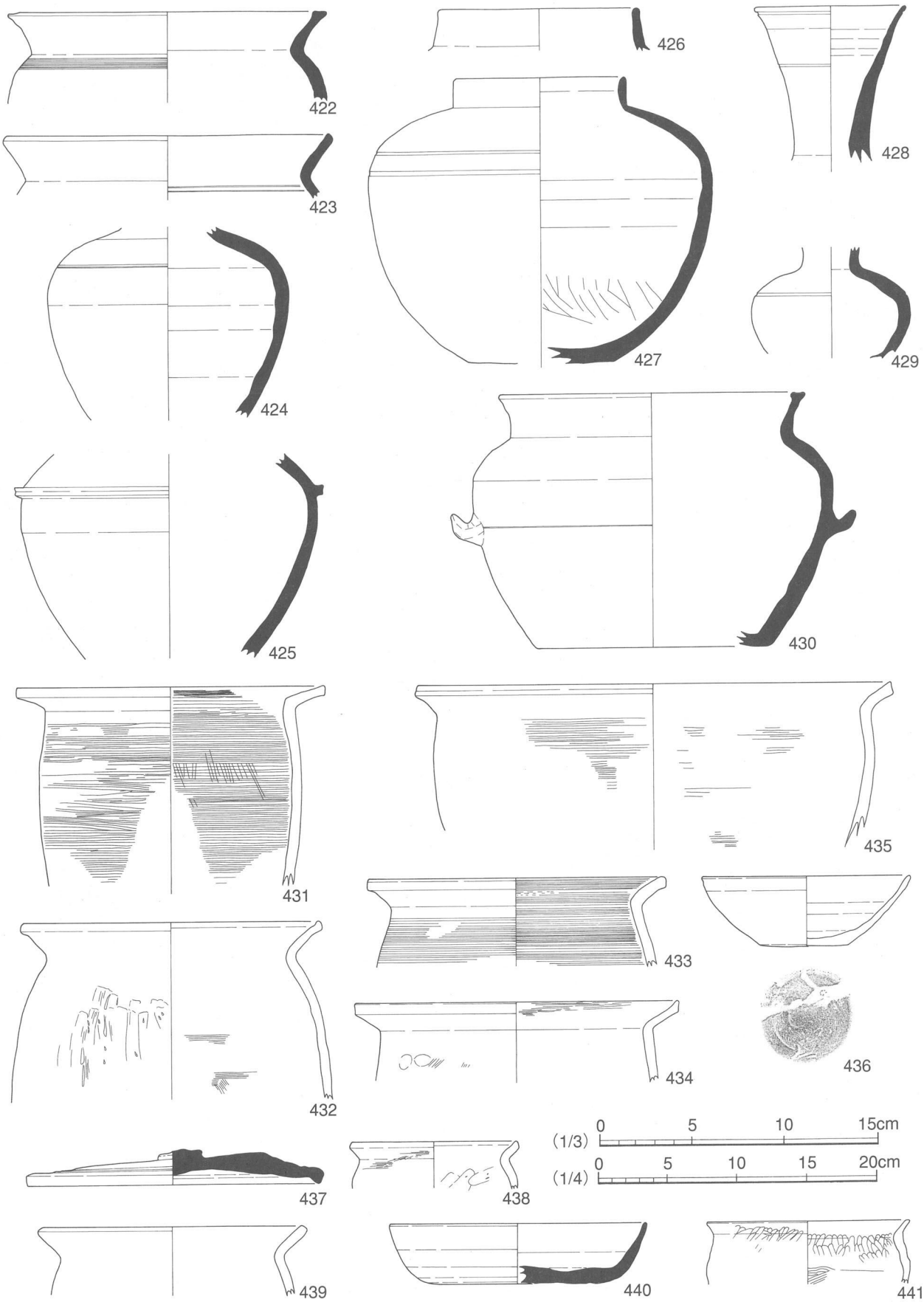
第60図　D区出土遺物(1/3)

SD276

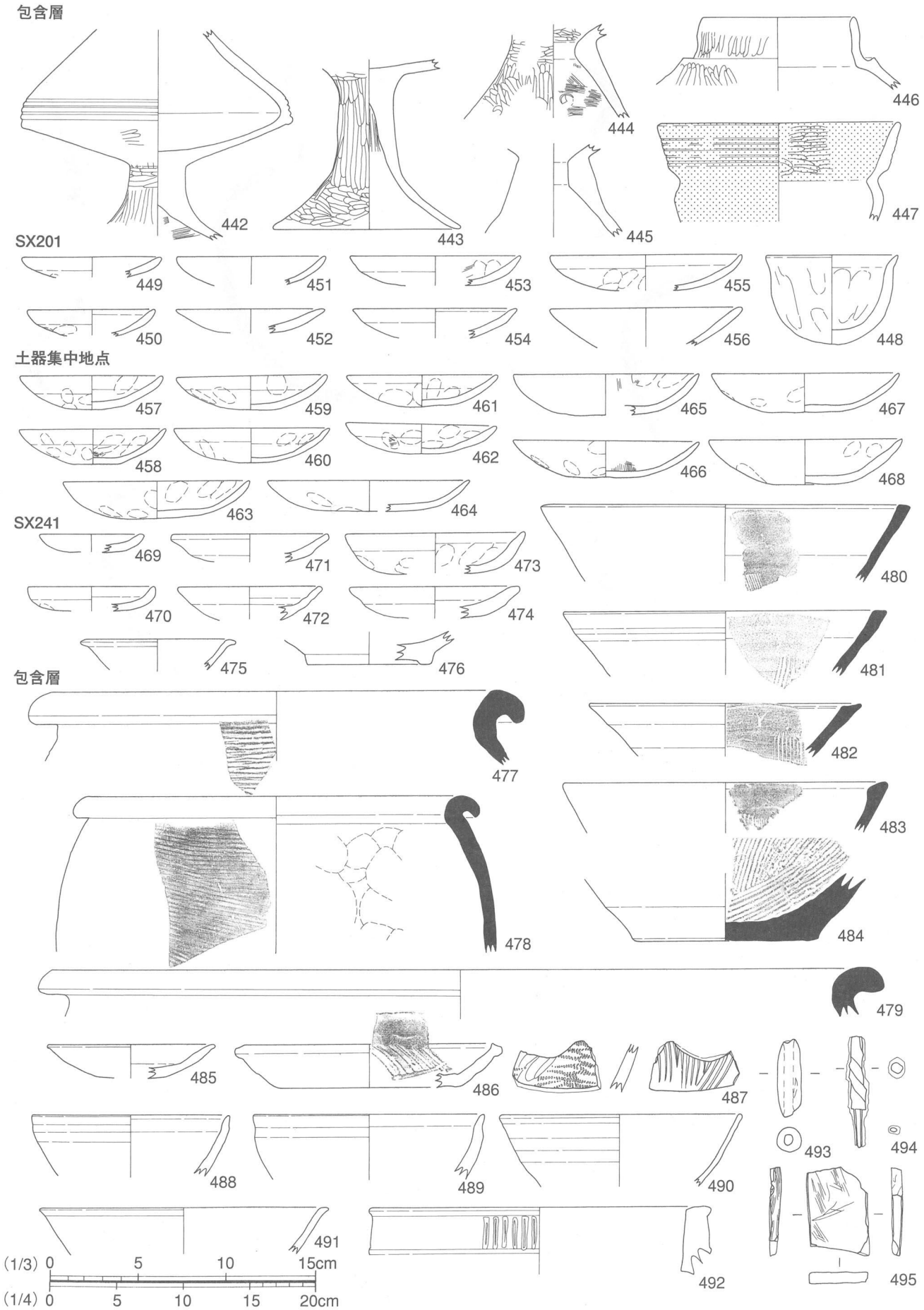


第61図　D区出土遺物(1/3)

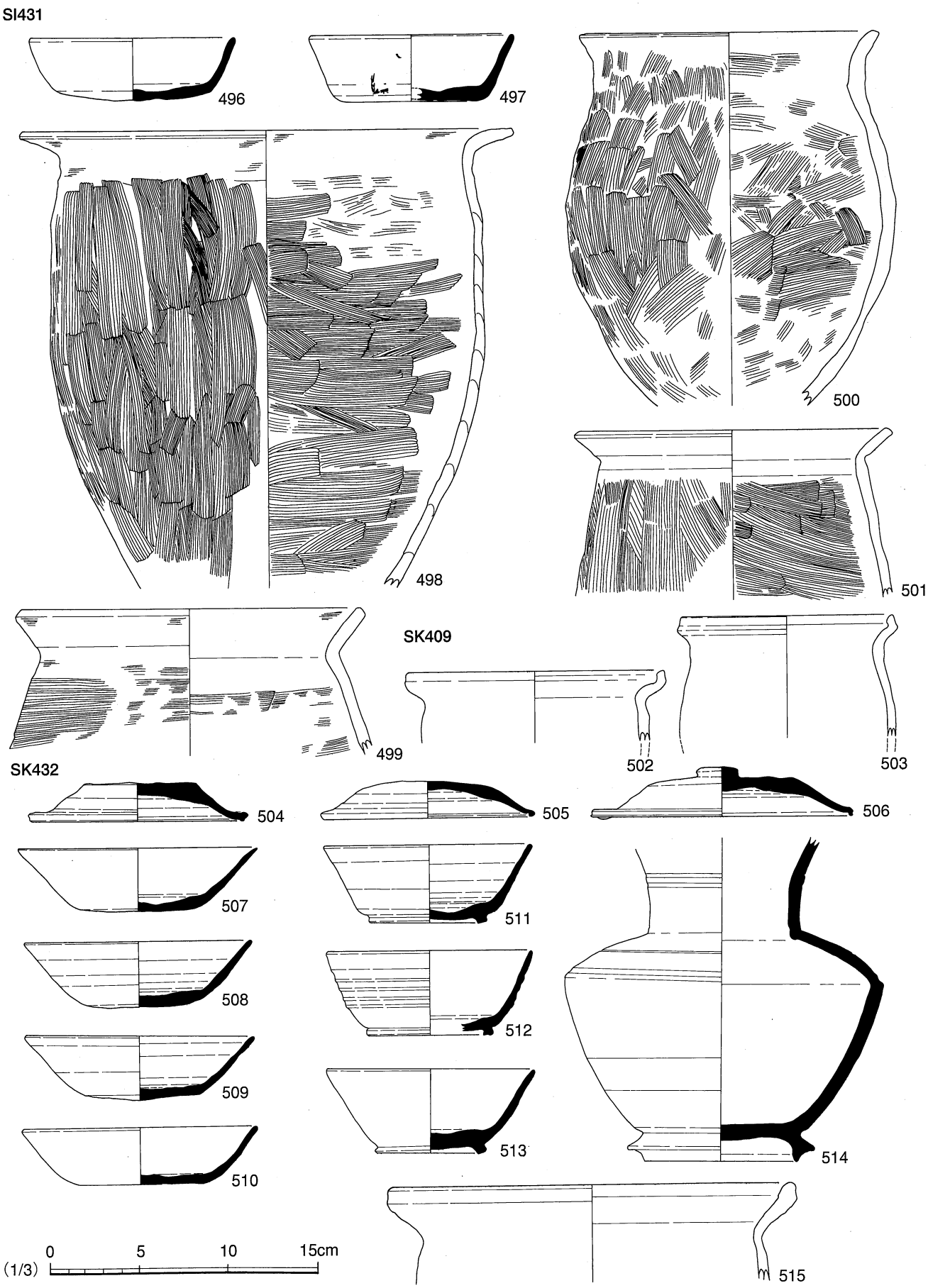
SD276



第62図　D区出土遺物（422～436は1/4,その他は1/3）

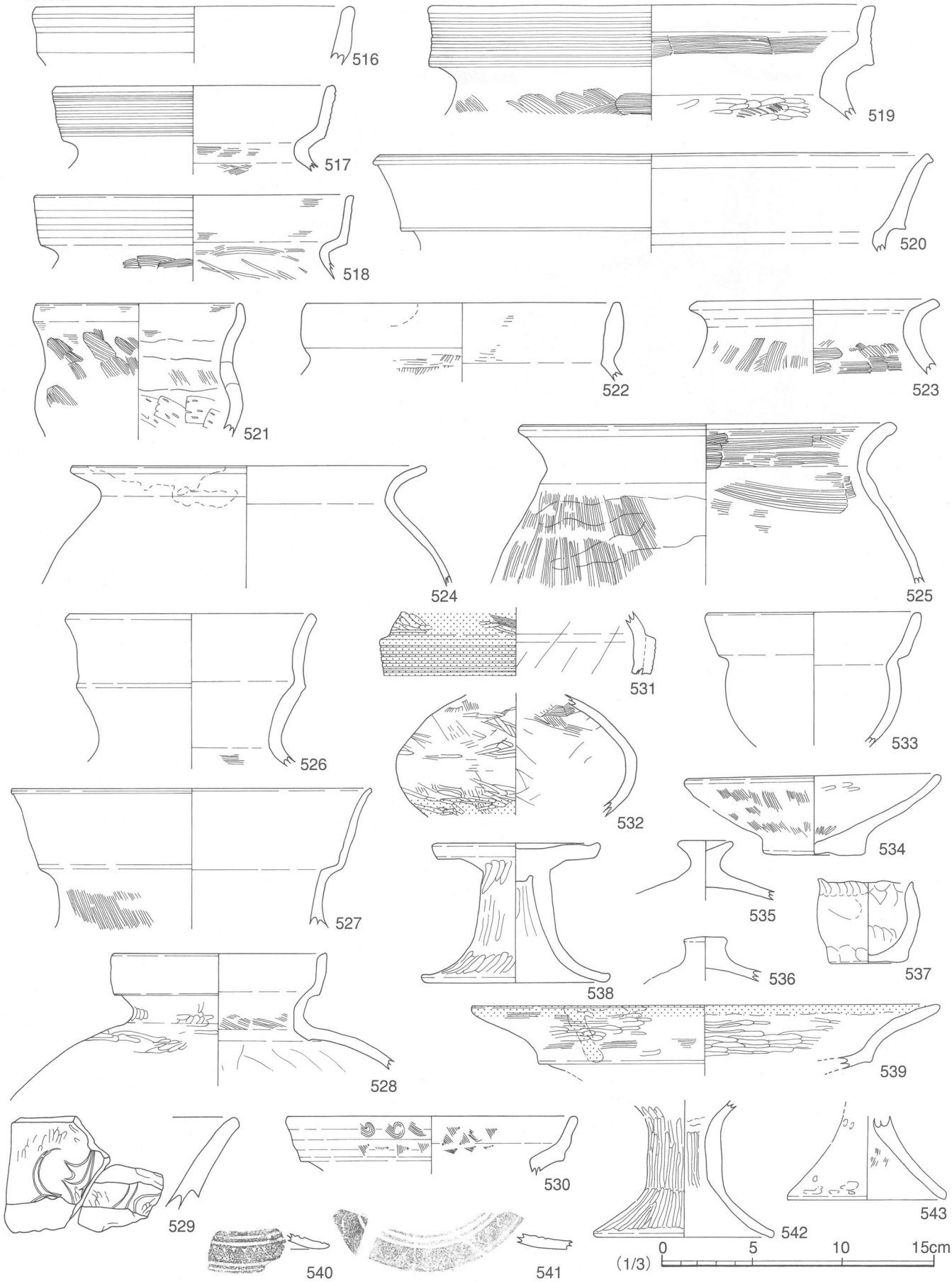


第63図　D区出土遺物（477～484は1/4,その他は1/3）



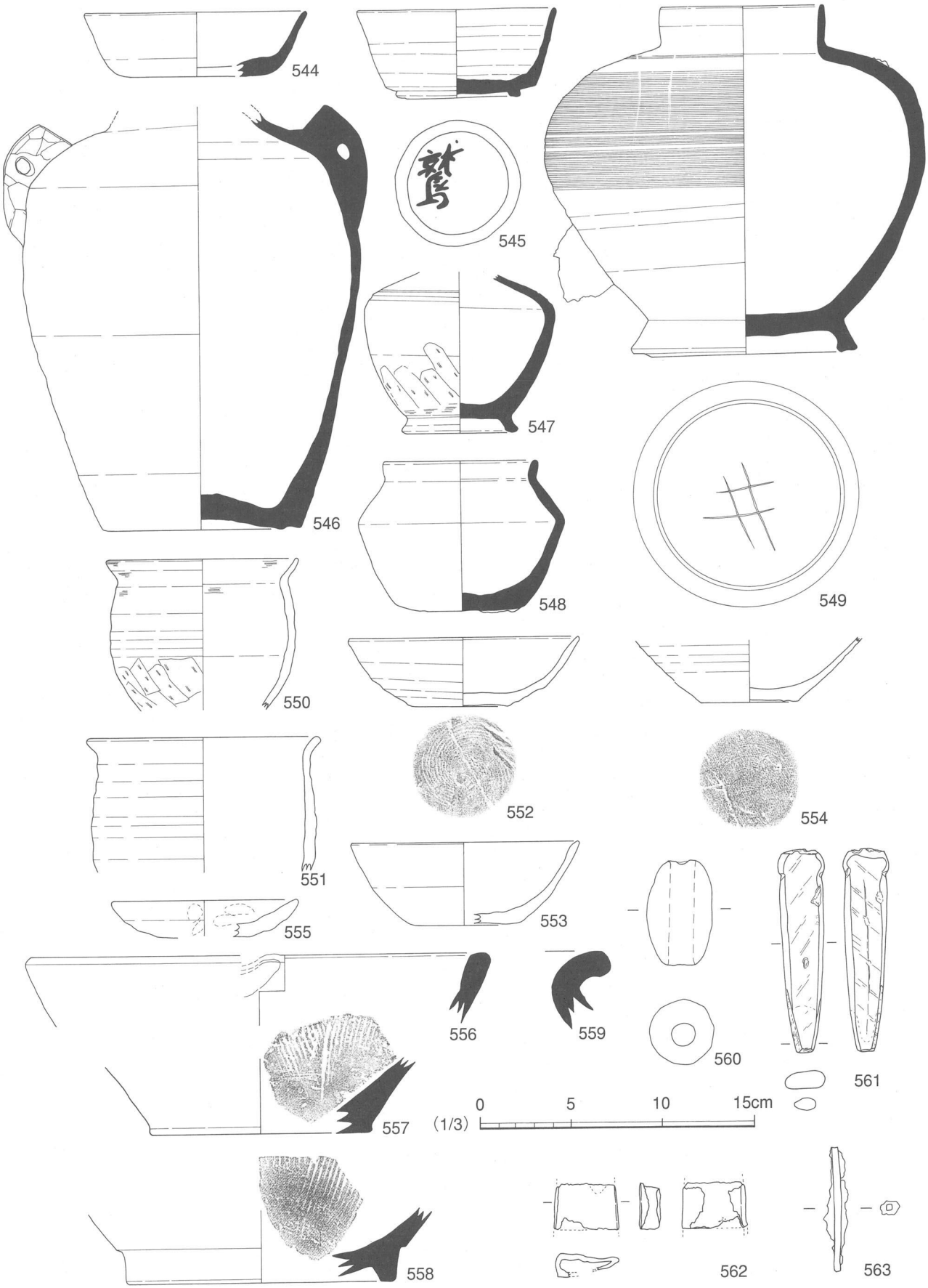
第64図　E区出土遺物(1/3)

包含層



第65図　E区出土遺物(1/3)

包含層



第66図　E区出土遺物(1/3)

図録番号	地区名	出土地点・層位	形態 器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	口径遺存(/12)	底径遺存(/12)	胎土 質	胎土 砂粒	焼成	色調 内面	色調 外面	赤彩 内面	赤彩 外面	成形・調整 外面 口頸部・坏部・受部	成形・調整 外面 胴上部・蓋	成形・調整 外面 胴下部	成形・調整 外面 脚・底部	成形・調整 内面 口頸部・坏部・受部	成形・調整 内面 胴上部・蓋	成形・調整 内面 胴下部	成形・調整 内面 脚・底部	煤 外面	煤 内面	疑凹線	備考
1	試掘B区	T1No6	甕B2	17.00	3.60(残存)	—	1.8	—	密	—	良好	7.5YR7/6橙色	10YR7/6明黄褐色			ナデ	—	—	—	ナデ	—	—	—				
2	試掘B区	T1SP内No5−1	甕A1	16.00	3.00(残存)	—	1.5	—	密	—	良好	10YR6/2灰黄褐色	10YR6/2灰黄褐色			ナデ	—	—	—	ナデ	—	—	—			2	
3	試掘B区	T1No8	甕	—	4.30(残存)	—	—	—	やや粗	—	良好	10YR7/3にぶい黄橙色	10YR7/3にぶい黄橙色			ハケ→ナデ	ハケ	—	—	ナデ	ハケ	—	—				口頸下部にキザミ目有り
4	試掘B区	T1No2−2	甕A4	17.00	8.60(残存)	—	3.3	—	密	—	良好	10YR7/4にぶい黄橙色	10YR8/3浅黄橙色			ナデ	ハケ	—	—	ナデ,指頭圧痕	ケズリ	—	—			7	
5	試掘B区	T1No8	鉢A3	12.00	7.60(残存)	—	1.6	—	密	—	良好	10YR8/3浅黄橙色	10YR8/3浅黄橙色			ナデ	ケズリ	—	—	ハケ→ナデ	ケズリ	—	—				
6	試掘B区	T1SP内No5−1	壺A1	13.00	7.90(残存)	—	2.8	—	密	—	良好	7.5YR7/6橙色	7.5YR7/6橙色			ナデ,ハケ	—	—	—	ナデ,ハケ	—	—	—				
7	試掘B区	T1SP内No5−2	壺B1	15.00	3.60(残存)	—	2.0	—	密	—	良好	10YR5/1褐灰色	10YR5/1褐灰色			ナデ	—	—	—	ナデ,ハケ	—	—	—				
8	試掘B区	T1SP内No5−2	壺A3	17.00	12.80(残存)	—	3.5	—	密	—	良好	2.5Y7/4浅黄色	2.5Y7/4浅黄色			ナデ,ハケ	—	—	—	ナデ→ハケ	—	—	—			2	2組1対の円形浮文1箇所有り
9	試掘B区	T1SP内No5−2	壺C7	13.00	4.70(残存)	—	2.0	—	密	—	良好	10YR7/4にぶい黄橙色	5YR7/4にぶい橙色			ナデ,ハケ	—	—	—	ミガキ	—	—	—				
10	試掘B区	T1No6	壺B4	16.00	5.55(残存)	—	2.7	—	密	—	良好	10YR6/4にぶい黄橙色	10YR6/4にぶい黄橙色			ナデ,ナデ→ハケ	—	—	—	ミガキ	—	—	—				
11	試掘B区	T1SP内No5−2	壺C8	16.00	9.50(残存)	—	3.8	—	密	—	良好	10YR8/2灰白色	10YR8/3浅黄橙色			ナデ	ハケ→ナデ	—	—	ナデ	ケズリ	—	—		有		
12	試掘B区	T1No8	器台脚部	—	8.10(残存)	—	—	—	密	—	良好	7.5YR4/1褐灰色	7.5YR4/1褐灰色		有	—	—	—	ミガキ	—	—	—	ナデ				
13	試掘B区	T1No8	器台脚部A	—	10.90(残存)	—	—	—	密	—	良好	7.5YR8/3浅黄橙色	7.5YR8/3浅黄橙色			—	—	—	ミガキ	—	—	—	ナデ				
14	試掘B区	T1No8	高坏or器台脚部	—	5.50(残存)	14.00	—	2.5	密	—	良好	10YR7/4にぶい黄橙色	10YR7/4にぶい黄橙色		有	—	—	—	ハケ→ミガキ	—	—	—	ナデ				
15	試掘B区	T1No6	高坏or器台脚部	—	3.90(残存)	24.00	—	1.5	密	—	良好	7.5YR7/6橙色	7.5YR7/6橙色			—	—	—	ハケ→ミガキ	—	—	—	ミガキ?				
18	試掘B区	T1No12	甕C3c	20.50	29.90(残存)	—	12.0	—	粗	2㎜	良好	10YR8/3浅黄橙色	10YR8/2灰白色			ナデ	ハケ	ハケ	ハケ	ナデ	ハケ	ハケ	調整不明	有			内外面底部に黒斑有り
19	試掘B区	T1No12	甕C3c	19.20	28.90	2.40	12.0	12.0	粗	2～3㎜	良好	7.5YR8/3浅黄橙色	2.5YR7/4淡赤橙色			ナデ	タタキ→ハケ	タタキ→ハケ	ハケ	ナデ	ハケ→ナデ	ハケ→ナデ	ハケ→ナデ	有			外面胴下部～底部に黒斑有り
20	試掘B区	T1No12	甕C3a	13.00	3.12(残存)	—	1.7	—	密	1㎜以下	良好	2.5YR7/6橙色	2.5YR7/6橙色			ハケ→ナデ	ハケ	—	—	ナデ	ケズリ	—	—				
21	試掘B区	T1包含層住居跡覆土?	甕B5	15.50	6.55(残存)	—	3.5	—	密	2㎜以下	不良	5YR7/6橙色	5YR7/6橙色			ナデ	調整不明	—	—	ナデ	調整不明	—	—				
22	試掘B区	T1No12	甕B5	15.00	20.80	2.00	4.4	12.0	密	2.5㎜以下	良好	10YR8/3浅黄橙色	10YR7/4にぶい黄橙色			ナデ,ハケ	タタキ	ハケ	ハケ	ナデ	ハケ,指頭圧痕	ハケ	ハケ	有			
23	試掘B区	T1No12	甕B5	14.40	22.50(残存)	—	12.0	—	粗	2㎜	良好	2.5Y7/3浅黄色	10YR7/3にぶい黄橙色			ヘラ状工具によるナデ	タタキ	ハケ	—	ヘラ状工具によるナデ	ハケ	ハケ	—				胴下部に黒斑有り
24	試掘B区	T1No12	壺C4	12.00	7.35(残存)	—	4.1	—	密	2㎜以下	良好	10YR8/3浅黄橙色	10YR8/3浅黄橙色			ミガキ,ナデ	ハケ→ミガキ	—	—	ミガキ,指頭圧痕	ナデ	—	—				
25	試掘B区	T1No12	器台受部C1	17.00	1.80(残存)	—	1.0	—	密	—	良好	7.5YR8/3浅黄橙色	7.5YR8/3浅黄橙色			ミガキ	—	—	—	ミガキ?	—	—	—				
26	試掘E区	T5No16	甕A6	15.80	3.70(残存)	—	0.2	—	密	—	良好	7.5YR8/6浅黄橙色	7.5YR8/6浅黄橙色			ナデ	ハケ	—	—	ナデ	ケズリ	—	—			6	
27	試掘D区	T2No9	甕A2	13.80	3.25(残存)	—	0.8	—	密	—	良好	7.5YR7/4にぶい橙色	7.5YR7/4にぶい橙色			ナデ	—	—	—	ナデ	—	—	—			1	
28	試掘C区	T1No17	甕B2	16.00	3.00(残存)	—	0.1	—	密	—	良好	10YR6/3にぶい黄橙色	2.5YR5/8明赤褐色		有	ナデ	ナデ	—	—	調整不明	ケズリ	—	—				
29	試掘C区	T1No16	甕B1	15.00	5.80(残存)	—	1.5	—	密	2㎜	良好	10YR6/4にぶい黄橙色	10YR6/4にぶい黄橙色			ナデ	調整不明	—	—	ナデ	調整不明	—	—				
30	試掘C区	T1No12	甕B4	16.70	3.40(残存)	—	1.0	—	密	—	良好	10YR8/2灰白色	10YR8/2灰白色			ナデ	—	—	—	ナデ	—	—	—				
31	試掘C区	T1No17	甕C3a	20.00	5.30(残存)	—	0.8	—	密	—	良好	7.5YR7/4にぶい橙色	7.5YR7/4にぶい橙色			ナデ	ナデ	—	—	ナデ	ナデ	—	—				
32	試掘C区	T1排土中	甕C3a	16.60	6.40(残存)	—	1.7	—	密	3㎜以下	やや良好	7.5YR7/4にぶい橙色	7.5YR6/3にぶい褐色			ハケ	調整不明	—	—	ナデ	ナデ	—	—				
33	試掘C区	T1No16	壺C1	15.80	7.30(残存)	—	2.5	—	密	2㎜以下	良好	7.5YR7/4にぶい橙色	7.5YR7/4にぶい橙色			ナデ	ハケ	—	—	ナデ	ケズリ	—	—				
34	試掘C区	T1No15	甕C2b	13.00	3.10(残存)	—	1.2	—	密	—	良好	10YR8/4浅黄橙色	10YR8/4浅黄橙色			ナデ,ハケ	—	—	—	ナデ,ハケ	—	—	—				
35	試掘C区	T1No16	壺B3	15.00	3.30(残存)	—	1.3	—	密	1㎜以下	良好	10YR7/4にぶい黄橙色	10YR7/4にぶい黄橙色			ナデ	—	—	—	ナデ	—	—	—				口頸部にキザミ目有り
36	試掘A区	T6No7	壺B2	16.50	4.10(残存)	—	2.3	—	密	—	良好	7.5YR8/4浅黄橙色	10YR8/3浅黄橙色			ナデ,ハケ	—	—	—	ナデ,ハケ	—	—	—				
37	試掘C区	T1No10	壺B4	10.80	4.50(残存)	—	2.5	—	密	—	良好	7.5YR8/3浅黄橙色	7.5YR8/3浅黄橙色			ナデ,ハケ	—	—	—	ナデ,ハケ	—	—	—				
38	試掘C区	T1SP内No5−2	壺C8	16.00	4.80(残存)	—	3.5	—	密	—	良好	5YR6/6橙色	7.5YR6/6橙色			ナデ	—	—	—	ナデ,ハケ	—	—	—				
39	試掘D区	T2No2	壺C3	13.00	7.20(残存)	—	1.2	—	密	3㎜以下	良好	7.5YR8/4浅黄橙色	7.5YR8/4浅黄橙色			ナデ,ハケ	—	—	—	ナデ,指頭圧痕,ハケ	—	—	—				
40	試掘C区	T1No15	脚部	—	6.83(残存)	11.00	—	3.3	やや粗	3㎜以下多量	不良	7.5YR6/6橙色	7.5YR6/6橙色			—	—	—	調整不明	—	—	—	調整不明				
41	試掘C区	T1No13	高坏or器台脚部	—	6.20(残存)	11.00	—	4.8	密	—	良好	10YR7/2にぶい黄橙色	10YR7/2にぶい黄橙色			—	—	—	ミガキ	—	—	—	ハケ				

表4　遺物観察表(1)

図録番号	地区名	出土地点・層位	形態 器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	口径遺存(/12)	底径遺存(/12)	胎土 質	砂粒	焼成	色調 内面	色調 外面	赤彩 内面	赤彩 外面	成形・調整 外面 口頸部・坏部・受部	外面 胴上部・蓋	外面 胴下部	外面 脚・底部	内面 口頸部・坏部・受部	内面 胴上部・蓋	内面 胴下部	内面 脚・底部	煤 外面	煤 内面	疑凹線	備考
42	試掘C区	T1No8	器台受部E	9.80	3.00(残存)	—	2.0	—	密	—	良好	10YR7/2にぶい黄橙色	10YR7/2にぶい黄橙色			ミガキ	—	—	—	ミガキ	—	—	—				
43	試掘C区	T1No15	器台脚部F	—	7.30(残存)	14.00	—	5.4	密	—	良好	10YR7/3にぶい黄橙色	10YR7/3にぶい黄橙色			—	—	—	ミガキ	—	—	—	ナデ,ハケ				透孔3箇所残存(推定4箇所)
44	試掘C区	T1No16	脚部E	—	9.75(残存)	—	—	—	密	—	良好	7.5YR8/3浅黄橙色	7.5YR8/3浅黄橙色			—	—	—	ミガキ?調整不明	—	—	—	調整不明				
45	試掘C区	T1排土中	鉢B	—	4.80(残存)	5.60	—	11.1	密	1㎜極少量	良好	7.5YR7/4にぶい橙色	7.5YR7/4にぶい橙色			—	—	ミガキ	ミガキ	—	—	—	ミガキ				
46	試掘C区	T1No2	小型土器C	8.95	4.07	5.45	9.7	12.0	密	4㎜以下多量	良好	10YR8/2灰白色	10YR8/2灰白色			ハケ→ナデ消し	ハケ→ナデ消し	ハケ→ナデ消し	ハケ→ナデ消し	ハケ→ナデ消し指頭圧痕	ハケ→ナデ消し	ハケ→ナデ消し	ハケ→ナデ消し				
47	試掘C区	T1No16	鉢E2	—	2.70(残存)	4.80	—	12.0	密	2㎜多量	良好	10YR7/4にぶい黄橙色	10YR7/4にぶい黄橙色			—	—	—	調整不明	—	—	—	調整不明				底部に径8㎜の穿孔有り
48	試掘E区	T5No16	須恵器蓋A	—	2.35(残存)	16.00	—	0.6	密	1㎜	良好	2.5Y7/1灰白色	2.5Y7/1灰白色			—	ロクロナデ	—	—	—	ロクロナデ	—	—				
49	試掘D区	T2No10	須恵器蓋B	—	1.10(残存)	14.00	—	1.7	密	—	良好	N7/0灰白色	N7/0灰白色			—	ロクロナデ	—	—	—	ロクロナデ	—	—				
50	試掘D区	T2排土中	須恵器坏A4	12.00	3.15	—	1.2	—	密	—	やや不良	2.5Y8/3淡黄色	2.5Y8/3淡黄色			ロクロナデ	—	—	ロクロナデ	ロクロナデ	—	—	ロクロナデ				
51	試掘E区	T5No17	須恵器坏A1	13.00	3.90	—	1.0	—	密	—	良好	10Y5/1灰色	10Y5/1灰色			ロクロナデ	—	—	ロクロナデ	ロクロナデ	—	—	ロクロナデ				
52	試掘E区	T5No18	須恵器広口壺	11.00	2.90(残存)	—	2.0	—	密	—	良好	N6/0灰色	N6/0灰色			ロクロナデ	—	—	—	ロクロナデ	—	—	—				
53	試掘D区	T2No6	土師器甕B	16.00	5.60(残存)	—	1.8	—	やや密	2㎜以下	良好	10YR8/3浅黄橙色	5YR8/3淡橙色			ナデ	ハケ→ナデ?	—	—	ナデ	ハケ	—	—				
54	A区	SK15P2	甕A3	17.60	6.50(残存)	—	4.0	—	密	1～2㎜	良好	10YR8/4浅黄橙色	10YR8/4浅黄橙色			ナデ	ハケ	—	—	ナデ	ケズリ	—	—			5	
55	A区	SK15P1(1)層	甕A3	14.00	6.80(残存)	—	2.0	—	密	1㎜	良好	5YR6/6橙色	7.5YR7/4にぶい橙色			ミガキ	ミガキ	—	—	ミガキ,ナデ	ケズリ	—	—	有		3	
56	A区	SK15P1	甕A4	16.95	7.80(残存)	—	4.0	—	粗	—	良好	10YR7/6明黄褐色	7.5YR6/6橙色			ナデ	ハケ	—	—	調整不明	ケズリ	—	—			7	口縁下部に黒斑有り
57	A区	SK15No238	甕B2	14.70	5.90(残存)	—	3.0	—	密	—	良好	7.5YR8/4浅黄橙色	7.5YR8/4浅黄橙色			ナデ	ハケ	—	—	ナデ	ケズリ	—	—				
58	A区	SK15P1No11	甕B3	17.80	3.30(残存)	—	3.0	—	粗	1㎜	良好	10YR6/3にぶい黄橙色	10YR1.7/1黒色			ナデ	—	—	—	ナデ,ケズリ	—	—	—	有			
59	A区	SK15P1No11	甕B10b	16.90	7.50(残存)	—	4.0	—	密	1㎜	良好	5YR6/6橙色	5YR7/6橙色			ナデ	ハケ	—	—	ナデ	ケズリ	—	—				
60	A区	SK15P1No4	甕B10c	15.00	3.85(残存)	—	3.0	—	密	—	良好	10YR5/2灰黄褐色	10YR5/2灰黄褐色			ナデ	—	—	—	ナデ	—	—	—		有		
61	A区	SK15P1No14	甕A2	27.10	5.10(残存)	—	1.0	—	密	—	良好	10YR8/3浅黄橙色	10YR8/3浅黄橙色			ナデ	ナデ	—	—	ナデ	ケズリ	—	—	有		3	
62	A区	SK15P1No7	甕A2	23.60	8.00(残存)	—	2.0	—	粗	1～2㎜	良好	10YR8/3浅黄橙色	2.5Y2/1黒色			ナデ	ハケ	—	—	ナデ	ケズリ	—	—			3	
63	A区	SK15P1No43	甕A3	24.80	4.70(残存)	—	2.0	—	粗	—	良好	10YR7/4にぶい黄橙色	10YR7/4にぶい黄橙色			ナデ	—	—	—	ナデ	—	—	—	有		4	
64	A区	SK15P1No15	甕B7	17.90	4.35(残存)	—	2.0	—	密	—	良好	2.5Y7/3浅黄色	2.5Y4/1黄灰色			ナデ	ハケ	—	—	ナデ	ケズリ	—	—	有			
65	A区	SK15No212	甕B7	12.40	11.00	2.20	11.0	12.0	密	1～2㎜	良好	5YR7/6橙色	5YR5/4にぶい赤褐色			ナデ	ハケ	ハケ	ハケ	ナデ	ケズリ	ケズリ	ケズリ	有			
66	A区	SK15No262	甕B7	13.20	11.00(残存)	—	3.0	—	密	—	良好	10YR5/2灰黄褐色	10YR5/2灰黄褐色			ナデ	ハケ	ハケ	—	ナデ	ケズリ	ケズリ	—	有			
67	A区	SK15P1No22	甕B7	20.45	10.55(残存)	—	1.0	—	粗	—	良好	2.5Y4/1黄灰色	2.5Y6/4にぶい黄色			ナデ	ナデ	—	—	ナデ	ケズリ	—	—				
68	A区	SK15No230	壺B4	14.00	7.50(残存)	—	2.0	—	粗	1㎜	やや不良	10YR7/3にぶい黄橙色	2.5Y7/3浅黄色			ナデ	—	—	—	ナデ	—	—	—				
69	A区	SK15P1No27	壺B3	15.40	9.40(残存)	—	9.0	—	密	—	良好	5YR7/8橙色	5YR7/8橙色			ナデ,ハケ	—	—	—	ナデ,ハケ	—	—	—	有			
70	A区	SK15No15	壺A3	17.00	14.15(残存)	—	4.5	—	密	—	良好	2.5Y5/2暗灰黄色	7.5Y6/1灰色			ナデ,ハケ	—	—	—	ナデ,ハケ	—	—	—				
71	A区	SK15No22	壺C3	15.70	6.15(残存)	—	1.0	—	密	—	良好	2.5Y8/3淡黄色	2.5Y8/3淡黄色		有	ミガキ	—	—	—	調整不明	—	—	—				
72	A区	SK15No95	壺C2	12.40	4.50(残存)	—	2.0	—	密	1㎜	良好	10YR8/4浅黄橙色	10YR8/4浅黄橙色		有	ミガキ	—	—	—	調整不明	ケズリ	—	—				
73	A区	SK15No183	鉢F	11.60	4.00(残存)	—	1.0	—	密	1～2㎜	良好	7.5YR7/4にぶい橙色	10YR7/4にぶい黄橙色			ミガキ	—	—	—	ナデ	—	—	—				
74	A区	SK15No2	器台受部C2	18.60	4.20(残存)	—	2.0	—	粗	1～2㎜	やや良好	10YR7/3にぶい黄橙色	10YR7/4にぶい黄橙色			ミガキ	—	—	—	調整不明	—	—	—				
75	A区	SK15No226	高坏坏部A2	31.60	7.70(残存)	—	1.0	—	密	1～3㎜	良好	10YR7/4にぶい黄橙色	10YR8/3浅黄橙色			ミガキ	—	—	—	ミガキ	—	—	—				
76	A区	SK15P1No28	器台脚部B	—	11.10(残存)	15.40	—	11.0	密	—	良好	10YR8/4浅黄橙色	5YR7/8橙色			—	—	—	ミガキ	—	—	—	ハケ				透孔6箇所残存 外面裾部に黒斑有り
77	A区	SK15No43	高坏or器台脚部	—	4.10(残存)	16.80	—	1.0	密	—	良好	2.5Y7/8橙色	2.5Y7/6橙色		有	—	—	—	ハケ→ミガキ	—	—	—	ハケ				
78	A区	SK15No154	高坏or器台脚部	—	3.20(残存)	13.80	—	1.5	密	—	良好	10YR8/4浅黄橙色	10YR8/4浅黄橙色	有	有	—	—	—	ミガキ	—	—	—	調整不明				
79	A区	SK15No197	器台脚部A2	—	2.10(残存)	15.00	—	0.5	密	—	良好	10YR7/4にぶい黄橙色	10YR7/4にぶい黄橙色		有	—	—	—	ミガキ	—	—	—	ナデ		有	5	
80	A区	SK15No50	器台脚部C	—	8.50(残存)	11.10	—	2.0	密	—	良好	10YR8/4浅黄橙色	10YR8/4浅黄橙色			—	—	—	ミガキ	—	—	—	しぼり痕,ハケ				透孔2箇所残存

表5　遺物観察表(2)

図録番号	地区名	出土地点・層位	形態 器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	口径遺存(/12)	底径遺存(/12)	胎土 質	砂粒	焼成	色調 内面	色調 外面	赤彩 内面	赤彩 外面	成形・調整 外面 口頸部・坏部・受部	外面 胴上部・蓋	外面 胴下部	外面 脚・底部	内面 口頸部・坏部・受部	内面 胴上部・蓋	内面 胴下部	内面 脚・底部	煤 外面	煤 内面	疑凹線	備考
81	A区	SK15No215	器台脚部B	—	6.50(残存)	—	—	—	密	—	良好	10YR8/4浅黄橙色	10YR7/4にぶい黄橙色			—	—	—	ミガキ	—	—	—	ハケ				
82	A区	SK60No27	甕A2	19.00	4.70(残存)	—	1.3	—	密	—	良好	10YR7/3にぶい黄橙色	7.5YR7/6橙色			ナデ	ハケ	—	—	ナデ	ハケ	—	—			4	
83	A区	SK60Bセク	甕B2	16.50	7.85(残存)	—	8.0	—	密	—	良好	7.5YR8/6浅黄橙色	7.5YR8/6浅黄橙色			ナデ	ハケ	—	—	ナデ	ハケ	—	—				
84	A区	SK60No24	壺A1	16.00	4.30(残存)	—	2.9	—	密	—	良好	10YR6/2灰黄褐色	7.5YR7/3にぶい橙色			ハケ	—	—	—	ハケ	—	—	—				
85	A区	SK60No6	壺H	8.90	10.60(残存)	—	10.5	—	密	—	良好	10YR7/2にぶい黄橙色	2.5Y6/3にぶい黄色		有	ミガキ	ミガキ	ミガキ	—	ミガキ	ミガキ,指頭圧痕	ハケ→ミガキ	—				
86	A区	SK60No29	壺A1	15.20	9.10(残存)	—	3.0	—	密	2～3㎜	良好	7.5YR8/2灰白色	10YR8/6黄橙色			ハケ	—	—	—	ハケ	—	—	—				内面に黒斑有り
87	A区	SK60Bセク	鉢C	13.00	10.20(残存)	—	1.5	—	密	—	やや良好	10YR6/2灰黄褐色	10YR6/3にぶい黄橙色			ハケ	ハケ	—	—	ハケ	ハケ	—	—				
88	A区	SK60	壺B3	16.50	13.90(残存)	—	6.0	—	粗	1～2㎜	良好	7.5YR6/6橙色	7.5YR6/6橙色			ナデ,ハケ→ミガキ	ミガキ	—	—	ナデ	ハケ,ケズリ	—	—				外面に黒斑有り
89	A区	SK60Bセク	甕底部	—	6.20(残存)	3.50	—	6.0	密	3㎜以下	やや良好	10YR5/2灰黄褐色	10YR7/3にぶい黄橙色			—	—	—	ハケ	—	—	—	ケズリ		有		
90	A区	SK60No21	高坏脚部A	—	9.90(残存)	—	—	—	密	1～2㎜	良好	10YR7/3にぶい黄橙色	2.5Y7/3浅黄色		有	—	—	—	調整不明	—	—	—	調整不明				
91	A区	SK60No18	高坏脚部B	—	12.20(残存)	14.80	—	4.0	密	—	良好	10YR7/4にぶい黄橙色	2.5Y7/4浅黄色			ミガキ	—	—	ミガキ	ミガキ	—	—	しぼり痕				
92	A区	SK60No8	高坏坏部B1	32.00	5.60(残存)	—	2.0	—	密	—	良好	10YR8/3浅黄橙色	10YR8/3浅黄橙色			ミガキ	—	—	—	ミガキ	—	—	—				
93	A区	SK120No52	甕B3	18.00	7.50(残存)	—	4.0	—	密	2㎜	やや不良	7.5YR8/8黄橙色	7.5YR8/6浅黄橙色			ナデ	調整不明	—	—	調整不明	調整不明	—	—	有			外面に黒斑有り
94	A区	SK120No57	甕B1	13.70	12.50(残存)	—	6.0	—	密	1～2㎜	良好	7.5YR8/6浅黄橙色	7.5YR8/6浅黄橙色			ナデ	ハケ	ハケ	—	ナデ	ハケ	ハケ	—	有			
95	A区	SK120No44	甕A3	14.90	20.40(残存)	—	9.0	—	粗	1～2㎜	良好	7.5YR8/6浅黄橙色	7.5YR8/2灰白色			ナデ	ハケ	ハケ	—	ナデ,指頭圧痕	ケズリ	ケズリ	—	有		2	
96	A区	SK120No15	甕B4	19.00	3.50(残存)	—	0.9	—	密	—	良好	10YR7/4にぶい黄橙色	10YR7/4にぶい黄橙色			ナデ	—	—	—	ナデ	—	—	—				
97	A区	SK120No7	甕B2	13.00	4.50(残存)	—	0.9	—	密	1～2㎜	良好	10YR6/3にぶい黄橙色	10YR6/3にぶい黄橙色			調整不明	—	—	—	調整不明	—	—	—				
98	A区	SK120③④⑤層	甕B10a	13.20	2.90(残存)	—	0.9	—	密	—	良好	10YR7/4にぶい黄橙色	10YR7/4にぶい黄橙色			調整不明	—	—	—	ハケ	—	—	—				
99	A区	SK120No36	甕C1	17.00	2.90(残存)	—	1.3	—	密	—	良好	2.5Y7/3浅黄色	2.5Y7/3浅黄色			ナデ	—	—	—	ナデ	—	—	—	有			
100	A区	SK120No29	壺A3	15.00	2.50(残存)	—	1.3	—	密	—	良好	10YR6/4にぶい黄橙色	10YR5/3にぶい黄褐色			ナデ	—	—	—	ナデ	—	—	—	有			
101	A区	SK120No4	壺C7	14.50	6.30(残存)	—	2.0	—	密	1㎜以下多量	良好	7.5YR8/6浅黄橙色	7.5YR6/4にぶい橙色			ハケ,ナデ	—	—	—	ミガキ,ナデ	—	—	—			5	口縁部にクシ描き文有り
102	A区	SK120No3	壺B3	13.00	17.80(残存)	—	5.0	—	密	2.5㎜以下	良好	7.5YR7/6橙色	7.5YR8/6浅黄橙色			ハケ,ナデ	ハケ,ナデ	—	—	ハケ,ナデ	ハケ,ナデ	—	—				
103	A区	SK120東畦	高坏坏部A2	27.70	2.70(残存)	—	2.0	—	密	—	良好	10YR5/2灰黄褐色	10YR5/2灰黄褐色	有		ミガキ	—	—	—	ミガキ	—	—	—		有		
104	A区	SK120No47	高坏坏部B3	18.00	5.05(残存)	—	3.0	—	密	—	良好	10YR6/4にぶい黄橙色	10YR6/4にぶい黄橙色	有		ミガキ	—	—	—	ミガキ	—	—	—				内外面に黒斑有り
105	A区	SK120No27	器台脚部C	—	7.10(残存)	—	—	—	密	—	良好	2.5YR6/4にぶい橙色	2.5YR7/6橙色			—	—	—	ミガキ	—	—	—	ナデ				2個1対の透孔残存
106	A区	SK120③④⑤層	器台脚部A1	—	9.20(残存)	—	—	—	密	—	良好	10YR8/3浅黄橙色	10YR8/3浅黄橙色		有	—	—	—	ミガキ	—	—	—	ハケ				
107	A区	SK120No1	高坏坏部A2 高杯脚部B	—	11.10(残存)	12.50	—	6.9	密	—	良好	2.5YR7/4淡赤橙色	2.5YR6/6橙色			ミガキ	—	—	ミガキ	ミガキ	—	—	指頭圧痕,ミガキ				
108	A区	SK120No37	高坏脚部A	—	12.00(残存)	15.40	—	12.0	密	—	良好	5YR7/6橙色	7.5YR8/4浅黄橙色			—	—	—	ミガキ	—	—	—	ナデ,ハケ				透孔4箇所残存
109	A区	SD119セクション	器台受部A	21.90	4.90(残存)	—	2.0	—	粗	—	やや不良	10YR8/4浅黄橙色	10YR8/3浅黄橙色			調整不明	—	—	—	調整不明	—	—	—			6	
110	A区	SK07Cセクション	壺B2	14.80	2.70(残存)	—	1.3	—	密	—	良好	10YR6/3にぶい黄橙色	10YR6/3にぶい黄橙色			ナデ	—	—	—	ナデ	—	—	—				
111	A区	SK108②—5	甕A2	18.70	6.90(残存)	—	3.0	—	密	1㎜	良好	10YR7/3にぶい黄橙色	10YR8/3浅黄橙色			ナデ	ハケ	—	—	ナデ	ナデ	—	—			2	輪積み痕有り
112	A区	SK108⑤—5	甕B4	21.00	5.30(残存)	—	3.0	—	密	1㎜	良好	5YR7/6橙色	5YR7/6橙色			ナデ	—	—	—	ナデ,ハケ	—	—	—				輪積み痕有り
113	A区	SK108⑤—10	甕B4	21.45	6.95(残存)	—	0.8	—	粗	2～3㎜	良好	10YR7/3にぶい黄橙色	10YR7/3にぶい黄橙色			ナデ	ハケ	—	—	ナデ	ハケ	—	—				
114	A区	SK108⑤—9	甕B4	18.60	5.00(残存)	—	4.0	—	密	2～5㎜	良好	5YR6/6橙色	7.5YR7/6橙色			ナデ	—	—	—	ナデ	—	—	—	有			口縁部に黒斑有り 一部コゲ付着
115	A区	SK108A—3	甕C3c	17.85	3.90(残存)	—	2.0	—	粗	1～2㎜	良好	2.5Y7/3浅黄色	10YR7/4にぶい黄橙色			ナデ	—	—	—	調整不明	—	—	—			3	
116	A区	SK108①—7	壺E2	13.50	4.20(残存)	—	1.0	—	粗	0.5～3㎜	やや不良	10YR8/4浅黄橙色	10YR8/4浅黄橙色			ナデ,ハケ	—	—	—	調整不明	—	—	—				輪積み痕有り
117	A区	SK108②—5	甕C3a	15.80	7.20(残存)	—	2.0	—	密	—	良好	7.5YR7/6橙色	7.5YR7/4にぶい橙色			ナデ	ハケ	—	—	ナデ	調整不明	—	—	有			輪積み痕有り
118	A区	SK108①—10	器台受部A	18.10	4.20(残存)	—	4.0	—	密	—	良好	2.5YR4/6赤褐色	2.5YR4/6赤褐色	有	有	ミガキ	—	—	—	ミガキ	—	—	—				
119	A区	SK108X191Y169	壺I	9.80	3.00(残存)	—	1.4	—	密	—	やや良好	赤彩10YR3/6暗赤色 胎土10YR7/4にぶい黄橙色	赤彩10YR3/6暗赤色 胎土10YR7/4にぶい黄橙色		有	ミガキ	ミガキ	—	—	ハケ	ハケ	—	—			

表6　遺物観察表(3)

図録番号	地区名	出土地点・層位	形態						胎土		焼成	色調		赤彩		成形・調整								煤		疑凹線	備考
			器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	口径遺存(/12)	底径遺存(/12)	質	砂粒		内面	外面	内面	外面	外面				内面				外面	内面		
																口縁部・坏部・受部	胴上部・蓋	胴下部	脚・底部	口縁部・坏部・受部	胴上部・蓋	胴下部	脚・底部				
120	A区	SK108②−4	壺E 1	16.30	5.30(残存)	−	4.0	−	密	1 mm	良好	7.5YR8/8黄橙色	7.5YR8/8黄橙色			ナデ,ハケ	−	−	−	ナデ,ハケ	−	−	−				
121	A区	SK108④−10	壺A 1	14.40	9.40(残存)	−	5.0	−	密	1 mm	良好	10YR8/4浅黄橙色	10YR8/6黄橙色			ナデ,ミガキ	−	−	−	ハケ	−	−	−				内面下部にキザミ目３本有り
122	A区	SK108⑤−3	壺A 1	14.70	10.90(残存)	−	4.0	−	粗	−	良好	7.5YR7/6橙色	10YR7/6明黄褐色			ナデ,ハケ	−	−	−	ナデ,ハケ	−	−	−				
123	A区	SK108③−9	壺A 2	14.20	10.10(残存)	−	11.0	−	密	−	良好	2.5Y8/3淡黄色	2.5Y8/4淡黄色			ナデ,ハケ	−	−	−	ナデ,ハケ	−	−	−				
124	A区	SK108⑤−7	壺A 1	12.70	10.85(残存)	−	4.0	−	密	−	良好	10YR7/4にぶい黄橙色	10YR7/4にぶい黄橙色			ナデ,ハケ	−	−	−	ナデ,ハケ	−	−	−			2	内面口縁部にコゲ目有り 口縁部に黒斑有り,輪済み痕有り
125	A区	SK108⑤−4	壺B 1	19.00	7.15(残存)	−	4.0	−	粗	1～2 mm	良好	2.5Y7/3浅黄色	2.5Y7/3浅黄色			ミガキ,ナデ	−	−	−	ミガキ,ナデ	−	−	−			2	外面口縁部に黒斑有り 輪済み痕有り
126	A区	SK108⑤−1	壺A 2	14.00	8.75(残存)	−	3.0	−	密	−	やや良好	10YR7/4にぶい黄橙色	10YR7/4にぶい黄橙色			ナデ,ハケ	−	−	−	ナデ,ハケ	−	−	−				口縁部に黒斑有り
127	A区	SK108④−10	壺B 1	16.80	7.00(残存)	−	3.0	−	密	1 mm	良好	7.5YR7/4にぶい橙色	10YR7/6明黄褐色			ナデ,ハケ	−	−	−	ナデ,ハケ	−	−	−				内面に輪積み痕有り
128	A区	SK108X190Y168	壺B 3	15.00	5.20(残存)	−	5.0	−	密	1 mm	良好	10YR8/4浅黄橙色	2.5Y7/3浅黄色			ナデ,ハケ,ミガキ	−	−	−	ナデ	−	−	−				
129	A区	SK108①−11	壺B 1	17.00	7.90(残存)	−	2.0	−	密	−	良好	2.5Y8/2灰白色	2.5Y8/4淡黄色			ナデ,ハケ	−	−	−	調整不明	−	−	−				
130	A区	SK108⑤−5	壺B 3	14.40	11.40(残存)	−	3.0	−	密	1 mm	やや良好	7.5YR7/6橙色	10YR7/6明黄褐色			ナデ,ハケ	−	−	−	調整不明	−	−	−				輪積み痕有り
131	A区	SK108⑤−3	壺B 3	12.60	13.20(残存)	−	8.0	−	密	1 mm	良好	5YR6/8橙色	5YR6/8橙色			ハケ	−	−	−	調整不明	−	−	−				輪積み痕有り
132	A区	SK108⑤−3	甕or壺底部	−	4.60(残存)	5.00	−	6.8	密	−	良好	2.5Y7/2灰黄色	2.5Y7/4浅黄色			−	−	調整不明	調整不明	−	−	調整不明	調整不明				外面に黒斑有り 内面に輪積み痕有り
133	A区	SK108⑤−5	甕or壺底部	−	7.00(残存)	6.25	−	11.0	密	−	良好	2.5Y7/3浅黄色	10YR8/4浅黄橙色			−	−	調整不明	調整不明	−	−	ハケ	ハケ				
134	A区	SK120No58	甕or壺底部	−	4.70(残存)	5.10	−	12.0	密	−	良好	10YR4/1褐灰色	10YR8/3浅黄橙色			−	−	ハケ	ハケ	−	−	ハケ	ハケ				
135	A区	SK108②−4	蓋A	−	2.25(残存)	−	−	−	粗	−	良好	10YR7/3にぶい黄橙色	10YR7/4にぶい黄橙色			−	ミガキ	−	−	−	ミガキ	−	−				
136	A区	SK108②−4	蓋A	−	4.30	14.05	−	5.0	粗	2 mm	良好	10YR5/3にぶい黄褐色	10YR5/3にぶい黄褐色			−	ハケ→ミガキ	−	−	−	ハケ	−	−				
137	A区	SK108④−7	甕or壺底部	−	19.60(残存)	5.60	−	12.0	粗	1～2 mm	良好	5YR7/6橙色	7.5YR8/4浅黄橙色			−	ハケ	ハケ	ハケ	−	ハケ	ハケ	ハケ				外面に黒斑有り
138	A区	SK108⑤−14	高坏坏部B 1	36.00	9.70(残存)	−	4.0	−	密	−	良好	10YR7/6明黄褐色	10YR7/4にぶい黄橙色			ミガキ	−	−	−	ハケ→ミガキ	−	−	−				
139	A区	SK108⑤−11	高坏坏部B 1	33.80	7.15(残存)	−	7.0	−	粗	1～2 mm	やや不良	2.5Y7/4浅黄色 2.5Y5/1黄灰色	10YR7/4にぶい黄橙色 5YR7/4にぶい橙色			ミガキ	−	−	−	ミガキ	−	−	−				内面口縁部に黒斑有り
140	A区	SK108⑤−10	高坏or器台脚部A	−	9.40(残存)	−	−	−	密	−	やや良好	10YR7/4にぶい黄橙色	10YR7/4にぶい黄橙色			−	−	−	調整不明	−	−	−	ハケ				
141	A区	SK108⑤−20	脚部	−	6.50(残存)	17.10	−	12.0	密	−	良好	10YR7/4にぶい黄橙色	10YR7/4にぶい黄橙色			−	−	−	調整不明	−	−	−	調整不明				
142	A区	SK108⑤−11	高坏or器台脚部A	−	5.40(残存)	23.40	−	8.0	密	−	良好	10YR8/4浅黄橙色	10YR8/4浅黄橙色			−	−	−	調整不明	−	−	−	ナデ				
143	A区	SK108⑤−14,⑥−18	高坏or器台脚部A	−	4.90(残存)	22.00	−	8.4	密	−	良好	5Y7/1灰白色	10YR7/4にぶい黄橙色			−	−	−	ハケ,ハケ→ナデ消し	−	−	−	ミガキ				
144	A区	SK23No13	甕C 1	16.50	3.30(残存)	−	2.5	−	やや粗	4 mm以下	やや不良	2.5Y8/3淡黄色	10YR7/4にぶい黄橙色			ハケ→ナデ	−	−	−	ナデ,指頭圧痕	−	−	−				
145	A区	SK23No1	壺B 3	19.00	4.3(残存)	−	0.9	−	密	−	良好	赤彩2.5YR4/2赤褐色 胎土5YR7/8橙色	赤彩 彩2.5YR4/2赤褐色 胎土5YR7/8橙色	有	有	ナデ	ミガキ	−	−	ミガキ	ミガキ	−	−				
146	A区	SK23底面	高坏脚部A	−	14.80(残存)	−	−	−	密	1～2 mm	良好	2.5Y6/2灰黄色	2.5Y6/2灰黄色		有	ハケ→ミガキ	−	−	ミガキ	ミガキ	−	−	ハケ,ナデ				透孔１箇所残存
147	A区	SK48No6	甕C３d	16.20	17.85(残存)	−	11.0	−	密	2～3 mm	良好	2.5Y7/2灰黄色	2.5Y7/2灰黄色			ナデ	ハケ	ハケ	−	ナデ	ハケ	ハケ	−	有			
148	A区	SK48No1	壺B 1	15.30	10.45(残存)	−	6.0	−	粗	−	良好	10YR8/2灰白色	10YR8/2灰白色			ナデ	−	−	−	ナデ,ハケ	−	−	−			3	
149	A区	SP58	壺or鉢	15.70	4.10(残存)	−	1.0	−	密	−	良好	10YR8/2灰白色	2.5Y6/3にぶい黄色			ミガキ	−	−	−	ミガキ	−	−	−			7	
150	A区	SK61No1	鉢D	13.30	11.80	2.60	12.0	12.0	密	−	良好	7.5YR7/4にぶい橙色	7.5YR7/4にぶい橙色			ハケ,ミガキ,ケズリ	ハケ→ミガキ	ハケ→ミガキ	ケズリ,ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	有	有		胎土に骨針微量に含む
151	A区	SK61No3	甕C 1	18.00	3.40(残存)	−	1.0	−	密	−	良好	10YR7/6明黄褐色	10YR2/1黒色			ナデ	−	−	−	ナデ,ケズリ	−	−	−	有			外面口縁端部にキザミ目有り
152	A区	SD145	甕C２a	16.90	10.0(残存)	−	3.0	−	密	−	良好	10YR7/4にぶい黄橙色	10YR7/4にぶい黄橙色			ハケ	ハケ	ハケ	−	ハケ	ハケ	ハケ	−				
153	A区	SD44	壺A 1	12.40	23.80	4.80	7.8	4.0	密	−	やや良好	2.5Y7/4浅黄色	2.5Y7/4浅黄色			ナデ,ハケ	ハケ	ハケ	ハケ	ハケ	ハケ	ハケ	ハケ	有			
154	A区	SP44	甕C 1	13.00	8.15(残存)	−	1.0	−	密	−	良好	2.5Y8/2灰白色	2.5Y8/2灰白色			ナデ	ハケ	−	−	ナデ	ハケ	−	−	有			
155	A区	SK130No6	壺A 1	14.00	8.10(残存)	−	1.0	−	密	1.5mm	良好	10YR8/2灰白色	10YR8/4浅黄橙色			ハケ,ナデ	−	−	−	ハケ,ナデ	−	−	−				
156	A区	SK130No2	甕B 1	16.00	7.35(残存)	−	3.6	−	密	1～2 mm少量	良好	10YR5/4にぶい黄褐色	10YR6/3にぶい黄橙色			ナデ	ハケ,ナデ	−	−	ナデ	ハケ,ナデ,指頭圧痕	−	−	有			
157	A区	SK130	甕A 3	17.50	7.85(残存)	−	4.8	−	密	1～2 mm	良好	10YR7/4にぶい黄橙色	7.5YR8/4浅黄橙色			ナデ	ハケ	−	−	ナデ	ケズリ	−	−	有		6	
158	A区	SK130No16	壺C 2	10.20	20.20	4.00	4.0	12.0	粗	1 mm以下	良好	7.5YR7/3にぶい橙色	7.5YR8/3浅黄橙色	有	有	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ハケ	ハケ	ハケ→ナデ消し	有			黒斑有り

表７　遺物観察表（４）

図録番号	地区名	出土地点・層位	形態 器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	口径遺存(/12)	底径遺存(/12)	胎土 質	砂粒	焼成	色調 内面	外面	赤彩 内面	外面	成形・調整 外面 口頸部・坏部・受部	胴上部・蓋	胴下部	脚・底部	内面 口頸部・坏部・受部	胴上部・蓋	胴下部	脚・底部	煤 外面	内面	疑凹線	備考
159	A区	SK12No19	壺B5a	15.80	19.60(残存)	—	11.0	—	粗	—	良好	10YR8/3浅黄橙色	10YR8/3浅黄橙色			ナデ,ミガキ	ハケ→ミガキ	ハケ→ミガキ	—	ミガキ	ハケ	ハケ	—				外面胴部に黒斑有り 輪積み痕有り
160	A区	SK12No12	鉢B	—	4.00(残存)	7.00	—	11.0	密	少量	良好	10YR8/4浅黄橙色	10YR8/4浅黄橙色			—	—	—	調整不明	—	—	—	調整不明				—
161	A区	SP123	中世土師皿	7.90	1.6～1.8	2.50	12.0	12.0	やや密	—	良好	7.5YR7/4にぶい橙色	7.5YR7/4にぶい橙色			ナデ	—	—	ナデ	ナデ	—	—	木口ハケ	有	有		
162	A区	SP77中～下層	中世土師皿	8.70	1.90	4.60	7.4	5.2	密	—	やや良好	2.5Y4/1黄灰色	2.5Y4/1黄灰色			ロクロナデ	—	—	回転糸切り	ロクロナデ	—	—	ロクロナデ				
163	A区	SD56X200Y167	珠洲すり鉢	25.50	6.80(残存)	—	1.1	—	密	—	良好	N6/0灰色	N6/0灰色			ロクロナデ	ロクロナデ	—	—	ロクロナデ	オロシ目	—	—				
164	A区	SD56X200Y166	珠洲すり鉢	29.20	3.60(残存)	—	0.9	—	密	—	良好	N6/0灰色	N6/0灰色			ロクロナデ	ロクロナデ	—	—	ロクロナデ	ロクロナデ	—	—				口縁部にヘラ型文有り
165	A区	X193Y169	青磁壺	12.60	1.95(残存)	—	1.0	—	密	—	良好	釉薬5Y5/4オリーブ色 胎土5Y7/1灰白色	釉薬5Y5/4オリーブ色 胎土5Y7/1灰白色			—	—	—	—	—	—	—	—				
166	A区	SK07C-セク内	越中瀬戸皿	10.40	1.80(残存)	—	0.9	—	密	—	良好	灰釉2.5Y6/6明黄褐色 胎土2.5Y7/1灰白色	灰釉2.5Y6/6明黄褐色 胎土2.5Y7/1灰白色			ロクロナデ	—	—	—	ロクロナデ	—	—	—				
167	A区	SK07⑨B	越中瀬戸皿	13.80	2.00(残存)	—	0.4	—	密	—	良好	鉄5Y3/1オリーブ黒色 胎土2.5Y7/1灰白色	鉄5Y3/1オリーブ黒色 胎土2.5Y7/1灰白色			ロクロナデ	—	—	—	ロクロナデ	—	—	—				
168	A区	SK08⑩B	越中瀬戸皿	—	1.50(残存)	4.00	—	2.6	密	—	良好	灰釉5Y8/1灰白色 胎土7.5Y7/4にぶい橙色	灰釉5Y8/1灰白色 胎土7.5Y7/4にぶい橙色			—	—	—	ロクロナデ	—	—	—	ロクロナデ				
169	A区	SK08⑦B	越中瀬戸皿	—	1.45(残存)	4.40	—	5.5	密	—	良好	灰釉2.5Y8/3淡黄色 胎土10R5/4赤褐色	灰釉2.5Y8/3淡黄色 胎土10R5/4赤褐色			—	—	—	ロクロナデ	—	—	—	ロクロナデ				
170	A区	SD56X200Y165サブトレ内	越中瀬戸皿	9.70	2.40	4.40	0.5	3.0	密	—	良好	鉄7.5Y3/2黒褐色 胎土2.5Y8/3淡黄色	鉄7.5Y3/2黒褐色 胎土2.5Y8/3淡黄色			ロクロナデ	—	—	ロクロナデ	ロクロナデ	—	—	ロクロナデ				
171	A区	X202,203Y163-168	瀬戸灰釉瓶子	—	6.10(残存)	—	—	—	密	—	良好	釉薬7.5Y3/2オリーブ黒色 胎土2.5Y7/1灰白色	釉薬7.5Y3/2オリーブ黒色 胎土2.5Y7/1灰白色			—	ロクロナデ	—	—	—	ロクロナデ	—	—				炭化物付着
172	A区	X195Y165	甕A2	17.80	3.60(残存)	—	11.0	—	粗	1㎜	良好	2.5Y8/3淡黄色	2.5Y8/2灰白色			ナデ	—	—	—	ナデ	—	—	—	有		3	
173	A区	X190Y173	甕A3	15.60	5.00(残存)	—	1.0	—	密	2㎜	良好	7.5YR7/4にぶい橙色	10YR7/4にぶい黄橙色			ナデ	ナデ	—	—	ナデ	ナデ	—	—	有		6	
174	A区	X191,192Y171	甕B2	13.80	3.30(残存)	—	1.0	—	密	—	良好	10YR7/3にぶい黄橙色	10YR7/4にぶい黄橙色			ナデ,ハケ	—	—	—	ナデ	—	—	—				
175	A区	X191Y168	甕B2	15.70	5.80(残存)	—	2.0	—	密	—	良好	10YR8/4浅黄橙色	10YR8/4浅黄橙色			ナデ	ハケ	—	—	ナデ	ケズリ	—	—	有			
176	A区	X192Y167サブトレ内	甕B2	14.80	3.10(残存)	—	1.0	—	密	1～2㎜	良好	10YR6/3にぶい黄橙色	10YR5/3にぶい黄褐色			ナデ	—	—	—	ナデ	—	—	—				
177	A区	X191Y168	甕C1	13.60	5.10(残存)	—	1.0	—	密	—	良好	2.5Y7/3浅黄色	2.5Y7/2灰黄色			ナデ	ハケ	—	—	ナデ	ハケ,ケズリ	—	—				
178	A区	X191Y168	甕A6	14.80	4.65(残存)	—	0.7	—	密	1㎜	良好	2.5YR5/4にぶい赤褐色	10YR6/4にぶい黄橙色			調整不明	—	—	—	調整不明	—	—	—			13	
179	A区	X196Y171セクション	甕C2c	17.80	4.80(残存)	—	1.0	—	密	1㎜	良好	10YR8/4浅黄橙色	10YR1.7/1黒色			ナデ	—	—	—	ナデ	—	—	—	有			
180	A区	X191Y166セクション	壺B2	15.50	6.35(残存)	—	2.0	—	密	—	良好	10YR7/3にぶい黄橙色	10YR7/3にぶい黄橙色			ナデ,ハケ	—	—	—	ナデ,ハケ	—	—	—				口縁部に黒斑有り
181	A区	X195Y165	壺	—	3.10(残存)	—	—	—	やや密	1㎜	良好	10YR7/3にぶい黄橙色	10R4/6赤色		有	—	ミガキ,ヘラ描き	—	—	—	ハケ	—	—				
182	A区	X191Y168	甕B5	15.00	6.90(残存)	—	2.0	—	密	2㎜	良好	7.5YR6/4にぶい橙色	2.5Y7/3浅黄色			ナデ	ハケ	—	—	ナデ	ナデ	—	—				輪積み痕有り
183	A区	X191Y168	壺C3	15.60	12.40(残存)	—	2.0	—	密	—	良好	5YR7/8橙色	5YR7/8橙色			ミガキ	ミガキ	—	—	ミガキ	調整不明	—	—				
184	A区	X191Y168	鉢E1	18.60	9.20	—	3.0	—	密	2～3㎜	良好	7.5YR8/8黄橙色	7.5YR7/6橙色			ハケ	ハケ→ケズリ	ハケ→ケズリ	ハケ→ケズリ	ナデ	ハケ→ナデ	ハケ→ケズリ	ハケ→ケズリ				
185	A区	X191Y167	鉢A1	15.80	6.10(残存)	—	1.0	—	密	—	良好	2.5Y7/3浅黄色	2.5Y7/2灰黄色			ミガキ	ミガキ	—	—	ミガキ	ミガキ	—	—			8	
186	A区	X191Y167	鉢A1	17.80	6.60(残存)	—	2.0	—	密	3㎜	良好	10YR7/3にぶい黄橙色	2.5Y7/3浅黄色			ミガキ	ミガキ	—	—	ミガキ	ミガキ	—	—				
187	A区	X190Y173	器台受部C2	19.80	4.50(残存)	—	1.0	—	密	1㎜	良好	10YR8/4浅黄橙色	10YR8/8黄橙色			ミガキ	—	—	—	ミガキ	—	—	—				
188	A区	X192Y166	器台受部C1	22.00	3.20(残存)	—	0.6	—	密	—	良好	2.5Y4/1黄灰色	5YR6/6橙色			ナデ,ミガキ	—	—	—	ミガキ	—	—	—			5	
189	A区	包含層	器台受部B 器台脚部B	21.40	15.40	10.80	3.0	6.0	密	1㎜	良好	7.5YR8/8黄橙色	2.5YR7/8橙色			ミガキ	—	—	ミガキ	ミガキ	—	—	調整不明			12	
190	A区	X191Y167	器台脚部B	—	7.80(残存)	9.20	—	8.0	密	—	良好	10YR8/4浅黄橙色	10YR8/4浅黄橙色			—	—	—	調整不明	—	—	—	調整不明				黒斑有り
191	A区	X190Y173	蓋B	—	3.80(残存)	—	—	—	粗	—	やや不良	10YR6/4にぶい黄橙色	10YR6/4にぶい黄橙色			—	ミガキ,ハケ	—	—	—	ミガキ	—	—				
192	A区	X190Y173	蓋A	—	3.25	9.10	—	1.2	密	—	良好	10YR6/4にぶい黄橙色	N2/0黒色 10YR6/3にぶい黄橙色			—	ミガキ	—	—	—	ミガキ	—	—				
193	A区	X190Y172	蓋A	—	2.90	10.00	—	0.4	密	—	良好	10YR8/4浅黄橙色	10YR7/4にぶい黄橙色			—	調整不明	—	—	—	調整不明	—	—				
194	A区	X190Y172	蓋A	—	3.70	10.00	—	0.5	密	1～2㎜	良好	7.5YR7/4にぶい橙色	7.5YR7/6橙色			—	ハケ→ミガキ	—	—	—	ナデ	—	—				
195	A区		蓋C	—	4.60	5.00	—	11.0	密	2㎜	良好	5YR7/6橙色	2.5YR4/8赤褐色		有	—	ハケ,ナデ,ミガキ	—	—	—	ナデ	—	—				
196	B区	SI745No192	甕A4	17.70	4.00(残存)	—	2.0	—	密	—	良好	2.5Y8/2灰白色	10YR8/3浅黄橙色			ナデ	—	—	—	調整不明	ケズリ	—	—	有		8	
197	B区	SI745周溝	甕A6	17.00	4.20(残存)	—	1.0	—	粗	1～3.5㎜多量	やや不良	10YR4/1褐灰色	10YR7/4にぶい黄橙色			ナデ	ハケ	—	—	ナデ	—	—	—			5	

表8　遺物観察表(5)

図録番号	地区名	出土地点・層位	形態						胎土		焼成	色調		赤彩		成形・調整								煤		疑凹線	備考
																外面				内面							
			器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	口径遺存(/12)	底径遺存(/12)	質	砂粒		内面	外面	内面	外面	口頸部・坏部・受部	胴上部・蓋	胴下部	脚・底部	口頸部・坏部・受部	胴上部・蓋	胴下部	脚・底部	外面	内面		
198	B区	SI745トレンチ	甕B3	14.60	4.50(残存)	—	1.0	—	密	—	良好	10YR7/2にぶい黄橙色	10YR7/2にぶい黄橙色			ナデ	ハケ	—	—	ナデ	ハケ	—	—	有	有		
199	B区	SI745№162	甕B4	17.95	4.15(残存)	—	0.1	—	粗	1～2㎜	やや不良	10YR6/4にぶい黄橙色	10YR5/3にぶい黄褐色			ナデ	—	—	—	ナデ	—	—	—	有			
200	B区	SI745	甕B4	16.00	4.10(残存)	—	1.0	—	密	1～3㎜	やや良好	10YR6/3にぶい黄橙色	10YR6/3にぶい黄橙色			ナデ	—	—	—	ナデ,ハケ	—	—	—	有			
201	B区	SI745№435	甕B11	17.40	5.50(残存)	—	3.0	—	密	—	良好	7.5YR8/3浅黄橙色	7.5YR8/3浅黄橙色			ナデ	タタキ	—	—	ナデ	ケズリ	—	—				
202	B区	SI745	甕B10c	12.20	2.70(残存)	—	0.3	—	やや密	1㎜以下	良好	10YR7/3にぶい黄橙色	10YR6/4にぶい黄橙色			ナデ	—	—	—	ナデ	—	—	—	有			
203	B区	SI745	甕B1	15.10	2.40(残存)	—	0.4	—	密	1㎜以下	良好	10YR8/3浅黄橙色	2.5Y7/3浅黄色			調整不明	—	—	—	調整不明	—	—	—				
204	B区	SI745	甕B3	17.70	3.70(残存)	—	3.0	—	密	—	良好	10YR8/2灰白色	10YR8/2灰白色			ハケ	ハケ	—	—	ナデ	ケズリ	—	—				
205	B区	SI745№156	甕B3	19.40	3.10(残存)	—	1.0	—	密	—	良好	2.5Y8/1灰白色	10YR8/3浅黄橙色			ナデ	—	—	—	ナデ	—	—	—				
206	B区	SI745周溝	甕B2	26.50	4.70(残存)	—	2.0	—	密	—	良好	10YR8/2灰白色	10YR8/2灰白色			ナデ,調整不明	—	—	—	ナデ	—	—	—				
207	B区	SI745	甕B8	21.60	4.40(残存)	—	0.9	—	密	2㎜	良好	10YR6/2灰黄褐色	10YR7/2にぶい黄橙色			ナデ	ハケ	—	—	ナデ	ハケ	—	—	有			
208	B区	SI745	甕B6	14.00	3.70(残存)	—	0.9	—	密	—	良好	7.5YR7/4にぶい橙色	7.5YR7/4にぶい橙色			ナデ,ハケ	—	—	—	ナデ	ケズリ	—	—				
209	B区	SI745	甕B6	16.80	3.35(残存)	—	1.0	—	粗	1～2㎜	やや不良	7.5YR7/4にぶい橙色	7.5YR6/4にぶい橙色			ナデ	—	—	—	ナデ	ケズリ	—	—				
210	B区	SI745	甕C1	18.80	3.50(残存)	—	1.2	—	密	1㎜	良好	7.5YR7/3にぶい橙色	7.5YR8/4浅黄橙色			ナデ,指頭圧痕	ハケ	—	—	ハケ→ナデ	調整不明	—	—	有			
211	B区	SI745炉痕	甕C1	11.20	2.50(残存)	—	1.0	—	密	3㎜以下	やや良好	10YR7/3にぶい黄橙色	7.5YR7/3にぶい橙色			ナデ	—	—	—	調整不明	—	—	—	有			
212	B区	SI745№207	甕C2a	17.00	2.70(残存)	—	1.0	—	密	2㎜	良好	10YR8/3浅黄橙色	N1.5/0黒色			ナデ,ハケ	—	—	—	ナデ,ハケ	—	—	—				外面に黒斑有り
213	B区	SI745	甕C2b	19.00	3.30(残存)	—	1.2	—	密	—	良好	10YR8/3浅黄橙色	7.5YR8/3浅黄橙色			ナデ	ハケ	—	—	ナデ	ナデ	—	—				
214	B区	SI745	甕C3b	12.10	4.00(残存)	—	1.0	—	粗	1～3㎜多量	やや良好	10YR7/3にぶい黄橙色	10YR7/3にぶい黄橙色 7.5YR7/3にぶい橙色			ナデ	ハケ	—	—	ナデ	ナデ	—	—				輪積み痕有り
215	B区	SI745№163	甕C3a	16.00	3.60(残存)	—	1.0	—	密	1～2㎜	良好	7.5YR7/6橙色	7.5YR6/6橙色			調整不明,指頭圧痕	—	—	—	調整不明	—	—	—				輪積み痕有り
216	B区	SI745	甕C3b	16.80	3.30(残存)	—	1.7	—	やや密	1㎜	やや不良	10YR8/3浅黄橙色	10YR8/2灰白色			ナデ	ナデ	—	—	ナデ	ナデ	—	—	有			
217	B区	SI745	壺G2	15.85	2.55(残存)	—	1.0	—	粗	1～2.5㎜	良好	10YR7/3にぶい黄橙色	10YR7/3にぶい黄橙色			調整不明	—	—	—	調整不明,ハケ	—	—	—			3	口縁部に柱状浮文有り
218	B区	SI745	壺G2	18.90	2.60(残存)	—	2.0	—	密	1㎜	良好	10YR7/2にぶい黄橙色	10YR8/4浅黄橙色		有	ハケ→ナデ	—	—	—	ナデ	—	—	—			2	
219	B区	SI745周溝	壺B2	14.60	4.80(残存)	—	2.0	—	密	—	やや不良	10YR8/4浅黄橙色	10YR8/4浅黄橙色			調整不明,ハケ	—	—	—	調整不明	—	—	—				
220	B区	SK345№190	壺C4	12.00	8.70(残存)	—	3.0	—	密	1～2㎜	良好	10YR7/3にぶい黄橙色	10YR8/4浅黄橙色			ミガキ	ミガキ	—	—	ミガキ	指頭圧痕	—	—				
221	B区	SI745№205	壺C7	17.50	7.00(残存)	—	4.0	—	密	—	良好	10YR8/4浅黄橙色	10YR8/4浅黄橙色			調整不明	—	—	—	調整不明	—	—	—				
222	B区	SI745周溝	鉢E1orF	15.40	6.40(残存)	—	1.1	—	密	—	良好	10YR7/4にぶい黄橙色	10YR7/4にぶい黄橙色			ミガキ	—	—	—	ミガキ	—	—	—				
223	B区	SI745№132	鉢B	—	7.8(残存)	8.10	—	10.0	密	—	良好	10YR7/3にぶい黄橙色	10YR7/3にぶい黄橙色			ミガキ	—	—	ミガキ	ハケ	—	—	ナデ				
224	B区	SI745	高坏坏部D	20.00	6.80(残存)	—	7.0	—	密	—	良好	7.5YR7/4にぶい橙色	7.5YR7/4にぶい橙色			ハケ→ミガキ	—	—	—	調整不明	—	—	—				
225	B区	SI745№73	器台脚部D	—	5.90(残存)	—	—	—	密	—	良好	10YR7/4にぶい黄橙色	10YR7/4にぶい黄橙色		有	—	—	—	ミガキ	—	—	—	調整不明				
226	B区	SI745№262	小型土器B	7.70	4.45	4.25	2.5	12.0	密	—	良好	10YR8/4浅黄橙色	10YR8/3浅黄橙色			—	—	—	指頭圧痕	—	—	—	ミガキ				
227	B区	SI745№210	鉢G	11.60	3.80	4.85	3.0	12.0	密	—	良好	10YR8/2灰白色	10YR8/2灰白色			ハケ	—	—	—	調整不明	—	—	—				
228	B区	SI745№319	蓋B	—	2.30	5.20	—	12.0	密	2㎜	良好	2.5Y8/1灰白色	2.5Y8/1灰白色			—	ミガキ	—	—	—	ミガキ	—	—				つまみ上に黒斑有り
229	B区	SI745	蓋A	—	2.90(残存)	—	—	—	密	—	やや良好	7.5YR7/4にぶい橙色	5YR7/6橙色			—	ミガキ	—	—	—	ナデ	—	—				
230	B区	SI908№33	甕A4	16.80	3.05(残存)	—	0.8	—	やや粗	2㎜多量	不良	10YR7/4にぶい黄橙色	10YR7/4にぶい黄橙色			ナデ	—	—	—	ナデ	—	—	—			4	
231	B区	SI908№59	甕A4	16.70	3.60(残存)	—	1.0	—	密	—	良好	10YR8/2灰白色	10YR8/2灰白色			ナデ,指頭圧痕	—	—	—	ナデ,指頭圧痕	—	—	—			7	
232	B区	SI908№2	甕A3	15.60	3.40(残存)	—	0.9	—	やや密	—	良好	2.5Y8/3淡黄色	2.5Y8/3淡黄色			ナデ,指頭圧痕	—	—	—	ナデ,指頭圧痕	—	—	—			8	
233	B区	SI908№92	甕B3	17.70	26.50	2.30	10.2	12.0	粗	3.5㎜	良好	2.5Y8/3淡黄色	2.5Y8/3淡黄色		有	ナデ	ハケ	ハケ	ハケ	ナデ	ハケ	ハケ	ハケ	有	有		
234	B区	SI908№28他	甕B5	15.40	23.40	2.20	10.2	12.0	密	2.5㎜以下	良好	10YR6/2灰黄褐色	10YR7/2にぶい黄橙色			ナデ	ハケ	ハケ	ハケ	ナデ	ケズリ	ケズリ	ケズリ	有			
235	B区	SI908一括サブ南	甕B7	14.40	2.40(残存)	—	1.0	—	密	1㎜	不良	10YR8/4浅黄橙色	10YR8/4浅黄橙色	有	有	ナデ	—	—	—	ナデ	—	—	—				
236	B区	SI908№169	甕B3	13.70	5.20(残存)	—	2.0	—	密	2㎜以下少量	良好	2.5Y5/1黄灰色	2.5Y8/2灰白色			ナデ	ハケ	—	—	ナデ,ハケ	ハケ	—	—				

表9　遺物観察表(6)

図録番号	地区名	出土地点・層位	形態 器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	口径遺存(/12)	底径遺存(/12)	胎土 質	砂粒	焼成	色調 内面	外面	赤彩 内面	外面	成形・調整 外面 口頸部・坏部・受部	胴上部・蓋	胴下部	脚・底部	内面 口頸部・坏部・受部	胴上部・蓋	胴下部	脚・底部	煤 外面	内面	疑凹線	備考
237	B区	SI908No31	甕B3	13.80	6.40(残存)	—	1.0	—	密	2～3㎜	良好	10YR7/4にぶい黄橙色	10YR3/1黒褐色			ナデ	ハケ	—	—	ナデ	ナデ	—	—				内外面に黒斑有り 輪積み痕有り
238	B区	SI908No178	甕B3	15.75	4.30(残存)	—	1.0	—	密	—	良好	10YR8/2灰白色	10YR7/2にぶい黄橙色			ナデ	—	—	—	ナデ,ハケ	—	—	—	有			
239	B区	SI908No186	小型土器C	5.65	3.50	4.00	4.0	11.0	密	1～2㎜	良好	5Y3/1オリーブ黒色	2.5Y8/2灰白色			指頭圧痕	—	—	—	指頭圧痕	—	—	—				器面全体に黒斑有り
240	B区	SI908一括サブ南	高坏坏部C	15.80	3.90(残存)	—	4.0	—	密	—	良好	10YR8/4浅黄橙色	10YR8/3浅黄橙色			調整不明	—	—	—	ミガキ	—	—	—				外面底部付近に黒斑有り
241	B区	SI908No167	高坏坏部A2	26.60	5.50(残存)	—	0.9	—	密	1㎜	良好	10YR7/4にぶい黄橙色	10YR6/4にぶい黄橙色			ミガキ	—	—	—	ミガキ	—	—	—				
242	B区	SI908No156	高坏坏部B2	31.20	7.20(残存)	—	8.0	—	密	1～3㎜	良好	10YR7/4にぶい黄橙色	10YR7/3にぶい黄橙色			ミガキ	—	—	—	ミガキ	—	—	—				
243	B区	SI908No64	高坏坏部B2	28.10	9.00(残存)	—	8.0	—	密	1㎜	良好	2.5YR6/6橙色	2.5YR4/1赤灰色	有	有	ミガキ	—	—	—	ミガキ	—	—	—				内外面に黒斑有り
244	B区	SI908No93	高坏坏部A2	32.50	9.60(残存)	—	9.0	—	密	—	良好	10YR8/3浅黄橙色	10YR8/3浅黄橙色			ミガキ	—	—	—	ミガキ	—	—	—				
245	B区	SI908No34	壺B4	13.80	5.40(残存)	—	1.8	—	密	—	良好	10YR3/2黒褐色	10YR6/4にぶい黄橙色			ナデ,ハケ	—	—	—	ハケ	—	—	—				
246	B区	SK921	壺C5	14.00	6.95(残存)	—	3.0	—	密	—	良好	10YR7/4にぶい黄橙色	10YR8/3浅黄橙色			ナデ,ミガキ	—	—	—	ハケ	—	—	—			9	
247	B区	SD906No1	高坏坏部A2	22.10	6.10(残存)	—	11.0	—	密	—	良好	10YR8/4浅黄橙色	7.5YR7/6橙色			ミガキ	—	—	—	ミガキ	—	—	—			3	
248	B区	SD725No74下	壺C3	12.00	6.25(残存)	—	4.0	—	密	—	良好	10YR8/3浅黄橙色	10YR8/3浅黄橙色			ナデ,ミガキ	—	—	—	ナデ	—	—	—				
249	B区	SD725No55	高坏脚部B	—	7.90(残存)	—	—	—	密	—	良好	5YR6/6橙色	5YR6/6橙色			ミガキ	—	—	ミガキ	ミガキ	—	—	調整不明				
250	B区	SD725No74	器台脚部E1	—	7.20(残存)	10.55	—	12.0	密	—	良好	2.5Y7/2灰黄色 5YR6/3にぶい橙色	2.5Y7/1灰白色 5YR6/4にぶい橙色	有	有	—	—	—	ミガキ	—	—	—	ナデ,ハケ				
251	B区	SD746	甕B3	17.70	3.10(残存)	—	2.0	—	密	—	良好	10YR5/1褐灰色	10YR6/2灰黄褐色			ナデ	—	—	—	ナデ	—	—	—	有			
252	B区	SD746	蓋B	—	4.05	12.00	—	1.0	粗	1～3㎜	良好	10YR7/2にぶい黄橙色	2.5Y7/2灰黄色			—	調整不明	—	—	—	ハケ	—	—				
253	B区	B−2X175Y165	甕A4	17.95	4.90(残存)	—	0.6	—	粗	0.5～1.5㎜	良好	10YR7/3にぶい黄橙色	10YR7/3にぶい黄橙色			調整不明	—	—	—	指頭圧痕,調整不明	ケズリ	—	—			7	
254	B区	B−3直上X179Y169	甕B3	19.50	5.50(残存)	—	3.0	—	密	—	良好	7.5YR7/8黄橙色	7.5YR7/8黄橙色			調整不明	—	—	—	調整不明	—	—	—				
255	B区	B−2X181Y166	甕B3	18.30	7.00(残存)	—	3.0	—	密	—	良好	7.5YR6/6橙色	7.5YR6/6橙色			ナデ	ハケ	—	—	調整不明	調整不明	—	—				
256	B区	X183Y161	甕C3b	17.30	3.65(残存)	—	2.0	—	密	1～2㎜	良好	10YR8/2灰白色	10YR8/2灰白色			ナデ,ハケ	—	—	—	調整不明	—	—	—				輪積み痕有り
257	B区	X183Y168排水溝	壺B11	29.40	5.70(残存)	—	2.0	—	密	1㎜	良好	5YR7/8橙色	5YR7/6橙色			ナデ,ハケ	—	—	—	ナデ,ハケ	—	—	—				頸部屈曲部に2条の細い沈線有り
258	B区	X183Y170排水溝	壺B3	24.80	15.20(残存)	—	3.0	—	粗	—	良好	2.5Y7/3浅黄色	10YR7/3にぶい黄橙色			ナデ,ミガキ,ハケ	—	—	—	ナデ,ハケ	—	—	—				
259	B区	B−2X182Y168	壺G2	16.50	1.80(残存)	—	1.0	—	密	—	良好	10YR8/4浅黄橙色	10YR8/4浅黄橙色			調整不明	—	—	—	調整不明	—	—	—			2	口縁部に柱状浮文有り
260	B区	B−2X180Y165東西サブ	器台脚部D	—	8.30(残存)	9.60	—	4.0	密	1㎜	良好	2.5YR7/6橙色	2.5YR7/4淡赤橙色			—	—	—	ハケ→ミガキ	—	—	—	ナデ				
261	B区	X180Y169排水溝	器台脚部C	—	8.25(残存)	—	—	—	密	—	良好	10YR6/4にぶい黄橙色	10YR7/3にぶい黄橙色			—	—	—	ミガキ	—	—	—	ナデ,ケズリ,ハケ				
262	B区	X179Y169排水溝	土師器ⅢB	15.40	5.50	8.60	0.5	9.4	密	—	良好	7.5YR6/4にぶい橙色	7.5YR7/4にぶい橙色			ロクロナデ	—	—	ロクロナデ	ロクロナデ	—	—	ロクロナデ				貼付高台外面底部にヘラ記号(I×I形)有り
264	B区	B−2X183Y170	中世土師皿	5.60	1.15	—	2.2	—	密	—	やや不良	10YR8/2灰白色	10YR8/2灰白色			ナデ	—	—	—	ナデ	—	—	—				
265	B区	SD742	土師器	13.80	4.55	—	0.9	—	やや密	—	良好	側面7.5YR6/4にぶい橙色 底部5YR7/6橙色	7.5YR7/4にぶい橙色			調整不明	—	—	調整不明	調整不明	—	—	調整不明				
266	B区	SD743	古代土師器椀A	13.50	3.90	—	3.0	—	密	—	やや良好	10YR8/3浅黄橙色	10YR8/3浅黄橙色			ロクロナデ	—	—	回転糸切り	ロクロナデ	—	—	ロクロナデ				
267	B区	SD744	古代土師器椀A	10.40	2.50	—	6.1	—	密	—	良好	5YR7/6橙色	5YR7/6橙色			ロクロナデ	—	—	回転糸切り	ロクロナデ	—	—	ロクロナデ				
268	B区	SD744	古代土師器椀A	—	2.30(残存)	5.60	—	12.0	密	—	やや良好	10YR7/4にぶい黄橙色	10YR7/4にぶい黄橙色			—	—	ロクロナデ	回転糸切り	—	—	ロクロナデ	ロクロナデ				
269	B区	SD735	古代土師器椀A	—	1.40(残存)	4.60	—	12.0	密	—	良好	10YR8/3浅黄橙色	10YR8/3浅黄橙色			—	—	ロクロナデ	回転糸切り	—	—	ロクロナデ	ロクロナデ				二次被熱痕有り
270	B区	SD735	中世土師皿	8.60	1.45(残存)	—	1.5	—	密	—	やや良好	5YR7/4にぶい橙色	5YR7/4にぶい橙色			ナデ	—	—	—	ナデ	—	—	—				
271	B区	SD735	古代ⅢA	8.60	2.55	4.65	12.0	12.0	密	—	やや良好	10YR8/3浅黄橙色	10YR8/3浅黄橙色			ロクロナデ	—	—	回転糸切り	ロクロナデ	—	—	ロクロナデ				
272	B区	SD735	中世土師皿	11.60	2.30(残存)	—	1.0	—	密	—	やや良好	2.5YR7/4淡赤橙色	2.5YR7/4淡赤橙色			ロクロナデ	—	—	—	ロクロナデ	—	—	—				
273	B区	SD735	珠洲すり鉢	—	7.30(残存)	11.20	—	1.3	密	—	良好	N7/0灰白色	N7/0灰白色			—	—	ロクロナデ	糸切り	—	—	オロシ目	オロシ目				
274	C区	SK816	甕B1	16.80	3.60(残存)	—	1.0	—	密	2～3㎜	良好	2.5Y7/3浅黄色	10YR8/6黄橙色			ナデ	—	—	—	調整不明	—	—	—				
275	C区	SK816	甕C1	13.70	3.9(残存)	—	3.0	—	密	—	良好	2.5Y7/2灰黄色	2.5Y7/2灰黄色			ナデ	ハケ	—	—	ナデ	ハケ	—	—	有			
276	C区	SK816	壺J	8.70	6.60(残存)	—	6.0	—	粗	1～2㎜	やや不良	2.5Y8/4淡黄色	2.5Y8/2灰白色	有	有	ナデ,ミガキ	ミガキ	—	—	ナデ	ナデ,指頭圧痕	—	—				内面に黒斑有り,内外面に炭化物付着,口縁部破損

表10　遺物観察表(7)

図録番号	地区名	出土地点・層位	形態 器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	口径遺存(/12)	底径遺存(/12)	胎土 質	砂粒	焼成	色調 内面	色調 外面	赤彩 内面	赤彩 外面	成形・調整 外面 口頸部・坏部・受部	外面 胴上部・蓋	外面 胴下部	外面 脚・底部	内面 口頸部・坏部・受部	内面 胴上部・蓋	内面 胴下部	内面 脚・底部	煤 外面	煤 内面	疑凹線	備考
277	C区	SK816	壺E2	14.50	4.15(残存)	—	3.0	—	密	1㎜	良好	10YR8/2 灰白色	10YR8/2 灰白色			ナデ,ハケ	—	—	—	ナデ	—	—	—				
278	C区	SK816一括	壺B1	15.70	3.60(残存)	—	0.8	—	密	—	良好	10YR7/2 にぶい黄橙色	10YR7/2 にぶい黄橙色			ナデ	—	—	—	ナデ	—	—	—	有			外面に黒斑有り
279	C区	SK816No13	壺B2	17.20	5.70(残存)	—	3.0	—	密	1～2㎜	やや良好	10YR4/2 灰黄褐色	10YR8/4 浅黄橙色			ナデ	—	—	—	ナデ	—	—	—				
280	C区	SK816	壺B1	15.75	7.15(残存)	—	0.8	—	粗	1～1.5㎜	良好	2.5Y7/2 灰黄色	10YR7/3 にぶい黄橙色			ナデ,ハケ	—	—	—	ナデ,ハケ	—	—	—	有			輪積み痕有り
281	C区	SK816	壺B3	14.60	7.55(残存)	—	10.0	—	密	—	やや不良	7.5YR8/1 灰白色	7.5YR8/1 灰白色			調整不明	—	—	—	調整不明	—	—	—			5	
282	C区	SK816 C−5X171Y168	壺B2	16.60	7.90(残存)	—	12.0	—	密	—	良好	2.5Y8/2 灰白色	2.5Y8/2 灰白色			ナデ,ハケ	—	—	—	ナデ,ハケ	—	—	—	有	有		口縁上に１条の沈線及び不正形のU字型沈線有り
283	C区	SK816	甕or壺底部	—	11.10(残存)	5.50	—	12.0	密	1㎜以下	良好	10YR8/3 浅黄橙色	10YR8/3 浅黄橙色			—	—	ハケ	ハケ	—	—	ハケ	ハケ	有			内面に黒斑有り
284	C区	SK816	高杯坏部A1	31.00	6.10(残存)	—	3.0	—	密	2㎜以下多量	良好	10YR8/4 浅黄橙色	10YR8/4 浅黄橙色			ハケ→ミガキ	—	—	—	ミガキ	—	—	—				
285	C区	SK816	器台脚部C	—	11.30(残存)	—	—	—	密	—	良好	7.5YR7/4 にぶい橙色	10YR8/2 灰白色	有		—	—	—	ミガキ	—	—	—	ハケ				透孔４箇所残存
286	C区	SK816一括	高坏脚部B	—	12.80(残存)	15.30	—	4.0	密	—	良好	2.5Y7/2 灰黄色	2.5Y7/2 灰黄色		有	—	—	—	ハケ→ミガキ	—	—	—	ハケ→ナデ消し				透孔３箇所残存
287	C区	C−5X165Y164	甕A3	16.20	24.50	3.20	11.0	12.0	粗	—	良好	7.5YR8/1 灰白色	7.5YR8/2 灰白色			ナデ	ハケ	ハケ	ハケ	ナデ,指頭圧痕	ケズリ	ケズリ	ケズリ	有		2	
288	C区	C−5X165Y164	甕A3	15.00	24.10	2.90	12.0	12.0	密	0.5～2㎜	良好	7.5YR8/6 浅黄橙色	7.5YR8/6 浅黄橙色			ナデ	ナデ	ハケ	ハケ	ナデ	ケズリ	ケズリ	ケズリ	有		4	
289	C区	C−5X165Y164	甕A3	14.80	19.50	2.35	12.0	12.0	粗	—	やや不良	10YR7/4 にぶい黄橙色	10YR7/4 にぶい黄橙色			ナデ	ハケ	ハケ	ハケ	ナデ,指頭圧痕	ケズリ	ケズリ	ケズリ	有		7	
290	C区	C−1X168Y164	甕A3	15.40	4.10(残存)	—	3.0	—	密	—	良好	10YR8/3 浅黄橙色	10YR8/3 浅黄橙色			ナデ	—	—	—	ナデ,指頭圧痕	—	—	—			6	内面に炭化物付着
291	C区	C−5X165Y164	甕A3	14.00	7.80(残存)	—	1.0	—	密	2㎜	良好	2.5Y6/1 黄灰色	5YR7/4 にぶい橙色			ナデ	ハケ	—	—	ナデ	ケズリ	—	—			6	
292	C区	C−5X165Y164 下層包含層	甕B3	15.00	13.25	1.50	12.0	12.0	密	0.3～1㎜	良好	7.5YR7/6 橙色	10YR7/4 にぶい黄橙色			ナデ	ハケ	ハケ,指頭圧痕	ハケ,指頭圧痕	ナデ	ハケ	ハケ,指頭圧痕	ハケ,指頭圧痕	有			
293	C区	C−5X165Y164	甕B3	19.20	7.20(残存)	—	2.0	—	密	1㎜	良好	2.5YR7/8 橙色	5YR8/4 淡橙色			ナデ	ハケ	—	—	ナデ	ハケ	—	—				外面胴上部に黒斑有り
294	C区	C−5下層包含層	甕B2	15.60	8.30(残存)	—	1.0	—	粗	1～2㎜	やや不良	10YR7/3 にぶい黄橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色			ナデ	ハケ	—	—	ナデ	ケズリ	—	—	有			内面に炭化物付着
295	C区	C−5下層包含層	甕C1	15.50	9.70(残存)	—	10.0	—	密	—	良好	10YR8/3 浅黄橙色	10YR5/4 にぶい黄褐色			ナデ	ハケ	—	—	ナデ	ケズリ	—	—	有			内面に炭化物付着
296	C区	C−5X166Y165	甕B3	16.00	8.20(残存)	—	1.0	—	粗	1～2㎜	良好	2.5Y6/3 にぶい黄色	10YR6/3 にぶい黄橙色			ハケ	ハケ	—	—	ナデ	ケズリ	—	—	有			
297	C区	C−7X167Y165	甕B3	16.90	18.20(残存)	—	5.0	—	粗	1～2㎜	良好	2.5YR5/4 にぶい赤褐色	2.5YR5/6 明赤褐色			ナデ	ハケ	ハケ	—	ナデ	ケズリ	ケズリ	—	有			胎土に骨針含む
298	C区	C−5X165Y164	甕B3	16.80	27.30	3.30	7.0	9.0	粗	2～3㎜	良好	10YR8/3 浅黄橙色	2.5Y7/2 灰黄色			ナデ	ハケ状工具によるナデ	ハケ状工具によるナデ	ハケ状工具によるナデ	ナデ	ケズリ	ケズリ	ケズリ	有			外面底部に二次被熱による赤色変色有り 外面に黒斑有り
299	C区	C−5SK615No201	甕B3	22.40	15.40(残存)	—	4.0	—	密	—	良好	10YR8/3 浅黄橙色	10YR8/3 浅黄橙色			ナデ	ハケ	—	—	ナデ	ケズリ	—	—	有	有		
300	C区	C−7X168Y167	甕C2a	13.60	1.80(残存)	—	1.1	—	やや粗	—	やや良好	2.5Y5/2 暗灰黄色	2.5Y5/2 暗灰黄色			ハケ	—	—	—	調整不明	—	—	—				口縁外端部に貝殻による文様有り
301	C区	C−5SK615No132	甕C3a	14.60	3.40(残存)	—	1.0	—	密	1～3㎜	良好	5YR5/4 にぶい赤褐色	5YR6/6 橙色			ナデ	—	—	—	ナデ	—	—	—	有			
302	C区	C−5SX816	壺E1	12.80	3.90(残存)	—	1.4	—	密	—	不良	10YR8/4 浅黄橙色	10YR8/4 浅黄橙色			調整不明	—	—	—	調整不明	—	—	—				
303	C区	X172Y167排水溝	壺E1	12.70	5.20(残存)	—	2.0	—	密	1～2㎜	良好	2.5Y8/1 灰白色	2.5Y8/1 灰白色			ナデ	ナデ	—	—	ナデ	ケズリ	—	—				
304	C区	C−5X166Y163	壺B5a	12.80	20.00(残存)	—	11.7	—	粗	1.5㎜	良好	7.5YR8/3 浅黄橙色	7.5YR8/4 浅黄橙色			ナデ	ハケ	ハケ	—	ナデ	指頭圧痕	指頭圧痕,ハケ	—				
305	C区	C−4X173Y161	壺C3	17.10	7.30(残存)	—	2.0	—	密	1㎜	良好	10YR8/4 浅黄橙色	10YR8/4 浅黄橙色			ナデ	ハケ	—	—	ナデ	ケズリ	—	—				口縁部にヘラ状工具によるキズ有り
306	C区	C−5X165Y163	壺C5	16.10	7.25(残存)	—	2.4	—	粗	—	良好	10YR7/3 にぶい黄橙色	10R4/6 赤色	有	有	ハケ→ミガキ,ナデ	—	—	—	ハケ→ミガキ,ナデ	—	—	—				
307	C区	X172Y167排水溝	壺A1	16.00	9.85(残存)	—	3.0	—	粗	—	やや不良	2.5Y7/2 灰黄色	2.5Y8/3 淡黄色			ナデ,ハケ	—	—	—	ナデ,ハケ	—	—	—				輪積み痕有り
308	C区	X170Y167 試掘トレンチ内	器台受部A	19.40	6.50(残存)	—	1.0	—	密	2㎜	良好	5YR7/8 橙色	5YR7/8 橙色			ナデ	—	—	—	ミガキ	—	—	—			18	
309	C区	C−4直上X172Y164	壺B4	14.35	27.25	4.90	3.0	12.0	粗	—	良好	10YR7/3 にぶい黄橙色	7.5YR7/4 にぶい橙色			ナデ	ハケ→ミガキ	ハケ→ミガキ	ミガキ	ナデ	ハケ	ハケ	ハケ	有			黒斑有り
310	C区	C−5X170Y164	器台受部A	21.15	4.75(残存)	—	9.0	—	粗	—	良好	10R4/8 赤色	10R5/8 赤色	有	有	ミガキ	—	—	—	ミガキ	—	—	—				口縁部に黒斑有り
311	C区	C−5X169Y164	高坏坏部B2	25.40	6.70(残存)	—	12.0	—	密	—	良好	10YR8/6 黄橙色	10YR8/4 浅黄橙色			ミガキ	—	—	—	ミガキ	—	—	—				
312	C区	X172Y167排水溝	器台脚部	—	11.20(残存)	—	—	—	密	—	良好	10YR6/4 にぶい黄橙色	10YR8/4 浅黄橙色			—	—	—	ミガキ	—	—	—	調整不明				輪積み痕有り
313	C区	SK816	高坏脚部A	—	16.20(残存)	17.50	—	10.0	粗	1㎜	良好	10YR8/3 浅黄橙色	10YR8/2 灰白色			—	—	—	ミガキ	—	—	—	ハケ				２個１対の透孔４箇所残存 黒斑有り
314	C区	C−5X171Y167	高坏脚部A	—	13.80(残存)	—	—	—	密	—	良好	5YR7/6 橙色	7.5YR6/6 橙色			ミガキ	—	—	ミガキ	調整不明	—	—	ナデ				
315	C区	C−1X172Y164	高坏or器台脚部A	—	1.60(残存)	27.00	—	0.8	密	0.5～1㎜	良好	10YR８/２ 灰白色	10YR８/２ 灰白色			—	—	—	調整不明	—	—	—	調整不明				鉄分付着

表11　遺物観察表(８)

図録番号	地区名	出土地点・層位	形態						胎土		焼成	色調		赤彩		成形・調整								煤		疑凹線	備考
			器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	口径遺存(/12)	底径遺存(/12)	質	砂粒		内面	外面	内面	外面	外面				内面				外面	内面		
																口頸部・坏部・受部	胴上部・蓋	胴下部	脚・底部	口頸部・坏部・受部	胴上部・蓋	胴下部	脚・底部				
316	C区	SK816	高坏or器台脚部A	—	1.75(残存)	17.00	—	0.9	密	—	良好	10YR7/4にぶい黄橙色	10YR7/4にぶい黄橙色			—	—	—	ミガキ,ナデ	—	—	—	ミガキ,ナデ				
317	C区	C−5X170Y164	器台脚部C	—	8.80(残存)	11.60	—	2.0	密	—	良好	2.5Y8/2灰白色	2.5Y8/2灰白色			—	—	—	ミガキ	—	—	—	ナデ,ハケ,しぼり痕				透孔3箇所残存
318	C区	C−4X170Y164	器台脚部C	—	9.60(残存)	11.45	—	3.0	密	—	良好	10YR6/3にぶい黄橙色	10YR7/4にぶい黄橙色			—	—	—	ミガキ	—	—	—	ハケ→ナデ				
319	C区	C−6X171Y167	器台脚部C	—	8.00(残存)	—	—	—	やや粗	—	やや良好	10YR7/4にぶい黄橙色	2.5Y8/2灰白色			—	—	—	調整不明	—	—	—	ナデ,ハケ				
320	C区	C−4X172Y168	器台脚部F	—	3.70(残存)	—	—	—	密	—	良好	10YR7/3にぶい黄橙色	2.5Y8/2灰白色	有	有	ミガキ	—	—	ミガキ	ミガキ	—	—	ナデ,ミガキ,ハケ				
321	C区	C−4X171,172Y169	器台脚部F	—	5.35(残存)	—	—	—	密	—	やや良好	7.5YR8/4浅黄橙色	7.5YR7/6橙色			—	—	—	ミガキ	—	—	—	調整不明				
322	C区	C−5X167Y164	壺H	—	27.70(残存)	12.40	—	5.0	密	1㎜少量	良好	10YR8/3浅黄橙色	10YR8/4浅黄橙色			ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ハケ	ハケ	調整不明	しぼり痕				透孔4箇所残存,輪積み痕有り
323	C区	C−5X166Y164	鉢E2	19.00	12.30	1.40	9.0	12.0	密	3㎜以下	良好	10YR8/6黄橙色	10YR8/6黄橙色			ハケ→ミガキ	ハケ→ミガキ	ハケ→ミガキ	ハケ→ミガキ	ハケ→ミガキ	ハケ→ミガキ	ハケ→ミガキ	ハケ→ミガキ				底部に径13㎜の穿孔有り
324	C区	C−5SK615	鉢E2	—	7.00(残存)	1.50	—	11.0	密	1㎜	良好	5YR6/6橙色	5YR7/6橙色			—	—	調整不明	調整不明	—	—	調整不明	調整不明	有			底部に径7㎜の穿孔有り
325	C区	X165,166Y168,166	蓋C	—	4.80(残存)	5.40	—	1.0	粗	1㎜	良好	10YR8/6黄橙色	10YR8/4浅黄橙色			—	調整不明	—	—	—	調整不明	—	—				
326	C区	C−4X170Y166	鉢B	—	3.10(残存)	6.90	—	4.0	粗	—	良好	10YR7/3にぶい黄橙色	2.5YR5/6明赤褐色		有	—	—	—	ミガキ	—	—	—	調整不明				
328	C区	C−1X171Y169	小型土器C	6.60	3.80	4.00	2.1	9.5	密	—	良好	7.5YR7/6橙色	7.5YR7/6橙色			指頭圧痕	指頭圧痕	指頭圧痕	指頭圧痕	指頭圧痕	指頭圧痕	指頭圧痕	指頭圧痕				手づくね
330	C区	SK615No.112	須恵器坏H	11.70	3.20(残存)	—	8.0	—	密	—	良好	7.5Y8/1灰白色	7.5Y8/2灰白色			ロクロナデ	—	—	—	ロクロナデ	—	—	—				
331	C区	SK615No.95	古代土師器甕A	17.20	7.10(残存)	—	11.0	—	密	—	良好	10YR7/6明黄褐色	10YR7/6明黄褐色			ナデ	ハケ	—	—	ナデ,ハケ	ケズリ	—	—				
332	C区	SK615No.8	古代土師器甕A	14.20	13.10(残存)	—	12.0	—	密	1～2㎜	良好	5YR6/3にぶい橙色	5YR6/4にぶい橙色			ナデ	ハケ	ハケ	—	ナデ	ケズリ	ケズリ	—	有	有		
333	C区	SK615No.144	古代土器師椀B	13.70	6.00(残存)	—	2.0	—	密	—	良好	7.5Y2/1黒色	5YR5/4にぶい赤褐色			ハケ→ミガキ	ハケ→ミガキ	ハケ→ミガキ	—	ミガキ	ミガキ	ミガキ	—				輪積み痕有り
334	C区	SK615No.22	カマドの支脚	長径13.00	短径5.00	厚さ5.45	—	—	密	1～1.5㎜	良好	10YR7/4にぶい黄橙色	10YR7/4にぶい黄橙色			—	指頭圧痕	指頭圧痕	—	—	指頭圧痕	指頭圧痕	—				
335	C区	SK615No.8	古代土師器高坏脚部	—	8.50(残存)	12.60	—	5.0	密	—	良好	7.5YR6/4にぶい橙色	10YR7/3にぶい黄橙色			ミガキ	—	—	ミガキ,ナデ	ミガキ	—	—	ナデ				輪積み痕有り
337	C区	SK589	中世土師皿	8.80	1.75(推定)	—	7.4	—	密	—	やや不良	10YR8/3浅黄橙色	10YR8/3浅黄橙色			ナデ	—	—	指頭圧痕	ナデ	—	—	指頭圧痕	有			
338	C区	SK587	中世土師皿	8.20	1.85(推定)	—	8.0	—	密	—	やや不良	10YR7/3にぶい黄橙色	10YR7/3にぶい黄橙色			ナデ	—	—	指頭圧痕	ナデ	—	—	指頭圧痕		有		口縁部に付着物有り
339	C区	SK587底の方	中世土師皿	8.60	1.45(残存)	—	1.9	—	密	—	やや不良	10YR8/3浅黄橙色	10YR8/3浅黄橙色			ナデ	—	—	指頭圧痕	ナデ	—	—	ナデ				胎土に籾殻含む
340	C区	SK587底の方	中世土師皿	10.60	1.85(残存)	—	2.0	—	密	—	やや不良	10YR8/2灰白色	10YR8/2灰白色			ナデ	—	—	—	ナデ	—	—	—		有		内面にタール付着
341	C区	SK587底の方	鞴羽口	長径12.50	短径7.00	厚さ3.20	—	—	粗	—	不良	2.5Y4/2暗灰黄色	10YR6/3にぶい黄橙色			—	—	—	—	—	—	—	—				
342	C区	SK590	珠洲すり鉢	28.20	6.70(残存)	—	1.5	—	密	—	良好	N5/0灰色	N5/0灰色			ロクロナデ	—	—	—	ロクロナデ	—	—	—				口縁部にヘラ描き文有り
343	C区	SK590	中世土師皿	9.40	1.50(残存)	—	1.0	—	密	—	やや不良	10YR8/3浅黄橙色	10YR8/3浅黄橙色			ナデ	—	—	—	ナデ	—	—	—				
345	C区	X167Y160排水溝	珠洲すり鉢	19.20	3.40(残存)	—	1.2	—	密	—	良好	7.5Y6/1灰色	7.5Y6/1灰色			ロクロナデ	—	—	—	ロクロナデ	—	—	—				
346	D区	SD275No.47 No.54No.59	甕A4	18.00	5.20(残存)	—	10.0	—	やや密	—	良好	10YR8/3浅黄橙色	10YR8/3浅黄橙色			ナデ	ハケ	—	—	ナデ,指頭圧痕	ケズリ	—	—	有		6	
347	D区	SD275	甕A6or鉢A3	14.00	4.30(残存)	—	1.2	—	やや密	2㎜以下多量	良好	7.5YR7/4にぶい橙色	7.5YR7/5にぶい橙色			調整不明	—	—	—	調整不明	—	—	—			2	
348	D区	SD275No.23	甕B3	14.00	5.20(残存)	—	1.0	—	密	1㎜	良好	10YR8/3浅黄橙色	10YR8/3浅黄橙色			ナデ	—	—	—	ナデ	—	—	—	有			
349	D区	SD275④ブロック	甕B2	17.00	3.25(残存)	—	1.5	—	密	2㎜	良好	10YR7/4にぶい黄橙色	10YR8/4浅黄橙色			ナデ	—	—	—	ナデ,ケズリ	—	—	—				
350	D区	SD275No.3	甕B2	18.00	3.70(残存)	—	0.4	—	やや密	—	やや良好	10YR8/1灰白色	10YR8/1灰白色			ナデ	—	—	—	ナデ	—	—	—				
351	D区	SD275③ブロック	甕B2	20.00	3.60(残存)	—	3.0	—	密	2㎜以下	良好	10YR7/3にぶい黄橙色	10YR7/4にぶい黄橙色			ナデ	—	—	—	ナデ,ケズリ	—	—	—	有			
352	D区	SD275④ブロック	甕B6	17.00	3.60(残存)	—	1.4	—	やや粗	1㎜以下	良好	2.5Y6/2灰黄色	10YR7/4にぶい黄橙色			ナデ	—	—	—	ナデ	—	—	—	有			
353	D区	SD275X163,164Y166	甕B5	15.00	3.10(残存)	—	1.9	—	密	2㎜以下	良好	7.5YR7/4にぶい橙色	5YR7/4にぶい橙色			ナデ	—	—	—	ナデ	—	—	—				
354	D区	SD275X163,164Y164	甕C3a	16.70	4.10(残存)	—	1.0	—	密	2㎜以下	良好	5YR6/6橙色	10YR8/3浅黄橙色			ナデ	—	—	—	ナデ,ハケ	—	—	—				
355	D区	SD275X162,163Y163	甕C2a	16.00	4.35(残存)	—	0.1	—	やや密	2㎜以下	良好	10YR7/4にぶい黄橙色	5YR6/6橙色			ナデ	—	—	—	ナデ	—	—	—	有			
356	D区	SD275X162,163Y163	甕C3a	15.00	4.25(残存)	—	1.5	—	密	8㎜	良好	5YR6/6橙色	5YR6/6橙色			ナデ	ハケ	—	—	ナデ	ハケ,ケズリ	—	—				
357	D区	SD275③ブロック	甕C3a	20.00	4.13(残存)	—	0.5	—	密	—	良好	10YR8/4浅黄橙色	10YR7/4にぶい黄橙色			ナデ,ハケ	—	—	—	ナデ	—	—	—				
358	D区	SD275X162Y163	壺B3	19.00	4.66(残存)	—	1.5	—	密	1㎜	良好	5YR6/8橙色	5YR6/8橙色			ナデ	—	—	—	ミガキ	—	—	—			4	

表12　遺物観察表(9)

図録番号	地区名	出土地点・層位	形態 器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	口径遺存(/12)	底径遺存(/12)	胎土 質	胎土 砂粒	焼成	色調 内面	色調 外面	赤彩 内面	赤彩 外面	成形・調整 外面 口頸部・坏部・受部	外面 胴上部・蓋	外面 胴下部	外面 脚・底部	内面 口頸部・坏部・受部	内面 胴上部・蓋	内面 胴下部	内面 脚・底部	煤 外面	煤 内面	疑凹線	備考
359	D区	SD275No27	壺B3	15.00	8.30(残存)	—	1.0	—	密	—	良好	10YR7/4にぶい黄橙色	10YR7/4にぶい黄橙色			ナデ,ハケ	—	—	—	ナデ,ハケ→ナデ	—	—	—				
360	D区	SD275X162Y164	甕G2	18.00	4.30(残存)	—	2.0	—	密	1㎜少量	良好	10YR8/4浅黄橙色	10YR8/4浅黄橙色			調整不明	—	—	—	ナデ	—	—	—				
361	D区	SD275X164Y164	壺H?	10.00	6.25(残存)	—	2.0	—	密	—	良好	5YR7/6橙色5YR6/6橙色	5YR7/6橙色5YR6/6橙色			ミガキ	—	—	—	ナデ	—	—	—				
362	D区	SD275X162,163Y161,162	壺D2	16.00	6.25(残存)	—	1.7	—	密	1㎜少量	良好	10YR8/3浅黄橙色	10YR8/3浅黄橙色			ナデ,ハケ→ナデ	ミガキ	—	—	ミガキ	ハケ	—	—				
363	D区	SD275X162,163Y163	壺C2	20.00	5.13(残存)	—	1.5	—	密	1㎜	良好	赤彩10R4/6赤色胎土7.5YR7/6橙色	赤彩10R4/6赤色胎土7.5YR7/6橙色	有	有	ミガキ	—	—	—	ミガキ	—	—	—				
364	D区	SD275No5	壺G1	—	4.80(残存)	—	—	—	密	—	良好	2.5Y8/2灰白色	7.5YR7/6橙色		有	ミガキ	—	—	—	ハケ→ナデ	—	—	—				円形浮文,竹管文有り
365	D区	SD275No42	高坏坏部B2	21.00	6.20(残存)	—	2.5	—	やや粗	3㎜	良好	10YR8/4浅黄橙色	10YR8/3浅黄橙色			ミガキ	—	—	—	ミガキ	—	—	—				
366	D区	SD275X162Y163	高坏坏部Dor鉢E1・F	20.00	4.70(残存)	—	0.8	—	密	2㎜	良好	10YR8/4浅黄橙色	10YR8/4浅黄橙色			ミガキ	—	—	—	ミガキ	—	—	—				
367	D区	SD275X164Y164	器台受部E	11.00	3.00(残存)	—	2.0	—	密	—	やや不良	10YR8/4浅黄橙色	10YR8/4浅黄橙色			調整不明	—	—	—	調整不明	—	—	—				
368	D区	SD275X163,164Y163	器台脚部D	—	6.70(残存)	11.60	—	7.8	密	2～3㎜	良好	7.5YR7/6橙色	7.5YR7/6橙色			—	—	—	調整不明	—	—	—	調整不明				
369	D区	SD275X162,163Y163	鉢B	—	4.45(残存)	7.80	—	1.1	密	2㎜	良好	10YR8/4浅黄橙色	10YR8/4浅黄橙色			—	—	—	ミガキ	—	—	—	ハケ				
370	D区	SD275X163Y167,168	製塩土器	—	3.90(残存)	—	—	—	密	—	やや不良	7.5YR7/6橙色	7.5YR7/6橙色			—	—	ケズリ	—	—	—	ナデ	—				
371	D区	SD275X163,164Y164	鉢F	11.40	3.80(残存)	—	1.8	—	密	—	良好	5YR7/6橙色	5YR7/6橙色			ナデ	ナデ	—	—	ナデ	ナデ	—	—				
372	D区	SD277X159Y167	甕A5	17.00	3.00(残存)	—	2.1	—	やや粗	3㎜	不良	10YR7/4にぶい黄橙色	10YR7/3にぶい黄橙色			ナデ	—	—	—	ナデ,指頭圧痕	—	—	—	有		6	
373	D区	SD277No14	甕A5	18.00	5.80(残存)	—	1.9	—	密	3㎜以下多量	良好	10YR7/4にぶい黄橙色	10YR7/4にぶい黄橙色			ナデ	ハケ,ナデ	—	—	ナデ,指頭圧痕	ハケ,ナデ	—	—	有		8	
374	D区	SD277X157Y167	甕A5	18.00	5.30(残存)	—	0.3	—	密	2㎜	良好	10YR6/4にぶい黄橙色	5YR6/4にぶい橙色			ナデ	ハケ,ナデ	—	—	ナデ,指頭圧痕	ケズリ	—	—	有		8	
375	D区	SD277No32	甕B11	19.00	9.60(残存)	—	12.0	—	粗	2㎜	良好	10YR7/4にぶい黄橙色	5YR7/6橙色			ナデ	ハケ	—	—	ナデ	ハケ	—	—	有			外面口縁部と胴部に黒斑有り
376	D区	SD277No15	甕B6	17.00	3.20(残存)	—	0.5	—	密	2㎜	やや良好	10YR6/3にぶい黄橙色	10YR6/2灰黄褐色			ナデ	—	—	—	ナデ	—	—	—	有			
377	D区	SD277X158Y167	甕C1	17.00	2.20(残存)	—	1.1	—	やや粗	3㎜	やや良好	5YR6/8橙色	10YR7/4にぶい黄橙色			ナデ	—	—	—	ナデ	—	—	—				
378	D区	SD277X152,153Y167	甕C2b	19.00	6.10(残存)	—	3.0	—	粗	2㎜以下多量	良好	7.5YR8/4浅黄橙色	5YR7/6橙色			ナデ	ナデ	—	—	ナデ,指頭圧痕	ケズリ	—	—				
379	D区	SD277X160Y169	甕C2c	16.20	24.00	—	10.0	—	粗	2～3㎜	良好	2.5Y8/3淡黄色	2.5Y8/2灰白色			ナデ	ハケ	ハケ	ハケ	ナデ	ケズリ	ケズリ	ケズリ	有			外面胴下半部に黒斑有り
380	D区	SD277X152,153Y167	壺F	10.00	4.30(残存)	—	1.9	—	粗	1～5㎜	やや不良	10YR7/4にぶい黄橙色	10YR8/4浅黄橙色			調整不明	—	—	—	調整不明	—	—	—				
381	D区	SD277No24	壺D3	16.00	7.90(残存)	—	2.1	—	密	2㎜以下多量	良好	10YR8/3浅黄橙色	10YR8/4浅黄橙色			ハケ→ミガキ	ハケ→ミガキ	—	—	ハケ→ミガキ	ハケ	—	—				
382	D区	SD277No23	壺C1	11.00	5.40(残存)	—	2.0	—	口縁部:密体部:粗	2㎜以下多量	良好	10YR8/3浅黄橙色	口縁部10YR8/3浅黄橙色体部7.5YR7/6橙色			ナデ	ナデ	—	—	ナデ	調整不明	—	—				粘土つなぎ目有り
383	D区	SD277No1	壺	—	9.10(残存)	—	—	—	密	1㎜少量	良好	5YR6/6橙色	10YR5/3にぶい黄橙色～10YR6/4にぶい黄橙色			—	ハケ→ミガキ	—	—	—	ナデ	—	—				
384	D区	SD277No7	壺C4	16.45	13.85(残存)	—	0.5	—	粗	2㎜以下	良好	10YR7/4にぶい黄橙色	10YR7/3にぶい黄橙色			ナデ	ハケ→ミガキ	—	—	ナデ	ケズリ	—	—				外面に黒斑有り
385	D区	SD277No20	壺B5b	14.35	27.60	7.10	12.0	4.0	粗	1㎜	良好	7.5YR7/4にぶい橙色	7.5YR7/4にぶい橙色			ナデ	ハケ	ハケ	ハケ	ナデ	ハケ	ハケ	ハケ	有		6	輪積み痕,黒斑有り
386	D区	SD276Bセク内	甕A5	14.00	4.10(残存)	—	0.2	—	密	—	不良	10YR8/4浅黄橙色	10YR8/4浅黄橙色			ナデ	—	—	—	ナデ	—	—	—			9	
387	D区	SD276Bセク内	甕A5	15.00	3.00(残存)	—	1.5	—	密	—	やや良好	10YR7/3にぶい黄橙色	5YR6/3にぶい橙色			ナデ	—	—	—	ナデ,指頭圧痕	—	—	—			5	
388	D区	SD276X160Y167	甕C3a	14.00	4.07(残存)	—	0.8	—	密	—	やや良好	7.5YR8/3浅黄橙色	5YR7/6橙色			ナデ	—	—	—	ハケ→ナデ	—	—	—				
389	D区	SD276X163Y170	甕C3a	17.00	6.20(残存)	—	3.0	—	密	—	やや良好	7.5YR7/6橙色	7.5YR7/6橙色			ナデ	ナデ	—	—	ナデ	ハケ	—	—	有			
390	D区	SD276No11	高坏坏部B2	19.40	4.60(残存)	—	1.1	—	密	1㎜	良好	10YR8/3浅黄橙色	5YR5/6明赤褐色	有		ハケ→ナデ,ミガキ	—	—	—	ハケ→ナデ,ミガキ	—	—	—				
391	D区	SD276No185	器台脚部C	—	8.00(残存)	—	—	—	密	—	良好	7.5Y3/1オリーブ黒色	10YR8/3浅黄橙色			—	—	—	ハケ	—	—	—	ナデ				内面坏部・脚部に黒色処理
392	D区	SD276No154	壺D1	19.00	9.00(残存)	—	1.3	—	密	1㎜以下	良好	10YR7/4にぶい黄橙色	10YR8/4浅黄橙色			ナデ,ハケ	—	—	—	ナデ	—	—	—				
393	D区	SD276X151,152Y164,165	須恵器蓋A	—	1.20(残存)	15.00	—	0.9	密	0.5～1㎜	良好	N7/0灰色	N7/0灰色			—	ロクロナデ	—	—	—	ロクロナデ	—	—				
394	D区	SD276No163	須恵器蓋A	—	1.70(残存)	14.50	—	4.5	やや密	1㎜	不良	2.5Y8/3淡黄色	2.5Y8/3淡黄色			—	ロクロナデ	—	—	—	ロクロナデ	—	—				
395	D区	SD276X150Y165 Cセク内	須恵器蓋A	—	2.80	12.30	—	9.3	密	1～2㎜少量	良好	N7/0灰白色	N7/0灰白色			—	ロクロナデ	—	—	—	ロクロナデ	—	—				
396	D区	SD276X154Y164 Cセク内	須恵器蓋C	—	2.30(残存)	11.80	—	4.5	密	—	良好	N7/0灰白色	N7/0灰白色			—	ロクロナデ	—	—	—	ロクロナデ	—	—				
397	D区	SD276No102,103	須恵器蓋A	—	2.15	15.60	—	3.0	やや密	1～5㎜	不良	N8/0灰白色	N8/0灰白色			—	ロクロナデ	—	—	—	ロクロナデ	—	—				鈕径2.95cm

表13　遺物観察表(10)

図録番号	地区名	出土地点・層位	形態						胎土		焼成	色調		赤彩		成形・調整								煤		凝凹線	備考
			器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	口径遺存(/12)	底径遺存(/12)	質	砂粒		内面	外面	内面	外面	外面				内面				外面	内面		
																口頸部・坏部・受部	胴上部・蓋	胴下部	脚・底部	口頸部・坏部・受部	胴上部・蓋	胴下部	脚・底部				
398	D区	SD276No168	須恵器蓋C	—	3.30	11.40	—	0.2	密	—	良好	N7/0灰白色	N7/0灰白色			—	ロクロナデ	—	—	—	ロクロナデ	—	—				
399	D区	SD276No116	須恵器蓋C	—	2.85	12.80	—	4.5	密	—	良好	N7/0灰白色	N7/0灰白色			—	ロクロナデ	—	—	—	ロクロナデ	—	—				
400	D区	SD276No32	須恵器蓋C	—	3.00	11.80	—	5.0	密	—	良好	N7/0灰白色	N7/0灰白色			—	ロクロナデ	—	—	—	ロクロナデ	—	—				
401	D区	SP284上層	須恵器蓋B	—	3.70	15.00	—	12.0	やや密	1～5㎜	良好	N7/0灰白色	N7/0灰白色			—	ロクロナデ	—	—	—	ロクロナデ	—	—				内面にヘラ記号(「×」形)有り
402	D区	SD276No176	須恵器皿	13.00	3.35	6.20	9.5	0.5	密	—	良好	N7/0灰白色	N7/0灰白色			ロクロナデ	—	—	ロクロナデ	ロクロナデ	—	—	ロクロナデ				
403	D区	SD276No46	須恵器坏A1	11.20	3.60	7.75	7.5	12.0	密	—	良好	N7/0灰白色	N7/0灰白色			ロクロナデ	—	—	回転ヘラ切り	ロクロナデ	—	—	ロクロナデ				
404	D区	SD276No113	須恵器坏A1	11.50	2.85	7.90	4.0	5.6	やや密	1㎜少量	やや不良	N7/0灰白色	N7/0灰白色			ロクロナデ	—	—	回転ヘラ切り→ナデ	ロクロナデ	—	—	ロクロナデ				
405	D区	SD276No85	須恵器坏A1	14.80	3.45	10.80	3.0	4.5	密	—	やや不良	5Y7/1灰白色	5Y8/1灰白色			ロクロナデ	—	—	回転ヘラ切り	ロクロナデ	—	—	ロクロナデ				
406	D区	SD276No86	須恵器坏A1	13.50	3.45	9.60	2.0	9.0	密	—	不良	2.5Y8/2灰白色	2.5Y8/2灰白色			ロクロナデ	—	—	回転ヘラ切り	ロクロナデ	—	—	ロクロナデ				
407	D区	SD302No6	須恵器坏A2	13.90	3.30	7.50	5.5	6.5	密	—	良好	N7/0灰白色	N7/0灰白色			ロクロナデ	—	—	回転ヘラ切り→ナデ	ロクロナデ	—	—	ロクロナデ				
408	D区	SD276No101	須恵器坏A2	13.50	3.30	5.00	5.0	5.5	やや密	—	やや不良	2.5Y8/2灰白色	2.5Y7/2灰黄色			ロクロナデ	—	—	回転ヘラ切り→ナデ	ロクロナデ	—	—	ロクロナデ				
409	D区	SD276No126	須恵器坏A2	11.00	3.30	3.20	4.5	12.0	密	—	やや良好	坏部N7/0灰色 底部2.5Y7/3浅黄色	坏部7.5Y6/1灰色 底部10YR7/3にぶい黄橙色			ロクロナデ	—	—	回転ヘラ切り→ナデ	ロクロナデ	—	—	ロクロナデ				
410	D区	SD276No86	須恵器坏A2	12.50	3.35	9.00	4.5	5.5	密	—	やや不良	2.5Y8/2灰白色	2.5Y8/2灰白色			ロクロナデ	—	—	回転ヘラ切り→ナデ	ロクロナデ	—	—	ロクロナデ				
411	D区	SD276No105	須恵器坏A4	10.80	2.95	6.50	6.0	7.0	密	—	良好	N7/0灰白色	N7/0灰白色			ロクロナデ	—	—	回転ヘラ切り→ナデ	ロクロナデ	—	—	ロクロナデ				
412	D区	SD276No149	須恵器坏A5	12.40	2.90	8.00	3.0	6.0	やや密	1㎜少量	やや良好	5Y7/1灰白色	5Y7/1灰白色			ロクロナデ	—	—	回転ヘラ切り	ロクロナデ	—	—	ロクロナデ				
413	D区	SD276No147	須恵器坏A4	11.80	2.70	8.00	3.5	5.0	密	—	やや良好	2.5Y7/2灰黄色	2.5Y7/3浅黄色			ロクロナデ	—	—	回転ヘラ切り→ナデ	ロクロナデ	—	—	ロクロナデ				
414	D区	SD276No33	須恵器坏B2	13.80	3.80	9.90	9.0	12.0	密	—	良好	5Y8/1灰白色	5Y8/1灰白色			ロクロナデ	—	—	回転ヘラ切り→ナデ消し	ロクロナデ	—	—	ロクロナデ				
415	D区	SD276No50	須恵器坏B2	14.80	4.40	10.40	0.5	3.5	密	—	良好	N7/0灰色	N7/0灰色			ロクロナデ	—	—	回転ヘラ切り	ロクロナデ	—	—	ロクロナデ,静止ナデ				
416	D区	SD276No69	須恵器坏B2	14.50	4.40	8.60	6.8	12.0	密	—	良好	N7/0灰白色	N7/0灰白色			ロクロナデ	—	—	回転ヘラ切り→ナデ	ロクロナデ	—	—	ロクロナデ				
417	D区	SD276No162	須恵器坏B2	12.80	3.75	7.00	5.0	5.0	密	—	良好	5Y7/1灰白色	5Y7/1灰白色			ロクロナデ	—	—	回転ヘラ切り	ロクロナデ	—	—	ロクロナデ				
418	D区	SD276No113	須恵器坏B1	11.00	4.30	4.00	2.2	4.5	やや密	1㎜少量	やや良好	2.5Y7/1灰白色	2.5Y7/1灰白色			ロクロナデ	—	—	回転ヘラ切り	ロクロナデ	—	—	ロクロナデ				
419	D区	SD276No115	須恵器坏B3	14.85	5.90	8.85	6.0	6.0	密	—	良好	N7/0灰白色	N7/0灰白色			ロクロナデ	—	—	回転ヘラ切り	ロクロナデ	—	—	ロクロナデ				
420	D区	SD276No145	須恵器坏B3	14.50	6.20	8.60	1.5	4.0	密	—	良好	2.5Y7/1灰白色	5Y7/1灰白色			ロクロナデ	—	—	ロクロナデ	ロクロナデ	—	—	ロクロナデ				
421	D区	SD276No155	須恵器坏B3	11.10	4.65	7.00	9.7	12.0	密	—	良好	N6/0灰色	N5/0灰色			ロクロナデ	—	—	回転ヘラ切り→ナデ	ロクロナデ	—	—	ロクロナデ				
422	D区	SD276X150Y164	須恵器甕	21.00	6.60(残存)	—	1.5	—	密	—	不良	2.5Y8/1灰白色	2.5Y8/1灰白色			ロクロナデ	タタキ	—	—	ロクロナデ	タタキ	—	—				
423	D区	SD276X150Y164	古代土師器甕A	23.00	4.60(残存)	—	1.5	—	密	—	不良	10YR8/3浅黄橙色	10YR7/4にぶい黄橙色			ロクロナデ	ハケ	—	—	ロクロナデ	ハケ	—	—				
424	D区	SD276No187	須恵器壺	—	13.80(残存)	—	—	—	密	—	良好	N7/0灰色	5Y5/2灰オリーブ色			—	ロクロナデ	ロクロナデ	—	—	ロクロナデ	ロクロナデ	—				自然釉付着
425	D区	SD276No177	須恵器壺	—	14.80(残存)	—	—	—	密	—	良好	N6/0灰色	7.5Y5/1灰色			—	ロクロナデ	ロクロナデ	—	—	ロクロナデ	ロクロナデ	—				
426	D区	SD276X151Y165	須恵器短頸壺	14.00	3.05(残存)	—	1.5	—	やや密	1㎜少量	不良	5Y8/2灰白色	5Y8/2灰白色			ロクロナデ	—	—	—	ロクロナデ	—	—	—				
427	D区	SD276No165	須恵器短頸壺	12.00	20.60(残存)	—	1.7	—	密	—	良好	N7/0灰白色	N7/0灰白色			ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ケズリ→ナデ				
428	D区	SD276X151,152Y164,165	須恵器長頸壺	10.60	11.15(残存)	—	4.0	—	密	—	良好	7.5Y5/1灰色	7.5Y5/1灰色			ロクロナデ	—	—	—	ロクロナデ	—	—	—				
429	D区	SD276	須恵器甑	—	8.00(残存)	—	—	—	密	—	不良	2.5Y7/2灰黄色	5Y7/2灰白色			—	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	—	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ				
430	D区	SD276No63,71	須恵器甕	21.80	18.30	16.20	1.0	2.0	やや密	—	やや良好	N7/0灰白色	N7/0灰白色やや黄味強い			ロクロナデ	タタキ→カキメ	カキメ	ロクロナデ	ロクロナデ	あて具痕→ナデ消し	ロクロナデ	ロクロナデ				
431	D区	SD276X151Y165	古代土師器甕C	21.80	14.20(残存)	—	1.1	—	密	1～3㎜2%	良好	10YR7/3にぶい黄橙色	10YR7/2にぶい黄橙色 5YR7/6橙色			ナデ	カキメ	カキメ	—	ナデ	カキメ	カキメ	—				
432	D区	SD276No183	古代土師器甕A	21.00	12.85(残存)	—	2.2	—	密	—	良好	10YR6/4にぶい黄橙色	10YR7/4にぶい黄橙色			ナデ	ケズリ	—	—	ナデ	一部ハケ→ナデ	—	—				
433	D区	SD276No64	古代土師器甕C	21.00	6.40(残存)	—	4.4	—	密	—	良好	2.5Y7/2灰黄色	2.5Y8/2灰白色			ナデ	カキメ	—	—	カキメ	カキメ	—	—				
434	D区	SD276	古代土師器甕C	23.00	5.50(残存)	—	1.3	—	密	0.5～2㎜多量	良好	10YR8/4浅黄橙色	10YR8/4浅黄橙色			ナデ	ナデ,指頭圧痕	—	—	ナデ	ナデ	—	—				
435	D区	SD276No136	古代土師器鍋	33.40	11.80(残存)	—	1.5	—	やや密	1～3㎜5%	やや良好	5Y6/1灰色	7.5YR7/4にぶい橙色			ナデ	カキメ	—	—	ナデ	カキメ,一部ナデ消し	—	—	有			
436	D区	SD276No175	古代土師器椀A	14.50	5.05	6.30	10.0	12.0	密	—	不良	10YR8/4浅黄橙色	10YR8/4浅黄橙色			ロクロナデ	—	—	回転糸切り	ロクロナデ	—	—	ロクロナデ				

表14　遺物観察表(11)

図録番号	地区名	出土地点・層位	形態						胎土		焼成	色調		赤彩		成形・調整								煤		疑凹線	備考
																外面				内面							
			器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	口径遺存(/12)	底径遺存(/12)	質	砂粒		内面	外面	内面	外面	口頸部・坏部・受部	胴上部・蓋	胴下部	脚・底部	口頸部・坏部・受部	胴上部・蓋	胴下部	脚・底部	外面	内面		
437	D区	SI271No1	須恵器 蓋A	—	1.91	15.90	—	7.5	密	1～3㎜ 極少量	良好	N7/0 灰白色	N7/0 灰白色			—	ロクロナデ	—	—	—	ロクロナデ	—	—				
438	D区	SI271	古代土師器 小型甕C	9.00	2.55 (残存)	—	2.2	—	密	0.5～1㎜ 少量	良好	10YR8/2 灰白色	10YR8/2 灰白色			ナデ	—	—	—	ケズリ	—	—	—				
439	D区	SI272	古代土師器 甕C	14.00	3.70 (残存)	—	2.2	—	密	0.5～1㎜ 多量	やや良好	10YR7/2 にぶい黄橙色	2.5YR6/4 にぶい橙色			ナデ	—	—	—	ナデ	—	—	—				
440	D区	SD302No5	須恵器 坏A1	14.00	3.30 (残存)	8.70	3.0	4.1	密	0.5～1㎜	不良	2.5Y8/2 灰白色	2.5Y8/2 灰白色			ロクロナデ	—	—	回転ヘラ切り→ナデ消し	ロクロナデ	—	—	ロクロナデ				
441	D区	SD302No1	古代土師器 小型甕A	11.00	3.40 (残存)	—	2.2	—	密	1㎜ 少量	良好	7.5YR7/3 にぶい橙色	5YR7/4 にぶい橙色			ミガキ,ナデ	ナデ	—	—	ミガキ	ミガキ,ハケ	—	—		有		
442	D区	SD277No31	壺H	—	12.10 (残存)	—	—	—	密	1㎜以下	不良	2.5Y7/2 灰黄色	10YR7/4 にぶい黄橙色			—	調整不明	ミガキ?	ハケ→ミガキ	—	調整不明	調整不明	ハケ			胴部3	外面に黒斑有り
443	D区	SD277No2	器台脚部C	—	9.80 (残存)	10.50	—	7.0	密	1㎜	良好	10YR7/4 にぶい黄橙色	10YR7/4 にぶい黄橙色			調整不明	—	—	ミガキ	調整不明	—	—	ハケ				
444	D区	SD277X161,162Y169	器台脚部F	—	5.40 (残存)	—	—	—	密	1㎜以下	良好	7.5YR7/6 橙色	7.5YR7/6 橙色			—	—	—	ミガキ	—	—	—	ハケ,ミガキ				透孔5箇所残存
445	D区	SD277X156Y167	器台脚部F	—	5.30 (残存)	—	—	—	密	1㎜ 極少量	良好	7.5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR7/4 にぶい橙色			調整不明	—	—	調整不明	調整不明	—	—	調整不明				
446	D区	X152Y166−168	壺	8.60	4.10 (残存)	—	2.0	—	密	—	良好	10YR8/2 灰白色	10YR8/2 灰白色			ミガキ	ミガキ	—	—	ナデ	ナデ	—	—				
447	D区	X152Y162−165	鉢A1	13.60	5.60 (残存)	—	1.0	—	密	—	良好	10R4/6 赤色	10R4/6 赤色	有	有	調整不明	調整不明	—	—	ミガキ	調整不明	—	—			5?	
448	D区	X158Y164	小型土器A	7.55	5.10	—	0.6	—	密	0.5㎜	良好	5Y4/1 灰色	2.5Y3/1 黒褐色			指頭圧痕	指頭圧痕	指頭圧痕	—	指頭圧痕	指頭圧痕	指頭圧痕	—				
449	D区	SX201	中世土師皿	7.80	1.20 (残存)	—	0.5	—	密	—	良好	10YR5/2 灰黄褐色	10YR5/2 灰黄褐色			ロクロナデ	—	—	—	ロクロナデ	—	—	—				
450	D区	SX201	中世土師皿	7.20	1.50 (残存)	—	2.0	—	密	—	良好	10YR6/2 灰黄褐色	10YR6/2 灰黄褐色			ロクロナデ	—	—	—	ロクロナデ	—	—	—				
451	D区	SX201	中世土師皿	8.40	1.75 (残存)	—	1.0	—	密	—	良好	2.5Y8/2 灰白色	2.5Y8/2 灰白色			ナデ	—	—	—	ナデ	—	—	—				
452	D区	SX201	中世土師皿	8.40	1.35 (残存)	—	1.0	—	密	—	良好	10YR8/3 浅黄橙色	10YR8/3 浅黄橙色			ナデ	—	—	—	ナデ	—	—	—				
453	D区	SX201	中世土師皿	9.60	1.70 (残存)	—	0.5	—	密	—	良好	10YR7/2 にぶい黄橙色	10YR7/2 にぶい黄橙色			ロクロナデ	—	—	—	ロクロナデ,木口ハケ	—	—	—				
454	D区	SX201	中世土師皿	9.20	1.70 (残存)	—	1.1	—	密	—	良好	2.5Y7/3 浅黄色	2.5Y7/3 浅黄色			ロクロナデ	—	—	—	ロクロナデ	—	—	—		有		
455	D区	SX201	中世土師皿	10.80	2.00 (残存)	—	1.0	—	密	—	良好	10YR6/2 灰黄褐色	10YR6/2 灰黄褐色			ロクロナデ	—	—	—	ロクロナデ	—	—	—		有		
456	D区	SX201	中世土師皿	10.80	2.20 (残存)	—	0.9	—	密	—	良好	2.5Y8/3 淡黄色	2.5Y8/3 淡黄色			ナデ	—	—	—	ナデ	—	—	—				
457	D区	土器集中区No1	中世土師皿	8.00	1.90	1.50	11.3	—	密	—	良好	10YR8/2 灰白色	2.5Y7/2 灰黄色			ナデ	—	—	ナデ	ナデ	—	—	ナデ				
458	D区	土器集中区No7	中世土師皿	8.30	2.00	2.40	10.5	—	密	—	良好	2.5Y8/2 灰白色	10YR8/2 灰白色			ナデ	—	—	ナデ	ナデ	—	—	木口ハケ				
459	D区	土器集中区No24	中世土師皿	8.40	2.00	1.70	11.3	—	密	—	良好	10YR8/3 浅黄橙色	10YR8/3 浅黄橙色			ナデ	—	—	ナデ	ナデ	—	—	ナデ				
460	D区	土器集中区No21	中世土師皿	8.70	1.95	—	8.0	—	密	—	やや不良	10YR8/3 浅黄橙色	10YR8/3 浅黄橙色			ナデ	—	—	ナデ	ナデ	—	—	木口ハケ?				
461	D区	土器集中区No8	中世土師皿	8.60	1.80	—	9.5	—	密	—	やや不良	10YR8/3 浅黄橙色	10YR8/3 浅黄橙色			ナデ	—	—	ナデ	ナデ	—	—	木口ハケ				
462	D区	土器集中区No25	中世土師皿	8.50	1.81	1.80	9.8	—	密	—	良好	10YR8/2 灰白色	10YR8/2 灰白色			ナデ	—	—	ナデ	ナデ	—	—	ナデ				
463	D区	土器集中区No3	中世土師皿	10.50	2.10	3.00	12.0	—	密	—	良好	10YR8/2 灰白色	10YR8/2 灰白色			ナデ	—	—	ナデ	ナデ	—	—	ナデ				
464	D区	土器集中区No12	中世土師皿	11.40	1.80 (残存)	—	5.0	—	密	—	やや不良	10YR8/3 浅黄橙色	10YR8/3 浅黄橙色			ナデ	—	—	ナデ	ナデ	—	—	ナデ				
465	D区	土器集中区No10	中世土師皿	10.50	2.30 (残存)	—	8.5	—	密	—	やや良好	10YR8/2 灰白色	10YR8/2 灰白色			ナデ	—	—	ナデ	ナデ	—	—	ナデ				
466	D区	土器集中区No4	中世土師皿	10.50	2.10	4.00	12.0	—	密	—	良好	10YR8/2 灰白色	10YR8/2 灰白色			ナデ	—	—	ナデ	ナデ	—	—	木口ハケ				
467	D区	土器集中区No6	中世土師皿	10.60	2.20	3.80	12.0	—	密	—	良好	10YR8/2 灰白色	10YR8/2 灰白色			ナデ	—	—	ナデ	ナデ	—	—	ナデ				
468	D区	X160Y161,162	中世土師皿	10.85	2.60	3.60	8.8	—	密	—	やや不良	10YR8/3 浅黄橙色	10YR8/3 浅黄橙色			木口ハケ	—	—	ナデ	ナデ	—	—	ナデ	有			
469	D区	SX241X154Y167	中世土師皿	5.80	1.00 (残存)	—	2.0	—	密	—	やや良好	10YR8/3 浅黄橙色	10YR8/3 浅黄橙色			調整不明	—	—	—	調整不明	—	—	—				
470	D区	SX241X149Y169	中世土師皿	7.20	1.40 (残存)	—	2.9	—	密	—	やや良好	10YR7/3 にぶい黄橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色			ロクロナデ	—	—	—	ロクロナデ	—	—	—				
471	D区	SX241X156Y166	中世土師皿	8.80	1.65 (残存)	—	1.0	—	密	—	良好	2.5YR7/4 淡赤橙色	2.5YR7/6 橙色			ロクロナデ	—	—	—	ロクロナデ	—	—	—				
472	D区	SX241X155Y170	中世土師皿	8.00	1.90 (残存)	—	1.7	—	密	—	良好	10YR6/3 にぶい黄橙色	10YR6/3 にぶい黄橙色			ロクロナデ	—	—	—	ロクロナデ	—	—	—				
473	D区	SX241X156Y166	中世土師皿	10.20	2.35 (残存)	—	1.5	—	密	—	やや良好	10YR8/4 浅黄橙色	10YR8/4 浅黄橙色			ロクロナデ	—	—	—	ロクロナデ	—	—	—				
474	D区	SX241X154Y166	中世土師皿	9.60	1.80 (残存)	—	1.7	—	密	—	良好	2.5Y7/2 灰黄色	2.5Y7/2 灰黄色			ロクロナデ	—	—	ロクロナデ	ロクロナデ	—	—	木口ハケ				
475	D区	SX241X154Y167	白磁 碗	8.20	1.80 (残存)	—	1.2	—	密	—	良好	釉薬2.5Y7/2灰黄色 胎土5Y7/1灰白色	釉薬2.5Y7/2灰黄色 胎土5Y7/1灰白色			—	—	—	—	—	—	—	—				

表15　遺物観察表(12)

図録番号	地区名	出土地点・層位	形態 器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	口径遺存(/12)	底径遺存(/12)	胎土 質	胎土 砂粒	焼成	色調 内面	色調 外面	赤彩 内面	赤彩 外面	成形・調整 外面 口頸部・坏部・受部	成形・調整 外面 胴上部・蓋	成形・調整 外面 胴下部	成形・調整 外面 脚・底部	成形・調整 内面 口頸部・坏部・受部	成形・調整 内面 胴上部・蓋	成形・調整 内面 胴下部	成形・調整 内面 脚・底部	煤 外面	煤 内面	疑凹線	備考
476	D区	SX241X154Y166	白磁 碗	—	1.90 (残存)	7.0	—	2.0	密	—	良好	釉薬5Y8/2灰白色 胎土5Y8/1灰白色	釉薬5Y8/2灰白色 胎土5Y8/1灰白色			—	—	—	—	—	—	—	—				
477	D区	表土	珠洲 甕	33.40	5.20 (残存)	—	0.5	—	密	—	良好	N5/0 灰色	N5/0 灰色			ロクロナデ	タタキ	—	—	ロクロナデ	ロクロナデ	—	—				
478	D区	X154Y169,170	珠洲 甕	28.20	11.70 (残存)	—	0.6	—	密	—	良好	N6/0 灰色	N6/0 灰色			ロクロナデ	ロクロナデ→タタキ	—	—	ロクロナデ	あて具痕	—	—				
479	D区	X155Y166−168	珠洲 甕	62.00	3.55 (残存)	—	0.8	—	密	—	良好	N5/0 灰色	N5/0 灰色			ロクロナデ	—	—	—	ロクロナデ	—	—	—				
480	D区	X155Y166−169	珠洲 すり鉢	26.00	5.80 (残存)	—	0.6	—	密	—	良好	10Y6/1 灰色	10Y6/1 灰色			ロクロナデ	ロクロナデ	—	—	ロクロナデ	オロシ目	—	—				
481	D区	X148Y169−171	珠洲 すり鉢	24.00	4.90 (残存)	—	1.5	—	密	—	良好	N6/0 灰色	N6/0 灰色			ロクロナデ	ロクロナデ	—	—	ロクロナデ	オロシ目	—	—				
482	D区	X153Y166−168	珠洲 すり鉢	20.20	4.00 (残存)	—	1.6	—	密	—	良好	N7/0 灰白色	N7/0 灰白色			ロクロナデ	ロクロナデ	—	—	ロクロナデ	オロシ目	—	—				
483	D区	X154Y169,170	珠洲 すり鉢	24.00	3.80 (残存)	—	1.0	—	密	—	良好	5B5/1 青灰色	5B5/1 青灰色			ロクロナデ	ロクロナデ	—	—	ロクロナデ	オロシ目	—	—				
484	D区	表土	珠洲 すり鉢	—	5.10 (残存)	12.60	—	2.0	密	—	良好	N7/0 灰白色	N7/0 灰白色			—	—	ロクロナデ	ナデ	—	—	オロシ目	オロシ目				うるし接ぎ痕有り
485	D区	表土	瀬戸美濃 皿	9.40	1.95 (残存)	—	1.0	—	密	—	良好	釉薬7.5Y6/3オリーブ黄色 胎土5Y8/1灰白色	釉薬7.5Y6/3オリーブ黄色 胎土5Y8/1灰白色			ロクロナデ	—	—	回転ヘラ切り	ロクロナデ	—	—	ロクロナデ				
486	D区	X156Y167	瀬戸 卸皿	14.00	2.50	—	0.7	—	密	—	良好	釉薬5Y6/3オリーブ黄色 胎土2.5Y7/2灰黄色	釉薬5Y6/3オリーブ黄色 胎土2.5Y7/2灰黄色			ロクロナデ	—	—	ロクロナデ	ロクロナデ	—	—	オロシ目				
487	D区	表土	青磁 椀or皿	—	2.80 (残存)	—	—	—	密	—	良好	釉薬10Y6/2オリーブ灰色 胎土10Y8/1灰白色	釉薬10Y6/2オリーブ灰色 胎土10Y8/1灰白色			—	—	—	—	—	—	—	—				外面に櫛描き文有り 内面に片切り彫、櫛描き文有り
488	D区	表土	天目茶碗	11.20	3.50 (残存)	—	1.3	—	密	—	良好	釉薬N1.5/0黒色 +2.5YR4/6褐色 胎土5Y8/1灰白色	釉薬N1.5/0黒色 +2.5YR4/6褐色 胎土5Y8/1灰白色			ロクロナデ	—	—	—	ロクロナデ	—	—	—				
489	D区	X154Y166−168	天目茶碗	13.00	3.79 (残存)	—	0.9	—	密	—	良好	釉薬7.5YR1.7/1黒色 +7.5YR4/3褐色 胎土2.5Y8/2灰白色	釉薬7.5YR1.7/1黒色 +7.5YR4/3褐色 胎土2.5Y8/2灰白色			ロクロナデ	—	—	—	ロクロナデ	—	—	—				
490	D区	X153Y166−168	山茶碗	13.40	4.15 (残存)	—	0.5	—	密	—	良好	5Y7/1 灰白色	5Y7/1 灰白色			ロクロナデ	—	—	—	ロクロナデ	—	—	—				
491	D区	X150Y166−168	白磁 椀or皿	16.00	2.60 (残存)	—	1.1	—	密	—	良好	釉薬5Y7/2灰白色 胎土5Y8/1灰白色	釉薬5Y7/2灰白色 胎土5Y8/1灰白色			—	—	—	—	—	—	—	—				
492	D区	南東表土	瓦質土器 風炉	19.20	3.90 (残存)	—	0.7	—	やや密	—	良好	7.5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR7/4 にぶい橙色			—	—	—	—	—	—	—	—				
496	E区	SI431①−4	須恵器 坏A1	11.55	3.50	4.00	12.0	12.0	密	—	やや不良	2.5Y7/2 灰黄色	2.5Y7/2 灰黄色			ロクロナデ	—	—	ヘラ切り→ナデ	ロクロナデ	—	—	ロクロナデ				
497	E区	SI431②−2	須恵器 坏A2	11.60	3.80	7.40	3.0	7.0	密	—	やや良好	10YR6/2 灰黄褐色	10YR6/2 灰黄褐色			ロクロナデ	—	—	ヘラ切り	ロクロナデ	—	—	ロクロナデ				外面体部下半部に墨書らしき痕有り
498	E区	SI431C−①	古代土師器 甕B	27.70	26.10 (残存)	—	4.0	—	密	2㎜	良好	2.5Y8/2 灰白色	2.5Y7/3 浅黄色			ナデ	ハケ	ハケ	—	ナデ	ハケ	ハケ	—				外面胴部中央に黒斑有り
499	E区	SI431④−2	古代土師器 甕C	19.25	8.25 (残存)	—	3.0	—	密	—	良好	7.5YR8/4 浅黄橙色	7.5YR8/4 浅黄橙色			ナデ	ロクロによるハケ	—	—	カキメ	ハケ	—	—				
500	E区	SI431C−③	古代土師器 甕A	16.10	21.30 (残存)	—	4.0	—	密	—	良好	10YR5/2灰黄褐色 7.5YR4/1褐灰色	10YR8/4 浅黄橙色			ナデ,ハケ	ハケ	ハケ	—	ハケ	ハケ	ハケ	—				
501	E区	SI431	古代土師器 甕C	18.20	9.50 (残存)	—	3.0	—	粗	1㎜	良好	10YR6/2 灰黄褐色	10YR6/1 褐灰色			ナデ	ハケ	—	—	ナデ	ハケ	—	—	有			
502	E区	SK409	古代土師器 小型甕D	14.80	4.00 (残存)	—	1.0	—	粗	—	良好	10YR7/3 にぶい黄橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色			ナデ	ナデ	—	—	ナデ	ナデ	—	—				
503	E区	SK409	古代土師器 小型甕D	12.05	6.90 (残存)	—	2.0	—	粗	1㎜	やや不良	10YR8/3 浅黄橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色			ナデ	ナデ	—	—	ナデ	ナデ	—	—				
504	E区	SK432No50	須恵器 蓋D	—	2.20	11.90	—	12.0	密	—	良好	N7/0 灰白色	N7/0 灰白色			—	ロクロナデ	—	—	—	ロクロナデ	—	—				底部外面に工具痕(?)有り
505	E区	SK432No50直下	須恵器 蓋D	—	2.10	11.70	—	12.0	密	—	良好	10BG6/1 青灰色	10BG6/1 青灰色			—	ロクロナデ	—	—	—	ロクロナデ	—	—				
506	E区	SK432No64他	須恵器 蓋A	—	2.80	14.70	—	6.5	密	—	良好	N6/0 灰色	N6/0 灰色			—	ロクロナデ	—	—	—	ロクロナデ	—	—				
507	E区	SK432No33	須恵器 坏A5	13.60	3.60	—	4.2	—	やや粗	1㎜ 2%	不良	上部10YR6/2灰黄褐色 中部5Y7/1灰白色 下部N6/0灰色	上部10YR6/2灰黄褐色 中部5Y7/1灰白色 下部N6/0灰色			ロクロナデ	—	—	回転ヘラ切り→ナデ消し	ロクロナデ	—	—	ロクロナデ				
508	E区	SK432No17の下	須恵器 坏A5	12.90	3.75	6.70	11.0	12.0	密	—	不良	N7/0 灰白色	N7/0 灰白色			ロクロナデ	—	—	回転ヘラ切り→ナデ消し	ロクロナデ	—	—	ロクロナデ				
509	E区	SK432No21	須恵器 坏A5	13.00	3.70	6.50	10.0	12.0	密	—	不良	2.5Y7/2 灰黄色	2.5Y7/2 灰黄色			ロクロナデ	—	—	回転ヘラ切り→ナデ	ロクロナデ	—	—	ロクロナデ				
510	E区	SK432No42①②	須恵器 坏A5	13.20	3.60	7.00	5.0	6.0	やや密	1㎜以下 1%	不良	5Y7/1 灰白色	5Y7/1 灰白色			ロクロナデ	—	—	回転ヘラ切り→ナデ消し	ロクロナデ	—	—	ロクロナデ				
511	E区	SK432No37−2	須恵器 坏B3	11.70	4.50	6.70	9.3	12.0	密	—	良好	N7/0 灰白色	N7/0 灰白色			ロクロナデ	—	—	回転ヘラ切り→ナデ消し	ロクロナデ	—	—	ロクロナデ				
512	E区	SK432No42①②	須恵器 坏B3	11.60	4.80	7.00	6.6	5.3	密	—	良好	10Y6/1 灰色	10Y6/1 灰色			ロクロナデ	—	—	回転ヘラ切り→ナデ消し	ロクロナデ	—	—	ロクロナデ				
513	E区	SK432一括	須恵器 坏B3	11.80	4.80	5.90	10.0	12.0	密	—	良好	2.5GY7/1 明オリーブ灰色	2.5GY7/1 明オリーブ灰色			ロクロナデ	—	—	回転ヘラ切り→ナデ消し	ロクロナデ	—	—	ロクロナデ				貼付高台
514	E区	SK432No36	須恵器 広口壺	—	18.40 (残存)	8.80	—	12.0	密	—	良好	10Y8/1 灰白色	10Y8/1 灰白色			ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ				4条の沈線有り 外面口縁部,胴上部に自然釉付着
515	E区	SK432	古代土師器 甕D	23.50	5.50 (残存)	—	2.0	—	密	—	良好	10YR8/4 浅黄橙色	10YR8/4 浅黄橙色			ナデ	ナデ	—	—	ナデ	調整不明	—	—				
516	E区	X120Y167包含層	甕A2	17.80	3.25 (残存)	—	1.2	—	密	—	やや良好	7.5YR6/6 橙色	7.5YR7/6 橙色			調整不明	—	—	—	調整不明	—	—	—				2条の沈線有り
517	E区	X120Y170 SK432付近	甕A3	15.60	4.75 (残存)	—	1.0	—	密	—	良好	10YR7/2 にぶい黄橙色	10YR7/2 にぶい黄橙色			ナデ	—	—	—	ナデ,ハケ	—	—	—			10	

表16　遺物観察表(13)

図録番号	地区名	出土地点・層位	形態						胎土		焼成	色調		赤彩		成形・調整								煤		疑凹線	備考
			器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	口径遺存(/12)	底径遺存(/12)	質	砂粒		内面	外面	内面	外面	外面				内面				外面	内面		
																口頸部・坏部・受部	胴上部・蓋	胴下部	脚・底部	口頸部・坏部・受部	胴上部・蓋	胴下部	脚・底部				
518	E区	X125Y170間層	甕A3	17.60	4.70(残存)	—	6.0	—	密	—	良好	2.5Y6/2灰黄色	2.5Y6/2灰黄色			ナデ,ハケ	—	—	—	ナデ,ケズリ	—	—	—	有	有	6	外面頸部,内面口縁部に黒斑有り
519	E区	X120Y170SK432付近排水溝	甕A3	24.30	6.40(残存)	—	3.0	—	密	—	良好	10YR8/4浅黄橙色	10YR8/4浅黄橙色			ナデ	ハケ	—	—	ナデ,ハケ	ミガキ,ハケ	—	—			8	
520	E区	X125Y175	甕B6	30.40	5.55(残存)	—	1.0	—	密	—	良好	2.5Y7/3浅黄色	2.5Y8/4淡黄色			ナデ	—	—	—	ナデ	—	—	—				
521	E区	X120Y167包含層	甕B9	11.30	7.40(残存)	—	6.0	—	密	—	良好	2.5Y7/3浅黄色	2.5Y7/3浅黄色			ナデ	ハケ	—	—	ナデ	ケズリ	—	—				内面に輪積み痕有り
522	E区	X120Y167包含層	甕B6	17.50	4.40(残存)	—	1.2	—	密	—	良好	7.5YR7/6橙色	10YR7/4にぶい黄橙色			ナデ	ハケ	—	—	ナデ	ハケ	—	—	有			
523	E区	X120Y167	甕C2a	13.10	4.15(残存)	—	1.0	—	粗	—	良好	7.5YR6/4にぶい橙色	7.5YR6/4にぶい橙色			ナデ	ハケ	—	—	ナデ	ハケ	—	—				
524	E区	X115Y175	甕C3c	19.90	6.65(残存)	—	1.0	—	粗	1~3.5㎜	やや不良	10YR7/4にぶい黄橙色	10YR7/3にぶい黄橙色			ナデ	調整不明	—	—	ナデ	調整不明	—	—	有			
525	E区	X125Y170	甕C3c	20.40	9.00(残存)	—	1.0	—	密	3㎜	良好	10YR7/4にぶい黄橙色	10YR5/4にぶい黄褐色			ナデ	ハケ	—	—	ハケ	ケズリ?	—	—	有			
526	E区	X125Y175包含層	壺D4	13.60	8.60(残存)	—	1.0	—	密	—	良好	10YR8/2灰白色	10YR8/2灰白色			ナデ	調整不明	—	—	ナデ	ハケ	—	—				
527	E区	X130Y170包含層	壺B3	20.00	7.80(残存)	—	1.0	—	密	2㎜	良好	2.5YR6/6橙色	2.5YR6/8橙色			ナデ,ハケ	—	—	—	ナデ	—	—	—				
528	E区	X130Y170包含層	壺C6	11.80	8.00(残存)	—	1.0	—	密	—	良好	10YR6/4にぶい黄橙色	10YR6/3にぶい黄橙色			ナデ,ミガキ	ミガキ	—	—	ナデ,ハケ	指頭圧痕	—	—	有	有		
529	E区	X125Y170間層	壺	22.40	5.00(残存)	—	0.6	—	やや粗	1~2㎜	やや不良	7.5YR5/4にぶい褐色	7.5YR5/4にぶい褐色			ミガキ	—	—	—	ミガキ	—	—	—				ヘラ描き文あり
530	E区	X125Y175	甕A2	16.00	3.10(残存)	—	0.8	—	やや密	1㎜	良好	10YR6/4にぶい黄橙色	10YR6/4にぶい黄橙色			ナデ	—	—	—	ナデ	—	—	—				外面に2種類のスタンプ文有り
531	E区	X120Y175排水溝	壺H	—	3.60(残存)	—	—	—	密	—	良好	10YR7/3にぶい黄橙色	10R5/6赤色		有	—	ハケ→ミガキ	—	—	—	ハケ→ナデ	—	—			6	
532	E区	X120Y170SK432付近黒土層	小型壺	—	6.65(残存)	—	—	—	密	—	良好	7.5YR6/6橙色	7.5YR6/6橙色~7.5YR7/4にぶい橙色		有	—	ハケ→ミガキ	—	—	—	ハケ	—	—				
533	E区	X120Y167間層	鉢A2	11.70	7.30(残存)	—	5.0	—	密	—	良好	10YR7/4にぶい黄橙色	10YR7/4にぶい黄橙色			調整不明	調整不明	—	—	調整不明	調整不明	—	—				
534	E区	X120Y175SK432付近排水溝	鉢F	13.90	4.35	5.80	6.0	12.0	密	—	良好	7.5YR6/6橙色	7.5YR6/6橙色			ハケ	ハケ	ハケ	ハケ	ハケ,ミガキ	調整不明	調整不明	ハケ				
535	E区	X125Y170間層	蓋A	—	3.30(残存)	—	—	—	密	—	良好	10YR8/4浅黄橙色	10YR8/4浅黄橙色			—	ロクロナデ	—	—	—	調整不明	—	—				
536	E区	X120Y167包含層	蓋B	—	2.50(残存)	—	—	—	密	—	良好	10YR7/3にぶい黄橙色	10YR7/3にぶい黄橙色	有		—	調整不明	—	—	—	調整不明	—	—		有		
537	E区	X125Y175排水溝	小型土器A	5.20	4.45	4.20	12.0	12.0	密	—	良好	5YR6/6橙色	5YR6/6橙色			ケズリ	ナデ	ナデ	指頭圧痕	指頭圧痕	ナデ	ナデ	指頭圧痕				外面底部に黒斑有り
538	E区	X120Y175SK432付近排水溝	高坏坏部D 高杯脚部E2	9.00	7.75	10.60	1.0	4.0	密	—	良好	2.5Y8/3淡黄色	2.5Y8/3淡黄色			ナデ,ミガキ	—	—	ミガキ	ナデ	—	—	しぼり痕				
539	E区	X125Y175包含層	高坏坏部A2	26.00	3.55(残存)	—	0.8	—	密	—	やや不良	10YR7/3にぶい黄橙色	10YR7/3にぶい黄橙色	有	有	ハケ→ミガキ	—	—	—	ミガキ	—	—	—				
540	E区	SK409付近	脚部A	—	0.90(残存)	18.20	—	0.7	密	—	良好	7.5YR6/4にぶい橙色	7.5YR6/4にぶい橙色			—	—	—	ミガキ	—	—	—	ミガキ				外面裾部にスタンプ文有り
541	E区	X115Y170排土	脚部A	—	0.50(残存)	—	—	—	密	—	良好	10YR7/3にぶい黄橙色	7.5YR6/4にぶい橙色			—	—	—	ミガキ	—	—	—	ミガキ				外面裾部にスタンプ文有り
542	E区	X120Y167包含層	器台脚部E1	—	7.60(残存)	10.10	—	2.9	密	—	良好	10YR7/4にぶい黄橙色	10YR7/4にぶい黄橙色			—	—	—	ミガキ	—	—	—	ハケ,しぼり痕				
543	E区	X115Y175直上	器台脚部F	—	4.60(残存)	8.80	—	9.0	密	—	良好	10YR8/3浅黄橙色	10YR8/3浅黄橙色		有	—	—	—	調整不明	—	—	—	ハケ				
544	E区	X125Y170包含層	須恵器坏A1	12.00	3.50	6.50	4.0	4.0	密	—	やや不良	2.5Y8/2灰白色	2.5Y8/2灰白色			ロクロナデ	—	—	回転ヘラ切り→ナデ	ロクロナデ	—	—	ロクロナデ				
545	E区	X125Y175SK432付近排水溝	須恵器坏B3	10.80	5.00	5.80	9.5	12.0	密	—	良好	N6/0灰色と10Y6/1灰色の間	5B5/1青灰色			ロクロナデ	—	—	回転ヘラ切り	ロクロナデ	—	—	ロクロナデ				底面に「鷲」の墨書有り
546	E区	X120Y175直下	須恵器双耳瓶	—	23.20(残存)	10.45	—	12.0	密	—	良好	10Y6/1灰色	10Y6/1灰色			—	ロクロナデ	タタキ	ケズリ	—	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ				
547	E区	X120Y175直上	須恵器瓶類	—	8.80(残存)	6.45	—	0.8	密	—	良好	7.5Y6/1灰色	7.5Y6/1灰色			—	ロクロナデ	ケズリ	回転ヘラ切り	—	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ				
548	E区	X125Y170	須恵器短頸壺	8.40	8.30	3.90	4.0	12.0	密	—	良好	5Y6/1灰色	7.5Y6/1灰色			ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ				外面胴上部に降灰,胴下部に自然釉付着
549	E区	X120Y175直上	須恵器短頸壺	9.10	19.30	12.50	5.0	12.0	密	1~2㎜	良好	7.5Y8/2灰白色	7.5Y6/3オリーブ黄色			ロクロナデ	カキメ	ロクロナデ	回転ヘラ切り→ナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ				貼付高台,ヘラ記号有り,刀子破片付着 外面胴上部・内面底部に自然釉付着
550	E区	X120Y175SK432付近排水溝	古代土師器小型甕A	10.25	8.35(残存)	—	3.0	—	密	—	良好	10YR7/3にぶい黄橙色	10YR7/3にぶい黄橙色			ロクロナデ	ロクロナデ	ケズリ	—	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	—				
551	E区	X125Y170間層	古代土師器小型甕B	12.40	7.35(残存)	—	4.0	—	密	—	良好	10YR8/4浅黄橙色	10YR8/4浅黄橙色			ロクロナデ	ロクロナデ	—	—	ロクロナデ	ロクロナデ	—	—				
552	E区	X125Y170間層	古代土師器椀A	12.60	3.80	5.70	2.0	12.0	密	1㎜	良好	10YR8/4浅黄橙色	10YR7/6明黄褐色			ロクロナデ	—	—	回転糸切り	ロクロナデ	—	—	ロクロナデ				
553	E区	X125Y170間層	古代土師器椀A	12.50	4.50	5.00	3.0	2.0	密	—	良好	7.5YR7/4にぶい橙色	7.5YR7/4にぶい橙色			ロクロナデ	—	—	回転糸切り	ロクロナデ	—	—	ロクロナデ				
554	E区	X125Y170間層	古代土師器椀A	—	3.50(残存)	5.30	—	12.0	密	—	良好	10YR8/2灰白色	10YR8/2灰白色			ロクロナデ	—	—	回転糸切り	ロクロナデ	—	—	ロクロナデ				
555	E区	中央北表土	中世土師皿	10.00	2.00	—	1.1	—	密	—	やや不良	5YR7/6橙色	5YR7/6橙色			指頭圧痕	—	—	—	指頭圧痕	—	—	—				外面に接続痕有り
556	E区	北東表土	珠洲片口鉢	24.80	3.90(残存)	—	0.8	—	密	—	良好	N4/0灰色	N4/0灰色			ロクロナデ	—	—	—	ロクロナデ	—	—	—				

表17　遺物観察表(14)

図録番号	地区名	出土地点・層位	形態						胎土		焼成	色調		赤彩		成形・調整								煤		疑凹線	備考
			器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	口径遺存(/12)	底径遺存(/12)	質	砂粒		内面	外面	内面	外面	外面				内面				外面	内面		
																口頸部・坏部・受部	胴上部・蓋	胴下部	脚・底部	口頸部・坏部・受部	胴上部・蓋	胴下部	脚・底部				
557	E区	中央北表土	珠洲すり鉢	—	4.20(残存)	12.00	—	0.9	密	—	良好	10Y6/1灰色	10Y6/1灰色			—	—	—	ロクロナデ	—	—	—	オロシ目				
558	E区	X115Y175排水溝	越中瀬戸すり鉢	—	4.00(残存)	14.40	—	1.8	密	—	良好	錆5YR5/3にぶい赤褐色 胎土10YR6/3浅黄橙色	錆5YR5/3にぶい赤褐色 胎土10YR8/3浅黄橙色			—	—	—	ロクロナデ	—	—	—	オロシ目				
559	E区	X125Y170間層	珠洲甕	36.00	4.20(残存)	—	0.6	—	密	—	良好	N5/0灰色	N5/0灰色			ロクロナデ	—	—	—	ロクロナデ	—	—	—				

表18　遺物観察表(15)

図録番号	地区名	出土地点・層位	形態					色調		備考
			器種	長径(cm)	短径(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	内面	外面	
16	試掘B区	T1包含層	凹石	11.30	10.30	3.10	603.00	7.5Y7/1灰白色	7.5Y7/1灰白色	
17	試掘B区	T1No.12	砥石	11.90	11.30	7.10	—	5Y6/3オリーブ黄色	5Y6/3オリーブ黄色	石材　中粒砂岩
263	B区	B-3 X182Y164 礫層	砥石	金長13.70	全幅8.90	2.60	—	10YR6/4にぶい黄橙色	10YR6/4にぶい黄橙色	石材　砂岩
327	C区	C-5 X165Y164	筋砥石	6.50	2.50	2.95	—	5Y6/2灰オリーブ色	5Y6/2灰オリーブ色	石材　砂岩
329	C区	X168Y118 試掘トレンチ	刀子	4.40	1.80	0.50	—	10YR6/8明黄褐色	10YR6/8明黄褐色	
336	C区	SI615 No.109	砥石	11.40	9.20	3.50	—	10YR6/2灰黄褐色	10YR6/2灰黄褐色	石材　泥岩
344	C区	SK590	土錘	長さ5.90	幅4.40	1.50	49.00	10YR6/2灰黄褐色	10YR5/3にぶい黄褐色	孔径　1.9cm
493	D区	X156Y166-168	土錘	長さ4.50	幅1.40	—	12.00	2.5Y7/3浅黄色	2.5Y7/4浅黄色	孔径　0.5cm
494	D区	X153Y169,170	鉄鏃	鏃長6.30(残存)	短径0.8	—	—	7.5YR5/6明褐色	7.5YR5/7明褐色	
495	D区	X150Y166-168	砥石	4.70	3.40	0.60	—	7.5YR6/2灰褐色	5YR6/3にぶい橙色	石材　泥岩?粘板岩?
560	E区	X125Y170間層	土錘	長さ5.70	幅3.50	1.10	53.0	7.5YR6/4にぶい橙色	7.5YR6/4にぶい橙色	孔径1.3cm
561	E区	X120Y175排水溝	石刀	11.20	2.60	1.00	44.07	2.5GY6/1オリーブ灰色	2.5GY6/1オリーブ灰色	被熱部分有り
562	E区	X115Y170間層	帯金具(刀)	全長2.50	—	器高1.20	—	5G5/1緑灰色	5G5/1緑灰色	
563	E区	不明	釘	6.80(残存)	径0.4	—	—	10YR3/4暗褐色	10YR3/4暗褐色	

附章　鍛冶町遺跡の自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

鍛冶町遺跡（富山県婦負郡婦中町に所在）周辺の地形は、藤井（1992）を参考にすると、西側・北西側に射水丘陵および音羽丘陵が存在し、東側に神通川扇状地が認められる。本遺跡は、北西側から砂礫の供給が認められることから、神通川の支流である山田川にそそぎ込む河川が形成した扇状地上に位置すると考えられる。これまでの発掘調査の結果、弥生時代末の竪穴住居、土器捨て場、溝、土坑、奈良時代の竪穴住居・溝、室町時代の掘立柱建物跡・柵列・石組遺構などが検出されている。

今回、弥生時代の集落が営まれていた年代に関する情報を得るため、堆積物中から得られた炭化物について放射性炭素年代測定を実施する。同試料については、植生に関する情報を得るために炭化材の樹種同定も併せて行う。また、本遺跡の堆積環境および周辺植生に関する情報を得るために珪藻分析・植物珪酸体分析を実施する。

1．試料

試料採取地点であるC区南壁の層序は、上位より１～９層に分層されている。最下部の９層は、下部が砂礫、上部が砂層である。８層は、暗褐色シルト混じり砂よりなる。７層は、暗褐色シルト質砂よりなり、腐植がやや集積し炭化物も混じる。本層上面が弥生時代後期の遺構確認面にあたる。５層・６層は、褐色砂を主体とし、灰色シルトブロックが混じる。５層上面が古代の遺構確認面にあたる。

土壌試料は、５層上部・下部の２点、６層～８層の各層１点、９層上部・下部の２点の合計７点（上位より試料番号１～７）を採取した。この内、試料番号１・４・６について珪藻分析を、試料番号１・４について植物珪酸体分析を実施する。また、放射性炭素年代測定および樹種同定を行う炭化物は、弥生時代後期の遺構確認面直下の７層最上部（試料番号１）・上部（試料番号２）から採取された合計２点である。

2．分析方法

（1）放射性炭素年代測定

測定は、株式会社加速器分析研究所の協力を得た。なお、今回は、微量な試料であるため、加速器質量分析法で行う。なお、炭化材については、その樹種も調べる。

（2）樹種同定

木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の３断面の割断面を作製し、実体顕微鏡を用いて木材組織の特徴を観察し、種類を同定する。

（3）珪藻分析

試料を湿重で７g前後秤量し、過酸化水素水、塩酸処理、自然沈降法の順に物理・化学処理を施して、珪藻化石を濃集する。検鏡に適する濃度まで希釈した後、カバーガラス上に滴下し乾燥させる。乾燥後、プリュウラックスで封入して、永久プレパラートを作製する。検鏡は、光学顕微鏡で油浸600倍あるいは1000倍で行い、メカニカルステージで任意の測線に沿って走査し、珪藻殻が半分以上残存するものを対象に200個体以上同定・計数する（化石の少ない試料はこの限りではない）。種の同定は、原口ほか(1998)、Krammer(1992)、Krammer and Lange－Bertalot(1986、

1988、1991a、1991b）などを参照する。

同定結果は、海水生種、淡水～汽水生種、淡水生種の順に並べ、その中の各種類をアルファベット順に並べた一覧表で示す。なお、淡水生種はさらに細かく生態区分し、塩分・水素イオン濃度（pH）・流水に対する適応能についても示す。また、環境指標種についてはその内容を示す。

堆積環境の解析に当たっては、海水～汽水生種は小杉(1988)、淡水生種は安藤(1990)、陸生珪藻は伊藤・堀内(1991)、汚濁耐性種は、Asai and Watanabe（1995）の環境指標種を参考とする。

（4）植物珪酸体分析

湿重5g前後の試料について過酸化水素水・塩酸処理、超音波処理（70W、250KHz、1分間）、沈定法、重液分離法（ポリタングステン酸ナトリウム，比重2.5）の順に物理・化学処理を行い、植物珪酸体を分離・濃集する。検鏡しやすい濃度に希釈し、カバーガラス上に滴下・乾燥させる。乾燥後、プリュウラックスで封入してプレパラートを作製する。

400倍の光学顕微鏡下で全面を走査し、その間に出現するイネ科葉部（葉身と葉鞘）の葉部短細胞に由来した植物珪酸体（以下、短細胞珪酸体と呼ぶ）および葉身機動細胞に由来した植物珪酸体（以下、機動細胞珪酸体と呼ぶ）を、近藤・佐瀬（1986）の分類に基づいて同定・計数する。結果は、検出された種類とその個数の一覧表で示す。

3．結果

（1）放射性炭素年代測定

結果を表1に示す。両試料の年代値は7層最上部が1910±30BP、7層上部が2100±30BPである。なお、表中に示したδ^{13}Cの値は、加速器を用いて試料炭素中の^{13}C濃度（^{13}C／^{12}C）を測定し、標準試料PDB（白亜紀のベレムナイト類の化石）の測定値を基準として、それからのずれを計算し、千分偏差（‰：パーミル）で表したものである。今回の試料の年代値は、この値に基づいて補正した年代である。

表1　放射性炭素年代測定結果

試料名	層位	質	樹種	同位体補正年代	δ13C（‰）	測定年代	Code No.
弥生時代遺構確認面最上部	7層	炭化材	不明	1910±30	−28.17±0.89	1940±30	IAAA−10653
弥生時代遺構確認面上部	7層	炭化材	ニレ属／ケヤキ	2100±30	−26.44±1.03	2120±30	IAAA−10654

注.（1）年代値：1950年を基点とした値。
（2）誤差：標準偏差（ONE SIGMA）に相当する年代
（3）δ13C：試料炭素の13C／12C原子比を質量分析器で測定し、標準にPDBを用いて同様に算出した値

（2）樹種同定

結果を放射性炭素年代測定結果と共に表1に示す。試料番号1は、木材組織が観察できず、不明とした。試料番号2はニレ属またはケヤキに同定された。主な解剖学的特徴を以下に記す。

・ニレ属またはケヤキ（*Ulmus or Zelkova serrata*（Thunb.）Makino）　　ニレ科

環孔材で、孔圏部は1～2列、孔圏外で急激に管径を減じたのち漸減、塊状に複合し接線・斜方向の紋様をなす。小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は同性または異性Ⅲ型、1～6細胞幅、1～50細胞高。観察した範囲では、結晶細胞が稀に見られるが、鞘細胞は確認できない。

（3）珪藻分析

結果を表2に示す。珪藻化石の産出は各試料とも非常に少なく、試料番号4・6から保存状態の悪い珪藻化石が数個体産出しただけである。また、試料番号1では無化石であった。

表２　珪藻分析結果

種類	生態性			環境指標種			
	塩分	pH	流水		1	4	6
Actinoptychus senarius (Ehr.) Ehrenberg	Euh			A	−	1	−
Thalassionema nitzschioides (Grun.) Grunow	Euh			A,B	−	3	1
Thalassiosira spp.	Euh				−	1	−
Nitzschia palea (Kuetz.) W.Smith	Ogh−Meh	ind	ind	S	−	−	1
Navicula mutica Kuetzing	Ogh−ind	al−il	ind	RA,S	−	1	−
Pinnularia brebissonii (Kuetz.) Rabenhorst	Ogh−ind	ind	ind	U	−	−	1
海水生種合計					0	4	1
淡水～汽水生種合計					0	0	1
淡水生種合計					0	1	1
珪藻化石総数					0	5	3

凡例
H.R.：塩分濃度に対する適応性　pH：水素イオン濃度に対する適応性　C.R.：流水に対する適応性
Euh　：海水生種　al−il：好アルカリ性種　ind：流水不定性種
Ogh−Meh　：淡水−汽水生種　ind　：pH不定性種
Ogh−ind　：貧塩不定性種
環境指標種
A：外洋指標種，B：内湾指標種（以上は小杉, 1988）
S：好汚濁性種，U：広域適応性種，T：好清水性種（以上はAsai,K. & Watanabe,T., 1986）
R：陸生珪藻（RA：A群，RB：B群，RI群、伊藤・堀内, 1991）

検出される産出種は、海水生種の*Actinoptychus senarius*、*Thalassionema nitzschioides*、*Thalassiosira spp.*、淡水−汽水生種の*Nitzschia palea*、流水不定性種の*Pinnularia brebissonii*、陸生珪藻A群の*Navicula mutica*である。なお、陸生珪藻A群とは、陸生珪藻の中でも分布がほぼ陸域に限られる耐乾性の高い種群のことである（伊藤・堀内, 1991）。

（４）植物珪酸体分析

結果を表３に示す。植物珪酸体は２試料ともほとんど検出されない。また、僅かに検出される植物珪酸体は、保存状態が悪く、表面に多数の小孔（溶食痕）が認められる。

試料番号４では、タケ亜科の短細胞珪酸体や機動細胞珪酸体、ススキ属の短細胞珪酸体、その他に種類の判別が困難な不明短細胞珪酸体（キビ型・ダンチク型）がわずかに検出される程度である。

試料番号１では、種類の判別が困難な不明キビ型短細胞珪酸体（キビ型）と不明機動細胞珪酸体がわずかに認められるに過ぎない。

表３　植物珪酸体分析結果

種　類　　試料番号	1	4
イネ科葉部短細胞珪酸体		
タケ亜科	−	1
ウシクサ族ススキ属	−	1
不明キビ型	1	1
不明ダンチク型	−	2
イネ科葉身機動細胞珪酸体		
タケ亜科	−	1
不明	1	1
合　計		
イネ科葉部短細胞珪酸体	1	5
イネ科葉身機動細胞珪酸体	1	2
総　計	2	7

４．考察

（１）堆積物の年代観

今回の結果では７層最上部が約1900年前、７層上部が約2100年前の年代値が得られた。上部の試料と最上部の試料で約200年程度の差があるが、層位的に矛盾がない。試料が包含層中に含まれる炭化物であり、また測定時の誤差範囲を考慮すると、７層が堆積したのは約1900～2100年前と考えられる。この年代値は、７層上面で弥生時代後期の遺構が検出されていることと調和的な結果である。今後、遺構に伴う炭化物などについて年代測定を実施し、それらを統計的に扱うことで、さらに詳細な年代観が得られていくものと期待される。

（2）遺跡周辺の古環境

今回、堆積物中から珪藻化石はほとんど検出されなかった。僅かに検出される種類は、海水生種、流水不定性種、陸生珪藻である。前述のように、本遺跡の堆積物は後背の丘陵から供給された扇状地性の堆積物で構成される。したがって、検出された珪藻化石の中で、海水生種は遺跡の後背地に分布する新第三紀中新世の音川累層（例えば藤井，1992）に由来する可能性がある。また、その他の種類も様々な環境で生育していたものが、扇状地堆積物として二次堆積したと考えられる。

また、植物珪酸体も堆積物中からほとんど検出されなかった。本遺跡の立地条件および本遺跡の堆積物は砂分が多いことを考慮すると、堆積速度が速い、あるいは堆積時間が短いため、堆積物中に化石が取り込まれ難い環境にあったことが考えられる。また、僅かに検出される化石の保存状態が極めて悪いことから、堆積後の経年変化によって化石が分解・消失した可能性もある。

ここで、本遺跡では、弥生時代後期と古代で遺構が検出されており、弥生時代頃一時的に離水、乾陸化したことが考えられる。弥生時代の遺構が掘り込まれた７層では、腐植がやや集積し炭化物なども検出されている。この炭化物の^{14}C年代値から、一時的に離水したのは約1900～2100年前で、当時の遺跡周辺には腐植の由来となった草本類などの植生が認められたと考えられる。したがって、これらの層準においてイネ科草本の植物珪酸体が増加すると思われるが、今回の結果をみるとその傾向が読みとれない。これは、当時の地表面最上部がその後の扇状地の発達によって削剥されているのかもしれない。

今回の分析により本遺跡の堆積物の年代指標は得られたが、珪藻化石・植物珪酸体の産状から古環境を十分に復元することは難しい。ただし、堆積物中より得られた炭化材より、周辺にはニレ属またはケヤキなどが生育していたと考えられる。当時の古環境については、今後、遺構に伴って出土する炭化材の樹種同定を行うなど、他の観点からの検討を試みていきたい。

引用文献

安藤一男（1990）淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用．東北地理，42，p.73－88.

Asai, K. and Watanabe, T.（1995）Statistic Classification of Epilithic Diatom Species into Three Ecological Groups relating to Organic Water Pollution（2）Saprophilous and saproxenous taxa.Diatom, 10, p.35－47.

藤井昭二（1992）富山平野．「アーバンクボタ」，31，p.38－47.

原口和夫・三友　清・小林　弘（1998）埼玉の藻類　珪藻類．埼玉県植物誌，埼玉県教育委員会，p.527－600.

伊藤良永・堀内誠示（1991）陸生珪藻の現在に於ける分布と古環境解析への応用．珪藻学会誌，6，　p.23－45.

近藤錬三・佐瀬　隆（1986）植物珪酸体分析，その特性と応用．第四紀研究，25，p.31－64.

小杉正人（1988）珪藻の環境指標種群の設定と古環境復原への応用．第四紀研究，27，p.1－20.

Krammer,K.(1992)PINNULARIA,eine Monographie der europaischen Taxa. BIBLIOTHECA DIATOMOLOGICA, BAND 26, p.1－353., BERLIN・STUTTGART.

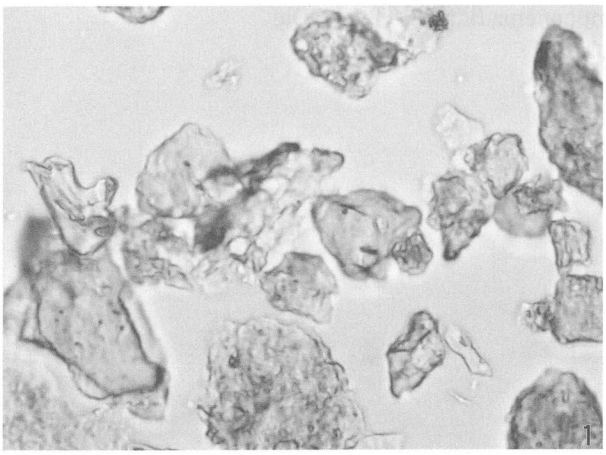
Krammer,K. and Lange－Bertalot,H.（1986）Bacillariophyceae, Teil 1, Naviculaceae. Band 2/1 von : Die Suesswasserflora von Mitteleuropa, 876p.,Gustav Fischer Verlag.

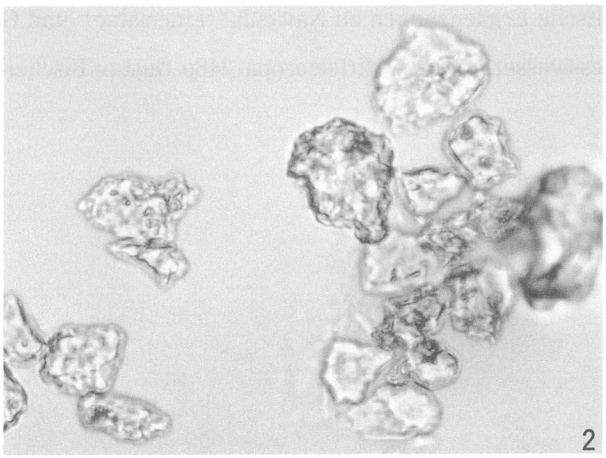
Krammer,K.and Lange－Bertalot,H.（1988）Bacillariophyceae,Teil 2, Epithemiaceae, Bacillariaceae, Surirellaceae. Band 2/2 von : Die Suesswasserflora von Mitteleuropa, 536p., Gustav Fischer Verlag.

Krammer, K.and Lange－Bertalot, H.（1991a）Bacillariophyceae, Teil 3, Centrales, Fragilariaceae, Eunotiaceae. Band 2/3 von : Die Suesswasserflora von Mitteleuropa, 230p., Gustav Fischer Verlag.

Krammer,K.and Lange－Bertalot,H.（1991b）Bacillariophyceae,Teil4, Achnanthaceae, Kritsche Ergaenzungen zu Navicula（Lineolatae）und Gomphonema.Band 2 / 4 von : Die Suesswasserflora von Mitteleuropa, 248p.,Gustav Fischer Verlag.

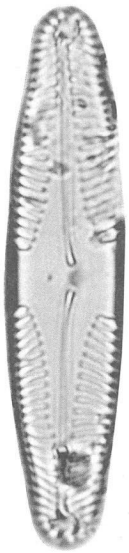
図版１　植物珪酸体分析プレパラート内の状況写真・珪藻化石





50 μm　　10 μm

(1,2)　　(3,4)

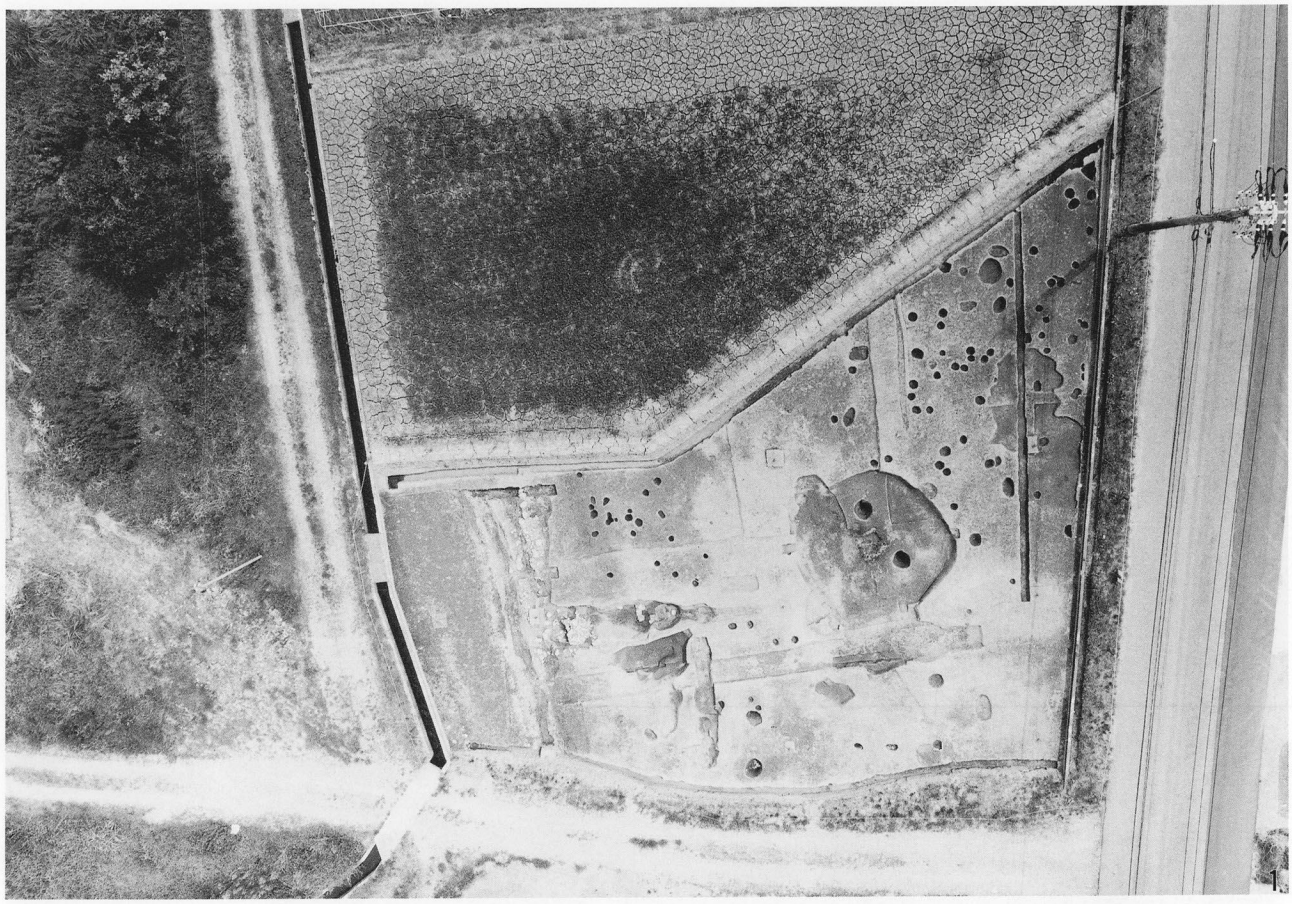


3

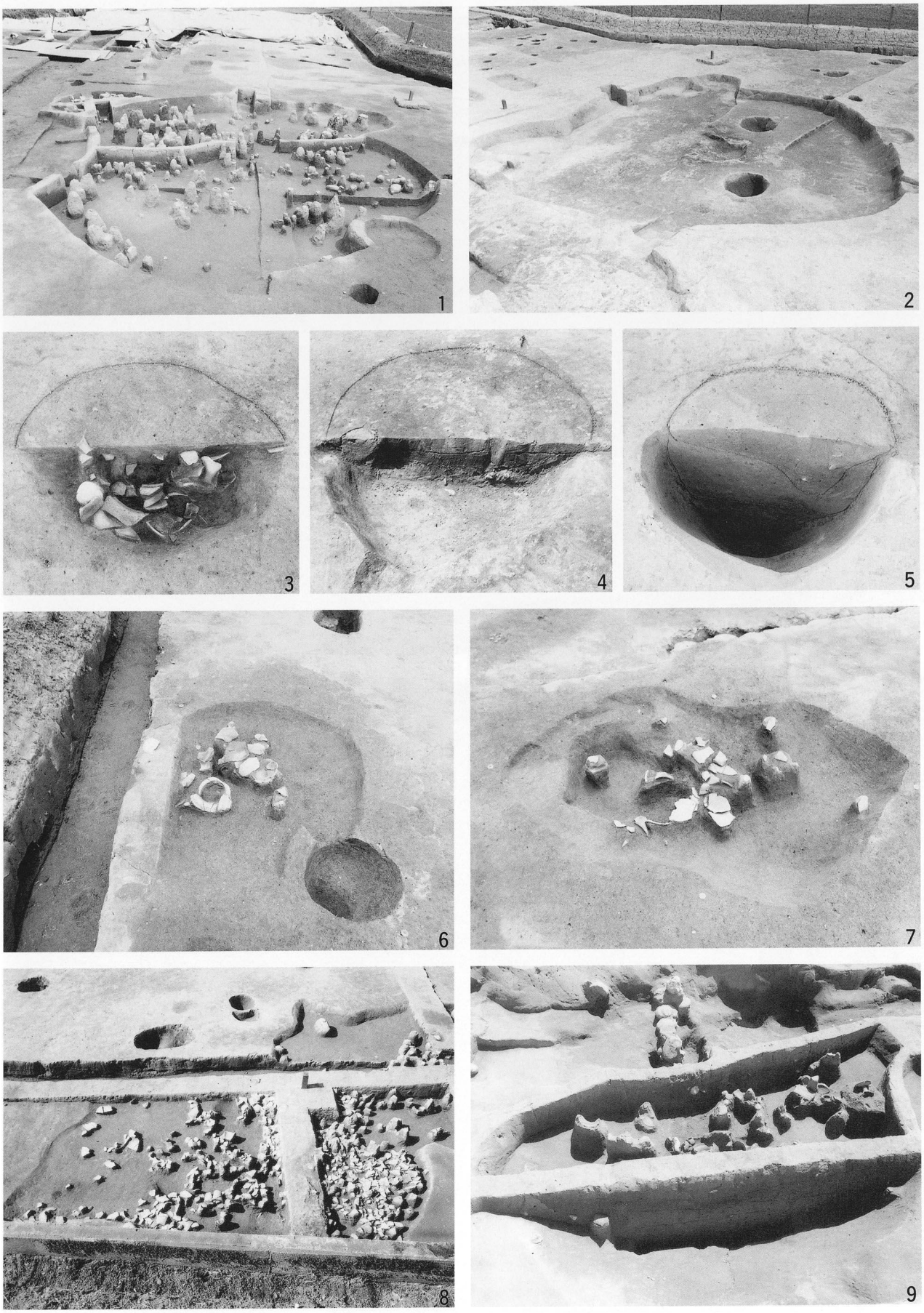
4

1. 状況写真（試料番号１）
2. 状況写真（試料番号４）
3. *Pinnularia brebissonii* (Kuetz.) Rabenhorst（試料番号６）
4. *Nitzschia palea* (Kuetz.) W.Smith（試料番号６）

図版1　空中写真（1/25,000、上が北）　　昭和20年　米軍撮影



図版 2　1. A区上層検出遺構　2. A区下層検出遺構



図版 3　1. SI15遺物出土状況（南から）　2. SI15（南西から）　3. SI15－P 1 断面（北から）
4. SI15炉断面（東から）　5. SI15－P 2 断面（北から）　6. SK48遺物出土状況（南から）
7. SK12遺物出土状況（西から）　8. SK108遺物出土状況（南から）　9. SK120遺物出土状況（西から）